

共創文化学部 2025 年度 開講シラバス

〈教養教育科目〉.....	1
☆建学の精神と仏教Ⅰ	1
☆建学の精神と仏教Ⅰ	3
☆建学の精神と仏教Ⅰ	5
☆建学の精神と仏教Ⅱ	7
☆建学の精神と仏教Ⅱ	9
☆建学の精神と仏教Ⅱ	11
☆哲学.....	13
☆人間と思想.....	15
☆人間と文化.....	17
生命の科学.....	19
倫理学	21
☆女性と人権.....	23
☆心理学	25
☆心理学	27
生涯学習論Ⅰ	29
生涯学習論Ⅱ	31
社会福祉概論Ⅰ	33
社会福祉概論Ⅱ	35
☆日本の文化と歴史	37
☆世界の文化と歴史	39
戦争と平和の歴史Ⅰ	41
戦争と平和の歴史Ⅱ	43
西洋文化史	45
日本美術史	47
比較文化.....	49
日本の政治	51
世界の政治	53
日本の経済	55
世界の経済	58
政治と市民参加.....	61
法学.....	63
法と社会.....	65
日本国憲法Ⅰ	67
日本国憲法Ⅱ	69
社会学Ⅰ	71
社会学Ⅱ	73
数学の世界.....	75
物理の世界.....	77
生物と生命	79

地球と宇宙	81
色彩と科学	83
☆地域共創活動実習	85
海外英語研修Ⅰ	87
☆キャリアデザインⅠ	88
☆キャリアデザインⅠ	90
☆キャリアデザインⅠ	92
☆キャリアデザインⅠ	94
☆女性とウェルビーイングⅠ	96
☆女性とウェルビーイングⅡ	98
スポーツⅠ	100
スポーツⅠ	102
スポーツⅡ	104
スポーツⅡ	106
言語表現演習Ⅰ	108
言語表現演習Ⅰ	110
言語表現演習Ⅰ	112
言語表現演習Ⅰ	114
言語表現演習Ⅰ	116
言語表現演習Ⅱ	118
言語表現演習Ⅱ	120
言語表現演習Ⅱ	122
言語表現演習Ⅱ	124
言語表現演習Ⅱ	126
☆英語(会話表現)Ⅰ	128
☆英語(会話表現)Ⅰ	130
☆英語(会話表現)Ⅰ	132
☆英語(会話表現)Ⅰ	134
☆英語(会話表現)Ⅰ	136
☆英語(会話表現)Ⅰ	138
☆英語(会話表現)Ⅰ	140
☆英語(会話表現)Ⅰ	142
☆英語(会話表現)Ⅰ	144
☆英語(会話表現)Ⅱ	146
☆英語(会話表現)Ⅱ	148
☆英語(会話表現)Ⅱ	150
☆英語(会話表現)Ⅱ	152
☆英語(会話表現)Ⅱ	154
☆英語(会話表現)Ⅱ	156
☆英語(会話表現)Ⅱ	158
☆英語(会話表現)Ⅱ	160
☆英語(会話表現)Ⅱ	162

☆英語(読解)Ⅰ	164
☆英語(読解)Ⅰ	166
☆英語(読解)Ⅰ	168
☆英語(読解)Ⅰ	170
☆英語(読解)Ⅰ	172
☆英語(読解)Ⅰ	174
☆英語(読解)Ⅰ	176
☆英語(読解)Ⅰ	178
☆英語(読解)Ⅰ	180
☆英語(読解)Ⅰ	182
☆英語(読解)Ⅱ	184
☆英語(読解)Ⅱ	186
☆英語(読解)Ⅱ	188
☆英語(読解)Ⅱ	190
☆英語(読解)Ⅱ	192
☆英語(読解)Ⅱ	194
☆英語(読解)Ⅱ	196
☆英語(読解)Ⅱ	198
☆英語(読解)Ⅱ	200
英会話Ⅰ	202
英会話Ⅰ	204
英会話Ⅱ	206
英会話Ⅱ	208
☆英会話Ⅲ	210
☆英会話Ⅳ	212
フランス語Ⅰ	214
フランス語Ⅰ	216
フランス語Ⅱ	218
フランス語Ⅱ	220
ドイツ語Ⅰ	222
ドイツ語Ⅱ	224
韓国語Ⅰ	226
韓国語Ⅱ	228
中国語Ⅰ	230
中国語Ⅰ	232
中国語Ⅱ	234
中国語Ⅱ	236
ICT リテシーの基礎	238
CT リテシーの基礎	240
ICT リテシーの基礎	242
ICT リテシーの基礎	244
ICT リテシーの基礎	246

☆ICT リテラシーの応用	248
☆ICT リテラシーの応用	250
☆ICT リテラシーの応用	252
☆ICT リテラシーの応用	254
日本語Ⅰ	256
日本語Ⅰ	258
日本語Ⅱ	260
日本語Ⅱ	263
日本事情Ⅰ	266
日本事情Ⅱ	268
〈国際日本学科 専門科目〉	270
基礎ゼミⅠ	270
基礎ゼミⅡ	272
☆身体文化実習Ⅱ／日本文化体験実習	274
☆江戸文化体験実習	276
☆日本文化入門	278
☆仏教と古典	280
☆近現代文学入門	282
☆地域文化概論	284
デジタル文化論	286
ポピュラーカルチャー論	288
現代日本の音楽と映像文化	290
多文化共生論	292
〈人間関係学科 専門科目〉	294
基礎ゼミⅠ	294
基礎ゼミⅠ	296
基礎ゼミⅠ	298
基礎ゼミⅡ	300
基礎ゼミⅡ	302
基礎ゼミⅡ	304
☆人間関係入門	306
☆ファッションと文化	308
☆流行論	310
メディアと心理	312
☆ジェンダー論	314
☆サステナビリティ論	316
☆文化人類学	318
職業選択論	320
モチベーションの心理学	322
☆広告と消費社会	324
☆身体文化実習Ⅰ	326
〈心理学科 専門科目〉	328

基礎ゼミⅠ	328
基礎ゼミⅠ	330
基礎ゼミⅠ	332
基礎ゼミⅡ	334
基礎ゼミⅡ	336
基礎ゼミⅡ	338
☆心理学概論Ⅰ	340
☆心理学概論Ⅱ	342
☆心理学統計法	344
☆臨床心理学概論	346
☆心理データ解析法	348
☆家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅰ)	350
☆コミュニティ心理学	352
☆言葉と心理	354
マンガと心理学	356
☆アートと心理療法	358
〈博物館学芸員養成課程科目〉	360
☆博物館概論	360

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-111 CT-L-111 （ J ）	科目分類（～2024 年 入学者）	100-110-11 （ J ）	授業コード	F00111	
科目名称	☆建学の精神と仏教Ⅰ			単位数	2.0 単位	
英文名称	Founding Spirit and BuddhismⅠ			授業区分	講義	
科目責任者	廣瀬 良文			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	廣瀬 良文			開講時期	1 年	
オフィスアワー	-			研究室	-	
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある仏教の開祖・釈尊の教えと人間観について概説する。また、本学園の創立者・山上曹源先生の教育観についても建学の精神と関連付けながら講じる。本学での学びの礎となる建学の精神、および仏教の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。					
到達目標	１． 仏教の開祖・釈尊の教えや仏教の人間観、山上曹源先生の教育観を理解することができる。 ２． 建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	廣瀬 良文	【第 1 回】 予習：建学の精神「行学一如」「正念」について調べておく 授業：ガイダンス、建学の精神と仏教 復習：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる				
2	廣瀬 良文	【第 2 回】 予習：駒澤学園の歴史について調べておく 授業：山上曹源先生の教育観 駒澤学園の歴史 復習：山上先生の教育観についてまとめる				
3	廣瀬 良文	【第 3 回】 予習：「花まつり」について調べておく 授業：釈尊の誕生（花まつり） 復習：「命の尊さ」についてみずからの考えをまとめる				
4	廣瀬 良文	【第 4 回】 予習：「四苦八苦」について調べておく 授業：青年期の釈尊（課題解決型授業） 復習：「四苦八苦」を自分自身に引き合わせ、感じたことをまとめる				
5	廣瀬 良文	【第 5 回】 予習：「中道」について調べておく 授業：6 年間の苦行と「中道」の教え 復習：「中道」の教えの要点をまとめる				
6	廣瀬 良文	【第 6 回】 予習：坐禅の意義と作法について調べておく 授業：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習：坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる				
7	廣瀬 良文	【第 7 回】 予習：「縁起」について調べておく 授業：釈尊の悟り（成道）と「縁起」の教え 復習：駒澤学園の仏教行事「成道会」「摂心会」の意義をまとめる				
8	廣瀬 良文	【第 8 回】 予習：「四諦八正道」の意味を調べておく 授業：初転法輪と「四諦八正道」の教え 復習：「四諦八正道」の教えの要点をまとめる				
9	廣瀬 良文	【第 9 回】 予習：「祇園精舎」「竹林精舎」について調べておく 授業：釈尊の伝道とさまざまな「対機説法」 復習：「応病与薬」と「対機説法」についてまとめる				
10	廣瀬 良文	【第 10 回】 予習：「諸行無常」について調べておく 授業：釈尊の入滅（涅槃）と「諸行無常」の教え 復習：駒澤学園の仏教行事「涅槃会」の意義をまとめる				

11	廣瀬 良文	【第 11 回】 予習：坐禅の作法と心得（調身・調息・調心）について復習しておく 授業：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習：「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる						
12	廣瀬 良文	【第 12 回】 予習：「菩薩」について調べておく 授業：釈尊滅後の仏教の展開（結集から大乘仏教へ） 復習：大乘仏教と「菩薩」についてまとめる						
13	廣瀬 良文	【第 13 回】 予習：身のまわりの仏教（文化）について調べておく 授業：仏教と日常生活（課題解決型授業） 復習：仏教を日常生活でどのように生かし得るか、考えをまとめる						
14	廣瀬 良文	【第 14 回】 予習：みずからの学びと仏教の関連について調べておく 授業：仏教の学際的な学び 復習：みずからの学びと仏教の関連について考えをまとめる						
15	廣瀬 良文	【第 15 回】 予習：建学の精神と仏教Ⅰで学んだ事項の要点を振り返る 授業：建学の精神など本科の学びの総括 復習：建学の精神を礎とした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる						
授業開始前学習		担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、配付資料を読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。						
テキスト・教材		必要に応じてプリントを配付する。						
参考書		『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。						
評価の基準と方法		授業での提出物（30％）とテスト・レポート（70％）で総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△
関連科目								
その他		照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。						

☆建学の精神と仏教 I

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-111 CT-L-111（J）	科目分類（～2024 年 入学者）	100-110-11 （J）	授業コード	F00113		
科目名称	☆建学の精神と仏教Ⅰ			単位数	2.0 単位		
英文名称	Founding Spirit and BuddhismⅠ			授業区分	講義		
科目責任者	山本 元隆			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	山本 元隆			開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 09:00～10:30 後期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 09:00～10:30			研究室	10-506		
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある仏教の開祖・釈尊の教えと人間観について概説する。また、本学園の創立者・山上曹源先生の教育観についても建学の精神と関連付けながら講じる。本学での学びの礎となる建学の精神、および仏教の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。						
到達目標	１． 仏教の開祖・釈尊の教えや仏教の人間観、山上曹源先生の教育観を理解することができる。 ２． 建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	山本 元隆	【第 1 回】 予習：建学の精神「行学一如」「正念」について調べておく 授業：ガイダンス、建学の精神と仏教 復習：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる					
2	山本 元隆	【第 2 回】 予習：駒澤学園の歴史について調べておく 授業：山上曹源先生の教育観 駒澤学園の歴史 復習：山上先生の教育観についてまとめる					
3	山本 元隆	【第 3 回】 予習：「花まつり」について調べておく 授業：釈尊の誕生（花まつり） 復習：「命の尊さ」についてみずからの考えをまとめる					
4	山本 元隆	【第 4 回】 予習：「四苦八苦」について調べておく 授業：青年期の釈尊（課題解決型授業） 復習：「四苦八苦」を自分自身に引き合わせ、感じたことをまとめる					
5	山本 元隆	【第 5 回】 予習：「中道」について調べておく 授業：6 年間の苦行と「中道」の教え 復習：「中道」の教えの要点をまとめる					
6	山本 元隆	【第 6 回】 予習：坐禅の意義と作法について調べておく 授業：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習：坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる					
7	山本 元隆	【第 7 回】 予習：「縁起」について調べておく 授業：釈尊の悟り（成道）と「縁起」の教え 復習：駒澤学園の仏教行事「成道会」「摂心会」の意義をまとめる					
8	山本 元隆	【第 8 回】 予習：「四諦八正道」の意味を調べておく 授業：初転法輪と「四諦八正道」の教え 復習：「四諦八正道」の教えの要点をまとめる					
9	山本 元隆	【第 9 回】 予習：「祇園精舎」「竹林精舎」について調べておく 授業：釈尊の伝道とさまざまな「対機説法」 復習：「応病与薬」と「対機説法」についてまとめる					
10	山本 元隆	【第 10 回】 予習：「諸行無常」について調べておく 授業：釈尊の入滅（涅槃）と「諸行無常」の教え 復習：駒澤学園の仏教行事「涅槃会」の意義をまとめる					
11	山本 元隆	【第 11 回】 予習：坐禅の作法と心得（調身・調息・調心）について復習しておく 授業：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習：「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる					

12	山本 元隆	【第 12 回】 予習 : 「菩薩」について調べておく 授業 : 釈尊滅後の仏教の展開（結集から大乘仏教へ） 復習 : 大乘仏教と「菩薩」についてまとめる							
13	山本 元隆	【第 13 回】 予習 : 身のまわりの仏教（文化）について調べておく 授業 : 仏教と日常生活（課題解決型授業） 復習 : 仏教を日常生活でどのように生かし得るか、考えをまとめる							
14	山本 元隆	【第 14 回】 予習 : みずからの学びと仏教の関連について調べておく 授業 : 仏教の学際的な学び 復習 : みずからの学びと仏教の関連について考えをまとめる							
15	山本 元隆	【第 15 回】 予習 : 建学の精神と仏教Ⅰで学んだ事項の要点を振り返る 授業 : 建学の精神など本科の学びの総括 復習 : 建学の精神を礎とした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる							
授業開始前学習		担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、配付資料を読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。							
テキスト・教材		必要に応じてプリントを配付する。							
参考書		『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。							
評価の基準と方法		授業での提出物（30％）とテスト・レポート（70％）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△				△
関連科目									
その他		照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。							

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-111 CT-L-111（J）	科目分類（～2024 年 入学者）	100-110-11 （J）	授業コード	F00114		
科目名称	☆建学の精神と仏教Ⅰ			単位数	2.0 単位		
英文名称	Founding Spirit and BuddhismⅠ			授業区分	講義		
科目責任者	小早川 浩大			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	小早川 浩大			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある仏教の開祖・釈尊の教えと人間観について概説する。また、本学園の創立者・山上曹源先生教育観についても建学の精神と関連付けながら講じる。本学での学びの礎となる建学の精神、および仏教の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。						
到達目標	1. 仏教の開祖・釈尊の教えや仏教の人間観、山上曹源先生教育観を理解することができる。 2. 建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	小早川 浩大	【第 1 回】 予習：建学の精神「行学一如」「正念」について調べておく 授業：ガイダンス、建学の精神と仏教 復習：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる					
2	小早川 浩大	【第 2 回】 予習：駒澤学園の歴史について調べておく 授業：山上曹源先生教育観 駒澤学園の歴史 復習：山上先生教育観についてまとめる					
3	小早川 浩大	【第 3 回】 予習：「花まつり」について調べておく 授業：釈尊の誕生（花まつり） 復習：「命の尊さ」についてみずからの考えをまとめる					
4	小早川 浩大	【第 4 回】 予習：「四苦八苦」について調べておく 授業：青年期の釈尊（課題解決型授業） 復習：「四苦八苦」を自分自身に引き合わせ、感じたことをまとめる					
5	小早川 浩大	【第 5 回】 予習：「中道」について調べておく 授業：6 年間の苦行と「中道」の教え 復習：「中道」の教えの要点をまとめる					
6	小早川 浩大	【第 6 回】 予習：坐禅の意義と作法について調べておく 授業：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習：坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる					
7	小早川 浩大	【第 7 回】 予習：「縁起」について調べておく 授業：釈尊の悟り（成道）と「縁起」の教え 復習：駒澤学園の仏教行事「成道会」「摂心会」の意義をまとめる					
8	小早川 浩大	【第 8 回】 予習：「四諦八正道」の意味を調べておく 授業：初転法輪と「四諦八正道」の教え 復習：「四諦八正道」の教えの要点をまとめる					
9	小早川 浩大	【第 9 回】 予習：「祇園精舎」「竹林精舎」について調べておく 授業：釈尊の伝道とさまざまな「対機説法」 復習：「応病与薬」と「対機説法」についてまとめる					
10	小早川 浩大	【第 10 回】 予習：「諸行無常」について調べておく 授業：釈尊の入滅（涅槃）と「諸行無常」の教え 復習：駒澤学園の仏教行事「涅槃会」の意義をまとめる					
11	小早川 浩大	【第 11 回】 予習：坐禅の作法と心得（調身・調息・調心）について復習しておく 授業：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習：「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる					

12	小早川 浩大	【第 12 回】 予習 : 「菩薩」について調べておく 授業 : 釈尊滅後の仏教の展開（結集から大乘仏教へ） 復習 : 大乘仏教と「菩薩」についてまとめる							
13	小早川 浩大	【第 13 回】 予習 : 身のまわりの仏教（文化）について調べておく 授業 : 仏教と日常生活（課題解決型授業） 復習 : 仏教を日常生活でどのように生かし得るか、考えをまとめる							
14	小早川 浩大	【第 14 回】 予習 : みずからの学びと仏教の関連について調べておく 授業 : 仏教の学際的な学び 復習 : みずからの学びと仏教の関連について考えをまとめる							
15	小早川 浩大	【第 15 回】 予習 : 建学の精神と仏教Ⅰで学んだ事項の要点を振り返る 授業 : 建学の精神など本科の学びの総括 復習 : 建学の精神を礎とした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる							
授業開始前学習		担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、配付資料を読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。							
テキスト・教材		必要に応じてプリントを配付する。							
参考書		『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。							
評価の基準と方法		授業での提出物（30％）とテスト・レポート（70％）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△				△
関連科目									
その他		照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。							

☆建学の精神と仏教Ⅱ

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-111 CT-L-111 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-11 (J)	授業コード	F00121
科目名称	☆建学の精神と仏教Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Founding Spirit and Buddhism Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	廣瀬 良文			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	廣瀬 良文			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある曹洞宗の開祖・道元の教えと禅の人間観について概説する。本学での学びの礎となる建学の精神、および禅の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、禅の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	1. 曹洞宗の開祖・道元の教えや禅の人間観を理解することができる。 2. 建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	廣瀬 良文	【第 1 回】 予習：建学の精神と仏教Ⅰで学んだことを振り返る 授業：ガイダンス 建学の精神と禅 復習：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる			
2	廣瀬 良文	【第 2 回】 予習：「禅」について調べておく 授業：ダルマと達磨 禅宗の歴史と教え 復習：禅宗の特徴についてまとめる			
3	廣瀬 良文	【第 3 回】 予習：日本に伝来した仏教について調べておく 授業：日本仏教の歴史と展開（仏教伝来～鎌倉時代） 復習：日本に伝来した仏教の特徴についてまとめる			
4	廣瀬 良文	【第 4 回】 予習：日本に伝来した禅宗（曹洞宗・臨済宗）について調べておく 授業：鎌倉時代の禅宗 道元の誕生と出家 復習：駒澤学園の仏教行事「誕生記念日」の意義をまとめる			
5	廣瀬 良文	【第 5 回】 予習：「比叡山」（天台宗）と「建仁寺」（臨済宗）について調べておく 授業：比叡山と建仁寺での修行（課題解決型授業） 復習：「本覚法門」に対する道元の疑念をまとめる			
6	廣瀬 良文	【第 6 回】 予習：坐禅の意義と作法について調べておく 授業：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習：坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる			
7	廣瀬 良文	【第 7 回】 予習：「典座」の意味を調べておく 授業：道元の入宋求法 典座の教え（典座教訓） 復習：典座の教えと禅修行の要点をまとめる			
8	廣瀬 良文	【第 8 回】 予習：「身心脱落」の意味を調べておく 授業：天童山での修行 道元の大悟 復習：「身心脱落」の教えの要点をまとめる			
9	廣瀬 良文	【第 9 回】 予習：「普観坐禅儀」について調べておく 授業：帰朝後の教化と「普観坐禅儀」の教え 復習：「只管打坐」の教えの要点をまとめる			
10	廣瀬 良文	【第 10 回】 予習：道元の禅の教えと実践について調べておく 授業：道元の教えと実践 復習：禅の教えと実践（道元の修行観）について要点をまとめる			
11	廣瀬 良文	【第 11 回】 予習：坐禅の作法と心得（調身・調息・調心）について復習しておく 授業：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習：「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる			

12	廣瀬 良文	【第 12 回】 予習：永平寺について調べておく 授業：道元の永平寺創建と示寂 復習：駒澤学園の仏教行事「追善記念日」の意義をまとめる						
13	廣瀬 良文	【第 13 回】 予習：身のまわりの禅（文化）について調べておく 授業：禅と日常生活（課題解決型授業） 復習：禅の教えを日常生活にどのように生かし得るか、考えをまとめる						
14	廣瀬 良文	【第 14 回】 予習：建学の精神（行学一如・正念）について復習しておく 授業：建学の精神と仏教（釈尊）・禅（道元）の教え 復習：建学の精神と仏教・禅の生き方について、みずから引き合わせて考えをまとめる						
15	廣瀬 良文	【第 15 回】 予習：建学の精神と仏教Ⅱで学んだ要点を振り返る 授業：本科の学びの総括 復習：建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる						
授業開始前学習		担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、ならびに配付資料を読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。						
テキスト・教材		必要に応じてプリントを配付する。						
参考書		『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。						
評価の基準と方法		授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△
関連科目								
その他		照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。						

☆建学の精神と仏教Ⅱ

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-111 CT-L-111 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-11 (J)	授業コード	F00123
科目名称	☆建学の精神と仏教Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Founding Spirit and Buddhism Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	山本 元隆			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本 元隆			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 09:00～10:30 後期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 09:00～10:30			研究室	10-506
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある曹洞宗の開祖・道元の教えと禅の人間観について概説する。本学での学びの礎となる建学の精神、および禅の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、禅の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	1. 曹洞宗の開祖・道元の教えや禅の人間観を理解することができる。 2. 建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	山本 元隆	【第 1 回】 予習：建学の精神と仏教Ⅰで学んだことを振り返る 授業：ガイダンス 建学の精神と禅 復習：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる			
2	山本 元隆	【第 2 回】 予習：「禅」について調べておく 授業：ダルマと達磨 禅宗の歴史と教え 復習：禅宗の特徴についてまとめる			
3	山本 元隆	【第 3 回】 予習：日本に伝来した仏教について調べておく 授業：日本仏教の歴史と展開（仏教伝来～鎌倉時代） 復習：日本に伝来した仏教の特徴についてまとめる			
4	山本 元隆	【第 4 回】 予習：日本に伝来した禅宗（曹洞宗・臨済宗）について調べておく 授業：鎌倉時代の禅宗 道元の誕生と出家 復習：駒澤学園の仏教行事「誕生記念日」の意義をまとめる			
5	山本 元隆	【第 5 回】 予習：「比叡山」（天台宗）と「建仁寺」（臨済宗）について調べておく 授業：比叡山と建仁寺での修行（課題解決型授業） 復習：「本覚法門」に対する道元の疑念をまとめる			
6	山本 元隆	【第 6 回】 予習：坐禅の意義と作法について調べておく 授業：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習：坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる			
7	山本 元隆	【第 7 回】 予習：「典座」の意味を調べておく 授業：道元の入宋求法 典座の教え（典座教訓） 復習：典座の教えと禅修行の要点をまとめる			
8	山本 元隆	【第 8 回】 予習：「身心脱落」の意味を調べておく 授業：天童山での修行 道元の大悟 復習：「身心脱落」の教えの要点をまとめる			
9	山本 元隆	【第 9 回】 予習：「普観坐禅儀」について調べておく 授業：帰朝後の教化と「普観坐禅儀」の教え 復習：「只管打坐」の教えの要点をまとめる			
10	山本 元隆	【第 10 回】 予習：道元の禅の教えと実践について調べておく 授業：道元の教えと実践 復習：禅の教えと実践（道元の修行観）について要点をまとめる			
11	山本 元隆	【第 11 回】 予習：坐禅の作法と心得（調身・調息・調心）について復習しておく 授業：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習：「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる			

12	山本 元隆	【第 12 回】 予習：永平寺について調べておく 授業：道元の永平寺創建と示寂 復習：駒澤学園の仏教行事「追善記念日」の意義をまとめる						
13	山本 元隆	【第 13 回】 予習：身のまわりの禅（文化）について調べておく 授業：禅と日常生活（課題解決型授業） 復習：禅の教えを日常生活にどのように生かし得るか、考えをまとめる						
14	山本 元隆	【第 14 回】 予習：建学の精神（行学一如・正念）について復習しておく 授業：建学の精神と仏教（釈尊）・禅（道元）の教え 復習：建学の精神と仏教・禅の生き方について、みずから引き合わせて考えをまとめる						
15	山本 元隆	【第 15 回】 予習：建学の精神と仏教Ⅱで学んだ要点を振り返る 授業：本科の学びの総括 復習：建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる						
授業開始前学習		担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、ならびに配付資料を読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。						
テキスト・教材		必要に応じてプリントを配付する。						
参考書		『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。						
評価の基準と方法		授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△
関連科目								
その他		照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。						

☆建学の精神と仏教Ⅱ

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-111 CT-L-111 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-11 (J)	授業コード	F00124
科目名称	☆建学の精神と仏教Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Founding Spirit and Buddhism Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	小早川 浩大			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小早川 浩大			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある曹洞宗の開祖・道元の教えと禅の人間観について概説する。本学での学びの礎となる建学の精神、および禅の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、禅の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	1. 曹洞宗の開祖・道元の教えや禅の人間観を理解することができる。 2. 建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小早川 浩大	【第 1 回】 予習 : 建学の精神と仏教Ⅰで学んだことを振り返る 授業 : ガイダンス 建学の精神と禅 復習 : 建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる			
2	小早川 浩大	【第 2 回】 予習 : 「禅」について調べておく 授業 : ダルマと達磨 禅宗の歴史と教え 復習 : 禅宗の特徴についてまとめる			
3	小早川 浩大	【第 3 回】 予習 : 日本に伝来した仏教について調べておく 授業 : 日本仏教の歴史と展開 (仏教伝来～鎌倉時代) 復習 : 日本に伝来した仏教の特徴についてまとめる			
4	小早川 浩大	【第 4 回】 予習 : 日本に伝来した禅宗 (曹洞宗・臨済宗) について調べておく 授業 : 鎌倉時代の禅宗 道元の誕生と出家 復習 : 駒澤学園の仏教行事「誕生記念日」の意義をまとめる			
5	小早川 浩大	【第 5 回】 予習 : 「比叡山」(天台宗)と「建仁寺」(臨済宗)について調べておく 授業 : 比叡山と建仁寺での修行 (課題解決型授業) 復習 : 「本覚法門」に対する道元の疑念をまとめる			
6	小早川 浩大	【第 6 回】 予習 : 坐禅の意義と作法について調べておく 授業 : 坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習 : 坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる			
7	小早川 浩大	【第 7 回】 予習 : 「典座」の意味を調べておく 授業 : 道元の入宋求法 典座の教え (典座教訓) 復習 : 典座の教えと禅修行の要点をまとめる			
8	小早川 浩大	【第 8 回】 予習 : 「身心脱落」の意味を調べておく 授業 : 天童山での修行 道元の大悟 復習 : 「身心脱落」の教えの要点をまとめる			
9	小早川 浩大	【第 9 回】 予習 : 「普観坐禅儀」について調べておく 授業 : 帰朝後の教化と「普観坐禅儀」の教え 復習 : 「只管打坐」の教えの要点をまとめる			
10	小早川 浩大	【第 10 回】 予習 : 道元の禅の教えと実践について調べておく 授業 : 道元の教えと実践 復習 : 禅の教えと実践 (道元の修行観) について要点をまとめる			
11	小早川 浩大	【第 11 回】 予習 : 坐禅の作法と心得 (調身・調息・調心) について復習しておく 授業 : 坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習 : 「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる			

12	小早川 浩大	【第 12 回】 予習：永平寺について調べておく 授業：道元の永平寺創建と示寂 復習：駒澤学園の仏教行事「追善記念日」の意義をまとめる						
13	小早川 浩大	【第 13 回】 予習：身のまわりの禅（文化）について調べておく 授業：禅と日常生活（課題解決型授業） 復習：禅の教えを日常生活にどのように生かし得るか、考えをまとめる						
14	小早川 浩大	【第 14 回】 予習：建学の精神（行学一如・正念）について復習しておく 授業：建学の精神と仏教（釈尊）・禅（道元）の教え 復習：建学の精神と仏教・禅の生き方について、みずから引き合わせて考えをまとめる						
15	小早川 浩大	【第 15 回】 予習：建学の精神と仏教Ⅱで学んだ要点を振り返る 授業：本科の学びの総括 復習：建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる						
授業開始前学習		担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、ならびに配付資料を読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。						
テキスト・教材		必要に応じてプリントを配付する。						
参考書		『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。						
評価の基準と方法		授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△
関連科目								
その他		照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。						

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11		授業コード		F00610					
科目名称		☆哲学						単位数		2.0 単位					
英文名称		Philosophy／Humans and Thought I						授業区分		講義					
科目責任者		鈴木 由加里						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		鈴木 由加里						開講時期		1 年					
オフィスアワー		-						研究室		-					
授業概要		人間とはどのような存在なのか、人間の本質はどのようなものなのか、を考察することがテーマである。古代ギリシアから中世までの哲学的知識を講義する予定である。学んだ学説や概念を使って、現代的な問題についての考察、演習問題を行う予定である。													
到達目標		考える材料として西洋哲学を歴史的に学び、かつ現代社会の情報を踏まえつつ、学生が自分で考察ができるようになることが達成目標。													
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数	担当者			授業の内容											
1	鈴木 由加里			【第 1 回】 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる 授業：人間と思想を学ぶということについて 授業の進め方評価基準などについて資料を配付 論述課題を実施 復習：自分がすでにもっている「人間」についてのイメージをまとめる											
2	鈴木 由加里			【第 2 回】 予習：人間とはどのような存在であるか 授業：人間学と哲学（映像資料を利用） 復習：授業で扱ったテーマについて考察を深めておく											
3	鈴木 由加里			【第 3 回】 予習：ギリシアの歴史について調べておく 授業：ギリシア哲学 I 古代ギリシアの世界 復習：自然学とは何かをまとめておく											
4	鈴木 由加里			【第 4 回】 予習：アテネの民主制について調べておく 授業：ギリシア哲学 II 自然哲学からソクラテスへ 復習：ソクラテスの刑死の意味を考えよう											
5	鈴木 由加里			【第 5 回】 予習：プラトンの時代のギリシア世界について調べておく 授業：プラトンの思想 復習：イデア論について問題点をまとめておく											
6	鈴木 由加里			【第 6 回】 予習：マケドニアとギリシアについての歴史を調べておく 授業：ヘレニズム期の哲学と文化 復習：アリストテレスと学問についてまとめる											
7	鈴木 由加里			【第 7 回】 予習：コスモポリタンの意味を調べておく 授業：ヘレニズム期の思想 復習：ストア派についてまとめる											
8	鈴木 由加里			【第 8 回】 予習：ヨーロッパ文化の特性を自分なりに語れるようにしておく 授業：ヘレニズムとヘブライズム 復習：文化論の意義について考えておく											
9	鈴木 由加里			【第 9 回】 予習：『創世記』第一章の内容を調べておく 授業：原始キリスト教 宗教と人間について 復習：贖い、福音という言葉の説明できるようにする											
10	鈴木 由加里			【第 10 回】 予習：宗教の力について考えておく 授業：キリスト教とローマ帝国 人生と哲学について 復習：布教活動の意味について再考しておく											
11	鈴木 由加里			【第 11 回】 予習：中世の定義を調べておく 授業：中世ヨーロッパの人間観 復習：歴史区分の意味について再考しておく											

12	鈴木 由加里	【第 12 回】 予習：現代における宗教の意義について考えてくる 授業：宗教と死について 復習：死の概念の違いを再解釈する						
13	鈴木 由加里	【第 13 回】 予習：キリスト教と世俗権力について調べておく 授業：中世キリスト教神学と哲学 復習：キリスト教の多様さを再確認すること						
14	鈴木 由加里	【第 14 回】 予習：「近代」という概念を調べておく 授業：古代・中世の人間観と現代の人間観について考察をする 復習：人文主義の意義について考えておく。						
15	鈴木 由加里	【第 15 回】 予習：各自ノート及びレジュメ参考文献などを味読しておくこと 授業 1 回から 14 回までの 授業内容確認レポートあるいはテスト形式での質問に答える （授業内でレポート作成） 復習：授業内容について不十分なところを補っておく * 学生の知識レベル興味関心に応じて内容を変更する可能性もある。						
授業開始前学習		課題提出などで、GWE(Google Workspace for Education)など PC 操作を必要とするシステムを使用予定である。パソコンの基本的な知識（Web の閲覧、メールの送受信、ファイルの種類についての知識など）を学んでおいて欲しい。 授業内容に関しては、西洋の哲学史についての話になるので、常識のレベルでの西洋の歴史について学んでおいてもらいたい。						
授業内課題のフィードバックの方法		基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。遠隔授業になった場合、GWE(Google Workspace for Education)を通じてオンデマンドで行う。クラス記号など詳細は「クラスプロフィール」を通じて連絡をする予定。「クラスプロフィール」の使い方を確認しておくこと。						
テキスト・教材		GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom にて、授業に必要な講義内容のレジュメと資料を PDF 形式ファイルで配付。各資料を DL したものをプリントアウトするか、PC やタブレットなどデジタル機器でノートテイクするか、各自の学習方法にあわせて使用すること。						
参考書		熊野 純彦 『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書 2006 その他 授業中に適宜指示する						
評価の基準と方法		GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出していただきます。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行います。たとえば、授業内で行う授業内容確認テストの点数 100 点とレポート課題が 4 回の場合、10 点×4＝40 点となり、合計 140 点中、総合して 85 点（100 点換算にすると 60 点）とれないと単位の認定にいたりません。課題の詳細は授業時に説明します。不備のあるレポートについては再提出を求めます。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		○		
関連科目	人間と思想							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年 入学者）	100-120-11	授業コード	F00620	
科目名称	☆人間と思想			単位数	2.0 単位	
英文名称	Humans and Thought／Humans and Thought II			授業区分	講義	
科目責任者	鈴木 由加里			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	鈴木 由加里			開講時期	1 年	
オフィスアワー	-			研究室	-	
授業概要	近代以降の西洋哲学についての知識を深めつつ、人間はどのような存在として考えられてきたかということを考える。倫理や道徳に関する現代的なテーマについてもとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する予定である。					
到達目標	哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことができるようになること。					
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	鈴木 由加里	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる 授業：現代的視点で人間について考えることについて及び授業説明 授業の進め方評価基準などについて資料を配付 授業内で論述課題を行う 復習：自分がすでにもっている「人間」についてのイメージをまとめる				
2	鈴木 由加里	【第 2 回】 予習：近代という言葉からイメージするものを考えてくる 授業：近代とは何か 復習：日本語で西洋のことについて学ぶことの意味について考える				
3	鈴木 由加里	【第 3 回】 予習：自分が考える「科学的」ということの意味を考えること 授業：科学革命と人間 復習：現代の科学は人間の何を明らかにしているのかを考える				
4	鈴木 由加里	【第 4 回】 予習：人権とは何か、箇条書きにしておく 授業：近代市民社会の成立 歴史的経緯と「市民」「社会」の意味 復習：現代社会における人権侵害の事例を調べること				
5	鈴木 由加里	【第 5 回】 予習：人間にとって許されないこととは何かを考えてくる 授業：人間と悪についての小論文作成 復習：自分が言葉にできなかったことをもう一度考えてみよう				
6	鈴木 由加里	【第 6 回】 予習：17 世紀のヨーロッパ史について調べてくる 授業：デカルトと理性的存在としての人間について 復習：理性とは何かを考えてみよう				
7	鈴木 由加里	【第 7 回】 予習：30 年戦争の原因と結果を説明できるようにしておく 授業：17 世紀ヨーロッパの哲学について パスカルについて 復習：人間の弱さと強さについて考える				
8	鈴木 由加里	【第 8 回】 予習：17 世紀のイギリスのことを調べておく 授業：イギリスの経験論 思考の方法 復習：授業内で学んだ概念を原語と日本語訳を覚え、活用できるようにしておくこと				
9	鈴木 由加里	【第 9 回】 予習：「啓蒙」という漢字の意味を調べておくこと 授業：啓蒙主義 ①「百科全書派」とヴォルテール 復習：「リスボン大地震」について調べてみよう				
10	鈴木 由加里	【第 10 回】 予習：権力と啓蒙について考えておく 授業：啓蒙主義 ② 啓蒙専制君主について 復習：ルソーの思想についてまとめておく				
11	鈴木 由加里	【第 11 回】 予習：人間の定義と自分の違いについて考えてみること 授業：18 世紀から 19 世紀の思想 自由と平等を中心に 復習：ジェンダーという概念を正しく理解しておく				

12	鈴木 由加里	【第 12 回】 予習：「女性」の権利について調べておこう 授業：「人間と女性」について 復習：「人間」＝女性なのか、ということを考えてみる						
13	鈴木 由加里	【第 13 回】 予習：日本の社会について考えてこよう 授業：現代の人間観 ①ジェンダー概念について 復習：自分と全く異なった人間観を持つ人たちがどうやって向き合うかを考える						
14	鈴木 由加里	【第 14 回】 予習：マイノリティという言葉について調べておく 授業：現代の人間観 ②「性的マイノリティ」について 復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく						
15	鈴木 由加里	【第 15 回】 予習：これまでのノート及び資料の味読をしておく 授業：授業内容確認レポートもしくはテスト形式での質問（授業内でレポート作成）返却 動画視聴あるいは資料の読解とミニレポート作成 復習：授業内容について不十分なところを補っておく * 学生の知識レベル興味関心理解度に応じて内容と講義の日程を変更する可能性がある。						
授業開始前学習		ルネサンス以降の西洋の歴史について概略を学んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。遠隔授業の場合は、GWE(Google Workspace for Education)を通じて行う。クラス記号など詳細は「クラスプロフィール」を通じて連絡をする予定。						
テキスト・教材		GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom にて、授業に必要な講義内容のレジメと資料を PDF 形式ファイルで配付。各資料を DL したものをプリントアウトするか、PC やタブレットなどデジタル機器でノートテイクするか、各自の学習方法にあわせて使用すること。						
参考書		授業概要のレジメやスライドで指示						
評価の基準と方法		GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出していただきます。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行います。たとえば、授業内で行う授業内容確認テストの点数 100 点とレポート課題が 4 回の場合、10 点×4＝40 点となり、合計 140 点中、総合して 85 点（100 点換算にすると 60 点）とれないと単位の認定にいたりません。課題の詳細は授業時に説明します。不備のあるレポートについては再提出を求めます。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		○		
関連科目	哲学／人間と思想 I							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00630
科目名称	☆人間と文化			単位数	2.0 単位
英文名称	Humans and Culture			授業区分	講義
科目責任者	石田 仁志			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 仁志			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	明治維新から始まったとされる日本の近代社会というのは、一言で言えば、西欧の都市文化を移入することであった。この授業では、明治から昭和にかけての日本近代の短編小説を読解することを通じて、日本近代における都市化と文学との関連、そして、そこに描かれる「人間」の喜怒哀楽、幸福、孤独、家族意識、死生観などを捉えていく。そのことを通して、日本近代における「人間」の価値観の変容を学んでいく。				
到達目標	日本近代の都市化と日本人の価値観の変容について、具体的テキストを挙げて、その基本的な変遷と相互関係について理解し、説明できるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	石田 仁志	【第 1 回】ガイダンス（都市と文学との関係） 予習：指定した教科書の末尾の「〈都市論〉へのいざない」を読んでくる。 授業：教科書に収録された短編小説を概観する。 復習：授業内容をまとめ直す。			
2	石田 仁志	【第 2 回】明治期の都市と文学 1 予習：泉鏡花「夜行巡査」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：泉鏡花「夜行巡査」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。			
3	石田 仁志	【第 3 回】明治期の都市と文学 2 予習：樋口一葉「十三夜」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：樋口一葉「十三夜」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。			
4	石田 仁志	【第 4 回】明治期の都市と文学 3 予習：田山花袋「少女病」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：田山花袋「少女病」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。			
5	石田 仁志	【第 5 回】明治期の都市と文学 4 予習：国木田独歩「窮死」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：国木田独歩「窮死」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。			
6	石田 仁志	【第 6 回】明治期の都市と文学 5 予習：谷崎潤一郎「秘密」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：谷崎潤一郎「秘密」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。			
7	石田 仁志	【第 7 回】大正期の都市と文学 1 予習：志賀直哉「小僧の神様」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：志賀直哉「小僧の神様」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。			
8	石田 仁志	【第 8 回】大正期の都市と文学 2 予習：芥川龍之介「舞踏会」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：芥川龍之介「舞踏会」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。			
9	石田 仁志	【第 9 回】昭和期の都市と文学 1 予習：横光利一「街の底」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：横光利一「街の底」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。			
10	石田 仁志	【第 10 回】昭和期の都市と文学 2 予習：中野重治「交番前」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：中野重治「交番前」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。			
11	石田 仁志	【第 11 回】昭和期の都市と文学 3 予習：堀辰雄「水族館」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：堀辰雄「水族館」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。			

12	石田 仁志	【第 12 回】昭和期の都市と文学 4 予習：江戸川乱歩「目羅博士」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：江戸川乱歩「目羅博士」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。						
13	石田 仁志	【第 13 回】昭和期の都市と文学 5 予習：織田作之助「木の都」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：織田作之助「木の都」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。						
14	石田 仁志	【第 14 回】昭和期の都市と文学 6 予習：三島由紀夫「橋づくし」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：三島由紀夫「橋づくし」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。						
15	石田 仁志	【第 15 回】まとめ 予習：第 2 回から第 14 回の授業内容を振り返る。 授業：日本近代文学における都市と文学、日本人の価値観の変化 復習：授業内容をまとめる。						
授業開始前学習		教科書に指定した本に収録されている小説をさっと目を通しておく。近代社会における都市化の影響について、自分なりに調べてみる。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業終了後に、毎回、小レポートを提出してもらいます。また、そのレポートにうち、優れた内容のものや興味深い視点を有するものなどは授業を通じて内容を紹介し、学生たちの理解度の深まりを確認していきます。						
テキスト・教材		東郷克己・吉田司雄編『〈都市〉文学を読む』（鼎書房、2,000 円＋税） ISBN978-4-907282-28-8						
参考書								
評価の基準と方法		授業での小レポート等の課題成績（70%）、授業への参加状況（30%）の総合評価による。単位認定は、総合評価で 60%以上の成績をとった者に限る。提出物を 5 回以上未提出の場合は失格。提出物の遅刻提出は減点する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00650
科目名称	生命の科学			単位数	2.0 単位
英文名称	Life Science			授業区分	講義
科目責任者	鞠子 典子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鞠子 典子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	生命は環境の中から偶然に生まれ、今日まで生物は環境と深く関りながら進化を繰り返してきました。その結果、DNA による巧妙な遺伝のしくみ、バクテリアから人間までの多様な生物世界、人間の複雑極まりない脳神経系がつけられてきました。ところが、人間の脳は DNA やゲノムを編集する技術を開発するまで高度に発達し、その結果、遺伝子改変や生殖医療などの問題を引き起こすようになりました。私たちはそうした時代に生きており、皆さん一人ひとりが生命倫理に関わる様々な選択が求められているのです。こうした認識のもとに、この授業では、様々な視点から生物や生命について取り上げ、最新の話題を紹介していきます。後半の授業では、女性に特有な問題を切り抜いて、様々なテーマで講義していきます。授業は、パワーポイントを使用し、画像や動画を取り入れながら、分かり易い言葉で進めていきます。				
到達目標	生命とは何かを生物学的に学び、生命の科学に関する科学リテラシーの向上を目指し、生命の操作に関する諸問題について自分の意見をもてるようになること。またヒトや女性について生物学的に理解し、自分の生き方に自信と責任をもてるようになること。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鞠子 典子	【第 1 回】 授業：なぜ今、生命科学なのか（ガイダンス） 予習：「生命」に関する話題についてネットで検索してみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
2	鞠子 典子	【第 2 回】 授業：生物と無生物の違いは何か 予習：「生命の条件」について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
3	鞠子 典子	【第 3 回】 授業：DNA の遺伝情報が生命現象を支配するたんぱく質に置き換えられる流れ 予習：今回のキーワードである「セントラルドグマ」について調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
4	鞠子 典子	【第 4 回】 授業：同じ遺伝子をもつはずの双子の指紋が違うのはなぜ？ 予習：今回のキーワードである「エピジェネティクス」について調べおこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
5	鞠子 典子	【第 5 回】 授業：ウイルスがもたらした生物の根源的進化とは何か 予習：今回のキーワードである「レトロウイルス」について調べおこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
6	鞠子 典子	【第 6 回】 授業：遺伝子組み換え大豆を使った納豆をあなたは食べますか？ 予習：「GM 作物・食品」の利用の是非について家族や身近な人に尋ねてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
7	鞠子 典子	【第 7 回】 授業：童話『人魚姫』は現実のものになるのか！？ 予習：「ゲノム編集技術」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
8	鞠子 典子	【第 8 回】 授業：科学と倫理の狭間で ～いのちを操作する技術の利用～ 予習：「生命倫理」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
9	鞠子 典子	【第 9 回】 授業：ヒトの誕生から死まで ～誕生・成長・生殖・老化・死～ 予習：生物学的なヒトの一生について、受精から死までまとめてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			

10	鞠子 典子	【第 10 回】 授業：女性のための生命科学 ～知ってほしい子宮頸がんワクチンの話～ 予習：「子宮頸がんワクチン」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
11	鞠子 典子	【第 11 回】 授業：女性のための生命科学 ～知ってほしいピルのはなし～ 予習：「低用量ピル」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
12	鞠子 典子	【第 12 回】 授業：女性のための生命科学 ～知ってほしいダイエットの話～ 予習：厚生労働省の HP に掲載されている「低出生体重児保健指導マニュアル」に目を通しておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
13	鞠子 典子	【第 13 回】 授業：女性のための生命科学 ～染色体が教えてくれる子どもの未来～ 予習：「出生前診断」について調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
14	鞠子 典子	【第 14 回】 授業：あなたの一番関心のある「生命の科学」に関する疑問にお答えします！ 予習：「生命の科学」に関する話題にアンテナを張ろう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
15	鞠子 典子	【第 15 回】 授業：生命の科学 総括と試験範囲の説明 予習：「生命の科学」で学んだことを復習し、生命の科学リテラシーの必要性について自分の意見をまとめる 復習：試験に向けた勉強をする						
授業開始前学習		常日頃から、授業と関連する話題に強い関心をもってニュースや新聞記事と接すること。						
授業内課題のフィードバックの方法		ワンポイントで復習できる課題の講評及び解答は講義内で行います。						
テキスト・教材		教科書は指定せず、資料を配布します。						
参考書		「生命科学の静かなる革命」福岡伸一著(インターナショナル新書) 「好きになる人間生物学」吉田邦久著（講談社サイエンティフィク） この他、講義の中で適宜書籍を紹介します。						
評価の基準と方法		試験 70％、平常点（授業に臨む姿勢・提出物）30％						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他		授業の理解度などを勘案し、授業テーマの順序や内容を多少変更することがあります。 講義で分からないことがある場合は、そのままにせず、いつでも質問してください。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00660
科目名称	倫理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Ethics			授業区分	講義
科目責任者	鈴木 由加里			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 由加里			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。現代社会に生きる個々人が直面する倫理的な判断をしなければならぬ具体的な諸問題を紹介し、それぞれに対して論議できるようになることを目的としたい。				
到達目標	平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、現実的な問題について議論できるようになることが到達目標。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鈴木 由加里	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる 授業：倫理学を学ぶにあたって。レポートの書き方や単位取得条件及び勉強の仕方について説明する。 論述課題を実施 復習：配布したレジメを読む			
2	鈴木 由加里	【第 2 回】 予習：配布した資料を読む 授業：倫理学の課題 復習：問題群を確認			
3	鈴木 由加里	【第 3 回】 予習：配付資料を読んでくる 授業：倫理学の歴史 ①古代ギリシア 復習：倫理学の歴史について知識を確認する			
4	鈴木 由加里	【第 4 回】 予習：配布資料を読んでくる 授業：倫理学の歴史 ②近代 復習：倫理学の歴史についての知識を確認する			
5	鈴木 由加里	【第 5 回】 予習：自由の価値について自分の考えをまとめてくる 授業：自由について① J・S・ミルの『自由論』を読む 復習：ミルとハリエット・テイラーについて確認する			
6	鈴木 由加里	【第 6 回】 予習：ミル自由主義の問題点を確認する 授業：自由について② 復習：自由が批判されるケースの確認			
7	鈴木 由加里	【第 7 回】 予習：功利主義という言葉調べてくる 授業：功利主義について 復習：功利主義と倫理の関係について確認			
8	鈴木 由加里	【第 8 回】 予習：19 世紀以降の歴史を確認してくる 授業：倫理学の現代的展開 科学と倫理 復習：科学の中立性について考える			
9	鈴木 由加里	【第 9 回】 予習：技術なしの生活を考えてみる 授業：科学技術と倫理 復習：科学技術の問題点を確認			
10	鈴木 由加里	【第 10 回】 予習：医療に対する不満を考えてくる 授業：医療と倫理① 医療の課題 復習：医療における課題の具体像を確認			
11	鈴木 由加里	【第 11 回】 予習：終末期に何をしたいか考える 授業：医療と倫理② 人間の尊厳について 復習：尊厳ある死について確認			

12	鈴木 由加里	【第 12 回】 予習：日本における法的な自由の定義を調べる 授業：再び自由の問題について 復習：自由の価値について確認する						
13	鈴木 由加里	【第 13 回】 予習：意見の対立についての具体的なケースを考えてくる 授業：相対主義という問題 復習：倫理的に生きることについて考察する						
14	鈴木 由加里	【第 14 回】 予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく 授業 補足 授業内容確認小テスト（授業内答案作成） 復習：授業内容について不十分なところを補っておく						
15	鈴木 由加里	【第 15 回】 予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく 授業：授業内容確認小テスト（ノート レジメ 持ち込み可）返却予定 動画資料の視聴とミニレポート作成 復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく						
授業開始前学習		この授業では、課題の提出などで GWE(Google Workspace for Education)を使用する可能性がある。使用法を各自学習しておくこと。基本的なパソコンの操作を学んでおくこと。Web の閲覧、ファイルの種類の違いや、ワープロソフトの使用法、メールの送受信など基本的な操作ができるようにしておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。クラス記号など詳細は「クラスプロファイル」を通じて連絡をする予定。「クラスプロファイル」の使い方を確認しておくこと。 生成 AI による文章作成は認めない。自分の考察を論述したものをレポートとして						
テキスト・教材		授業概要についてのレジメと資料を授業項目ごとに配布。参考文献や必要な資料は授業時に配布もしくはデジタル版へのリンクを指示する。						
参考書		各テーマごとにレジメで指示。ブックリスト配布を配布するので、図書館などを利用し、より多くの参考文献に目を通して欲しい。						
評価の基準と方法		GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出していただきます。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行います。たとえば、授業内で行う授業内容確認テストの点数 100 点とレポート課題が 4 回の場合、10 点×4＝40 点となり、合計 140 点中、総合して 85 点（100 点換算にすると 60 点）とれないと単位の認定にいたりません。課題の詳細は授業時に説明します。不備のあるレポートについては再提出を求めます。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		○		
関連科目	特になし							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）	100-120-11	授業コード	F00680
科目名称		☆女性と人権				単位数	2.0 単位
英文名称		Women and Human Rights				授業区分	講義
科目責任者		佐藤 美由紀				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		佐藤 美由紀				開講時期	1 年
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		人が社会生活を営む上で最も基本的な人と人との関係を規定する規範としての法学を通して、市民と法との関わり方、という観点から、日本の法のあり方について検討する。日常の社会生活での具体的問題、特に「女性の権利」に関わる問題を素材に、法的なものの考え方（リーガルマインド）を説明し、現代の法がどのようなことを定めているのか、またそれはどのように形成されてきたのか、さらには、どのように評価するべきかを考察する。					
到達目標		①憲法の基本的な考え方を理解する。 ②社会における法律の役割を理解する。 ③自分の考え思考を他者に説明できる。 ④「女性と人権」に関する問題についての法律問題を発見し、その法的解釈を自分の言葉で説明できる。					
アクティブ・ラーニング 型授業		無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	佐藤 美由紀	【第 1 回】 テーマ「民主主義と基本的人権」 授業の目的、内容、学習方法についての説明 （予習）講義の時間を使ってこの授業でのルールを作ります。①授業中の私語の禁止は授業中のルールとしますので、それ以外のルールを授業開始までについて一つ考えてください。 （復習）多数決による法決定の問題点について各自検討し自分の言葉で意見を述べられるようにする。					
2	佐藤 美由紀	【第 2 回】近代憲法における女性に関する人権の位置づけ （予習）授業中に適示指示します。 （復習）立憲主義について授業の内容を自分なりに整理する。					
3	佐藤 美由紀	【第 3 回】近代憲法における女性に関する人権の位置づけ （予習）授業中に適示指示します。 （復習）立憲主義における女性の権利の問題点について、ノートにまとめ、自分なりに説明をできるようにする。					
4	佐藤 美由紀	【第 4 回】日本国憲法における女性に関する人権保障の形成 （予習）授業中に適示指示します。 （復習）日本国憲法において形成された女性に関する人権保障の規定について、ノートにまとめ、自分なりに説明ができるようにする。					
5	佐藤 美由紀	【第 5 回】女性の人権救済と、合理的差別論における女性差別の認容 （予習）教科書 15 章を熟読する （復習）「合理的区別」と「差別」の違いについて、自分なりに説明ができるようにする。					
6	佐藤 美由紀	【第 6 回】政治的平等（憲法 4 4 条） （予習）教科書第 3 章を熟読する （復習）女性の政治参加の問題点について、自分なりの考えを述べられるようにする。					
7	佐藤 美由紀	【第 7 回】家族関係における平等：（家庭内暴力） （予習）教科書第 13 章を熟読する （復習）家庭内暴力の問題を自分なりに整理して、自分の考えを述べられるようにする。					
8	佐藤 美由紀	【第 8 回】家族関係における平等（離婚・再婚禁止期間） （予習）教科書第 11 勝を熟読する （復習）再婚禁止期間についての問題を自分なりに理解し、自分の考えを述べられるようにする。					
9	佐藤 美由紀	【第 9 回】家族関係における平等（夫婦別姓制） （予習）教科書第 10 章を熟読する （復習）夫婦別姓制についての問題を自分なりに理解し、自分の考えを述べられるようにする。					
10	佐藤 美由紀	【第 10 回】表現活動と女性の権利 （予習）授業中に適示指示します。 （復習）表現の自由の重要性を自分の言葉で説明できるようにする。					
11	佐藤 美由紀	【第 11 回】職場環境における平等 （予習）教科書第 6 章、第 14 章を熟読する。 （復習）職場環境に関する問題点を自分なりに整理できるようにする。					

12	佐藤 美由紀	【第 12 回】職業選択と女性 (予習)教科書第 8 章 第 16 章を熟読する (復習)授業中に適示指示します。						
13	佐藤 美由紀	【第 13 回】刑事被害者と女性 (予習)教科書第 7 章を熟読する (復習)授業中に適示指示します。						
14	佐藤 美由紀	【第 14 回】刑事事件と女性 (予習)授業中に適示指示します。 (復習)授業中に適示指示します。						
15	佐藤 美由紀	【第 15 回】女性の人権と女性の権利：授業全体の体系的整理・レポートの講評 (予習)授業中に適示指示します。 (復習)授業中に適示指示します。						
授業開始前学習		テレビや新聞の社会面、政治面、インターネットニュース等の報道に、少しでも多く接するようにしてください。時々時事ネタのお話をしますので。						
授業内課題のフィードバックの方法		不定期に、授業内容の理解等の確認のため、ミニテスト、授業内レポートを実施し、翌週以降で解説します。						
テキスト・教材		六法『ポケット六法』有斐閣、『デイリー六法』三省堂、『法学六法』信山社のいずれか 安西文雄/巻美矢紀/穴戸常寿・著『憲法学読本』有斐閣						
参考書		『憲法判例百選Ⅰ』(第 7 版)有斐閣 『憲法判例百選Ⅱ』(第 7 版)有斐閣 ■講義の中で適時指定する。 ■学習方法について 横田明美著『カフェパウゼで法学を～対話で見つける〈学び方〉』弘文堂 ⇒法学部生向けの本ですが、大学での講義の受け方、時間の使い方、メールの作成方法、レポートや卒業論文の作成方法、自習の仕方等が説明されている本ですので、ぜひ一度、通読してみてください。						
評価の基準と方法		単位取得の前提としてすべての授業日数のうち 60%以上の出席が必要です。評価については、授業態度(30%)、授業内レポート(20%)、レポート課題の評価(50%)とします。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△				
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間(4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121 （J）	科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11 （J）	授業コード	F00691
科目名称		☆心理学				単位数	2.0 単位
英文名称		Psychology				授業区分	講義
科目責任者		田口 香代子				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		田口 香代子				開講時期	1 年
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		本授業では、心理学の基礎となる知識や諸理論について概説する。「心理学」では主に認知、学習等の基礎的な領域と、発達及びパーソナリティについて学習する。はじめに人は外界からどのように情報を得ているのか（第 2 回）、情報はどのように整理されるのか（第 3 回）、人の行動の成り立ちについて学ぶ（第 4 回、5 回）。次に乳幼児から高齢期までの心身の成長や変化の特徴（第 6 回、9-10 回）及び発達障害（第 7 回、8 回）について学ぶ。その後、人の個性や特徴の捉え方について学び（第 11-13 回）、授業全体を通して人の心や行動に関する理解を深める。その他、第 14 回では心理療法の 1 つである「認知行動療法」について学ぶ。					
到達目標		心理学の基本的な知識を習得することを目標とする。また、人の心や行動について心理学的観点から理解し、説明することができるようになる。					
アクティブ・ラーニング 型授業		無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	田口 香代子	【第 1 回】 予習： 授業スケジュールを確認しておく 授業： ガイダンス、心理学とは（第 1 章）※pp.8-20「心理学の歴史」を除く 復習： ガイダンスの振り返り、キーワードの確認					
2	田口 香代子	【第 2 回】 予習： テキスト pp.169-170 及び pp.187-188 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 感覚と知覚 －人は外界からどのように情報を得ているのか－（第 10 章、第 11 章） 復習： キーワードの確認					
3	田口 香代子	【第 3 回】 予習： テキスト pp.205-206 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 記憶のメカニズム －過去の経験を保持する仕組み－（第 12 章） 復習： キーワードの確認					
4	田口 香代子	【第 4 回】 予習： テキスト p.221 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 学習と言語 －新しい行動の学習と言語の獲得－（第 13 章） 復習： キーワードの確認					
5	田口 香代子	【第 5 回】 予習： テキスト p.87 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 動機づけと情動 －何が人を動かすのか－（第 5 章） 復習： キーワードの確認					
6	田口 香代子	【第 6 回】 予習： テキスト p.51 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 心の発達 －乳幼児期の心理－（第 3 章）※pp.67-68「発達障害とその支援」を除く 復習： キーワードの確認					
7	田口 香代子	【第 7 回】 予習： 注意欠如・多動症、限局性学習症について調べておく 授業： 発達障害の理解と支援 1：注意欠如・多動症、限局性学習症（第 3 章の pp.67-68） 復習： キーワードの確認					
8	田口 香代子	【第 8 回】 予習： 自閉スペクトラム症について調べておく 授業： 発達障害の理解と支援 2：自閉スペクトラム症（第 3 章の pp.67-68） 復習： キーワードの確認					
9	田口 香代子	【第 9 回】 予習： テキスト p.72「人間は一生発達する」、p.80「ケース 2」を読んでおく 授業： 児童期・青年期の心理（第 4 章の pp.71-81） 復習： キーワードの確認					
10	田口 香代子	【第 10 回】 予習： テキスト p.84「本章のサマリー」を読んでおく 授業： 成人期・高齢期の心理（第 4 章の pp.81-84） 復習： キーワードの確認					

11	田口 香代子	【第 11 回】 予習： テキスト p.120「本章のサマリー」を読んでおく 授業： パーソナリティの理解と測定 1： 質問紙法（第 6 章の pp.106-107、pp.112-113） 復習： キーワードの確認						
12	田口 香代子	【第 12 回】 予習： テキスト p.105 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： パーソナリティの理解と測定 2： 投射法（第 6 章の p.111-112「投射法で性格をはかる」） 復習： キーワードの確認						
13	田口 香代子	【第 13 回】 予習： テキスト p.119「健康な性格とは何だろうか」を読んでおく 授業： パーソナリティの理論（第 6 章の pp.106-107、pp.113-120） 復習： キーワードの確認						
14	田口 香代子	【第 14 回】 予習： テキスト pp.156-159「ベックと認知療法」を読んでおく 授業： 認知行動療法（資料配付） 復習： キーワードの確認						
15	田口 香代子	【第 15 回】 予習： これまで学んだ内容を復習しておく 授業： キーワードの確認 復習： 配付資料の振り返り						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		授業の最後にリアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、次の授業で数名分を紹介し、全体に向けてコメントを返します。						
テキスト・教材		・テキスト：長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行 著『はじめて出会う心理学 第 3 版』2020 年発行（有斐閣） ・テキストの他に適宜資料を配布します						
参考書								
評価の基準と方法		レポート 70%、授業態度及びリアクションペーパーの提出 30%を基準とし、総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他		・人の心や行動に関心を持ち、積極的な姿勢で受講することを期待します。 ・必要に応じて授業計画の一部を変更して講義を行うことがあります。 ・【2024 年度以前入学者】心理学 I -a（前期）と心理学 II（後期）を履修することにより、心理学について、より広く学ぶ構成となっている。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		心理臨床に関わる講義内容については、教育機関、医療機関における実務経験を活かし、講義を行う。						

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11	授業コード	F00692
科目名称		☆心理学				単位数	2.0 単位
英文名称		Psychology				授業区分	講義
科目責任者		朴 建映				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		朴 建映				開講時期	1 年
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		心理学は、さまざまな科学的方法を駆使して、心についての研究を行う学問である。この授業では、心理学の基礎となる知識や諸理論について概説する。主に、認知、学習等の基礎的な領域と、発達及びパーソナリティについて学習する。					
到達目標		この授業では、主に人間の発達について学び、赤ちゃんがさまざまな経験を通して心身ともに発達し大人になっていく過程を理解し、自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。受講者は子どもの発達において大切なことは何であるか、自分の意見を述べるができるようになることが求められる。また、心の働きを知ることを通して、自分自身のストレスやメンタルヘルスについて考える。					
アクティブ・ラーニング 型授業		無	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	朴 建映	【第 1 回】 予習：シラバス及び Classroom の資料 1 を確認する 授業：心理学とは（ガイダンス） 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、心理学について自分の考えや意見を整理する					
2	朴 建映	【第 2 回】 予習：Classroom の資料 2 を確認する 授業：感覚 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、様々な感覚の働きについて整理する					
3	朴 建映	【第 3 回】 予習：Classroom の資料 3 を確認する 授業：知覚 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、知覚とその恒常性について理解する					
4	朴 建映	【第 4 回】 予習：Classroom の資料 4 を確認する 授業：学習 1（古典的条件づけを中心に） 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、古典的条件づけについて整理する					
5	朴 建映	【第 5 回】 予習：Classroom の資料 5 を確認する 授業：学習 2（オペラント条件づけを中心に） 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、オペラント条件づけについて整理する					
6	朴 建映	【第 6 回】 予習：Classroom の資料 6 を確認する 授業：心の発達 1（新生児期の特徴を中心に） 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、人間の赤ちゃんの特徴について考える					
7	朴 建映	【第 7 回】 予習：Classroom の資料 7 を確認する 授業：心の発達 2（乳幼児期の特徴を中心に） 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、乳幼児期の発達について確認し、身近な子どもを観察する					
8	朴 建映	【第 8 回】 予習：Classroom の資料 8 を確認する 授業：愛着 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、愛着の重要性について確認する					
9	朴 建映	【第 9 回】 予習：Classroom の資料 9 を確認する 授業：発達障害とその支援 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、発達障害にはどのような種類があるのか整理する					
10	朴 建映	【第 10 回】 予習：Classroom の資料 10 を確認する 授業：ライフサイクル 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、ライフサイクルについて理解する					

11	朴 建映	【第 11 回】 予習：Classroom の資料 11 を確認する 授業：性格とその測定 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、それぞれの性格の違いについて考える						
12	朴 建映	【第 12 回】 予習：Classroom の資料 12 を確認する 授業：知能 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、知能についての疑問点を整理する						
13	朴 建映	【第 13 回】 予習：Classroom の資料 13 を確認する 授業：ストレスとメンタルヘルス 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、日常生活におけるストレスについて考える						
14	朴 建映	【第 14 回】 予習：Classroom の資料 14 を確認する 授業：カウンセリングと心理療法 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、認知行動療法やクライエント中心療法について調べてみる						
15	朴 建映	【第 15 回】 予習：1 回～14 回の授業で扱った内容について、教科書と Classroom の資料で復習する 授業：前期の授業を通してどんなことを学んできたのかふりかえる 復習：理解が十分でない部分について確認し、興味がある内容についてはさらに調べてみる						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		授業に関してはフィードバック課題を提出してもらい、次の授業の最初に質問への回答や興味深い意見の紹介を行う。						
テキスト・教材		長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行著『はじめて出会う心理学 第 3 版』有斐閣アルマ この他に、Classroom の資料を参照						
参考書								
評価の基準と方法		フィードバック課題（45 点）、学期末レポート(55 点)をもとに総合的に評価する						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121 （J）	科目分類（～2024 年 入学者）		100-121-11 （J）	授業コード	F00710
科目名称		生涯学習論 I				単位数	2.0 単位
英文名称		Life-Long Education Studies I				授業区分	講義
科目責任者		氏家 祥美				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		氏家 祥美				開講時期	1 年
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		この授業では、すべての発達段階の人を対象とする、すそ野の広い学び「生涯学習」について学習する。生涯学習の基礎理論、現在に至るまでの歴史的背景、関連する法律、多様な学びのスタイルや学びのリソース、講座設計の基本について学んでいく。					
到達目標		本授業では、生涯学習の意義や目的を学ぶとともに、歴史的背景、目的に合わせた生涯学習スタイルや講座設計の仕方などを幅広く学習する。授業は、学んだことや気づいたことを記録する時間、生涯学習社会の実現についてディスカッションする時間を多く持ち、知識のインプットと学び合いの時間としていく。生涯学習について学びながら、生涯にわたって主体的に「学修」する力を身につけていく。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	氏家 祥美	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通し、授業に対する疑問点をまとめておく 授業：ガイダンス 大学での学びと生涯学習 復習：自身にとって生涯学習の学びがどう役立てるか、目的や課題を考察する					
2	氏家 祥美	【第 2 回】 予習：生涯学習と社会教育の違いについて、自分なりに調べてくる 授業：生涯学習と社会教育 復習：生涯学習と社会教育の意味、共通点、違いについて整理する					
3	氏家 祥美	【第 3 回】 予習：戦前の社会教育について自分なりに調べる 授業：生涯学習と社会教育の歴史 復習：生涯学習の発達過程や歴史的反省を振り返る					
4	氏家 祥美	【第 4 回】 予習：ユネスコ、OECD について調べる 授業：生涯教育論 復習：リカレント教育、リスキリングについて最近の動向を調べる					
5	氏家 祥美	【第 5 回】 予習：生涯学習と学校教育の違いについて調べる 授業：生涯学習と学校教育 復習：生涯学習と学校教育の領域の違いや傾向を身近なケースで考察する					
6	氏家 祥美	【第 6 回】 予習：生涯学習施設の講座情報を対象者、学習スタイルに注目して調べる 授業：生涯学習の方法と内容①（討論、パネルディスカッション、ワークショップ、独習、通信教育など） 復習：それぞれの学習方法の違いや使い分けについて整理する					
7	氏家 祥美	【第 7 回】 予習：ファシリテーションについて調べる 授業：生涯学習の方法と内容②ファシリテーション 復習：ファシリテーションのコツを振り返り、日常に活用する					
8	氏家 祥美	【第 8 回】 予習：生涯学習施設の講座の年間計画を調べる 授業：生涯学習と社会教育の計画。計画、実施、評価、改善 復習：生涯学習推進計画の流れを理解する					
9	氏家 祥美	【第 9 回】 予習：講座チラシを探して複数比較する 授業：学習プログラムの編成 復習：学習プログラム作成の流れと型を知る					
10	氏家 祥美	【第 10 回】 予習：大学の公開講座を複数調べて比較する 授業：生涯学習関連行政の仕組み 復習：国、都道府県、市区町村の役割、社会教育関連団体について整理する					

11	氏家 祥美	【第 11 回】 予習 : 生涯学習と社会教育について整理する 授業 : 生涯学習と社会教育職員 復習 : 社会教育主事制度、社会教育士について整理する						
12	氏家 祥美	【第 12 回】 予習 : 図書館や博物館に足を運んで新たな気づきを探す 授業 : 生涯学習と社会教育施設 復習 : 生涯学習における公民館、図書館、博物館の役割や課題を知る						
13	氏家 祥美	【第 13 回】 予習 : 青少年教育と成人教育の違いを考察する 授業 : 青少年教育と成人教育 (ベタゴジー、アンドラゴジー) 復習 : 青少年教育と成人教育の特徴や課題を整理する						
14	氏家 祥美	【第 14 回】 予習 : 女性教育に必要な要素や課題を考える 授業 : 高齢者教育と女性教育 復習 : 少子高齢化社会における高齢者教育、女性教育の意義と課題を考察する						
15	氏家 祥美	【第 15 回】 予習 : 生涯学習についての学習を振り返り、疑問点や感動をまとめておく 授業 : 生涯学習と社会教育をめぐる課題 復習 : 生涯学習についての学びを振り返る						
授業開始前学習		・生涯学習とは何か。社会教育、リカレント教育、リスクリングとの違いなどに注目して、自分なりに調べておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		講義毎に小レポートを実施する（翌週の講義内にて、適宜、講評する）。						
テキスト・教材		佐藤晴雄著『生涯学習概論』第 3 次改訂版 学陽書房						
参考書								
評価の基準と方法		講義毎の小レポート（60%），最終レポート（40%）						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	○		
関連科目	学芸員養成課程と教職課程に位置づく本科目は、他の博物館に関する科目や教職科目と関連している。特に、生涯学習の意義・目的、生涯学習社会の理念を踏まえた学びが展開される科目との有機的関連性は高い。							
その他	図書館や博物館など、生涯学習の拠点となる身近な施設を訪れること 学習ツールの活用や対話を通じて、日常生活の中から湧き出た疑問を解決するクセをつけること							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	お金やキャリア教育の専門家として大学のエクステンションセンターや、東京都や市区町村などが主催する講座で豊富な講師経験がある。講座の企画者、受講生とのコミュニケーション経験から、近年の実情に即した話題を提供できる。							

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）		100-121-11		授業コード		F00720			
科目名称		生涯学習論Ⅱ						単位数		2.0 単位			
英文名称		Life-Long Education StudiesⅡ						授業区分		講義			
科目責任者		山本 双葉						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		山本 双葉						開講時期		1 年			
オフィスアワー		前期 曜日～ 曜日～ 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 10:30～12:00						研究室		16-305			
授業概要		本授業では、生涯学習に関する法制度や行政による振興政策、生涯学習を支える施設や職員の役割を学びながら、グループで課題を設定し、生涯学習を進める事業計画案（生涯学習プログラム）を開発し実践する（グループによる課題解決型学習とプレゼンテーション）。 特に、生涯学習における「青少年教育」を題材とした講義では、生涯学習支援者としての役割の理解を深めるため、体験活動の意義や青少年教育施設の役割を学び、学習成果の評価や振り返る方法についても学ぶ。											
到達目標		本授業では、生涯学習に関する法制度や行政の振興政策を学びながら、生涯学習支援者としての役割を自覚することを目指す。具体的な到達目標として、以下の 4 点を挙げる。 1. 生涯学習を支える制度（法律や行政の取り組み）に関する知識を修得することができる 2. 生涯学習を支える施設や職員の役割に関する知識を修得することができる 3. 生涯学習における青少年教育の重要性を理解することができる 4. 生涯学習プログラムの開発を通して、生涯学習支援者としての役割を自覚することができる											
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容										
1	山本 双葉		【第 1 回】 予習：「生涯学習論Ⅰ」を振り返り、疑問点をノートにまとめる 授業：人生 100 年時代における生涯学習の意義や目的とは（ライフサイクル、生涯設計） 復習：生涯学習が今の時代になぜ必要なのか自分の言葉でまとめる										
2	山本 双葉		【第 2 回】 予習：生涯学習、リカレント教育、リスキリングの違いを調べておく 授業：生涯学習における学習の特性と方法を俯瞰する 復習：生涯学習の学びの種類、学習方法を整理する										
3	山本 双葉		【第 3 回】 予習：興味を持ってそうな講演会やワークショップの情報を探してみる 授業：生涯学習における多様な学習方法を学ぶ①（講演会、討論、ワークショップ） 復習：講演会やワークショップの告知情報を参加者目線、主催者目線で分析する										
4	山本 双葉		【第 4 回】 予習：オンライン講座と対面講座のメリット・デメリットを考える 授業：生涯学習における多様な学習方法を学ぶ②（オンライン、メディア活用など、学びの多様化） 復習：時間や場所を選ばずに学習できるオンライン講座、通信講座の情報を集めてみる										
5	山本 双葉		【第 5 回】 予習：社会教育主事について調べる 授業：日本の法律と社会教育行政（日本国憲法、教育基本法、社会教育法、生涯学習振興法） 復習：生涯学習にかかわる法律について整理する										
6	山本 双葉		【第 6 回】 予習：公民館の活動情報を調べる 授業：生涯学習施設の種類の詳細①公民館、生涯学習センター 復習：公民館や生涯学習センター主催の講座情報を主催者目線で読み解く										
7	山本 双葉		【第 7 回】 予習：興味のある博物館について調べる 授業：生涯学習施設の種類の詳細②図書館、博物館 復習：図書館や博物館について調べ、足を運んでみる										
8	山本 双葉		【第 8 回】 予習：女性教育施設（女性センター）での講座や活動を調べて、気づいたことや疑問点をまとめる 授業：生涯学習施設の種類の詳細③青少年教育施設、女性教育施設、体育施設 復習：地域にどのような施設があるのか調べる										
9	山本 双葉		【第 9 回】 予習：職業訓練について調べ、疑問点をまとめておく 授業：公的な職業能力開発（雇用保険、ハローワークの役割、職業訓練など） 復習：最寄りのハローワークや、ハローワークのウェブサイトでの職業訓練について調べる										

10	山本 双葉	【第 10 回】 予習：大学の公開講座を調べて、気づいたことや疑問点をまとめる 授業：大学、大学院と生涯学習（公開講座、大学院、放送大学など） 復習：大学の公開講座を複数比較して、その特徴や気づきをまとめる						
11	山本 双葉	【第 11 回】 予習：生涯学習と社会教育について整理する 授業：生涯学習に関わる人的資源（社会教育主事、社会教育士、司書、学芸員、専門職員、ボランティア） 復習：生涯学習に関わる資格や仕事の中で、興味を持ったものについて調べてまとめる						
12	山本 双葉	【第 12 回】 予習：教育訓練給付金の概要を調べて、疑問点をまとめる 授業：生涯学習に関わる経済的支援（教育訓練給付金、助成金、企業の制度ほか） 復習：生涯学習を始めたい人、生涯学習の場づくりをしたい人目線で、利用できる制度をまとめる						
13	山本 双葉	【第 13 回】 予習：生涯学習プログラムの構想を練っておく 授業：生涯学習プログラムを開発する①プログラムの構成、制度（グループワーク） 復習：生涯学習プログラムの詳細を考える						
14	山本 双葉	【第 14 回】 予習：生涯学習講座の募集チラシなどから、集客のヒントを集める 授業：生涯学習プログラムを開発する②プログラムの告知、宣伝、集客（グループワーク） 復習：生涯学習プログラムの告知文を考える						
15	山本 双葉	【第 15 回】 予習：生涯学習についての学習を振り返り、疑問点や感動をまとめる 授業：作成した生涯学習プログラムを発表する（グループワーク） 復習：発表を振り返り、生涯学習プログラムをブラッシュアップする						
授業開始前学習		前期に「生涯学習論Ⅰ」を履修した者は、「生涯学習論Ⅰ」の学習内容を振り返る 自身の興味・関心の高い事柄について調べる						
授業内課題のフィードバックの方法		・生涯学習プログラム（事業計画）作成を課す（講義内にて適宜講評する）。 ・講義毎に小レポートを実施する（翌週の講義内にて適宜講評する）。						
テキスト・教材		授業内で適宜資料を配布する。						
参考書		関口礼子・小池源吾・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫著『新しい時代の生涯学習』（有斐閣アルマ） 香川正弘・鈴木真理・佐々木英和編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房）						
評価の基準と方法		講義毎の小レポート（50%），生涯学習プログラム（50%）						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	○		
関連科目	本科目は、博物館に関する科目や教職科目と関連している。特に、生涯学習を支える制度や生涯学習プログラム作成による学びは、「教育制度」や「生徒指導（進路指導）」等の科目との有機的関連性が高い。							
その他	図書館や博物館など、生涯学習の拠点となる身近な施設を訪れること。 日常生活の中から湧き出た疑問に着目するクセをつけること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

社会福祉概論 I

科目分類 (2025 年 ～入学者)		CS-L-121 CT-L-121 (J)		科目分類 (～2024 年 入学者)		100-120-11 (J)		授業コード		F00730					
科目名称		社会福祉概論 I						単位数		2.0 単位					
英文名称		Introduction to Social Welfare I						授業区分		講義					
科目責任者		森島 由紀子						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		森島 由紀子						開講時期		1 年					
オフィスアワー		-						研究室		-					
授業概要		社会福祉概論 I では、社会福祉論という領域の基本を学習します。授業では、まず、社会福祉論の基本的視点を紹介し、次に、社会福祉の歴史として、イギリスやアメリカを中心に学び、日本については、古代から現在に至るまでの流れを押さえます。そして、女性福祉、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉といった個別の福祉分野について、制度的な歴史や現代的問題について取り上げます。													
到達目標		社会福祉論の基本的理解を学習課題とし、社会福祉の諸現象に対して、その社会的要因や背景を探り、その改善や解決につながる働きかけを考察できることを目標とします。欧米や日本の社会福祉の大きな流れや個別分野の制度的な歴史をしっかりと押さえたうえで、現代の課題について理解し、改善・解決の道を考察する力を養います。													
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の 授業形態			
授業 回数	担当者		授業の内容												
1	森島 由紀子		【第 1 回】 予習 : シラバスの授業のテーマ・目標、授業内容の確認 授業 : オリエンテーション 復習 : 授業のテーマ・目標、授業内容、授業の進め方の確認												
2	森島 由紀子		【第 2 回】 予習 : 資料 1 の講読 授業 : 社会福祉とは何か : 社会福祉論の基本的視点 復習 : 社会福祉論の基本的視点のまとめ												
3	森島 由紀子		【第 3 回】 予習 : 資料 2 の講読 授業 : 社会福祉の歴史－欧米 : イギリスの社会福祉の歴史 復習 : イギリスの社会福祉のキーワードの確認												
4	森島 由紀子		【第 4 回】 予習 : 資料 2 と参考資料の講読 授業 : 社会福祉の歴史－欧米 : アメリカ、その他の社会福祉の歴史 復習 : 欧米の社会福祉の歴史のまとめ												
5	森島 由紀子		【第 5 回】 予習 : 資料 3 の講読 授業 : 社会福祉の歴史－日本 : 古代から昭和初期 復習 : 昭和初期までの社会福祉のキーワードの確認												
6	森島 由紀子		【第 6 回】 予習 : 資料 3 と参考資料の講読 授業 : 社会福祉の歴史－日本 : 戦後から現在 復習 : 日本の社会福祉の歴史のまとめ												
7	森島 由紀子		【第 7 回】 予習 : 資料 4 の講読 授業 : 女性福祉 1 : 女性福祉の基本的視覚 復習 : 女性福祉のキーワードの確認												
8	森島 由紀子		【第 8 回】 予習 : 女性福祉の参考資料の講読、視聴 授業 : 女性福祉 2 : 女性福祉の現代的問題 復習 : 女性福祉の課題について自分の考えをまとめる												
9	森島 由紀子		【第 9 回】 予習 : 資料 5 の講読 授業 : 児童福祉 1 : 児童福祉の歴史 復習 : 児童福祉のキーワードの確認												
10	森島 由紀子		【第 10 回】 予習 : 児童福祉の参考資料の講読、視聴 授業 : 児童福祉 2 : 児童福祉の現代的問題 復習 : 児童福祉の課題について自分の考えをまとめる												

11	森島 由紀子	【第 11 回】 予習 : 資料 6 の講読 授業 : 障害者福祉 1 : 障害者福祉の歴史 復習 : 障害者福祉のキーワードの確認						
12	森島 由紀子	【第 12 回】 予習 : 障害者福祉の参考資料の講読、視聴 授業 : 障害者福祉 2 : 障害者福祉の現代的問題 復習 : 障害者福祉の課題について自分の考えをまとめる						
13	森島 由紀子	【第 13 回】 予習 : 資料 7 の講読 授業 : 高齢者福祉 1 : 高齢者福祉の歴史 復習 : 高齢者福祉のキーワードの確認						
14	森島 由紀子	【第 14 回】 予習 : 高齢者福祉の参考資料の講読、視聴 授業 : 高齢者福祉 2 : 高齢者福祉の現代的問題 復習 : 高齢者福祉の課題について自分の考えをまとめる						
15	森島 由紀子	【第 15 回】 予習 : 今までの資料の講読、視聴 授業 : これからの社会福祉 復習 : これからの社会福祉の課題について自分の考えをまとめる						
授業開始前学習		社会福祉の入門または概論について、本を読んでおく授業が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業後半の個別福祉分野ではリアクションペーパーを課すが、翌週に何人かの意見・感想を紹介しながら講評を行い、個別の質問には回答します。						
テキスト・教材		特に指定しません。授業時に資料を配付します。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験（90%）、授業態度・リアクションペーパー（10%）						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△		△	○	○		
関連科目								
その他		講義資料は前週までに配付しますので、予習に活用してください。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		介護サービス相談員の実務経験を活かして、高齢者福祉の現状や課題について講義で触れます。また、社会福祉士の国家資格を有しているため、資格取得を目指す学生の相談にのります。						

社会福祉概論Ⅱ

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-121 CT-L-121（J）	科目分類（～2024 年 入学者）	100-120-11 （J）	授業コード	F00740		
科目名称	社会福祉概論Ⅱ			単位数	2.0 単位		
英文名称	Introduction to Social WelfareⅡ			授業区分	講義		
科目責任者	森 真 由 紀 子			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	森 真 由 紀 子			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	社会福祉概論Ⅱでは、社会福祉の理念や倫理を学び、ソーシャルワークの実際として、社会福祉の実施体制や社会福祉援助技術について理解します。授業後半では、各自がソーシャルワーカーの立場に立って、個別援助技術（ケースワーク）および集団援助技術（グループワーク）の具体的な事例に取り組み、発表とディスカッションを行います。						
到達目標	社会福祉概論Ⅱでは、社会福祉援助技術に関する知識や技術を習得し、社会福祉援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とします。各自がケースワークの事例とグループワークの事例に取り組み、発表とディスカッションを行うことで、社会福祉援助技術を実践的にとらえ、主体的に考えられるようにします。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	森 真 由 紀 子	【第 1 回】 予習：シラバスの授業のテーマ・目標、授業内容の確認 授業：オリエンテーション 復習：授業のテーマ・目標、授業内容の確認					
2	森 真 由 紀 子	【第 2 回】 予習：資料 1 の講読 授業：社会福祉の理念：社会福祉の歴史と理念 復習：社会福祉の歴史や理念のキーワードの確認					
3	森 真 由 紀 子	【第 3 回】 予習：資料 2 の講読 授業：社会福祉の実施体制 復習：社会福祉の実施体制の整理とまとめ					
4	森 真 由 紀 子	【第 4 回】 予習：資料 3 の講読 授業：社会福祉援助の方法 復習：社会福祉援助方法のキーワードの確認					
5	森 真 由 紀 子	【第 5 回】 予習：資料 4 の講読 授業：社会福祉援助の倫理 復習：社会福祉援助の倫理のキーワードの確認					
6	森 真 由 紀 子	【第 6 回】 予習：資料 5 の講読 授業：個別援助技術（ケースワーク）とはー原則と過程 復習：原則・過程のキーワードの確認、ケースワークの方法についてまとめる					
7	森 真 由 紀 子	【第 7 回】 予習：資料 6 の事例講読と質問への回答 授業：ケースワークの実際 1－受理面接（発表とディスカッション） 復習：受理面接のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる					
8	森 真 由 紀 子	【第 8 回】 予習：資料 6 の事例講読と質問への回答 授業：ケースワークの実際 2－事前評価（発表とディスカッション） 復習：事前評価のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる					
9	森 真 由 紀 子	【第 9 回】 予習：資料 6 の事例講読と質問への回答 授業：ケースワークの実際 3－援助計画（発表とディスカッション） 復習：援助計画のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる					
10	森 真 由 紀 子	【第 10 回】 予習：資料 6 の事例講読と質問への回答 授業：ケースワークの実際 4－介入・実践評価、終結（発表とディスカッション） 復習：介入・実践評価・終結のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる					
11	森 真 由 紀 子	【第 11 回】 予習：資料 7 の講読 授業：集団援助技術（グループワーク）とはー原則と過程					

		復習：原則・過程のキーワードの確認、グループワークの方法についてまとめる						
12	森島 由紀子	【第12回】 予習：資料8の事例講読と質問への回答 授業：グループワークの実際1ー準備期（発表とディスカッション） 復習：準備期のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる						
13	森島 由紀子	【第13回】 予習：資料8の事例講読と質問への回答 授業：グループワークの実際2ー開始期（発表とディスカッション） 復習：開始期のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる						
14	森島 由紀子	【第14回】 予習：資料8の事例講読と質問への回答 授業：グループワークの実際3ー作業期（発表とディスカッション） 復習：作業期のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる						
15	森島 由紀子	【第15回】 予習：資料8の事例講読と質問への回答 授業：グループワークの実際4ー終結期（発表とディスカッション） 復習：終結期のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる						
授業開始前学習		社会福祉の入門または概論について、本を読んでおくことで授業が理解しやすい。社会福祉概論Ⅰの履修者は配付資料を復習してください。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業後半では各自が具体的な事例に取り組み、回答を板書してもらいますが、回答内容についてコメントします。						
テキスト・教材		特に指定しません。授業時に資料を配付します。						
参考書								
評価の基準と方法		レポート（90％）、事例発表・ディスカッション（10％）						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△		△	○	○		
関連科目								
その他		講義資料は事前に配付しますので、予習で講読（質問には回答）してください。受講者数によって事例の発表とディスカッションの方法を検討します。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		介護サービス相談員の実務経験を活かして、社会福祉の理念、実施体制、援助におけるソーシャルワーカーの役割などについて、講義で触れます。また、社会福祉士の国家資格を有しているため、資格取得を目指す学生の相談にのります。						

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）	100-120-11		授業コード	F00750			
科目名称		☆日本の文化と歴史					単位数	2.0 単位			
英文名称		Japanese Culture and History					授業区分	講義			
科目責任者		市川 理恵					必修・選択	履修ガイド参照			
担当教員		市川 理恵					開講時期	1 年			
オフィスアワー		-					研究室	-			
授業概要		日本の古代から近世までの各時代の政治・社会・経済が、文化の形成にどのような影響を与えたのかを探る。歴史書や日記、絵画、彫刻、建築など具体的な文化遺産を提示し、日本文化そのものへの理解を深める。									
到達目標		歴史的なものの見方を身に着け、現代社会における諸問題を考察できるようになる。日本の文化がどのような歴史的背景のもとに成立したかを理解できるようになる。多様な視角・視点から「文化」を捉えられるようになる。									
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数	15 回		メディア科目	－		複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容								
1	市川 理恵		【第 1 回】 予習：大森貝塚について調べる 授業：縄文時代の文化と歴史 復習：教科書の「縄文時代の文化と歴史」を復習する								
2	市川 理恵		【第 2 回】 予習：板付遺跡について調べる 授業：弥生時代の文化と歴史 復習：教科書の「弥生時代の文化と歴史」を復習する								
3	市川 理恵		【第 3 回】 予習：大仙陵古墳について調べる 授業：古墳時代の文化と歴史 復習：教科書の「古墳時代の文化と歴史」を復習する								
4	市川 理恵		【第 4 回】 予習：法隆寺について調べる 授業：飛鳥時代の文化と歴史 復習：教科書の「飛鳥時代の文化と歴史」を復習する								
5	市川 理恵		【第 5 回】 予習：東大寺について調べる 授業：奈良時代の文化と歴史 復習：教科書の「奈良時代の文化と歴史」を復習する								
6	市川 理恵		【第 6 回】 予習：平等院について調べる 授業：平安時代の文化と歴史 復習：教科書の「平安時代の文化と歴史」を復習する								
7	市川 理恵		【第 7 回】 予習：鶴岡八幡宮について調べる 授業：鎌倉時代の文化と歴史 復習：教科書の「鎌倉時代の文化と歴史」を復習する								
8	市川 理恵		【第 8 回】 予習：金閣寺について調べる 授業：南北朝時代の文化と歴史 復習：教科書の「南北朝時代の文化と歴史」を復習する								
9	市川 理恵		【第 9 回】 予習：天龍寺について調べる 授業：室町時代の文化と歴史 復習：教科書の「室町時代の文化と歴史」を復習する								
10	市川 理恵		【第 10 回】 予習：安土城について調べる 授業：戦国時代の文化と歴史 復習：教科書の「戦国時代の文化と歴史」を復習する								
11	市川 理恵		【第 11 回】 予習：大阪城について調べる 授業：安土桃山時代の文化と歴史								

		復習：教科書の「安土桃山時代の文化と歴史」を調べる						
12	市川 理恵	【第12回】 予習：日光東照宮について調べる 授業：江戸時代初期の文化と歴史 復習：教科書の「江戸時代初期の文化と歴史」を復習する						
13	市川 理恵	【第13回】 予習：桂離宮について調べる 授業：江戸時代中期の文化と歴史 復習：教科書の「江戸時代中期の文化と歴史」を復習する						
14	市川 理恵	【第14回】 予習：浅草寺について調べる 授業：江戸時代後期の文化と歴史 復習：教科書の「江戸時代後期の文化と歴史」について調べる						
15	市川 理恵	【第15回】 予習：教科書を一通り復習する 授業：日本の文化と歴史の総括 復習：日本の文化について時代ごとにまとめる						
授業開始前学習		縄文時代から江戸時代までの歴史を学習しておくとう理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。						
テキスト・教材		授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験の結果（70%）と授業態度（30%）で評価を行う。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）	100-120-11	授業コード	F00760
科目名称		☆世界の文化と歴史				単位数	2.0 単位
英文名称		World Culture and History				授業区分	講義
科目責任者		山本 興一郎				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		山本 興一郎				開講時期	1 年
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		本講義のテーマは、古代地中海世界からフランス革命前夜までのヨーロッパにおける、人々の政治参加に関わる文化や概念・諸制度について学ぶことです。（近代以降の日本を含む）近現代の人々が参照し、更には影響を受けることとなる概念・諸制度揺籃の地であるヨーロッパにおいて、当時の人々がどのようにそれらを獲得し或いはある者を対象から排除したのか、またどのように認識し、運用していたのか。これらの疑問を考えることにより、本講義は受講生自身が持っている或いは利用している、権利概念や諸制度について、改めて考える機会を提供していきます。					
到達目標		人々の政治参加や諸制度をめぐる世界の歴史を正確に理解し、それらに関して自分の考えを述べるができるようになる。また、同じ名称の概念・用語・制度であっても、時代・場所・状況により相違点があることに気づき、その意味を理解することで、歴史的事実・認識に対する自身の考えを、多角的視点を踏まえたうえで表明できるようにすることを目標とする。					
アクティブ・ラーニング 型授業		無	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	山本 興一郎	【第 1 回】 予習：高等学校で使用した世界史・世界史探求の教科書を熟読しておくこと 授業：【地中海世界・ヨーロッパ世界とは】この授業の前提になる知識を学びます。また、次回以降の授業実施方法および評価方法を説明します。 復習：課題を中心に復習を行うことで、「前近代の歴史」に関して大枠の理解を深める					
2	山本 興一郎	【第 2 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 1】古代ギリシアのポリス社会と古代西アジア諸文明の関係について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、古代のギリシアと西アジア諸文明の関係性に関して理解を深める					
3	山本 興一郎	【第 3 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 2】：共和政ローマの成立と国制について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、政治参加とローマ市民権に関して理解を深めること					
4	山本 興一郎	【第 4 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 3】：古代地中海世界の代表的勢力の特徴とローマの地中海世界への拡大について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、諸勢力とローマ支配のあり方に関して理解を深めること					
5	山本 興一郎	【第 5 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 4】：ローマの内乱と帝政の成立について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、帝政の成立に関して理解を深めること					
6	山本 興一郎	【第 6 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 5】：帝政ローマの展開と「市民」の関係について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、帝政と市民権の位置づけに関して理解を深めること					
7	山本 興一郎	【第 7 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代末期の展開】：古代と中世の断絶ではない、「古代末期」世界について概要を学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、後期帝政と市民権の位置づけ、そして一神教の発展に関して理解を深めること					
8	山本 興一郎	【第 8 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【中世の展開 1】：中世前期の概要について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、ポスト・ローマ世界に関して理解を深めること					
9	山本 興一郎	【第 9 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【中世の展開 2】：中世ヨーロッパ世界の前提となる聖俗の関係について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、古代とは異なる中世の政治参加に関して理解を深めること					

10	山本 興一郎	【第 10 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【中世の展開 3】：中世を特徴づける封建社会と貴族・騎士について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、封建社会とそこに生きる貴族・騎士という存在に関して理解を深めること							
11	山本 興一郎	【第 11 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【中世の展開 4】：封建社会における都市の重要性について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、王権と都市の関係に関して理解を深めること							
12	山本 興一郎	【第 12 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【近世の展開 1】：近世初期の貴族の変容と教会大分裂の影響について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、近世の政治参加に関して理解を深めること							
13	山本 興一郎	【第 13 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【近世の展開 2】：危機の時代における三部会（身分制議会）の活動について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、百年戦争や宗教戦争等の危機の時代における王権・三部会の関係に関して理解を深めること							
14	山本 興一郎	【第 14 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【近世の展開 3】：近世社会の王権と社団の関係と「主権論」について学びます。また【レポート課題】を提示します 復習：課題を中心に復習を行うことで、主権論に基づく絶対王政と社団の関係性に関して理解を深めること							
15	山本 興一郎	【第 15 回】 予習：【第 1 回】から【第 14 回】までの授業を復習しておくこと 授業：【ヨーロッパ世界の特徴と近現代の胎動】 復習：配布資料を熟読しておくこと							
授業開始前学習		高等学校で使用した世界史・世界史探求の教科書や便覧・用語集等で、本シラバスの「授業の内容」で示した範囲を熟読しておいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法		小課題については、提出締切日の 1,2 週間後を目途に採点結果と適宜総評を Google Classroom 登録メールアドレスへ送信します。 課題・総評提示日等は、授業形態・学習状況により日程を変更する可能性があります。変更する場合は事前に受講者に伝達いたします。							
テキスト・教材		適宜資料を事前配布します。							
参考書		服部良久・南川高志・山辺規子（編著）（2007）『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』ミネルヴァ書房。 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦（編著）（2011）『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』ミネルヴァ書房。 池上俊一著（2021）『ヨーロッパ史入門―原型から近代への胎動』岩波ジュニア文庫。 池上俊一著（2022）『ヨーロッパ史入門―市民革命から現代へ』岩波ジュニア文庫。							
評価の基準と方法		レポート課題の成績 50%と平常点 50%（平常点は、適宜実施する小課題の点数で評価する）							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△				
関連科目									
その他		受講者数により授業の予定を変更することもあります。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類 (2025 年 ～入学者)		CS-L-121 CT-L-121		科目分類 (～2024 年 入学者)		100-120-11		授業コード		F00770					
科目名称		戦争と平和の歴史 I						単位数		2.0 単位					
英文名称		History of Peace and War I						授業区分		講義					
科目責任者		野崎 孝弘						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		野崎 孝弘						開講時期		1 年					
オフィスアワー		-						研究室		-					
授業概要		戦前の日本は、交戦国としてさまざまな戦争に関わり、多大な影響を国際関係に与えてきた。それは同時に、開国まもないこの国の前途にとって、重大な影響を及ぼすものでもあったと言える。この講義では、戦争の背景に働くさまざまな政治力学を確認し、戦争や紛争への理解を深めるために、三つの戦争（日露戦争と第一次世界大戦／シベリア出兵、満州事変）を主に取り上げ、分析していくことにする。													
到達目標		（１）どのような政治力学が働いて戦争が起きるのか（あるいは、終結するのか）を、具体的に説明することができるようになる。 （２）なぜ「あること」は起きて「別のこと」は起きなかったのか、もしあのとき別の道が選択されていたら、どのような未来に直面することになったのかを考える「歴史に学ぶことの意味と面白さ」を体感することができる。 （３）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を磨き上げることができる。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		野崎 孝弘		【第 1 回】 予習：授業のスケジュールを確認しておく 授業：ガイダンス、前史（１）—条約改正—（課題解決型学習） 復習：イギリスが条約改正に応じる姿勢を見せはじめた理由について説明してみる											
2		野崎 孝弘		【第 2 回】 予習：日清戦争とはどのような戦争であったのかを思い出してみる 授業：前史（２）—日清戦争と義和団事件—（課題解決型学習） 復習：日清戦争が清と朝鮮に与えた影響について説明してみる											
3		野崎 孝弘		【第 3 回】 予習：日露戦争とはどのような戦争であったのかを思い出してみる 授業：日露戦争（１）—戦争の推移と外交努力—（課題解決型学習） 復習：黄禍論が日露戦争に与えた影響について説明してみる											
4		野崎 孝弘		【第 4 回】 予習：講和会議に臨むにあたって日本側がまとめた講和条件がいかに考え抜かれたものであったのかを確認してみる 授業：日露戦争（２）—ポーツマス会議—（課題解決型学習） 復習：ポーツマス講和会議で日本は何を獲得し、何を失ったのかを説明してみる											
5		野崎 孝弘		【第 5 回】 予習：日露戦争後の日米関係についてはどのような理解の仕方が一般的なのかを確認してみる 授業：日露戦争（３）—国際関係の再編—（課題解決型学習） 復習：日露戦争後の日米関係に関する通説的な理解の仕方の問題点を指摘してみる											
6		野崎 孝弘		【第 6 回】 予習：第一次世界大戦とはどのような戦争であったのかを思い出してみる 授業：第一次世界大戦（１）—戦争の勃発—（課題解決型学習） 復習：アメリカが日本に対してどのような懸念を抱いていたのかを説明してみる											
7		野崎 孝弘		【第 7 回】 予習：日本が第一次世界大戦に参戦した理由について思い出してみる 授業：第一次世界大戦（２）—日本の参戦と 21 か条の要求—（課題解決型学習） 復習：二十一か条の要求に対する中国側の反応とイギリス・ロシア・アメリカの反応について整理してみる											
8		野崎 孝弘		【第 8 回】 予習：適宜指示する 授業：第一次世界大戦（３）—加藤外交と石井外交の同異点—（課題解決型学習） 復習：加藤外交と石井外交の共通点と相違点について説明してみる											
9		野崎 孝弘		【第 9 回】 予習：アメリカが第一次世界大戦に参戦した理由について思い出してみる 授業：第一次世界大戦（４）—アメリカの参戦—（課題解決型学習） 復習：アメリカの参戦が日米関係に与えた影響について説明してみる											
10		野崎 孝弘		【第 10 回】 予習：日本がシベリアに出兵した本当のねらいについて思い出してみる 授業：第一次世界大戦（５）—シベリア出兵—（課題解決型学習）											

		復習：アメリカが日本との共同出兵に応じた理由について説明してみる						
11	野崎 孝弘	【第 11 回】 予習：山東半島の位置を確認しておく 授業：パリ講和会議と日米関係（課題解決型学習） 復習：講和会議に際して日本が重視した「山東問題」とは何かを説明してみる						
12	野崎 孝弘	【第 12 回】 予習：統帥権とは何かを調べておく 授業：ワシントン体制の成立（課題解決型学習） 復習：「統帥権干犯問題」に現れた国内政治情勢の変容について説明してみる						
13	野崎 孝弘	【第 13 回】 予習：満州事変とはどのような事件のことだったのかを思い出してみる 授業：ワシントン体制の動揺－満州事変の勃発－（課題解決型学習） 復習：アヘンとの絡みから、「満蒙における日本の特殊権益」について考察してみる						
14	野崎 孝弘	【第 14 回】 予習：適宜指示する 授業：満州事変の推移（課題解決型学習） 復習：満州事変に対するアメリカ側の対応について説明してみる						
15	野崎 孝弘	【第 15 回】 予習：国際連盟が第二次世界大戦の勃発を阻止できなかった 授業：満州事変と国際連盟（課題解決型学習） 復習：リットン調査団の報告書を分析し、その内容が日本にとって受け入れがたいものであったのかを検討してみる						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力は、文章レベルでの自覚的な訓練の中でこそ効果的に習得することができる。そこで、この能力の育成をねらいとした授業内課題を実施するに際しては、その翌週に講評を行い、どこに難点があるのかを全員で考えていく。具体的には、文章の書き方を指導するというかたちで、個人情報伏せた複数の答案をサンプルとして提示し、関係づけができていない箇所とできていない箇所を全員であぶり出す作業を行う。						
テキスト・教材		毎回授業時にレジュメを配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		計 2 回的小テスト（合計 3 5 点分）と授業内課題（合計 6 5 点分）の累計で評価を行う。合格点は 6 0 点以上とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	戦争と平和の歴史Ⅱ、国際社会の論点（国際社会への誘い）							
その他	（１）あらためて言うまでもないことですが、授業中の私語は厳禁とします。 （２）授業内課題は不定期に、しかも頻繁に実施します。 （３）配布したプリントはクリアファイルなどに入れて毎回持参するようにしましょう。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00780
科目名称	戦争と平和の歴史Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	History of Peace and War II			授業区分	講義
科目責任者	野崎 孝弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野崎 孝弘			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	戦後の日本は、交戦国として戦争に直接関わることはなかったが、数々の戦争に関わり、多大な影響を受けてきた。この講義では、戦争の背景に働くさまざまな政治力学を確認し、戦争や紛争への理解を深めるために、四つの戦争（朝鮮戦争とベトナム戦争、第四次中東戦争、湾岸戦争）を取り上げ、分析していくことにする。なお、この講義の目的から見て有用と思われる世界的な出来事についても、分析の対象とすることをあらかじめ断っておく。				
到達目標	(1) 戦後の国際関係の流れをおおまかに説明することができる。 (2) どのような政治力学が働いて戦争が起きるのか（あるいは、終結するのか）を、具体的に説明することができるようになる。 (3) 自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を磨き上げることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	野崎 孝弘	【第 1 回】 予習：なし 授業：ガイダンス、戦後の国際関係史（1）—朝鮮戦争が勃発した背景—（問題解決型学習） 復習：「朝鮮国連軍」が、国連憲章に定められた「正規の国連軍」ではない理由について説明してみる			
2	野崎 孝弘	【第 2 回】 予習：キューバ危機とはどのような事件だったのかを思い出してみる 授業：戦後の国際関係史（2）—第二次ベルリン危機とキューバ危機—（問題解決型学習） 復習：「巻き返し政策」と「封じ込め政策」の違いについて説明してみる			
3	野崎 孝弘	【第 3 回】 予習：ドミノ理論について事前に調べておく 授業：戦後の国際関係史（3）—ベトナム戦争にアメリカが介入した背景—（問題解決型学習） 復習：フランスがNATOの軍事機構から脱退した理由について説明してみる			
4	野崎 孝弘	【第 4 回】 予習：ゴルバチョフの登場が国際情勢に与えた影響について思い出してみる 授業：戦後の国際関係史（4）—湾岸戦争が勃発した背景—（問題解決型学習） 復習：どのような考え方のもとにイラクはクウェートに侵攻したのかを説明してみる			
5	野崎 孝弘	【第 5 回】 予習：第二次世界大戦の末期に連合国間で検討された「日本の分割統治計画」について調べてみる 授業：朝鮮戦争（1）—アメリカの介入と中国の動き—（問題解決型学習） 復習：アメリカと中国が朝鮮戦争に介入した理由について簡潔に説明してみる			
6	野崎 孝弘	【第 6 回】 予習：アメリカが対日政策を変更した理由について説明してみる 授業：朝鮮戦争（2）—日本に与えた影響—（問題解決型学習） 復習：朝鮮戦争が日本に与えた影響について簡潔に説明してみる			
7	野崎 孝弘	【第 7 回】 予習：キューバ危機のおおまかな流れを確認しておく 授業：キューバ危機 —危機をどう回避したか—（問題解決型学習） 復習：キューバ危機からどのような教訓を得られるかについて引き続き考えてみる			
8	野崎 孝弘	【第 8 回】 予習：インドシナ戦争のおおまかな流れについて事前に調べておく 授業：ベトナム戦争（1）—インドシナ戦争からベトナム戦争へ—（問題解決型学習） 復習：トンキン湾事件をめぐるアメリカの公式のストーリーの問題点を指摘してみる			
9	野崎 孝弘	【第 9 回】 予習：ベトナム戦争のおおまかな流れについて確認しておく 授業：ベトナム戦争（2）—和平に向けた試み—（問題解決型学習） 復習：アメリカがベトナム戦争に介入した理由について説明してみる			
10	野崎 孝弘	【第 10 回】 予習：ベトナム戦争のおおまかな流れについて確認しておく 授業：ベトナム戦争（3）—ニクソン政権の登場とベトナム和平—（問題解決型学習） 復習：ベトナム戦争が日米関係に与えた影響について簡潔に説明してみる			

11	野崎 孝弘	【第 11 回】 予習：第一次石油危機が日本経済に与えた影響について思い出してみる 授業：第四次中東戦争（１）―国際的な文脈で見た中東戦争と石油危機―（問題解決型学習） 復習：日本の中東政策の特色をわかりやすく整理してみる						
12	野崎 孝弘	【第 12 回】 予習：適宜指示する 授業：第四次中東戦争（２）―国際エネルギー機関の設立―（問題解決型学習） 復習：日本から見たこの機関の意義について簡潔に説明してみる						
13	野崎 孝弘	【第 13 回】 予習： 授業：第四次中東戦争（３）―日本に与えた影響―（問題解決型学習） 復習：第四次中東戦争が日米関係に与えた影響について簡潔に説明してみる						
14	野崎 孝弘	【第 14 回】 予習：イラク軍によるクウェート侵攻から湾岸戦争が終結するまでの過程を事前に確認しておく 授業：湾岸戦争（１）―日本はどう関わったか―（問題解決型学習） 復習：湾岸戦争における日本の役割について簡潔に説明してみる						
15	野崎 孝弘	【第 15 回】 予習：適宜指示する 授業：湾岸戦争（２）―日本が受けたトラウマ―（問題解決型学習） 復習：その後日本が辿ってきた道を、このトラウマの観点から説明してみる						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法								
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法								
ディプロマポリシー								
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	戦争と平和の歴史Ⅰ、国際社会の論点／国際社会への誘い							
その他	（１）あらためて言うまでもないことですが、授業中の私語は厳禁とします。 （２）授業内課題は不定期に、しかも頻繁に実施します。 （３）配布したプリントはクリアファイルなどに入れて毎回持参するようにしましょう。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11 (2022 年～入学者) 100-121-11 (～ 2021 年入学者)	授業コード	F00790
科目名称	西洋文化史			単位数	2.0 単位
英文名称	History of the Occidental Culture			授業区分	講義
科目責任者	河合 恵美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合 恵美			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ルネサンス以降の西洋文化を衣・食・住の観点より学び、研究する。文化・生活に関連した装飾美術・工芸の分野にて、大國でありその発信地的役割を果たしたイギリス、フランスを中心に、バロック期から 20 世紀ミッド・センチュリーにおける装飾の歴史を俯瞰し、食であるテーブルウェア（陶磁器・銀器・ガラス）、住である建築と家具、衣であるモード（服飾）、ジュエリー、装飾小物などについて、映像・画像と共に、ものの見方、鑑定眼を身につけられるように研究し、現代の生活文化への影響やルーツを学ぶ。				
到達目標	西洋工芸品・西洋装飾美術品の様式や特徴に関し、その歴史と背景、代表的な建築・美術・工芸について理解できるようになる。7 月に実施される西洋アンティーク鑑定検定試験協会主催「アンティーク検定試験」3 級の合格を目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	河合 恵美	【第 1 回】 予習 : シラバス全体を読み、装飾美術工芸とは何かを調べる 授業 : 美術（純粋美術）と装飾美術（応用美術）の定義、共通点と相違点について理解する 復習 : 西洋装飾美術工芸の世界を理解する			
2	河合 恵美	【第 2 回】 予習 : 教科書 P12-21 を読み、「様式とは何か」について調べておく 授業 : バロックからモダニズムまでの装飾様式の特徴を俯瞰する 復習 : 各様式の特徴について時代背景と共に理解する			
3	河合 恵美	【第 3 回】 予習 : 教科書 P24-37 を読み、西洋の家具（椅子）について調べておく 授業 : 西洋家具の成り立ち、変遷と歴史について学ぶ 復習 : 西洋家具の歴史と各時代の特徴について理解する			
4	河合 恵美	【第 4 回】 予習 : 教科書 P66-71 を読み、陶磁器について調べておく 授業 : 西洋陶磁について、陶器・磁器それぞれの誕生の歴史と特徴を学ぶ 復習 : 陶磁器の歴史や種類について理解する			
5	河合 恵美	【第 5 回】 予習 : 教科書 P110-115 を読み、ガラスについて調べておく 授業 : ヴェネツィアガラス、ボヘミアガラス、クリスタルガラスについて学ぶ 復習 : ガラスの歴史と種類、製法について理解する			
6	河合 恵美	【第 6 回】 予習 : 教科書 P140-143 および P218-219 を読み、銀器について調べておく 授業 : イギリスとフランスの銀器の刻印の読み方について学ぶ 復習 : 西洋における銀器の歴史、刻印について理解する			
7	河合 恵美	【第 7 回】 予習 : 教科書 P180-183 を読み、また宝飾品（ジュエリー）について調べておく 授業 : 貴石の種類とジュエリーの歴史について学ぶ 復習 : ジュエリーの歴史、ダイヤモンドの世界を理解する			
8	河合 恵美	【第 8 回】 予習 : モード（服飾）とジェンダーについて調べておく 授業 : 西洋モードの歴史と変遷について学ぶ 第 1 回レポート課題 復習 : 生活様式の中でのモードの歴史を理解する			
9	河合 恵美	【第 9 回】 予習 : 教科書 P19 を読みアール・ヌーヴォーについて調べておく 授業 : アール・ヌーヴォー芸術と、その工芸品について学ぶ 復習 : アール・ヌーヴォーの芸術様式を理解する			
10	河合 恵美	【第 10 回】 予習 : 教科書 P20 を読みアール・デコについて調べておく 授業 : アール・デコ様式と、その工芸品について学ぶ 第 1 回のレポート講評			

		復習 : アール・デコの芸術様式を理解する						
11	河合 恵美	【第 11 回】 予習 : 教科書 P21 を読み北欧デザインについて調べておく 授業 : ミッド・センチュリーの家具工芸品について学ぶ 第 2 回レポート 復習 : ミッド・センチュリーの家具工芸品を理解する						
12	河合 恵美	【第 12 回】 予習 : 19 世紀後半の万博について調べておく 授業 : 1851 年のロンドン博から 1900 年のパリ万博までを俯瞰する 復習 : 19 世紀後半の万博について、その意義と役割を理解する						
13	河合 恵美	【第 13 回】 予習 : 第 12 回までの授業につき復習をする 授業 : アンティーク検定対策 復習 : アンティーク検定試験に向けての総復習をする						
14	河合 恵美	【第 14 回】 予習 : テーブルウェアの歴史について調べておく 授業 : テーブルコーディネートの変遷について学ぶ 復習 : テーブルウェアの種類、テーブルコーディネートの歴史を理解する						
15	河合 恵美	【第 15 回】 予習 : 「アンティーク」とは何か、について調べておく 授業 : アンティーク、ヴィンテージ、コレクタブルなどの定義、その価値基準について学ぶ 第 2 回レポート講評 復習 : アートマーケットにおける実情を理解する						
授業開始前学習		本授業にて触れる時代・地域は 17 世紀～20 世紀のヨーロッパの生活文化史であるため、ルネサンス以降の世界史、西洋美術史の通史を読み、基本的知識を学んでおくと、授業が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 8 回目、11 回目に提出するレポートについては、それぞれ授業 10 回目、15 回目に講評を行う。						
テキスト・教材		「西洋骨董鑑定の教科書」 ジュディス・ミラー著 (パイ インターナショナル)						
参考書		「ヨーロッパの装飾と文様」海野弘著 (パイ インターナショナル) 「アール・ヌーヴォーの美術」岡部昌幸著 (東京美術) 「世界服飾史」深井晃子監修 (美術出版社) 「ヨーロッパの宝飾芸術」山口遼著 (東京美術) 「フランステーブルウェアの教科書」イネス・ウージェル著 (パイ インターナショナル)						
評価の基準と方法		試験期間内の定期試験は実施せず、授業内に行うアクションペーパー、授業態度に加え 2 回の課題レポート (60%) および外部検定試験「アンティーク検定試験 3 級」(40%)とする。成績は絶対評価で加点方式となる。 出席 (授業中終始寝ている場合は出席としない) が 3 分の 2 以下の場合、また出席の改ざんが発覚した場合は成績にかかわらず単位取得不可となるので注意すること。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						
関連科目								
その他		「西洋骨董鑑定の教科書」 : 3600 円 + 税 アンティーク検定試験 3 級 : 受験料未定 (学生割引あり) 7 月 6 日 (日) に実施予定、本受験 (任意) は、成績評価の対象となる。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121 （J）		科目分類（～2024 年 入学者）	100-121-11 （J）		授業コード	F00800			
科目名称		日本美術史					単位数	2.0 単位			
英文名称		Japanese Art History					授業区分	講義			
科目責任者		遠山 元浩					必修・選択	履修ガイド参照			
担当教員		遠山 元浩					開講時期	1 年			
オフィスアワー		-					研究室	-			
授業概要		日本に於ける美術の流れを追えば、日本という文化の独自性が見えてくる。信仰や各種儀式から生まれた美、装飾性の多様さ、建築や工芸に見るデザインなど、日本人としての意識を、代表的な日本美術の作品を用いて解説しつつ、日本美術を紐解いていく。									
到達目標		まず、日本美術の変遷を時代ごとに理解する。そして、時代ごとに取り上げた美術品の分野、形態、その特徴や技法などを己の知識として身につける。併せて解説に使用した作品の意味や本質を理解する。日本美術の基礎を理解した上で、自分の中にある「日本の美」とは何なのか？を、導き出す事ができるようになる。									
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数	15 回		メディア科目	－		複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容								
1	遠山 元浩		【第 1 回】 予習：関心がある日本美術とは何か考察する。 授業：ガイダンス 日本美術とは 復習：日本美術にどのような特徴が顕著かまとめる。								
2	遠山 元浩		【第 2 回】 予習：美術の種類にはどんなものがあるのか確認する。 授業：美術品の分類と文化財 復習：美術の分類特徴をまとめる。								
3	遠山 元浩		【第 3 回】 予習：古代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：古代の美術（縄文・弥生・古墳） 復習：古代の美術の特徴をまとめる。								
4	遠山 元浩		【第 4 回】 予習：飛鳥の宗教美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：飛鳥の宗教美術（信仰と美術） 復習：飛鳥の宗教美術の特徴をまとめる。								
5	遠山 元浩		【第 5 回】 予習：仏像についてどんなものがあるのか確認する。 授業：仏像の伝来（宗教美術） 復習：宗教美術としての仏像の特徴をまとめる。								
6	遠山 元浩		【第 6 回】 予習：飛鳥から奈良の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：飛鳥から奈良時代の美術 復習：飛鳥から奈良の美術の特徴をまとめる。								
7	遠山 元浩		【第 7 回】 予習：奈良から平安の歴史についてどんなものがあるのか確認する。 授業：奈良から平安時代の美術（浄土美術） 復習：奈良から平安の美術の特徴をまとめる								
8	遠山 元浩		【第 8 回】 予習：平安から鎌倉についてどんなものがあるのか確認する。 授業：平安から鎌倉時代の美術（やまと絵） 復習：平安から鎌倉のやまと絵の特徴をまとめる								
9	遠山 元浩		【第 9 回】 予習：平安から鎌倉時代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：平安から鎌倉時代の美術（絵巻） 復習：平安から鎌倉時代の絵巻の特徴をまとめる。								
10	遠山 元浩		【第 10 回】 予習：鎌倉時代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：鎌倉から室町時代の美術（垂迹絵画） 復習：鎌倉から室町時代の美術の特徴をまとめる。								

11	遠山 元浩	【第 11 回】 予習：中近世移行期についての歴史を確認する。 授業：中近世移行期の美術 復習：中近世移行期の美術の特徴を整理する。						
12	遠山 元浩	【第 12 回】 予習：江戸時代の歴史を確認する。 授業：技法から見る江戸時代の美術（截金・蒔絵など） 復習：江戸時代の美術技法の特徴をまとめる。						
13	遠山 元浩	【第 13 回】 予習：美本美術の技法についてどんなものがあるのか確認する。 授業：彫刻・工芸からみる日本美術の技術（仏像・刀・刀装具など） 復習：江戸の彫刻や工芸の特徴をまとめる。						
14	遠山 元浩	【第 14 回】 予習：近世から近代の歴史について確認する。 授業：江戸から明治時代の美術（浮世絵など） 復習：江戸から明治の美術の特徴をまとめる						
15	遠山 元浩	【第 15 回】 予習：各時代の美術の特徴についてどんなものがあるのか確認する。 授業：学びの総括 復習：日本の美術の特徴をまとめる。						
授業開始前学習		授業テキストや美術全集などでなるべく多くの日本美術作品を見ておくこと						
授業内課題のフィードバックの方法		授業中必要と思われるタイミングに質疑応答時間を設ける 随時その内容に対して研究意欲を掘り下げられるよう、参考文献や実際の史料画像などを提示する						
テキスト・教材		『日本美術史 JAPANESE ART HISTORY』(美術出版ライブラリー 歴史編) 山下裕二・高岸輝 (監修) 美術出版社発行 これ以外に適宜プリント資料等を配付する事もある。						
参考書		講義中に参考資料等を紹介、配付資料には参考文献等を掲載する。						
評価の基準と方法		授業の平常点（30%）、課題レポート（70%）で総合的に評価する。 課題レポートは、指定された方法のみで受け付ける。 提出方法などの詳細は、授業終盤に授業の中で提示する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目		美術に関する講義、または日本史に関する講義は、日本美術史を理解する為に参考となる。						
その他		各回パワーポイントを使用しての授業となるが、授業中に用いた美術作品や史料等は、図版集などを見て毎回確認をすること。 また専門用語はその都度解説する。余裕のある時に、博物館・美術館・寺社仏閣などを訪れ、美術に接する機会を増やす努力をして欲しい。授業内容によっては必要と思われる最新史料の紹介、DVDや動画などを用いた視覚授業を実施することがあるので、予定がずれることも想定される。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		遊行寺宝物館の現役館長である。収蔵品は国宝『一遍聖絵』重要文化財『後醍醐天皇御像』など多数。専門は日本美術。特に日本仏教美術中の時宗美術と得意とする。保存担当学芸員の資格を有して文化財保護活動にも従事する。これらの経験を活かして日本美術史を紐解いて行く。						

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00810
科目名称	比較文化			単位数	2.0 単位
英文名称	Comparative Culture			授業区分	講義
科目責任者	安井 裕司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	安井 裕司			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	16-306
授業概要	前半は、文化中心主義・文化相対主義、文化帝国主義、アメリカナイゼーション、グローバリゼーション、オリエンタリズム、カルチュラル・スタディーズ、文化的ステレオタイプ等、理論的な側面から「比較文化」を捉えています。 後半は、具体的なケーススタディとして、『マイ・フェア・レディ』、『大草原の小さな家』、『フランダースの犬』、『西遊記』、『アルプスの少女ハイジ』、『ムーミン』、『ベルサイユのばら』などを例に、国を越えて作品が享受されることによって、重なり合いながらも顕在化する日本及び諸外国のそれぞれの「文化性」を分析していきます。				
到達目標	自分がどのような文化圏に所属しても、自分及び他者が帰属する「文化」を客観的に捉えられるようになることを目標とします。 「文化」を比較することで、国境を越える「文化」のダイナミズムを理解できるようになることもターゲットとします。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	安井 裕司	【第 1 回】 予習 : 「文化」について自分なりに調べてくる 授業 : 文化とは何か。文化を比較することの意味 復習 : 自分で予習していた「文化」と講義における「文化」の意味が同じかどうかを考え、「文化」を比較する意義を再考すること			
2	安井 裕司	【第 2 回】 予習 : なぜ、人は自分の所属する集団の「文化」を、他よりも優位（中心）であるとする傾向があるのかを考える。『ナショナリズム論の名著 50』（平凡社）、M.バーリー、W.グィッパマン『人種主義国家ドイツ：1933-45』等のナショナリズム関連書からエスノセントリズムに関する部分を読んでおく 授業 : 「自文化中心主義」（エスノセントリズム）・「文化相対主義」とは何か 復習 : 講義を踏まえて、「自文化中心主義」と「文化相対主義」について把握し、まとめておくこと			
3	安井 裕司	【第 3 回】 予習 : エドワード・サイード『文化と帝国主義』等を読んで「文化帝国主義」について調べておくこと 授業 : 「文化帝国主義」とは何か 復習 : 講義を踏まえて、「帝国」と「文化」について纏めておく			
4	安井 裕司	【第 4 回】 予習 : 米国発で世界に広がった「米国文化」を調べる。また、米国発ではなく世界に広まった「グローバル文化」を調べておく 授業 : 「文化」のアメリカナイゼーションとグローバリゼーション 復習 : 授業を踏まえて強制的ではなく国境を越えて広がる「文化」を考える。時間があれば、映画『ファウンダー ハンバーガー帝国のヒミツ』、映画『幸せの経済学』、映画『コカコーラ・キッド』等を見ておく			
5	安井 裕司	【第 5 回】 予習 : エドワード・サイード『オリエンタリズム』を読んでおく 授業 : 「オリエンタリズム」とは何か 復習 : 授業を踏まえて、「オリエンタリズム」について纏めておく			
6	安井 裕司	【第 6 回】 予習 : 「カルチュラル・スタディーズ」についてのスチュアート・ホール他『カルチュラル・アイデンティティの諸問題』等の学術書を読んでおく 授業 : カルチュラル・スタディーズとは何か 復習 : 授業を踏まえてカルチュラル・スタディーズについて纏めておく			
7	安井 裕司	【第 7 回】 予習 : 山本七平（イザヤ・ベンダサン）『日本人とユダヤ人』を読んでおく 授業 : 比較者の「中立性」「客観性」への問い 復習 : 日本人とユダヤ人比較が、ユダヤ人から発せられた場合と日本人から発せられた場合、受け手側の受け止め方が異なる理由は何なのかを考える			
8	安井 裕司	【第 8 回】 予習 : 映画『将軍 SHOGUN』（1980 年）、映画『SAYURI』、映画『ガン・ホー』等を見ておく 授業 : 文化的ステレオタイプ : 米国で消費される「日本文化」と「日本人性」 復習 : 授業を纏め、ステレオタイプについて米国の「日本人」以外のケースも考える			
9	安井 裕司	【第 9 回】 予習 : ローラ・インガルス・ワイルダー『大草原の小さな家』を読んでおく 授業 : 日本で享受されたアメリカの家族物語 : ドラマ『大草原の小さな家』			

		復習 : 講義を纏め、可能ならばドラマ『大草原の小さな家』を観ておく						
10	安井 裕司	【第 10 回】 予習 : ギリシャ神話『変身物語』の「ピグマリオン」を読んでおく 授業 : 英国・米国で分岐する価値 : 『ピグマリオン』(1939 年)、『マイ・フェア・レディ』(1964 年)、『Pygmalion』(1973 年)、『リタと大学教授』(1983 年)、『プリティ・ウーマン』(1990 年)、『ルビー・スパークス』(2012 年) を例に考える 復習 : 授業で紹介した映画作品をできるだけ見ておく						
11	安井 裕司	【第 11 回】 予習 : ウィーダ『フランダースの犬』を読んでおく 授業 : 日本で受け入れられたベルギーの悲劇 : 『フランダースの犬』 復習 : 講義を踏まえて、なぜ同作品が日本人の心を掴んだのかを纏め、可能ならばアニメ『フランダースの犬』を観ておく						
12	安井 裕司	【第 12 回】 予習 : 1979 年に英国 BBC で「Monkey」として放送された大ヒットした日本のドラマ『西遊記』(1978 年) がどのように海外で評価されているかを事前に英文記事で調べておく 授業 : 日本化されて英国に受け入れられた中国の古典 : ドラマ『西遊記』(1979 年) 復習 : 授業を踏まえて、可能ならばドラマ『西遊記』(1978 年) を観ておく						
13	安井 裕司	【第 13 回】 予習 : ヨハンナ・シュピリ『アルプスの少女ハイジ』を読んでおく 授業 : 日本アニメとして再創出されたスイスの『アルプスの少女ハイジ』 復習 : 日本の TV アニメ『アルプスの少女ハイジ』(1974 年,日本)を観ておく。可能ならば、『Heidi』(1937 年,米国)、『アルプスの少女ハイジ』(1952 年,スイス)、『アルプスの少女ハイジ』(1965 年,西ドイツ)、『ハイジ』(2005 年,英国)、『ハイジアルプスの物語』(2015 年,スイス) 等も観ておく						
14	安井 裕司	【第 14 回】 予習 : トーベ・ヤンソン『ムーミン全集』をできるだけ読んでおく 授業 : 日本で生き続ける北欧の妖精『ムーミン』 復習 : 講義を踏まえ、可能ならば TV アニメ『楽しいムーミン一家』を観て、瀬戸一夫『ムーミンの哲学』、富原真弓『ムーミンを読む』も読んでおく						
15	安井 裕司	【第 15 回】 予習 : 池田理代子『ベルサイユのばら』を読んでおくこと 授業 : 日本化した「フランス革命」: 漫画・アニメ『ベルサイユのばら』、宝塚歌劇『ベルサイユのばら』そして『Lady Oscar』は何を問うのか 復習 : 授業を踏まえて、可能ならば、アニメ『ベルサイユのばら』、宝塚歌劇『ベルサイユのばら』を観てみる						
授業開始前学習		紹介する学術書、一般書、漫画を全て読み、映像作品(映画、ドラマ)を全て鑑賞することを義務化しませんが、事前に多くの関連書を読んで、沢山の映画を観たほうがより授業が分かり易く、何よりも楽しくなります。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で課題をフィードバックする時間を設けます。						
テキスト・教材		特にありません。						
参考書		毎回、授業において紹介します。						
評価の基準と方法		授業参加態度 30% 定期試験 70%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△		○				
関連科目	異文化理解 I、異文化理解 II、多文化共生論							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間(4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11		授業コード		F00870					
科目名称		日本の政治						単位数		2.0 単位					
英文名称		Japanese Politics						授業区分		講義					
科目責任者		弥久保 宏						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		弥久保 宏						開講時期		1 年					
オフィスアワー		前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30						研究室		10-703					
授業概要		日本の政治を戦後から今日まで、国会、政党、議員、官僚、政権交代にスポットライトを当て、その軌跡から日本政治の特徴を探ることが、この講義の目標です。私達の日常生活は、様々な局面で政治と密接に結びついています。ただ、そのことに気が付いているか、どうかの違いです。政治に対する無関心は、政治家や官僚任せの人生を送ることになります。未来に希望の持てる日本にする為に、今何をすべきかを受講生の皆さんと一緒に考えたいと思います。同時に、学生として知っておくべき時事問題力を養います。													
到達目標		現在の日本の政治を戦後政治史から俯瞰できるようにする。													
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数	担当者		授業の内容												
1	弥久保 宏		【第 1 回】 予習 ： シラバスを読んでおくこと 授業 ： 日本政治の見方とガイダンス（講義の進め方、試験と単位評価、受講にあたっての諸注意など） 復習 ： ガイダンスのポイントメモを作成												
2	弥久保 宏		【第 2 回】 予習 ： テキストの該当部分を読んでおく 授業 ： 戦前の政治と戦争① 復習 ： 講義のポイントメモを作成												
3	弥久保 宏		【第 3 回】 予習 ： テキストの該当部分を読んでおく 授業 ： 戦前の政治と戦争② 復習 ： 講義のポイントメモを作成												
4	弥久保 宏		【第 4 回】 予習 ： テキストの該当部分を読んでおく 授業 ： 占領と民主化① 復習 ： 講義のポイントメモを作成												
5	弥久保 宏		【第 5 回】 予習 ： テキストの該当部分を読んでおく 授業 ： 占領と民主化② 復習 ： 講義のポイントメモを作成												
6	弥久保 宏		【第 6 回】 予習 ： テキストの該当部分を読んでおく 授業 ： 敗戦後の再出発① 復習 ： 講義のポイントメモを作成												
7	弥久保 宏		【第 7 回】 予習 ： テキストの該当部分を読んでおく 授業 ： 敗戦後の再出発② 復習 ： 講義のポイントメモを作成												
8	弥久保 宏		【第 8 回】 予習 ： テキストの該当部分を読んでおく 授業 ： 戦後政治モデルの形成－「5 5 年体制」と 6 0 年安保① 復習 ： 講義のポイントメモを作成												
9	弥久保 宏		【第 9 回】 予習 ： テキストの該当部分を読んでおく 授業 ： 戦後政治モデルの形成－「5 5 年体制」と 6 0 年安保② 復習 ： 講義のポイントメモを作成												
10	弥久保 宏		【第 10 回】 予習 ： テキストの該当部分を読んでおく 授業 ： 高度成長の時代－5 0 年代後半から 7 0 年代後半① 復習 ： 講義のポイントメモを作成												
11	弥久保 宏		【第 11 回】 予習 ： テキストの該当部分を読んでおく 授業 ： 高度成長の時代－5 0 年代後半から 7 0 年代後半②												

		復習：講義のポイントメモを作成						
12	弥久保 宏	【第 12 回】 予習：テキストの該当部分を読んでおく 授業：戦後保守政治の再編① 復習：講義のポイントメモを作成						
13	弥久保 宏	【第 13 回】 予習：テキストの該当部分を読んでおく 授業：戦後保守政治の再編② 復習：講義のポイントメモを作成						
14	弥久保 宏	【第 14 回】 予習：テキストの該当部分を読んでおく 授業：混迷の時代から新しい政治へー 90 年代後半から現在 復習：講義のポイントメモを作成						
15	弥久保 宏	【第 15 回】 予習：これまでの講義ポイントメモに目を通しておく 授業：前期の総括 復習：これまでの講義メモをまとめる						
授業開始前学習		新聞などのニュースメディアに日常的に接し、時事問題に対するアンテナを磨いておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		予習学習の成果を授業で確認する。						
テキスト・教材		五十嵐仁『18 歳から考える日本の政治（第 3 版）』（法律文化社）						
参考書		随時紹介する。						
評価の基準と方法		単位の評価は、受講意欲（授業中の質疑など）4 割。定期試験 6 割。6 回以上の欠席や出席で不正行為を行った場合は、単位取得は認めない。遅刻は 3 回で 1 回の欠席扱いにする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目		「世界の政治」、「政治と市民参加」						
その他		<重要事項> 履修登録は、ガイダンスの出席を義務づける。事情によりガイダンスを受けなかった場合は、研究室を訪ねて、ガイダンスの内容を了解した上で履修登録を行うこと。講義の録音は認めない。勝手に録音した場合は、機材を没収する。講義中のスマホや携帯電話の使用は厳禁。見つけ次第、没収し退室を命じる。また授業中に講義と関係のない他の作業を行った者も退室を命じる。履修登録にあたって、これらの事項を了解したうえで登録すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11		授業コード		F00880			
科目名称		世界の政治						単位数		2.0 単位			
英文名称		World Politics						授業区分		講義			
科目責任者		弥久保 宏						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		弥久保 宏						開講時期		1 年			
オフィスアワー		前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30						研究室		10-703			
授業概要		国際社会における諸問題や日本のポジションを探るのがこの講義の目標です。国際社会で日本は“異質な国家”とみなされるケースが多々ありますが、なぜ日本は"異質"に思われるのか？日本が"異質"と思われる構造を国際政治における日本政治の特徴や日本国憲法の特徴から検証します。また、日本を取り巻く国際社会のアップデートな問題も取り上げるのでシラバスの内容と変わる場合がある。											
到達目標		国内外で起こる様々なニュースの基本的な知識を身につけ、事件の本質を見抜く力をつける。											
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容										
1	弥久保 宏		【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく、特に【その他】の重要事項を熟読のこと。 授業：世界の政治の学習方法とガイダンス（講義の進め方、試験や単位について、その他注意事項） 復習：学習方法やガイダンスの諸注意の理解										
2	弥久保 宏		【第 2 回】 予習：日本国憲法の前文と第 9 条に目を通しておくこと 授業：世界の政治と日本国憲法の特長性 復習：講義のポイントメモの作成										
3	弥久保 宏		【第 3 回】 予習：日米安保条約を読んでおくこと。 授業：日本の安全保障 日米安保条約 復習：講義のポイントメモの作成										
4	弥久保 宏		【第 4 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：核兵器問題 復習：講義のポイントメモの作成										
5	弥久保 宏		【第 5 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：日韓関係 復習：講義のポイントメモの作成										
6	弥久保 宏		【第 6 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：日本の領土問題①北方領土問題 復習：講義のポイントメモの作成										
7	弥久保 宏		【第 7 回】 予習：配布資料を読んでおくこと 授業：日本の領土問題②竹島問題 復習：講義のポイントメモの作成										
8	弥久保 宏		【第 8 回】 予習：配布資料を読んでおくこと 授業：日本の領土問題③尖閣諸島問題 復習：講義のポイントメモの作成										
9	弥久保 宏		【第 9 回】 予習：配布資料を読んでおくこと 授業：パレスチナ問題 復習：講義のポイントメモの作成										
10	弥久保 宏		【第 10 回】 予習：配布資料を読んでおくこと 授業：G7 サミット 復習：講義のポイントメモの作成										
11	弥久保 宏		【第 11 回】 予習：配布資料を読んでおくこと 授業：FTA と EPA										

		復習：講義のポイントメモの作成						
12	弥久保 宏	【第 12 回】 予習：拉致問題を調べておくこと 授業：北朝鮮による拉致問題 復習：講義のポイントメモの作成						
13	弥久保 宏	【第 13 回】 予習：配布資料を読んでおくこと 授業：男女格差（国際比較） 復習：講義のポイントメモの作成						
14	弥久保 宏	【第 14 回】 予習：配布資料を読んでおくこと 授業：ロシアのウクライナ侵攻 復習：講義のポイントメモの作成						
15	弥久保 宏	【第 15 回】 予習：これまでの講義のポイントメモをまとめる 授業：世界の政治での学習を深める方法 復習：定期試験に向けての準備						
授業開始前学習		新聞などのニュースメディアに日常的に接し、時事問題に対するアンテナを磨いておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		予習学習の成果を授業で確認する。						
テキスト・教材		適宜、資料を配布する						
参考書		随時紹介する。						
評価の基準と方法		単位の評価は、受講意欲（授業中の質疑など）4 割。定期試験 6 割。6 回以上の欠席や出席で不正行為を行った場合は、単位取得は認めない。遅刻は 3 回で 1 回の欠席扱いにする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目		「日本の政治」、「政治と市民参加」						
その他		<重要事項> 履修登録は、ガイダンスの出席を義務づける。事情によりガイダンスを受けなかった場合は、研究室を訪ねて、ガイダンスの内容を了解した上で履修登録を行うこと。講義の録音は認めない。勝手に録音した場合は、機材を没収する。講義中のスマホや携帯電話の使用は厳禁。見つけ次第、没収し退室を命じる。また授業中に講義と関係のない他の作業を行った者も退室を命じる。履修登録にあたって、これらの事項を了解したうえで登録すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00900
科目名称	日本の経済			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Economy			授業区分	講義
科目責任者	羽田 翔			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽田 翔			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	日本経済の現状について、財政・金融面、産業まで幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に捉え、日本経済が抱える課題について学修する。主に、最近特に注目されている格差問題や少子高齢化、環境問題と経済・産業との関係について取り上げる。				
到達目標	日本経済の現状について幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に理解する能力を修得する。そして、現代の日本経済が抱える課題を認識することができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	羽田 翔	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通しておきましょう。新聞、ニュースなどで経済の問題に触れるようにしてください。 授業：履修上の注意点。なぜ日本の経済について学ぶのか。 復習：シラバスを読み直し、履修に向けて必要なことを確認しましょう。			
2	羽田 翔	【第 2 回】 予習：新聞、ニュースなどで経済の問題に触れるようにしてください。 授業：経済のルールを身に付けましょう。 ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引、神の見えざる手、政府の介入、インフレーション、失業 復習：経済のルールを再確認してください。			
3	羽田 翔	【第 3 回】 予習：需要とは何かを調べておきましょう。 授業：世の中の財やサービスの価格と取引量の決まり方を学びましょう。（1） ・経済の三主体の関係。 ・需要曲線とシフト要因。 復習：価格と取引量の決まり方を見直しておいてください。			
4	羽田 翔	【第 4 回】 予習：供給とは何かを調べておきましょう。 授業：世の中の財やサービスの価格と取引量の決まり方を学びましょう。（2） ・供給曲線の導出とシフト要因。 復習：価格と取引量の決まり方を見直しておいてください。			
5	羽田 翔	【第 5 回】 予習：政府の介入の市場への影響を調べておきましょう。 授業：世の中の財やサービスの価格と取引量の決まり方を学びましょう。（3） ・均衡価格、均衡取引量、政府の介入（租税）と死荷重。 復習：租税の影響を整理しておいてください。			
6	羽田 翔	【第 6 回】 予習：GDP とは何か調べておきましょう。 授業：国同士の経済を比較する基準を知りましょう。 ・GDP、構成要素、名目 GDP、実質 GDP 復習：GDP を構成する要素を整理しておきましょう。			
7	羽田 翔	【第 7 回】 予習：経済成長とは何か調べておきましょう。 授業：景気が「良い」、「悪い」と判断される理由を知りましょう。 ・経済成長率、名目経済成長率、実質経済成長率 復習：経済成長率を求められるようにしておきましょう。			
8	羽田 翔	【第 8 回】 予習：貨幣とは何か調べておきましょう。 授業：景気を良くする方法を考えてみましょう。（1） ・貨幣の機能。金融政策。			

		復習：金融政策を整理しておきましょう。						
9	羽田 翔	【第 9 回】 予習：公債とは何か調べてみましょう。 授業：景気を良くする方法を考えてみましょう。（2） ・財政の仕組み，財政政策 ・公債発行の問題 復習：財政健全化の方法を考えてみましょう。						
10	羽田 翔	【第 10 回】 予習：租税とは何か調べておきましょう。 授業：日本が抱える問題について知りましょう。（1） ・租税の仕組み。 ・所得税の計算方法。 復習：所得税の計算方法を復習しておきましょう。						
11	羽田 翔	【第 11 回】 予習：賦課方式と積立方式とは何か調べておきましょう。 授業：日本が抱える問題について知りましょう。（2） ・少子高齢化，年金の仕組み，世代会計 復習：年金は持続可能か考えてみましょう。						
12	羽田 翔	【第 12 回】 予習：自分の住む地域の人口推移を調べておきましょう。 授業：日本が抱える問題について知りましょう。（3） ・地域間格差，地方分権，補助金政策 復習：地域活性化の方法を考えてみましょう。						
13	羽田 翔	【第 13 回】 予習：日本の CO2 排出目標について調べておきましょう。 授業：日本が抱える問題について知りましょう。（4） ・CO2 排出目標，ESG 投資，原子力発電 復習：環境問題と経済の両立を考えてみましょう。						
14	羽田 翔	【第 14 回】 予習：第 1 回～第 13 回の内容を復習しておきましょう。 授業：授業のまとめと復習 ・テストの練習，説明 復習：注意事項を確認し，テストの準備をしましょう。						
15	羽田 翔	【第 15 回】 予習：第 1 回～第 14 回の内容を再確認・復習しておきましょう。 授業：授業内試験 復習：Classroom に掲示された解答例をもとに復習しておきましょう。						
授業開始前学習		最近注目される社会現象や経済問題を多く取り上げます。そのため、日常より新聞やニュースに触れ、興味関心を持つよう心がけてください。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で小テストなど課題を課した場合は、次回授業以降に解答例を Classroom に掲示します。						
テキスト・教材		特に教科書は指定しませんが、初歩的な経済学の入門書の中から気に入ったものを購入することをおすすめします。						
参考書		講義内で適宜紹介します。						
評価の基準と方法		講義内課題：40% 期末試験：60%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	後期開講の「世界の経済」と合わせて受講することで、日本と世界における経済に関する諸問題について、理解がより深まります。そのため、「日本の経済」を受講後に「世界の経済」を受講することをおすすめします。どちらかを単独で受講しても問題ありません。							
その他	経済や経済学についての専門知識は必要ありませんが、各回の内容には継続性があるため、毎回の講義へ参加することが重要になります。また、受講生の人数などによっては講義内容を変更する可能性があります。							

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした 教育内容	

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00910
科目名称	世界の経済			単位数	2.0 単位
英文名称	World Economy			授業区分	講義
科目責任者	羽田 翔			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽田 翔			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	世界経済の現状について、経済学の基礎的手法や統計データなどを用いることにより学修する。最終的に、貿易政策や他国との関係、時事問題を理解する力を養う。				
到達目標	世界経済の現状について幅広く、歴史、制度、経済理論、データによって多角的に理解する能力を修得する。そして、現代の世界経済が抱える課題を認識することができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	羽田 翔	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通しておきましょう。新聞、ニュースなどで経済の問題に触れるようにしてください。 授業：履修上の注意点。なぜ世界の経済について学ぶのか。 ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引、神の見えざる手、政府の介入、インフレーション、失業 復習：シラバスを読み直し、履修に向けて必要なことを確認しましょう。			
2	羽田 翔	【第 2 回】 予習：需要と供給とは何かを調べておきましょう。 授業：世の中の財やサービスの価格と取引量の決まり方を学びましょう。（１） ・経済の三主体の関係 ・需要曲線とシフト要因 ・供給曲線の導出とシフト要因 復習：価格と取引量の決まり方を見直しておいてください。			
3	羽田 翔	【第 3 回】 予習：政府の介入の市場への影響を調べておきましょう。 授業：世の中の財やサービスの価格と取引量の決まり方を学びましょう。（２） ・均衡価格、均衡取引量、政府の介入（租税）と死荷重 復習：租税の影響を整理しておいてください。			
4	羽田 翔	【第 4 回】 予習：GDP とは何か調べておきましょう。 授業：国同士の経済を比較する基準を知りましょう。 ・GDP、構成要素、名目 GDP、実質 GDP、経済成長率、名目経済成長率、実質経済成長率 復習：GDP を構成する要素を整理しておきましょう。			
5	羽田 翔	【第 5 回】 予習：比較優位とは何か調べておきましょう。 授業：貿易の利益について知りましょう。（１） ・比較優位、貿易の利益 復習：貿易の利益を整理しておきましょう。			
6	羽田 翔	【第 6 回】 予習：どのような企業が輸出しているか調べておきましょう。 授業：貿易の利益について知りましょう。（２） ・輸出企業の特徴 復習：輸出企業の特徴を整理しておきましょう。			
7	羽田 翔	【第 7 回】 予習：TPP と RCEP について調べておきましょう。 授業：アジア地域の貿易について。 ・地域経済統合、ASEAN、TPP、RCEP、中国、生産ネットワーク 復習：アジア地域の貿易協定について整理しておきましょう			
8	羽田 翔	【第 8 回】 予習：日本と EU 諸国の主要な貿易取引について調べておきましょう。 授業：ヨーロッパ・北米諸国との貿易について。 ・EU、EPA、USMCA 復習：日本と EU の EPA について整理しておきましょう			

9	羽田 翔	【第 9 回】 予習：外国為替レートについて調べておきましょう。 授業：通貨と国際資金循環について。 ・国際通貨，外国為替レート，国際資金循環，通貨危機 復習：国際資金循環について整理しておきましょう						
10	羽田 翔	【第 10 回】 予習：世界金融危機について調べておきましょう。 授業：世界経済が抱える問題について知りましょう。（1） ・サブプライムローン問題，リーマンショック，世界金融危機 復習：リーマンショック発生の理由について整理しておきましょう。						
11	羽田 翔	【第 11 回】 予習：SDGs について調べておきましょう。 授業：世界経済が抱える問題について知りましょう。（2） ・発展途上国，貧困，経済開発，SDGs 復習：発展途上国への支援の方法を考えてみましょう。						
12	羽田 翔	【第 12 回】 予習：デジタル課税について調べておきましょう。 授業：世界経済が抱える問題について知りましょう。（3） ・デジタル課税，海外進出，海外直接投資，法人税 復習：企業の海外進出について整理しておきましょう。						
13	羽田 翔	【第 13 回】 予習：世界における COVID-19 の状況について調べておきましょう。 授業：世界経済が抱える問題について知りましょう。（4） ・COVID-19，ヒト・モノの移動，ワクチン 復習：自由貿易の利益についてもう一度考えてみましょう。						
14	羽田 翔	【第 14 回】 予習：第 1 回～第 13 回の内容を復習しておきましょう。 授業：授業のまとめと復習 ・テストの練習，説明 復習：注意事項を確認し，テストの準備をしましょう。						
15	羽田 翔	【第 15 回】 予習：第 1 回～第 14 回の内容を再確認・復習しておきましょう。 授業：授業内試験 復習：Classroom に掲示された解答例をもとに復習しておきましょう。						
授業開始前学習		最近注目される社会現象や経済問題を多く取り上げます。そのため、日常より新聞やニュースに触れ、興味関心を持つよう心がけてください。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で小テストなど課題を課した場合は、次回授業以降に解答例を Classroom に掲示します。						
テキスト・教材		特に教科書は指定しませんが、初歩的な国際経済学の入門書の中から気に入ったものを購入することをおすすめします。						
参考書		必要に応じて講義内で適宜紹介します。						
評価の基準と方法		講義内課題：40% 期末試験：60%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	前期開講の「日本の経済」と合わせて受講することで、日本と世界における経済に関する諸問題について、理解がより深まります。そのため、「日本の経済」を受講後に「世界の経済」を受講することをおすすめします。どちらかを単独で受講しても問題ありません。							
その他	経済や経済学についての専門知識は必要ありませんが、各回の内容には継続性があるため、毎回の講義へ参加することが重要になります。また、受講生の人数などによっては講義内容を変更する可能性があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11		授業コード		F00890			
科目名称		政治と市民参加						単位数		2.0 単位			
英文名称		Politics and Citizenship						授業区分		講義			
科目責任者		東 裕						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		東 裕						開講時期		1 年			
オフィスアワー		-						研究室		-			
授業概要		政治と市民参加について、日本の戦後政治と今日の日本政治を素材にして、憲法的な視点から考えてみたい。戦後政治の中で、国民が「市民」としてどのように関わってきたか、またグローバル化が進む国際社会の中で日本の政治はどこに向かおうとしているのか。それに対して、国民は「市民」としてどう考え、政治に向き合っていくべきか。そのような問題意識をもって、憲法的視点から日本政治を考察し、各人が自律性を備えた「市民」として、日々生起する政治上の諸問題について分析し、判断し、そして自分自身の意見を形成する力を身につけることを目的とする。その前提として、日本国憲法で保障されている参政権などの諸権利や統治機構を市民参加の視点から把握し、権利や制度の理解を深め、政治と市民参加に関する権利および制度の活用と問題点についても考察していく。											
到達目標		大学生として恥ずかしくない程度の政治に関する知識と教養を身につけ、日々生起する政治上の諸問題について、分析し、判断し、自分自身の意見が形成できる力を身につけることを目的とする。併せて、責任ある主権者としての自覚をもち、国政選挙や地方選挙において、各種メディアの報道を参考に、自らの判断で政党や候補者を選択し、積極的に投票する「市民」となることをも目的とする。											
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容										
1	東 裕		【第 1 回】 予習：シラバスおよびテキスト（82-84 頁）を読んでおくこと。 授業：憲法と「市民」の誕生―近代市民革命から現代へ 復習：講義のポイントメモの整理										
2	東 裕		【第 2 回】 予習：テキスト（25-31 頁）を読んでおくこと。 授業：国民主権と民主主義―日本国憲法前文について 復習：講義のポイントメモの整理										
3	東 裕		【第 3 回】 予習：テキスト（180-184 頁）を読んでおくこと 授業：参政権とは？―選挙権・被選挙権 復習：講義のポイントメモの整理										
4	東 裕		【第 4 回】 予習：テキスト（184-186 頁）を読んでおくこと 授業：選挙の基本原則―普通・平等・秘密・直接・自由 復習：講義のポイントメモの整理										
5	東 裕		【第 5 回】 予習：テキスト（114-119 頁）を読んでおくこと 授業：選挙権の平等―投票価値の平等と最高裁判例 復習：講義のポイントメモの整理										
6	東 裕		【第 6 回】 予習：テキスト（187-191 頁）を読んでおくこと 授業：選挙の方法と選挙運動―国政選挙と選挙運動の制限 復習：講義のポイントメモの整理										
7	東 裕		【第 7 回】 予習：テキスト（192-195 頁）を読んでおくこと 授業：直接民主制―日本国憲法と直接民主制の制度 復習：講義のポイントメモの整理										
8	東 裕		【第 8 回】 予習：テキスト（320-322 頁）を読んでおくこと 授業：地方自治における団体自治と住民自治（1）―地方公共団体の統治機構 復習：講義のポイントメモの整理										
9	東 裕		【第 9 回】 予習：テキスト（329－330 頁）を読んでおくこと 授業：地方自治における団体自治と住民自治（2）―住民投票 復習：講義のポイントメモの整理										
10	東 裕		【第 10 回】 予習：テキスト（330-331 頁）を読んでおくこと 授業：地方自治における団体自治と住民自治（3）―直接請求										

		復習：講義のポイントメモの整理							
11	東 裕	【第 11 回】 予習：テキスト（196-201 頁）を読んでおくこと 授業：国務請求権―請願権 復習：講義のポイントメモの整理							
12	東 裕	【第 12 回】 予習：テキスト（281-285 頁）を読んでおくこと 授業：司法権と市民参加―裁判員制度・検察審査会 復習：講義のポイントメモの整理							
13	東 裕	【第 13 回】 予習：テキスト（340 - 343 頁）を読んでおくこと 授業：憲法改正と国民投票―憲法 96 条と憲法改正国民投票法 復習：講義のポイントメモの整理							
14	東 裕	【第 14 回】 予習：テキスト（132-140 頁）を読んでおくこと 授業：「表現の自由」と民主主義―メディアと政治 復習：講義のポイントメモの整理							
15	東 裕	【第 15 回】 予習：これまでの講義の総復習 授業：これまでの授業の総括 復習：講義のポイントメモの整理							
授業開始前学習		今、政治の世界で論議されている事柄、そしてそのことがなぜ問題になり、問題の核心は何なのかと考えながら、日頃のニュースや事件に関心を持ち、一定の情報を得ておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題について講評するとともに、授業内での質疑応答を通じて確認し、不十分なところや誤ったところを明らかにし、正確な知識と問題意識をもてるようにする。							
テキスト・教材		下條芳明・東 裕編著『新・テキストブック日本国憲法』（嵯峨野書院・2024 年・第 1 版第 6 刷）定価（本体 2,900 円＋税）							
参考書		随時、授業の中で紹介する。							
評価の基準と方法		単位の評価は、受講意欲（授業中の質疑応答など） 2 割。定期試験 8 割。6 回以上の欠席や出席について不正行為を行った場合は、単位取得は認めない。遅刻は 3 回で 1 回の欠席扱いとする。							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△				
関連科目		「日本の政治」							
その他		＜重要事項＞ 履修登録は、ガイダンス（第 1 回授業）の出席を義務づける。事情によりガイダンスを受けなかった場合は、担当者に連絡し、ガイダンスの内容を了解した上で履修登録を行うこと。講義中のスマートフォン等の無断使用は禁止する。また授業中に私語や講義と関係のない他の授業の予習等を行った者には退出を命じることがある。履修登録にあたって、これらの事項を了解したうえで登録すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00940
科目名称	法学	単位数	2.0 単位		
英文名称	Law	授業区分	講義		
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	福王 守	開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-614		
授業概要	私たちの生活は、法によって規律されています。法は社会をよりよく営んでいくための手段です。その一方で、時にこれは私たちの生活を厳しく制限します。ゆえに、「秩序」と「正義」という相矛盾しがちな 2 つの目的について、いかに妥協点を模索するかが法の責務であるといわれます。前期の授業では、近代以降の市民社会のあゆみを踏まえて、「法とは何か」ということをいかに伝えたいと思います。できるだけ、身近な裁判例なども紹介します。様々な報道から伝えられる社会問題について、結論を急がずに考えるためのきっかけとなれば幸いです。				
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	福王 守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習 : 本科目シラバスおよびテキスト iii - X 頁の講読 授業 : 法学とは : この授業の目的・内容・学習方法について 【テキスト iii - X 頁】 復習 : テキスト iii - X 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
2	福王 守	【第 2 回】 予習 : テキスト 7-21 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 市民社会と法 : 法の特性と日本の法体系【テキスト 7-21 頁】 復習 : テキスト 7-21 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
3	福王 守	【第 3 回】 予習 : テキスト 210-219 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 市民社会と法 : 近代市民社会の特徴と法的要請 【テキスト 210-219 頁】 復習 : テキスト 210-219 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
4	福王 守	【第 4 回】 予習 : テキスト 21-32 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 市民社会と法 : 法目的としての「秩序と正義」【テキスト 21-32 頁】 復習 : テキスト 21-32 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
5	福王 守	【第 5 回】 予習 : テキスト 49-59 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法のあり方 : 実定法の意義と問題点 【テキスト 49-59 頁】 復習 : テキスト 49-59 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
6	福王 守	【第 6 回】 予習 : テキスト 59、130-132 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法のあり方 : 判例法と裁判 【テキスト 59、130-132 頁】 復習 : テキスト 59、130-132 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
7	福王 守	【第 7 回】 予習 : テキスト 64-65 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法のあり方 : 条理と裁判 【テキスト 64-65 頁】 復習 : テキスト 64-65 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
8	福王 守	【第 8 回】 予習 : テキスト 66-69 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法の適用 : 事実認定 【テキスト 66-69 頁】 復習 : テキスト 66-69 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
9	福王 守	【第 9 回】 予習 : テキスト 69-75 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法の適用 : 法解釈における学説の対立 【テキスト 69-75 頁】 復習 : テキスト 69-75 頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			

10	福王 守	【第 10 回】 予習 : 第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業 : これまでの授業の総括と発展学習の手引 : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理							
11	福王 守	【第 11 回】 予習 : テキスト 83-85 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法の体系 : 公法と私法の区分 【テキスト 83-85 頁】 復習 : テキスト 83-85 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理							
12	福王 守	【第 12 回】 予習 : テキスト 85-88、219-221 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法の体系 : 公法と私法の分離と融合 【テキスト 85-88、219-221 頁】 復習 : テキスト 85-88、219-221 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理							
13	福王 守	【第 13 回】 予習 : テキスト 157-179 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法の体系 : 社会法の特徴と種類 【テキスト 157-179 頁】 復習 : テキスト 157-179 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理							
14	福王 守	【第 14 回】 予習 : テキスト 7157-179 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法の体系 : 社会法をめぐる今日の問題 【テキスト 157-179 頁】 復習 : テキスト 157-179 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理							
15	福王 守	【第 15 回】 予習 : テキスト iii - X 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 「法学」の総括と発展学習の手引き : 授業全体の体系的整理と論証に向けて（問題解決型学習）【テキスト 全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理							
授業開始前学習		テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。							
授業内課題のフィードバックの方法		適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。							
テキスト・教材		伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門（第 4 版）』（有斐閣、2005 年） 『ポケット六法（令和 7 年版）』（有斐閣、2024 年）							
参考書		授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法		・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△		◎				
関連科目		法律学を学ぶ上で、最も基礎となる入門科目です。この授業に基づいて、発展科目としての「法と社会」が組み立てられています。また、日本国憲法Ⅰ・Ⅱも関連性をもって構成されています。なお、2 年次以降に受講できる科目として「国際法」があります。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11	授業コード	F00950
科目名称		法と社会				単位数	2.0 単位
英文名称		Law and Society				授業区分	講義
科目責任者		福王 守				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		福王 守				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30				研究室	10-614
授業概要		法は、人々が社会生活をよりよく営むための手段です。また一方で、法は私たちの生活を強く制約することがあります。あるべき法の姿を方向づけていくのは、私たち一人ひとりの考えに裏づけられた、世論です。この授業では、法と社会の関わりについて基本的な知識を伝えます。未解決な社会問題を考える際に、ひとつの手がかりを提供できれば幸いです。後期の授業では、個々の法のあり方（法の体系）を具体的に紹介した上で、後半において現代社会の抱える高齢社会の問題について考えます。					
到達目標		市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	福王 守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習：本科目シラバスおよびテキスト iii - X 頁の講読 授業：法学とは：この授業の目的・内容・学習方法について 【テキスト iii - X 頁】 復習：テキスト iii - X 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理					
2	福王 守	【第 2 回】 予習：テキスト 7-21、83-85、210 頁の講読およびキーワードの確認 授業：市民社会と法：日本法体系の今日的起源と特徴 【テキスト 7-21、83-85、210-219 頁】 復習：テキスト 7-21、83-85、210-219 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理					
3	福王 守	【第 3 回】 予習：テキスト 94-110 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国家の基本法：日本国憲法制定の背景 【テキスト 94-110 頁】 復習：テキスト 94-110 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理					
4	福王 守	【第 4 回】 予習：テキスト 94-110 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国家の基本法：日本憲法の抱える今日的課題 【テキスト 94-110 頁】 復習：テキスト 94-110 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理					
5	福王 守	【第 5 回】 予習：テキスト 141-156 頁の講読およびキーワードの確認 授業：財産と家族：民法（財産法）について 【テキスト 141-156 頁】 復習：テキスト 141-156 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理					
6	福王 守	【第 6 回】 予習：テキスト 128-140 頁の講読およびキーワードの確認 授業：財産と家族：民法（家族法）について 【テキスト 128-140 頁】 復習：テキスト 128-140 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理					
7	福王 守	【第 7 回】 予習：テキスト 111-127 頁の講読およびキーワードの確認 授業：犯罪と刑罰：刑法について 【テキスト 111-127 頁】 復習：テキスト 111-127 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理					
8	福王 守	【第 8 回】 予習：テキスト 118-119 頁の講読およびキーワードの確認 授業：犯罪と刑罰：未成年者の犯罪と処遇 【テキスト 118-119 頁】 復習：テキスト 118-119 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理					
9	福王 守	【第 9 回】 予習：テキスト 180-204 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国家と国際機構：国際法について 【テキスト 180-204 頁】 復習：テキスト 180-204 頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理					
10	福王 守	【第 10 回】 予習：第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理					

11	福王 守	【第 11 回】 予習：テキスト 200-201 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国家と国際機構：国連と UNICEF 【テキスト 200-201 頁】 復習：テキスト 200-201 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
12	福王 守	【第 12 回】 予習：テキスト 157-179 頁の講読およびキーワードの確認 授業：福祉と法：社会法の意義 【テキスト 157-179 頁】 復習：テキスト 157-179 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
13	福王 守	【第 13 回】 予習：テキスト 157-161 頁の講読およびキーワードの確認 授業：高齢社会と法：少子高齢社会と社会保障法 【テキスト 157-161 頁】 復習：テキスト 157-161 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
14	福王 守	【第 14 回】 予習：テキスト 160-161 頁の講読およびキーワードの確認 授業：高齢社会と法：高齢者福祉のあゆみと課題 【テキスト 160-161 頁】 復習：テキスト 160-161 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
15	福王 守	【第 15 回】 予習：テキスト iii - X 頁の講読およびキーワードの確認 授業：「法と社会」の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト 全学習頁】 復習：テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
授業開始前学習		テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。						
授業内課題のフィードバックの方法		適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。						
テキスト・教材		伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門（第 4 版）』（有斐閣、2005 年） 『ポケット六法（令和 7 年版）』（有斐閣、2024 年）						
参考書		授業を通じて適宜紹介します。						
評価の基準と方法		・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、15 回の授業のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		◎				
関連科目	「法学」を基礎として、授業が組み立てられています。関連科目として「日本国憲法Ⅰ・Ⅱ」および「人権の基礎」があります。また、2 年次以降に受講できる科目として「国際法Ⅰ・Ⅱ」があります。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)		CS-L-121 CT-L-121		科目分類 (～2024 年 入学者)		100-121-11		授業コード		F00960					
科目名称		日本国憲法 I						単位数		2.0 単位					
英文名称		Japanese Constitution I						授業区分		講義					
科目責任者		福王 守						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		福王 守						開講時期		1 年					
オフィスアワー		前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30						研究室		10-614					
授業概要		日本国憲法とは、日本国のあり方を定めた基本法を意味します。これは、一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するという、例外を許さない価値観の下に作られました。なぜ、第二次世界大戦後にこの憲法は制定されたのでしょうか。そして、なぜ「基本的人権の尊重」、「国民主権」、および「平和主義」という 3 つの柱が立てられたのでしょうか。この授業では、はじめにこのような基本的な仕組みを歴史的に検証します。その上で、第 1 の柱である「基本的人権の尊重」について、急がずに具体例を踏まえつつ理解を深めたいと思います。													
到達目標		日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		福王 守		※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習 : 本科目シラバスおよびテキスト目次 1-11 頁の講読 授業 : 「日本国憲法」とは : 授業の目的・内容・学習方法について【テキスト 目次 1-11 頁】 復習 : テキスト目次 1-11 頁の再読、第 1 回授業ノートおよび配布プリントの整理											
2		福王 守		【第 2 回】 予習 : テキスト 3 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 市民社会と法 : 法の役割と憲法の意義【テキスト 3 頁】 復習 : テキスト 3 頁の再読、第 2 回授業ノートおよび配布プリントの整理											
3		福王 守		【第 3 回】 予習 : テキスト 13-16 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 日本国憲法の背景 : 立憲主義と個人の尊厳【テキスト 13-16 頁】 復習 : テキスト 13-16 頁の再読、第 3 回授業ノートおよび配布プリントの整理											
4		福王 守		【第 4 回】 予習 : テキスト 17-26 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 日本国憲法の背景 : 戦後憲法制定の背景【テキスト 17-26 頁】 復習 : テキスト 17-26 頁の再読、第 4 回授業ノートおよび配布プリントの整理											
5		福王 守		【第 5 回】 予習 : テキスト 27-31 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 憲法の目的と趣旨 : 日本国憲法前文の意味【テキスト 27-31 頁】 復習 : テキスト 27-31 頁の再読、第 5 回授業ノートおよび配布プリントの整理											
6		福王 守		【第 6 回】 予習 : テキスト 32-43 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 憲法の目的と趣旨 : 平和主義原理と平和的生存権【テキスト 32-43 頁】 復習 : テキスト 32-43 頁の再読、第 6 回授業ノートおよび配布プリントの整理											
7		福王 守		【第 7 回】 予習 : テキスト 15、29、53 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 憲法の目的と趣旨 : 基本的人権尊重原理と人権の類型【テキスト 15、29、53 頁】 復習 : テキスト 15、29、53 頁の再読、第 7 回授業ノートおよび配布プリントの整理											
8		福王 守		【第 8 回】 予習 : テキスト 73-81 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 人権の基本 : 包括的基本権としての幸福追求権【テキスト 73-81 頁】 復習 : テキスト 73-81 頁の再読、第 8 回授業ノートおよび配布プリントの整理											
9		福王 守		【第 9 回】 予習 : テキスト 81-88 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 人権の基本 : 法の下での平等【テキスト 81-88 頁】 復習 : テキスト 81-88 頁の再読、第 9 回授業ノートおよび配布プリントの整理											
10		福王 守		【第 10 回】 予習 : 第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業 : これまでの授業の総括と発展学習の手引 : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】											

		復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
11	福王 守	【第 11 回】 予習 : テキスト 134-150 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 人身の自由 : 奴隷的拘束からの自由・適正手続と刑罰 【テキスト 134-150 頁】 復習 : テキスト 134-150 頁の再読、第 11 回授業ノートおよび配布プリントの整理						
12	福王 守	【第 12 回】 予習 : テキスト 161-168 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 社会権 : 福祉国家思想と社会権 【テキスト 161-168 頁】 復習 : テキスト 161-168 頁の再読、第 12 回授業ノートおよび配布プリントの整理						
13	福王 守	【第 13 回】 予習 : テキスト 162-168 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 社会権 : 生存権 【テキスト 162-168 頁】 復習 : テキスト 162-168 頁の再読、第 13 回授業ノートおよび配布プリントの整理						
14	福王 守	【第 14 回】 予習 : テキスト 168-172 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 社会権 : 教育を受ける権利 【テキスト 168-172 頁】 復習 : 168-172 頁の再読、第 14 回授業ノートおよび配布プリントの整理						
15	福王 守	【第 15 回】 予習 : テキスト目次 1-11 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 「日本国憲法 I」の総括と発展学習の手引き : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、第 15 回授業ノートおよび配布プリントの整理						
授業開始前学習		テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。						
授業内課題のフィードバックの方法		適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。						
テキスト・教材		古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法（令和 7 年版）』（有斐閣、2024 年）						
参考書		授業を通じて適宜紹介します。						
評価の基準と方法		・15 回のレポートの総合点で 100%評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得のためには、すべての授業回数のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		◎				
関連科目	「法学」、「法と社会」および「人権の基礎」と関連させながら「日本国憲法 I・II」授業が組み立てられています。また、2 年次以降に受講できる科目として「国際法 I・II」があります。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-121-11	授業コード	F00970
科目名称	日本国憲法Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Constitution Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	福王 守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	現在の日本国憲法は、戦前に対する深い反省の下で制定されました。一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するために、憲法は国家の政治のあり方を定めています。この授業では、こうした国家統治の仕組みを中心に学びます。さらに、現在憲法をめぐって議論されている問題点についても触れていきます。結論を急がずに、私たちの社会における基本法かつ最高法規のあり方を考えていきましょう。				
到達目標	日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	福王 守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習 : 本科目シラバスおよびテキスト目次 1-11 頁の講読 授業 : 「日本国憲法」とは : この授業の目的・内容・学習方法 【テキスト 目次 1-11 頁】 復習 : テキスト目次 1-11 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
2	福王 守	【第 2 回】 予習 : テキスト 3 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 市民社会と法 : 法の役割と憲法の意義 【テキスト 3 頁】 復習 : テキスト 3 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
3	福王 守	【第 3 回】 予習 : テキスト 13-16 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 日本国憲法の背景 : 立憲主義と個人の尊厳 【テキスト 13-16 頁】 復習 : テキスト 13-16 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
4	福王 守	【第 4 回】 予習 : テキスト 17-26 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 日本国憲法の背景 : 戦後憲法制定の背景 【テキスト 17-26 頁】 復習 : テキスト 17-26 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
5	福王 守	【第 5 回】 予習 : テキスト 27-29 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 日本国憲法の目的と趣旨 : 憲法前文の意味 【テキスト 27-29 頁】 復習 : テキスト 27-29 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
6	福王 守	【第 6 回】 予習 : テキスト 9-10、27-29 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国民主権について : 立憲民主主義と権力分立との関わりから 【テキスト 9-10、27-29 頁】 復習 : テキスト 9-10、27-29 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
7	福王 守	【第 7 回】 予習 : テキスト 187-193 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国会 : 立法機関としての地位と役割 【テキスト 187-193 頁】 復習 : テキスト 187-193 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
8	福王 守	【第 8 回】 予習 : テキスト 193-207 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国会 : 国会と議院の権能 【テキスト 193-207 頁】 復習 : テキスト 193-207 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
9	福王 守	【第 9 回】 予習 : テキスト 208-214 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 内閣 : 行政機関としての地位と役割 【テキスト 208-214 頁】 復習 : テキスト 208-214 頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
10	福王 守	【第 10 回】 予習 : 第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業 : これまでの授業の総括と発展学習の手引 : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			

11	福王 守	【第 11 回】 予習 : テキスト 218-227 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 裁判所 : 司法機関としての地位と役割 【テキスト 218-227 頁】 復習 : テキスト 218-227 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
12	福王 守	【第 12 回】 予習 : テキスト 227-234 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 裁判所 : 司法権の独立と民主的統制 【テキスト 227-234 頁】 復習 : テキスト 227-234 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
13	福王 守	【第 13 回】 予習 : テキスト 234 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 裁判所 : 裁判員制度 【テキスト 234 頁】 復習 : テキスト 234 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
14	福王 守	【第 14 回】 予習 : テキスト 235-248 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 違憲審査制 : 憲法の保障と付随的違憲審査制【テキスト 235-248 頁】 復習 : テキスト 235-248 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
15	福王 守	【第 15 回】 予習 : テキスト目次 1-11 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 「日本国憲法Ⅱ」の総括と発展学習の手引き : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
授業開始前学習		テレビ・新聞・インターネット等における社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。						
授業内課題のフィードバックの方法		適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。						
テキスト・教材		古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法（令和 7 年版）』（有斐閣、2024 年）						
参考書		授業を通じて適宜紹介します。						
評価の基準と方法		・15 回のレポートの総合点で 100%評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		◎				
関連科目	「法学」、「法と社会」、「日本国憲法Ⅰ」および「人権の基礎」と関連させながら、「日本国憲法Ⅱ」授業が組み立てられています。また、2 年次以降に受講できる科目として「国際法Ⅰ・Ⅱ」があります。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00981
科目名称	社会学Ⅰ			単位数	履修ガイド参照
英文名称	Sociology I			授業区分	講義
科目責任者	平野 直子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平野 直子			開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	「近代社会」という言葉は単に最近の社会ということではなく、社会の特定の様式のことを指している。社会学はこの「近代」を深く考察することから生まれたものであり、その基本的な考え方や方法を学ぶことで、われわれが普段当たり前と見なしている 21 世紀日本社会のあり方や諸問題を新たな視点で考えることができる。前期（「社会学Ⅰ」）はこの社会学の基本的な考え方を、「再帰性」をキーワードに、伝統や宗教などの具体的なトピックを上げながら解説していく。				
到達目標	社会学的な視点や方法の特徴を理解する。またそれを用いて「近代社会」としての現代日本社会の諸問題を理解し、深く考察する力を得る。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	平野 直子	【第 1 回】 予習：「社会」とは何か、授業前の自分の考えをまとめておく。 授業：授業の目的と進め方、社会学の関心について 復習：「社会」とは何か、授業をもとに自分なりにまとめる			
2	平野 直子	【第 2 回】 予習：配布資料「近代社会」の誕生と社会学を読む 授業：「近代社会」の誕生と社会学 復習：近代社会の成り立ちについて、授業をもとにまとめる			
3	平野 直子	【第 3 回】 予習：配布資料「近代」の特質についての諸議論を読む 授業：「近代」の特質についての諸議論 復習：「近代」の特質についての諸議論を、授業をもとにまとめる			
4	平野 直子	【第 4 回】 予習：配布資料「社会学の関心（１）デュルケム『自殺論』より その 1」を読む 授業：社会学の関心（１）デュルケム『自殺論』より その 1 復習：『自殺論』の関心と方法についてまとめる			
5	平野 直子	【第 5 回】 予習：配布資料「社会学の関心（２）デュルケム『自殺論』より その 2」を読む 授業：社会学の関心（２）デュルケム『自殺論』より その 2 復習：『自殺論』の中の社会学的視点についてまとめる			
6	平野 直子	【第 6 回】 予習：配布資料「社会学の関心（３）ウェーバー『プロテスタンティズムの精神と資本主義の精神』より その 1」を読む 授業：社会学の関心（３）ウェーバー『プロテスタンティズムの精神と資本主義の精神』より その 1 復習：ウェーバー社会学の特徴についてまとめる			
7	平野 直子	【第 7 回】 予習：配布資料「社会学の関心（４）ウェーバー『プロテスタンティズムの精神と資本主義の精神』より その 2」を読む 授業：社会学の関心（４）ウェーバー『プロテスタンティズムの精神と資本主義の精神』より その 2 復習：『プロテスタンティズムの精神と資本主義の精神』の中の社会学的視点についてまとめる			
8	平野 直子	【第 8 回】 予習：配布資料「伝統社会」と「近代」を読む 授業：「伝統社会」と「近代」 復習：「近代」についての議論をもとに、「そうではない社会」を考察しまとめる			
9	平野 直子	【第 9 回】 予習：配布資料「ハイモダニティ」とは」を読む 授業：「ハイモダニティ」とは 復習：「ハイモダニティ」の社会の特徴についてまとめる			
10	平野 直子	【第 10 回】 予習：配布資料「社会学から見た宗教」を読む 授業：社会学から見た宗教 復習：社会学における宗教についての諸議論をまとめる			

11	平野 直子	【第 11 回】 予習：配布資料「新宗教と日本の 20 世紀」を読む 授業：新宗教と日本の 20 世紀 復習：新宗教の歩みと日本社会の変化についてまとめる						
12	平野 直子	【第 12 回】 予習：配布資料「現代社会と「宗教っぽいもの」(1) セラピー文化、心理学化」を読む 授業：現代社会と「宗教っぽいもの」(1) セラピー文化、心理学化 復習：周囲にセラピー的な言説を見つけ、そのはたらきを考える						
13	平野 直子	【第 13 回】 予習：配布資料「現代社会と「宗教っぽいもの」(2) 消費社会と「スピリチュアル」」を読む 授業：現代社会と「宗教っぽいもの」(2) 消費社会と「スピリチュアル」 復習：周囲で消費されている「宗教っぽいもの」を見つけ、そのはたらきを考える						
14	平野 直子	【第 14 回】 予習：配布資料「「再帰的近代」とは」を読む 授業：「再帰的近代」とは 復習：近代社会における「再帰性」についての諸議論をまとめる						
15	平野 直子	【第 15 回】 予習：これまでの教材をすべて再読する 授業：「近代社会」としての現代日本 復習：「近代」についてのこれまでの議論をもとに、現代日本社会のあり方を考察する						
授業開始前学習		「近代」とはどのようなものか、授業前の自分の考えをまとめておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		提出された授業内課題の回答とそれへのリプライは、文書にまとめて次の授業までに Google classroom にアップロードする。授業内でも紹介と解説を行い、受講者間で共有する。						
テキスト・教材		特に指定しない。適宜、教場で資料を配布する。						
参考書		授業中に随時紹介する。						
評価の基準と方法		原則として学期末の最終レポート（100％）によって評価するが、授業内課題の回答状況・提出状況を加味する場合がある。なお単位の取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他		・講義は、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、講義の進捗状況や社会情勢等の都合から変更する場合がある。 ・授業中の私語は禁止する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11		授業コード		F00991			
科目名称		社会学Ⅱ						単位数		履修ガイド参照			
英文名称		SociologyⅡ						授業区分		講義			
科目責任者		平野 直子						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		平野 直子						開講時期		履修ガイド参照			
オフィスアワー		-						研究室		-			
授業概要		「近代社会」という言葉は単に最近の社会ということではなく、社会の特定の様式のことを指している。社会学はこの「近代」を深く考察することから生まれたものであり、その基本的な考え方や方法を学ぶことで、われわれが普段当たり前と見なしている 21 世紀日本社会のあり方や諸問題を新たな視点で考えることができる。後期（「社会学Ⅱ」）は前期（「社会学Ⅰ」）に登場した「再帰性」というキーワードをもとに、家族、身体、医療をめぐる現代社会の問題について論じていく。											
到達目標		社会学的な視点や方法の特徴を理解する。またそれを用いて「近代社会」としての現代日本社会の諸問題を理解し、深く考察する力を得る。											
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容											
1	平野 直子	【第 1 回】 予習：家族、身体、医療をめぐる近年の問題に関心を向けておく 授業：授業の目的と進め方、社会の変化と家族、身体、医療 復習：家族や医療、身体観が時代により変化しているか、どのような変化か、身近な人から話を聞く											
2	平野 直子	【第 2 回】 予習：配布資料「社会学における「家族」」を読む 授業：社会学における「家族」 復習：社会学史における家族について、授業をもとにまとめる											
3	平野 直子	【第 3 回】 予習：配布資料「近代家族」をめぐる諸議論」を読む 授業：「近代家族」をめぐる諸議論 復習：近代家族をめぐる諸分野の議論について、授業をもとにまとめる											
4	平野 直子	【第 4 回】 予習：配布資料「日本における「近代家族」」を読む 授業：日本における「近代家族」 復習：日本における「近代家族」の変遷についてまとめ、自分の家族観と比較する											
5	平野 直子	【第 5 回】 予習：配布資料「恋愛と結婚の現在」を読む 授業：恋愛と結婚の現在 復習：授業で示された図表とそれに関する議論をもとに、現代日本社会における恋愛と結婚についてまとめる											
6	平野 直子	【第 6 回】 予習：配布資料「親になること」の現在」を読む 授業：「親になること」の現在 復習：授業で示された図表を見直し、現代日本社会で「子どもを持つこと」の現状についてまとめる											
7	平野 直子	【第 7 回】 予習：配布資料「ジェンダーと現代家族（１）」を読む 授業：ジェンダーと現代家族（１） 復習：授業で示された図表から、ジェンダーと現代家族をめぐる諸問題についてまとめる											
8	平野 直子	【第 8 回】 予習：配布資料「ジェンダーと現代家族（２）」を読む 授業：ジェンダーと現代家族（２） 復習：ジェンダーと現代家族をめぐる諸問題を、労働と家族という側面から考える											
9	平野 直子	【第 9 回】 予習：配布資料「高齢社会と家族／消費社会と家族」を読む 授業：高齢社会と家族／消費社会と家族 復習：家族をめぐる情報やサービスの現代家族生活への影響についてまとめる											
10	平野 直子	【第 10 回】 予習：配布資料「社会学における身体」を読む 授業：社会学における身体 復習：社会学における身体をめぐる議論の特徴についてまとめる											
11	平野 直子	【第 11 回】 予習：配布資料「消費社会と身体（１）ライフスタイルの選択と消費」を読む 授業：消費社会と身体（１）ライフスタイルの選択と消費											

		復習：衣・食などライフスタイル選択に関わる消費と身体への影響について、自分の経験をもとに考え、まとめる						
12	平野 直子	【第 12 回】 予習：配布資料「消費社会と身体（２）消費の舞台としての身体」を読む 授業：消費社会と身体（２）消費の舞台としての身体 復習：ダイエットや健康などをめぐる消費活動とその身体への影響について、自分の経験をもとに考え、まとめる						
13	平野 直子	【第 13 回】 予習：配布資料「専門家の知と身体（１）「近代」における専門家の役割」を読む 授業：専門家の知と身体（１）「近代」における専門家の役割 復習：「近代社会」における専門家の役割についてまとめる						
14	平野 直子	【第 14 回】 予習：配布資料「専門家の知と身体（２）挑戦にあう専門知」を読む 授業：専門家の知と身体（２）挑戦にあう専門知 復習：「ハイモダニティ」のもとで専門家の知が問い直される仕組みについてまとめ、自分の考えを書き出す						
15	平野 直子	【第 15 回】 予習：これまでの教材をすべて再読する 授業：後期近代社会としての現代日本社会 復習：これまでの議論をもとに、後期近代社会としての現代日本社会のあり方を考察する						
授業開始前学習		「近代」の特質に関する社会学の諸議論について、前期授業プリントもしくは社会学の入門書で確認しておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		提出された授業内課題の回答とそれへのリプライは、文書にまとめて次の授業までに Google classroom にアップロードする。授業内でも紹介と解説を行い、受講者間で共有する。						
テキスト・教材		特に指定しない。適宜、教場で資料を配布する。						
参考書		授業中に随時紹介する。						
評価の基準と方法		原則として学期末の最終レポート（100％）によって評価するが、授業内課題の回答状況・提出状況を加味する場合がある。なお単位の取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他		・講義は、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、講義の進捗状況や社会情勢等の都合から変更する場合がある。 ・授業中の私語は禁止する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11		授業コード		F01001					
科目名称		数学の世界						単位数		2.0 単位					
英文名称		World of Mathematics						授業区分		講義					
科目責任者		川村 翔						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		川村 翔						開講時期		1 年					
オフィスアワー		-						研究室		-					
授業概要		本講義は共創文化学部・観光文化学部（人間総合学群）の授業の一環として、後の専門分野の修得に不可欠な数学的な基礎知識、また社会生活における数学的知識を活用する応用力を身につける講義である。													
到達目標		高校までに学習した数学の内容について、他の専門授業や社会生活に求められる数学的知識を円滑に使用できるようになる。電卓の使用に慣れ、日常的に計算できるようになる。													
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の 授業形態			
授業 回数	担当者		授業の内容												
1	川村 翔		【第 1 回】 予習：シラバスを確認し、中学・高校の授業での未修・既修について各自把握しておく。 授業：ガイダンス 復習：ガイダンスで示された履修、課題提出方法等を確認しておく。												
2	川村 翔		【第 2 回】 予習：数と式について、一般参考書等で予習しておく。 授業：数と式（整式・因数分解） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。												
3	川村 翔		【第 3 回】 予習：とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業：数と式（一次方程式・連立方程式） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。												
4	川村 翔		【第 4 回】 予習：関数について、一般参考書等で予習しておく。 授業：関数（一次関数、二次関数） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。												
5	川村 翔		【第 5 回】 予習：とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業：関数（二次方程式） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。												
6	川村 翔		【第 6 回】 予習：図形の性質について、一般参考書等で予習しておく。 授業：図形の性質（合同・相似・三平方の定理） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。												
7	川村 翔		【第 7 回】 予習：とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業：図形の性質（円の性質） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。												
8	川村 翔		【第 8 回】 予習：三角比の性質について、一般参考書等で予習しておく。 授業：図形と計量（三角比、三角関数） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。												
9	川村 翔		【第 9 回】 予習：とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業：図形と計量（三角形への応用） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。												
10	川村 翔		【第 10 回】 予習：場合の数について、一般の参考書等で予習する。 授業：場合の数（順列・組合せ） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。												
11	川村 翔		【第 11 回】 予習：確率について、一般の参考書等で予習する。 授業：確率												

		復習 : 講義内容について確実な理解ができるようにしておく。						
12	川村 翔	【第 12 回】 予習 : 整数の性質について、一般の参考書等で予習する。 授業 : 整数の性質 (約数と倍数) 復習 : 講義内容について確実な理解ができるようにしておく。						
13	川村 翔	【第 13 回】 予習 : 第 1 回から第 12 回までに学習した内容を各自通読しておく。 授業 : 設計活動における計算演習 復習 : 講義内容について身近な環境から理解・計算をできるようにする。						
14	川村 翔	【第 14 回】 予習 : 第 1 回から第 12 回までに学習した内容を各自通読しておく。 授業 : 社会活動における計算演習 1 復習 : 講義内容について身近な環境から理解・計算をできるようにする。						
15	川村 翔	【第 15 回】 予習 : 第 1 回から第 12 回までに学習した内容を各自通読しておく。 授業 : 社会活動における計算演習 2 復習 : 講義全体を通して疑問点が残らないように、学習内容を確認しておく。						
授業開始前学習		毎週の講義内容について予め予習資料を各自視聴・通読し予習する。						
授業内課題のフィードバックの方法		講義内の内容を復習や課題を通して確実に習得できるようにしておく。 課題提出の際に質疑事項を記載する項目を用意するので疑問点があれば記載すること。						
テキスト・教材		講義内で PDF 資料等、適宜資料を配布する。						
参考書		『サンダイヤル 基本チェックノート 高校数学の基本』啓林館						
評価の基準と方法		各講義の出席状況、講義後の課題提出、定期試験にて評価を行う。 配点比率は「出席【2】：課題【3】：定期試験【5】」とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						
関連科目								
その他		テキスト、方眼ノート、電卓（千円以下でよい）を用意すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11		授業コード		F01010					
科目名称		物理の世界						単位数		2.0 単位					
英文名称		World of Physics						授業区分		講義					
科目責任者		手塚 貴史						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		手塚 貴史						開講時期		1 年					
オフィスアワー		-						研究室		-					
授業概要		本講義は共創文化学部・観光文化学部（人間総合学群）の授業の一環として、日常生活や身近な環境における物理現象を理解し、物理学を身近に感じる視点を身に着ける、また後の専門分野の修得に必要な物理学の基礎知識を学習する講義である。													
到達目標		物理学を身近な現象として捉えられるようになる。 電卓の使用に慣れ、日常的に計算できるようになる。													
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の 授業形態			
授業 回数	担当者		授業の内容												
1	手塚 貴史		【第 1 回】 予習：シラバスを確認し、中学・高校の授業での未修・既修について各自把握しておく。 授業：ガイダンス 復習：ガイダンスで示された履修、課題提出方法等を確認しておく。												
2	手塚 貴史		【第 2 回】 予習：思いつく単位記号を書き出す 授業：物理学で扱う単位と数学的知識 復習：物理学における数学的知識をテキストなどで復習し不明点を解決しておく。												
3	手塚 貴史		【第 3 回】 予習：日常的な移動、時間について考察しておく。 授業：物体の運動（速さ・速度・変位・合成・相対） 復習：講義を基に、テキストを通読して復習する。												
4	手塚 貴史		【第 4 回】 予習：とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業：物体の運動（加速度・重力加速度） 復習：講義を基に、テキストを通読して復習する。												
5	手塚 貴史		【第 5 回】 予習：身の回りの物に対する重さや移動について考察しておく。 授業：力学（力と運動） 復習：講義を基に、テキストを通読して復習する。												
6	手塚 貴史		【第 6 回】 予習：とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業：力学（運動方程式・摩擦） 復習：講義を基に、テキストを通読して復習する。												
7	手塚 貴史		【第 7 回】 予習：日常的に物を動かす際の力について考察しておく。 授業：仕事とエネルギー（仕事の正負・仕事率） 復習：講義を基に、テキストを通読して復習する。												
8	手塚 貴史		【第 8 回】 予習：とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業：仕事とエネルギー（運動エネルギー・保存） 復習：講義を基に、テキストを通読して復習する。												
9	手塚 貴史		【第 9 回】 予習：身の回りの環境で熱を感じる、与えることについて考察しておく。 授業：熱とエネルギー（熱量・比熱・保存） 復習：講義を基に、テキストを通読して復習する。												
10	手塚 貴史		【第 10 回】 予習：とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業：熱とエネルギー（物質の三態・熱膨張・仕事） 復習：講義を基に、テキストを通読して復習する。												

11	手塚 貴史	【第 11 回】 予習 : 日常生活における音の高さ低さ、大きさについて考察しておく。 授業 : 音とは何か(波・音) 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。						
12	手塚 貴史	【第 12 回】 予習 : 身の回りの電気や電磁波を活用している物について考察しておく。 授業 : 電気とは何か(電気・電磁波) 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。						
13	手塚 貴史	【第 13 回】 予習 : これまでに講義で学習したエネルギーに関わる事について考察しておく。 授業 : 身の回りの物理学 (エネルギーの利用と生活) 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。						
14	手塚 貴史	【第 14 回】 予習 : 日常生活の中で目にする建物の構造について考察しておく。 授業 : 身の回りの物理学 (構造物や防災技術) 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。						
15	手塚 貴史	【第 15 回】 予習 : 第 1 回から第 14 回の講義内容を各自復習しておく。 授業 : まとめ 復習 : テキスト、参考書の再読。とくに講義内で強調した点などを後の専門分野の講義に照らし合わせ独習する。						
授業開始前学習		毎週に講義内容について予めテキストで各自通読し予習する。						
授業内課題のフィードバックの方法		講義内の内容を復習や課題を通して確実に習得できるようにしておく。 課題提出の際に質疑事項を記載する項目を用意するので疑問点があれば記載すること。						
テキスト・教材		三浦登・前田京剛共著 シグマベスト 理解しやすい 物理基礎, 文英堂, 2022						
参考書								
評価の基準と方法		各講義の出席状況、講義後の課題提出、定期試験にて評価を行う。 配点比率は「出席【2】：課題【3】：定期試験【5】」とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						
関連科目								
その他		テキスト、方眼ノート、電卓（千円以下でよい）を用意すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年 入学者）	100-120-11	授業コード	F01020
科目名称	生物と生命			単位数	2.0 単位
英文名称	Biology and Life			授業区分	講義
科目責任者	鞠子 典子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鞠子 典子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	私たち人間は生物の一員とされていますが，“あなた”という人間は，生物的，社会的にどのような存在なのでしょう？私たちは自然の恵みを受けて生活していますが，私たちの発達した脳は高度な科学技術を発達させ，私たちが恩恵を受けているはずの環境を破壊するに至っています。現代に生きる私たちには，将来世代に対してこの環境を残す責任があるのでしょうか？この授業では環境，生命，生物としてのヒト，社会的存在としての人間に関する様々なテーマを設定し，最新の話題を盛り込みながら講義していきます。さらに，生物としての女性，社会的存在としての女性という視点でも講義をしていきます。授業の進め方としては，パワポによる講義だけでなく，教室内で行える簡単な実験・実習などを交えながら，講義内容を具体的に理解できるように工夫していきます。				
到達目標	ヒトとは何か，人間とは何かを理解し，人間の活動によって生じた環境問題の理解と解決に資する科学リテラシーを身に着け，持続可能なライフスタイルを大胆に発する能力を身につけます。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－ 複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鞠子 典子	【第 1 回】 授業：生物学を学ぶ意味（ガイダンス） 予習：「人間とは何か」について考えてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
2	鞠子 典子	【第 2 回】 授業：私たち生物は星のかけらでできているの？ 予習：「生命の起源」に関する話題をインターネットで検索してみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
3	鞠子 典子	【第 3 回】 授業：あなたは「環境」について説明できますか？ 予習：今回のキーワードとなる「主体環境系の概念」について調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
4	鞠子 典子	【第 4 回】 授業：あなたとあなたのペットの似ているところと似ていないところ 予習：今回のキーワードとなる「生物の共通性と多様性」についてを調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
5	鞠子 典子	【第 5 回】 授業：桜の開花予想はなぜ当たる？ ～日本の四季と自然～ 予習：気象庁のホームページを利用してみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
6	鞠子 典子	【第 6 回】 授業：自然の恵みのお値段は？ 予習：今回のキーワードとなる「生態系サービス」についてを調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
7	鞠子 典子	【第 7 回】 授業：映画から水俣病について考えてみよう 予習：「水俣病」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
8	鞠子 典子	【第 8 回】 授業：マスコミが取り上げる気候変動における真実とフェイク 予習：「気候変動」に関する話題を検索してみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する定			
9	鞠子 典子	【第 9 回】 授業：AI と SDGs 予習：環境問題に関する AI のポジティブ効果とネガティブ効果を考えてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			

10	鞠子 典子	【第 10 回】 授業：ヒトはどこから来たのか 予習：私たち「ホモ・サピエンス」について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
11	鞠子 典子	【第 11 回】 授業：ヒトはどこへ向かうのか 予習：私たち「ホモ・サピエンス」の将来について考えてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
12	鞠子 典子	【第 12 回】 授業：未来世代に対して現代世代は責任を持つべきか 予習：今回のキーワードとなる「世代間倫理」について調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
13	鞠子 典子	【第 13 回】 授業：生物学的性差とジェンダー性差 予習：女と男はどう違うのか？生物学的視点と社会学的視点と分けて考えてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
14	鞠子 典子	【第 14 回】 授業：あなたの一番関心のある「生物と生命」に関する疑問にお答えします！ 予習：「生物と生命」に関する話題にアンテナを張ろう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
15	鞠子 典子	【第 15 回】 授業：生物と生命 総括と試験範囲の説明 予習：「生物と生命」で学んだことを復習し、生物や生命に関する科学リテラシーの必要性について自分の意見をまとめる 復習：試験に向けた勉強をする						
授業開始前学習		常日頃から、授業と関連する話題に強い関心をもってニュースや新聞記事と接すること。						
授業内課題のフィードバックの方法		ワンポイントで復習できる課題の講評及び解答は講義内で行います。						
テキスト・教材		教科書は指定せず、資料を配布します。						
参考書		「好きになる生物学」 吉田邦久著（講談社サイエンティフィク） 「面白くてよくわかる！エコロジー」 吉田久義著（アスペクト） この他講義の中で適宜書籍を紹介します。						
評価の基準と方法		試験 70%，平常点（授業に臨む姿勢・提出物） 30%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						
関連科目								
その他		授業の理解度などを勘案し、授業テーマの順序や内容を多少変更することがあります。 講義で分からないことがある場合は、そのままにせず、いつでも質問してください。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11 (J)	授業コード	F01030
科目名称	地球と宇宙			単位数	2.0 単位
英文名称	Earth and Planetary Science			授業区分	講義
科目責任者	鈴木 絢子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 絢子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	このコースでは、地球や太陽系の現在の姿やそのでき方を紹介し、我々人類がそれをどのように理解してきたのかを解説します。みなさんは、自分が地球という惑星に生きていることを意識したのは何歳ごろでしたか？我々人類が地球に生きていることや、地球がとても稀有なシステムであるという理解は、グローバル社会で生きる我々にとって欠かせない視点です。また日本では自然災害が多く発生するため、日本社会の構成員として地球惑星科学の基礎知識は必須です。 講義では、教員から知識を伝達するだけでなく、考えを表明したり、簡単な数式やグラフを用いて論理的に考える練習もします。				
到達目標	・私たちが生きている地球や太陽系の現在の姿や、それがどのようにしてできたと考えられるのかを、自身の言葉で説明できる。 ・概算やべき演算を用いる地球惑星科学的な物事の考え方を実践できる。 ・自分自身や地球を、太陽系・銀河系・宇宙全体の中に位置付けて考え、自分が「地球人」であり「宇宙人」であるという自覚を持つことができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鈴木 絢子	【第 1 回：人類の宇宙観・地球観の変遷】 予習：中学・高校理科の内容を見直しておくこと 授業：バックグラウンドアンケート 人類の宇宙観・地球観の変遷（グループワーク含む） 復習：地球の取り扱いの変化について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと			
2	鈴木 絢子	【第 2 回：地球惑星科学の広がり】 予習：中学・高校理科の内容を見直しておくこと 授業：地球惑星科学分野が包含するもの フェルミ推定（グループワーク） 復習：地球惑星科学分野の空間的・時間的広がりについて、自身の言葉で説明できるようにしておくこと			
3	鈴木 絢子	【第 3 回：ドレイクの式】 予習：フェルミ推定のコンセプトを理解し、実践できるようにしておくこと 授業：指数計算を含むフェルミ推定（グループワーク） ドレイクの式（グループワーク） 太陽系の外側の構造 復習：ドレイクの式の値を各自で計算しておくこと			
4	鈴木 絢子	【第 4 回：ハビタブルとは】 予習：ドレイクの式の見積りの根拠について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと 授業：我々を構成している要素 対数グラフを描く（実習） ハビタブルとは何か 復習：対数グラフを描けるようにしておくこと			
5	鈴木 絢子	【第 5 回：宇宙の大規模構造】 予習：対数グラフを見て、スケールの違いをイメージできるようにしておくこと 授業：電磁波の種類と大気の窓 天文学・地球惑星科学でよく用いる単位、接頭辞（グループワーク） 宇宙の距離はしご 復習：日常生活で用いる単位と接頭辞をリストアップしておくこと			
6	鈴木 絢子	【第 6 回：太陽系と系外惑星】 予習：銀河とその外側の構造のサイズについて、自身の言葉で説明できるようにしておくこと 授業：太陽系の構造（実習） 系外惑星の分類（実習） 系外惑星の観測手法 復習：系外惑星の観測手法の種類とそれぞれの得手不得手について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと			
7	鈴木 絢子	【第 7 回：惑星と地球の構造 1】 予習：系外惑星の種類について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと 授業：地球の大気の構造 惑星の大気の構造と地球との相違点 惑星の放射平衡温度（実習）			

		復習：惑星の地表温度のグラフを描き、自身の言葉で説明できるようにしておくこと						
8	鈴木 絢子	【第8回：惑星と地球の構造】 予習：惑星と地球の大気構造の違いについて、自身の言葉で説明できるようにしておくこと 授業：地球の内部の構造 惑星の内部の構造と地球との相違点（実習） 活動的な惑星・衛星 復習：地球以外の天体の内部構造を推定した方法について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと						
9	鈴木 絢子	【第9回：宇宙の成り立ち】 予習：中学・高校理科の内容、第7回までの内容を見直しておくこと 授業：現在考えられている宇宙の進化過程と、それを制約する観測について（グループワーク含む） 復習：宇宙の進化過程の根拠を、自身の言葉で説明できるようにしておくこと						
10	鈴木 絢子	【第10回：恒星の一生】 予習：宇宙の進化過程を見直しておくこと 授業：恒星の種類、進化過程（実習含む） 復習：HR図を自身の言葉で説明できるようにしておくこと						
11	鈴木 絢子	【第11回：太陽系の成り立ち】 予習：恒星の進化過程について見直しておくこと 授業：太陽系の進化過程（実習含む） 復習：太陽系の進化過程とその根拠について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと						
12	鈴木 絢子	【第12回：地球の歴史】 予習：太陽系の進化過程について見直しておくこと 授業：地球の歴史（実習含む） 復習：地球の地質時代とその境界について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと						
13	鈴木 絢子	【第13回：月の成り立ちと天体衝突】 予習：太陽系と地球の進化過程について、見直しておくこと 授業：月形成モデルとその根拠の紹介（実習含む） 復習：月形成のモデルとその根拠について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと						
14	鈴木 絢子	【第14回：火星の歴史】 予習：太陽系と地球の進化過程について、見直しておくこと 授業：火星の歴史（グループワーク含む） 復習：火星の進化史について、地球と比較しながら、自身の言葉で説明できるようにしておくこと						
15	鈴木 絢子	【第15回：地球惑星科学の未来】 予習：第8回～第14回の内容を見直しておくこと 授業：現在の惑星探査（実習含む） 復習：現在の惑星探査の状況とそれぞれが明らかにしたい目標について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと						
授業開始前学習		中学・高校の理科を復習しておくことが望ましい。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業内で、グループワーク、または、個人で取り組む実習を行う。成果は授業内で発表し、その場でコメントする。履修人数が多い場合は、GWEで回収・フィードバックを行うこともある。						
テキスト・教材		必要に応じて、講義内で適宜資料を配布する。						
参考書		必要に応じて、講義内で参考図書を紹介する。						
評価の基準と方法		毎回の授業内でのグループワーク、または、個人で取り組む実習の、提出率、内容、取り組み態度で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121 （J）	科目分類（～2024 年 入学者）	100-120-11 （J）	授業コード	F01060		
科目名称	色彩と科学			単位数	2.0 単位		
英文名称	Chromatics and Science			授業区分	講義		
科目責任者	稲葉 隆			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	稲葉 隆			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	色彩と人の関わりを、伝達・文化・創造・生活・産業・社会という多面的な視点でとらえ、学ぶ。そのために、知覚・認知心理学をベースとした色彩に関する知識を得るための講義と、実践的な表現技術として身につけるための演習とを毎回繰り返す。						
到達目標	色彩に関する基礎的な知識を学び、配色表現の技術を身につける。それらを生活、創作、実務の場において実践的に活用できるようにする。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	稲葉 隆	【第 1 回】 予習：日常生活においてカラー・デザインがどのような役割を果たしているのかを考える。色が見える条件の 1 つとして、光の性質ついて調べておく。 授業：色が見えるしくみ 1（光と色） テキスト p142（混色）、p52（光と色） 復習：自分自身の色彩感覚を客観的に把握する。					
2	稲葉 隆	【第 2 回】 予習：色が認知できる条件を考える。 授業：色が見えるしくみ 2（目と色）。 テキスト p86（目の働き）【実習】 復習：光の性質、物の表面の性質、さらに視覚系と脳による認知という一連の流れを理解する。					
3	稲葉 隆	【第 3 回】 予習：色の名前にはどのようなものがあるかを調べる。 授業：色彩の伝え方（色名） テキスト p21（色名）、p9 などの「主なパレット」【実習】 復習：色名によるコミュニケーションの長所短所を理解する。					
4	稲葉 隆	【第 4 回】 予習：色を整理し記録するための客観的な方法を考える。 授業：色彩の分類と表記（表色系） テキスト p21（色相とトーン）、p97（清色と濁色①）、p136-138（色彩の見方）【実習】 復習：マンセル表色系（色相・明度・彩度）の成り立ちを理解する。					
5	稲葉 隆	【第 5 回】 予習：色に関するイリュージョンの事例を調べる。 授業：色による視覚的・生理的效果 テキスト p5（進出色と後退色）、p84（グレア錯視）【実習】 復習：色による視覚的效果（対比、同化、恒常性）を整理して理解する。					
6	稲葉 隆	【第 6 回】 予習：色によって気持ちが左右されることがあるかを考える。 授業：色彩の心理的效果（色彩感情） テキスト p116（清色と濁色②）、p134-135（配色を印象によって整理する）【実習】 復習：色が喚起する情緒的な印象を色の 3 属性との関連で考察する。					
7	稲葉 隆	【第 7 回】 予習：自然の中に見られる美しく、心地よい色の秩序について調べる。 授業：色彩構成の基礎（配色調和） テキスト p28（ナチュラルハーモニー）、p29（色相對比）、p128（色相同士の関係）、p142（配色調和の原理）【実習】 復習：色彩が調和する基本条件を整理する。					
8	稲葉 隆	【第 8 回】 予習：複数の色相、あるいは複数のトーンで構成された配色の事例を探す。 授業：配色表現の基本技法①色相とトーン テキスト p35（配色の色数）、p140（カラーパレットを作る）【実習】 復習：配色のための色の選択方法の原則を理解し、実際に配色を作成する。					

9	稲葉 隆	【第 9 回】 予習 : 色相あるいはトーンが徐々に変化するように並べられた配色の事例を探す。 授業 : 配色表現の基本技法②セパレーションとグラデーション テキスト p10 (2つのグラデーション)、p20 (グラデーション×セパレーション)、141 (色を配列・構成する) 【実習】 復習 : 選択した色の配置方法の原則を理解し、実際に配色を作成する。						
10	稲葉 隆	【第 10 回】 予習 : ポスターやパッケージの色使いからどのような感性的な印象が感じられるかを考える。 授業 : 配色表現の基本技法③イメージ表現 総合演習課題として配色作成を中心とした演習をおこなう。 テキスト p24 (季節を配色で表現する)、p40 (感情と配色)、p134-135 (配色を印象によって整理する) 【実習】 復習 : 配色によるイメージ表現の重要性を認識し、テーマ別に配色を作成する。						
11	稲葉 隆	【第 11 回】 予習 : 自分と他者 (家族や友人) の色の好みの共通点と相違点を考える。 授業 : 色彩嗜好 テキスト p133 (イラスト作品に学ぶ配色構成の考え方) 【実習】 復習 : グローバルにみた日本人の色彩嗜好の特徴を整理し考察する。						
12	稲葉 隆	【第 12 回】 予習 : ファッションにおける魅力的なカラー表現の事例を探す。 授業 : カラー・コーディネート(ファッション) テキスト p129 (色と形の調和によるエレガントさ)、p132 (人物と背景の対比と同化) 【実習】 復習 : カラー・コーディネートの基本的な考え方を理解し、実際に試みる。						
13	稲葉 隆	【第 13 回】 予習 : 身近な製品で用いられているカラー・バリエーションの事例を調べる。 授業 : カラー・バリエーション (プロダクト) テキスト p51 (カラーバリエーションの狙い)、p78 (清潔感溢れる質感の表現) 【実習】 復習 : 目的に適した製品の色どろえの方法を理解した上で、色と質感・素材感の関係について整理する。						
14	稲葉 隆	【第 14 回】 予習 : 自宅や店舗の室内空間が、どのような色の製品によって構成されているかを調べる。 授業 : カラー・プランニング (インテリア・建築・景観) テキスト p14 (面積比率を考慮した配色計画) 【実習】 復習 : 暮らしを豊かにするインテリア空間のスタイルを整理し考察する。						
15	稲葉 隆	【第 15 回】 予習 : 日本らしい色彩について調べる。 授業 : 文化としてのカラー・デザイン テキスト p45 (色で情報を伝える)、p86 (目の働き) 【実習】 復習 : カラー・ユニバーサル・デザインの事例を探し、その効果が有効か否かを考える。						
授業開始前学習		生活の中で、普段は何気なく目になっている「色」をできるだけ意識して見ること。						
授業内課題のフィードバックの方法		色彩教材『配色用色紙ロング (195mm)』を使った 演習課題などについて随時講評する。						
テキスト・教材		『人気絵師の作品から学ぶ配色で生み出す物語』 (玄光社) 『配色用色紙ロング (195mm)』 (日本カラーデザイン研究所)						
参考書		『配色手帳 増補・新版』 (玄光社) 『人気絵師の作品から学ぶ配色のヒミツ』 (玄光社)						
評価の基準と方法		各回の講義への積極的な参加と演習課題 65%、総合演習課題 (第 10 回を予定) 35%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						
関連科目								
その他		1) 色彩教材『配色用色紙ロング (195mm)』は教科書販売期間に必ず入手しておくこと。基本的に個人向け販売されていない教材であり、これがないと演習課題が作成できないので注意する。 2) 以下のものを毎回授業で使用するので準備すること。①色彩教材『配色用色紙ロング (195mm)』、②はさみ、③スティックタイプの固形のり、④筆記具 (多色のボールペン、色鉛筆、マーカーなど)、⑥教科書『人気絵師の作品から学ぶ配色で生み出す物語』						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容		プロダクト、建築、ブランドなど様々な分野の色彩計画業務をおこなっている。それらの実務経験を生かした講義と実践的な演習をおこなう。						

☆地域共創活動実習

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-133 CT-L-133		科目分類（～2024 年 入学者）		100-131-21		授業コード		F01610							
科目名称		☆地域共創活動実習						単位数		1.0 単位							
英文名称		Regional Co-Creation Activity Practice						授業区分		実験・実習							
科目責任者		臼井 実穂子						必修・選択		履修ガイド参照							
担当教員		臼井 実穂子						開講時期		1・2 年							
オフィスアワー		前期 水曜日 09:00～12:10 後期 水曜日 09:00～12:10						研究室		10-705							
授業概要		学外に人の輪を広げよう 国内（地域）ボランティア：駒沢学園女子中学・高等学校において教育ボランティア、稲城市および近隣地域の施設などで、地元密着型のボランティア活動をおこなう。															
到達目標		履修者が将来、国際社会、地域社会において有用な人材になる第一歩となることを目標とする。															
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		1 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態					
授業 回数		担当者		授業の内容													
1		臼井 実穂子		本実習に該当する海外・地域ボランティアは以下を想定している。 海外ボランティア：休暇中に、履修者自身で選んだ学外の団体が行う海外ボランティアに 2 週間以上参加する。 地域ボランティア：地域に貢献するボランティアに定期的もしくは複数回参加する（45 時間以上） 課題学習と単位取得条件 海外ボランティア：①事前に担当教員と面談 ②事前にボランティア活動届を学生支援課に提出 ③参加証明書の提出 ④危機管理ガイダンスへの参加 ⑤ボランティア活動記録（ポータルサイトよりダウンロード）もしくは 4 0 0													
授業開始前学習		ポータルサイトの学生支援課のボランティア活動に関する注意事項を必ず確認すること															
授業内課題のフィードバックの方法		科目の性質上、通常の講義科目とは異なるため、提出されるボランティア活動記録によることになる															
テキスト・教材		ポータルサイトの学生支援課のボランティアに関する注意事項															
参考書		適宜指示する															
評価の基準と方法		単位取得条件を全てクリアした上で、活動記録（海外ボランティア活動の場合はレポートも可）により評価															
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照															
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		△		○		△						△				○	
関連科目		特になし															
その他		【重要】 ・科目登録を確定した時点で必ず、臼井研究室（1 0 - 7 0 5）を訪ねてください。 ・ボランティア活動届を学生支援課にボランティア活動開始前に必ず提出してください。 ・ボランティア活動届およびボランティア活動記録については、大学のポータルサイトに書式があります。 ・履修者のボランティア活動中の事故等について、責任を負うものではありません。															
予習・復習の 所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）															

海外英語研修 I

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-133 CT-L-133		科目分類（～2024 年 入学者）		100-130-21		授業コード		F01630							
科目名称		海外英語研修 I						単位数		2.0 単位							
英文名称		English Training Abroad I						授業区分		実験・実習							
科目責任者		松山 響子						必修・選択		履修ガイド参照							
担当教員		工藤(俊)・中野・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山						開講時期		1 年							
オフィスアワー		-						研究室		-							
授業概要		本授業では、研修を通して海外での生活や異文化に触れ、言語ばかりでなく総合的なコミュニケーションスキルの習得を目標にする。ホームステイをしながら、大学での語学学校に通学し英語の語学研修を受講する。英語のみで行われる授業を受講することで、日本の授業との違いを実地で学ぶことができる。またホームステイをすることで全く違う習慣や文化を持つ人々の中で必要とするコミュニケーション能力を改めて考えることができる。体験を通して英語学習に対する動機を学生が問い直し、語学習得に引き続き臨めるようにする。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。															
到達目標		英語の環境に身を置くことで、運用能力を高める。相手の意図を聞き取り、自分の意思を伝えることができる。ホームステイにより、現地の生活を実際に体験し、異文化を知る。															
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合 の授業形態					
授業 回数	担当者		授業の内容														
1	浅川・工藤(俊)・中 野・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗ ザ・松山		研修そのものの実施は 2 月中旬以降を予定しています。 ・南半球における 2 月は夏であるため、充実した海外体験が可能であると考えています。 ・1 家庭につき日本人学生 1 名のみで 2 週間ホームステイすることになっています。 ・大学や語学学校へ通学しながら異文化を体験することとなります。 ・尚、帰国後レポート提出が求められます。														
授業開始前学習		数回にわたり実施される説明会に必ず出席すること。															
授業内課題のフィードバックの方法		語学学校の指定に従って授業課題を終了すること。															
テキスト・教材		現地の語学学校にて配布されます。															
参考書																	
評価の基準と方法		説明会への出席、現地の学校の成績、そして帰国後に提出されるレポートで成績を判断します。 特に後期に開催される説明会には必ず出席のこと、出席が難しい場合は担当教員と要相談をしてください。															
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照															
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当						◎								△		○	
関連科目		必修科目「英語（会話表現）、英語（読解）」（人間総合学群は英語 A・B）：海外での英語研修において必要とされる総合的な英語力を、当該授業で修得するため。 英会話 I・Ⅱ：海外生活で必要とされる英語でのコミュニケーション能力を、当該授業で修得するため。															
その他		参加にあたっては別途費用がかかります。受け身ではなく、自分から積極的に行動することが、海外研修を成功に導くカギです。 履修対象：1 年生～3 年生															
予習・復習の 所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）															
実務経験を活かした 教育内容																	

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-111 SD-L-111 （J）		科目分類（～2024 年 入学者）		授業コード		F01671							
科目名称		☆キャリアデザインⅠ				単位数		2.0 単位							
英文名称		Career DesignⅠ				授業区分		講義							
科目責任者		民部田 駒子				必修・選択		履修ガイド参照							
担当教員		民部田 駒子				開講時期		1 年							
オフィスアワー		-				研究室		-							
授業概要		本授業は、学生が自分らしい人生を歩むためのキャリア形成能力と、社会で活躍するための就業力を養うことを目的とする。具体的には、ジェンダーギャップなどの社会課題や変化する社会の動向を学びながら、自己理解を深め、多様な価値観に触れることで必要な能力を身につける。これらの学びを通じて、将来の目標を設計して大学での学びとの関連性を意識するとともに、就職活動への不安を軽減し前向きに行動する力を育むことも目標とする。 授業はアクティブ・ラーニング形式で、「講義」→「個人ワーク」→「ペア・グループワーク」→「ディスカッション・発表」のように活動を組合せて進める。 上記を通じて、キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」のうち、特に「キャリアプランニング能力」と「人間関係形成能力」を育成する。													
到達目標		①社会を知る：過去・現在・未来の社会の在り様を理解する ②自分を知る：自分の興味・強み・価値観を理解する ③仕事を知る：業界・企業・職業など多様な働き方を理解する ④社会で求められる力を身につける：コミュニケーション能力や文章力等を養う ⑤大学生活および将来に向けた目標設定ができる													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		民部田 駒子		【第 1 回】 予習：学科シラバスとテキスト第 1 章を読む 授業：授業全体のガイダンス（進め方、評価方法、約束事）、キャリアデザインの考え方、大学生の直面するキャリアデザイン 復習：キャリアデザインの必要性について理解したことと今後なすべきことを整理する											
2		民部田 駒子		【第 2 回】 予習：テキスト第 2 章、13 章を読む 授業：社会で求められる「社会人基礎力」とコミュニケーションの方法について（グループワーク） 復習：自身がすでに身につけている／これから身につけたい社会人基礎力を確認し、それらを伸ばすための方法を考える											
3		民部田 駒子		【第 3 回】 予習：テキスト第 3 章を読む 授業：社会におけるジェンダーギャップ、ライフイベント、お金について（グループワーク） 復習：現状の社会について自身の考えを整理し、自分はどのような人生を歩みたいかについて考える											
4		民部田 駒子		【第 4 回】 予習：テキスト第 4 章を読む 授業：これまでの自分の振り返りと相手への伝え方について（グループワーク） 復習：自身の経験を整理して、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする											
5		民部田 駒子		【第 5 回】 予習：テキスト第 5 章、第 11 章を読む 授業：客観的な自己理解としてのアセスメントツールの活用について（検査実施、グループワーク） 復習：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする											
6		民部田 駒子		【第 6 回】 予習：テキスト第 6 章を読む 授業：仕事についての価値観の把握について（グループワーク） 復習：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする											
7		民部田 駒子		【第 7 回】 予習：テキスト第 7 章を読む 授業：業種、職種、職業について（グループワーク）※第 5・6 回で実施したアセスメントツールを持参すること 復習：アセスメントツールで興味をもった職業について、職業分類の観点から理解する											

8	民部田 駒子	【第 8 回】 予習 : 興味のある業界・企業・職種について調べる 授業 : 調べた業界・企業・職種についての発表 (プレゼンテーション) 復習 : プレゼンテーションの振り返り						
9	民部田 駒子	【第 9 回】 予習 : テキスト第 8 章を読んでおく 授業 : 社会を知る意味とその方法 (グループワーク) 復習 : 社会の中で問題であると思う内容や興味関心がある内容を選び、自分なりの意見をもつ						
10	民部田 駒子	【第 10 回】 予習 : テキスト第 9 章を読む 授業 : 働く上での法とルールについて (グループワーク) 復習 : 自身の経験や周囲の働く人の経験をふまえ、自分の身を守るために心がけたいことを挙げる						
11	民部田 駒子	【第 11 回】 予習 : 先輩たちに聴いてみたい質問を考えておく 授業 : 先輩から進路選択の経験や大学生生活の過ごし方を聴く 復習 : 学生生活をどう過ごすかについて考える						
12	民部田 駒子	【第 12 回】 予習 : 社会人の話を聞くにあたり事前に質問を考えておく 授業 : 社会人の話を聴く 復習 : 社会人の話を聴いて考えたことをまとめる						
13	民部田 駒子	【第 13 回】 予習 : これまでの授業を振り返り、新たに気付いたこと、不明点を整理しておく (授業時間内に説明) 授業 : 近い将来についての目標を立て、自身の大学生生活を点検する (グループワーク) 復習 : 授業時間内に明示						
14	民部田 駒子	【第 14 回】 予習 : プレゼンテーションの準備をする 授業 : 今後の大学生活から将来に向けての目標発表 (グループ内プレゼンテーション) 復習 : プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める						
15	民部田 駒子	【第 15 回】 予習 : プレゼンテーションの準備をする 授業 : 今後の大学生活から将来に向けての目標発表 (代表者プレゼンテーション、グループワーク) 復習 : プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める						
授業開始前学習		テキストに目を通す						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業で得た気づき、感想、質問などをリアクションペーパーにまとめて提出。 提出されたリアクションペーパーに対して講師が次の授業にてコメントする。						
テキスト・教材		『大学生のキャリアデザイントレーニング第 2 版』(晃洋書房)						
参考書		必要に応じて授業内で紹介する。						
評価の基準と方法		平常点 (授業態度及び各回のリアクションペーパー内容の評価 : 60%) と提出課題 4 つ (① 自己 PR 作成、② 職業調べ、③ 社会課題に関する意見、④ キャリアプラン) (40%) を基準とし、総合的に判断する。リアクションペーパーとは別に提示する 4 つの課題全てが提出されていることを単位取得の条件とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			○	
関連科目	相手に自分を伝えるための具体的な方法論を学ぶ、1 年次前後期の必修科目「言語表現演習Ⅰ」「言語表現演習Ⅱ」と関連する (例えばエントリーシートの書き方を学ぶ回等とは強く関連する)。また 2 年次前期の必修科目の「キャリアデザインⅡ/キャリアデザイン/進路設計」に連携する。							
その他	・本授業は社会に出る準備の場として、基本的なマナーを守ること (例えば授業の始めと終わりを含めたあいさつ、事前準備、課題・提出物の期限厳守など) ・30 分以上の遅刻は欠席とする。ただし遅延証明書が発行されている場合、学籍番号および氏名を書いた遅延証明書を提出することで考慮する。 ・全講義 (15 回) の 2/3 以上の出席がない場合は評価対象外となる。「履修ガイド」に該当する欠席事由については同ガイドに準じて対処する (補習等)。 ・毎回テキストのワークに取り組むため、必ず指定のテキストを手元に準備すること							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	民間企業での社会人経験、行政・産業・教育・地域領域での相談業務や研修・講演や研究業務経験、国家資格キャリアコンサルタントといった各教員の有する専門性を授業に活かす。							

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-111 SD-L-111 （ J ）		科目分類（～2024 年 入学者）		授業コード		F01672							
科目名称		☆キャリアデザインⅠ				単位数		2.0 単位							
英文名称		Career DesignⅠ				授業区分		講義							
科目責任者		小菅 清香				必修・選択		履修ガイド参照							
担当教員		小菅 清香				開講時期		1 年							
オフィスアワー		前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～17:50				研究室		10-503							
授業概要		本授業は、学生が自分らしい人生を歩むためのキャリア形成能力と、社会で活躍するための就業力を養うことを目的とする。具体的には、ジェンダーギャップなどの社会課題や変化する社会の動向を学びながら、自己理解を深め、多様な価値観に触れることで必要な能力を身につける。これらの学びを通じて、将来の目標を設計して大学での学びとの関連性を意識するとともに、就職活動への不安を軽減し前向きに行動する力を育むことも目標とする。 授業はアクティブ・ラーニング形式で、「講義」→「個人ワーク」→「ペア・グループワーク」→「ディスカッション・発表」のように活動を組合せて進める。 上記を通じて、キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」のうち、特に「キャリアプランニング能力」と「人間関係形成能力」を育成する。													
到達目標		①社会を知る：過去・現在・未来の社会の在り様を理解する ②自分を知る：自分の興味・強み・価値観を理解する ③仕事を知る：業界・企業・職業など多様な働き方を理解する ④社会で求められる力を身につける：コミュニケーション能力や文章力等を養う ⑤大学生活および将来に向けた目標設定ができる													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		小菅 清香		【第 1 回】 予習：学科シラバスとテキスト第 1 章を読む 授業：授業全体のガイダンス（進め方、評価方法、約束事）、キャリアデザインの考え方、大学生の直面するキャリアデザイン 復習：キャリアデザインの必要性について理解したことと今後なすべきことを整理する											
2		小菅 清香		【第 2 回】 予習：テキスト第 2 章、13 章を読む 授業：社会で求められる「社会人基礎力」とコミュニケーションの方法について（グループワーク） 復習：自身がすでに身につけている／これから身につけたい社会人基礎力を確認し、それらを伸ばすための方法を考える											
3		小菅 清香		【第 3 回】 予習：テキスト第 3 章を読む 授業：社会におけるジェンダーギャップ、ライフイベント、お金について（グループワーク） 復習：現状の社会について自身の考えを整理し、自分はどのような人生を歩みたいかについて考える											
4		小菅 清香		【第 4 回】 予習：テキスト第 4 章を読む 授業：これまでの自分の振り返りと相手への伝え方について（グループワーク） 復習：自身の経験を整理して、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする											
5		小菅 清香		【第 5 回】 予習：テキスト第 5 章、第 11 章を読む 授業：客観的な自己理解としてのアセスメントツールの活用について（検査実施、グループワーク） 復習：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする											
6		小菅 清香		【第 6 回】 予習：テキスト第 6 章を読む 授業：仕事についての価値観の把握について（グループワーク） 復習：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする											
7		小菅 清香		【第 7 回】 予習：テキスト第 7 章を読む 授業：業種、職種、職業について（グループワーク）※第 5・6 回で実施したアセスメントツールを持参すること 復習：アセスメントツールで興味をもった職業について、職業分類の観点から理解する											

8	小菅 清香	【第 8 回】 予習 : 興味のある業界・企業・職種について調べる 授業 : 調べた業界・企業・職種についての発表 (プレゼンテーション) 復習 : プレゼンテーションの振り返り						
9	小菅 清香	【第 9 回】 予習 : テキスト第 8 章を読んでおく 授業 : 社会を知る意味とその方法 (グループワーク) 復習 : 社会の中で問題であると思う内容や興味関心がある内容を選び、自分なりの意見をもつ						
10	小菅 清香	【第 10 回】 予習 : テキスト第 9 章を読む 授業 : 働く上での法とルールについて (グループワーク) 復習 : 自身の経験や周囲の働く人の経験をふまえ、自分の身を守るために心がけたいことを挙げる						
11	小菅 清香	【第 11 回】 予習 : 先輩たちに聴いてみたい質問を考えておく 授業 : 先輩から進路選択の経験や大学生生活の過ごし方を聴く 復習 : 学生生活をどう過ごすかについて考える						
12	小菅 清香	【第 12 回】 予習 : 社会人の話を聞くにあたり事前に質問を考えておく 授業 : 社会人の話を聴く 復習 : 社会人の話を聴いて考えたことをまとめる						
13	小菅 清香	【第 13 回】 予習 : これまでの授業を振り返り、新たに気付いたこと、不明点を整理しておく (授業時間内に説明) 授業 : 近い将来についての目標を立て、自身の大学生生活を点検する (グループワーク) 復習 : 授業時間内に明示						
14	小菅 清香	【第 14 回】 予習 : プレゼンテーションの準備をする 授業 : 今後の大学生活から将来に向けての目標発表 (グループ内プレゼンテーション) 復習 : プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める						
15	小菅 清香	【第 15 回】 予習 : プレゼンテーションの準備をする 授業 : 今後の大学生活から将来に向けての目標発表 (代表者プレゼンテーション、グループワーク) 復習 : プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める						
授業開始前学習		テキストに目を通す						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業で得た気づき、感想、質問などをリアクションペーパーにまとめて提出。 提出されたリアクションペーパーに対して講師が次の授業にてコメントする。						
テキスト・教材		『大学生のキャリアデザイントレーニング第 2 版』(晃洋書房)						
参考書		必要に応じて授業内で紹介する。						
評価の基準と方法		平常点 (授業態度及び各回のリアクションペーパー内容の評価 : 60%) と提出課題 4 つ (① 自己 PR 作成、②職業調べ、③社会課題に関する意見、④キャリアプラン) (40%) を基準とし、総合的に判断する。リアクションペーパーとは別に提示する 4 つの課題全てが提出されていることを単位取得の条件とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			○	
関連科目	相手に自分を伝えるための具体的な方法論を学ぶ、1 年次前後期の必修科目「言語表現演習Ⅰ」「言語表現演習Ⅱ」と関連する (例えばエントリーシートの書き方を学ぶ回等とは強く関連する)。また 2 年次前期の必修科目の「キャリアデザインⅡ/キャリアデザイン/進路設計」に連携する。							
その他	・本授業は社会に出る準備の場として、基本的なマナーを守ること (例えば授業の始めと終わりを含めたあいさつ、事前準備、課題・提出物の期限厳守など) ・30 分以上の遅刻は欠席とする。ただし遅延証明書が発行されている場合、学籍番号および氏名を書いた遅延証明書を提出することで考慮する。 ・全講義 (15 回) の 2/3 以上の出席がない場合は評価対象外となる。「履修ガイド」に該当する欠席事由については同ガイドに準じて対処する (補習等)。 ・毎回テキストのワークに取り組むため、必ず指定のテキストを手元に準備すること							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	民間企業での社会人経験、行政・産業・教育・地域領域での相談業務や研修・講演や研究業務経験、国家資格キャリアコンサルタントといった各教員の有する専門性を授業に活かす。							

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-111 SD-L-111 （ J ）		科目分類（～2024 年 入学者）		授業コード		F01673							
科目名称		☆キャリアデザイン I				単位数		2.0 単位							
英文名称		Career Design I				授業区分		講義							
科目責任者		小林 幸夫				必修・選択		履修ガイド参照							
担当教員		小林 幸夫				開講時期		1 年							
オフィスアワー		-				研究室		-							
授業概要		本授業は、学生が自分らしい人生を歩むためのキャリア形成能力と、社会で活躍するための就業力を養うことを目的とする。具体的には、ジェンダーギャップなどの社会課題や変化する社会の動向を学びながら、自己理解を深め、多様な価値観に触れることで必要な能力を身につける。これらの学びを通じて、将来の目標を設計して大学での学びとの関連性を意識するとともに、就職活動への不安を軽減し前向きに行動する力を育むことも目標とする。 授業はアクティブ・ラーニング形式で、「講義」→「個人ワーク」→「ペア・グループワーク」→「ディスカッション・発表」のように活動を組合せて進める。 上記を通じて、キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」のうち、特に「キャリアプランニング能力」と「人間関係形成能力」を育成する。													
到達目標		①社会を知る：過去・現在・未来の社会の在り様を理解する ②自分を知る：自分の興味・強み・価値観を理解する ③仕事を知る：業界・企業・職業など多様な働き方を理解する ④社会で求められる力を身につける：コミュニケーション能力や文章力等を養う ⑤大学生活および将来に向けた目標設定ができる													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		小林 幸夫		【第 1 回】 予習：学科シラバスとテキスト第 1 章を読む 授業：授業全体のガイダンス（進め方、評価方法、約束事）、キャリアデザインの考え方、大学生の直面するキャリアデザイン 復習：キャリアデザインの必要性について理解したことと今後なすべきことを整理する											
2		小林 幸夫		【第 2 回】 予習：テキスト第 2 章、13 章を読む 授業：社会で求められる「社会人基礎力」とコミュニケーションの方法について（グループワーク） 復習：自身がすでに身につけている／これから身につけたい社会人基礎力を確認し、それらを伸ばすための方法を考える											
3		小林 幸夫		【第 3 回】 予習：テキスト第 3 章を読む 授業：社会におけるジェンダーギャップ、ライフイベント、お金について（グループワーク） 復習：現状の社会について自身の考えを整理し、自分はどのような人生を歩みたいかについて考える											
4		小林 幸夫		【第 4 回】 予習：テキスト第 4 章を読む 授業：これまでの自分の振り返りと相手への伝え方について（グループワーク） 復習：自身の経験を整理して、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする											
5		小林 幸夫		【第 5 回】 予習：テキスト第 5 章、第 11 章を読む 授業：客観的な自己理解としてのアセスメントツールの活用について（検査実施、グループワーク） 復習：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする											
6		小林 幸夫		【第 6 回】 予習：テキスト第 6 章を読む 授業：仕事についての価値観の把握について（グループワーク） 復習：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする											
7		小林 幸夫		【第 7 回】 予習：テキスト第 7 章を読む 授業：業種、職種、職業について（グループワーク）※第 5・6 回で実施したアセスメントツールを持参すること 復習：アセスメントツールで興味をもった職業について、職業分類の観点から理解する											

8	小林 幸夫	【第 8 回】 予習 : 興味のある業界・企業・職種について調べる 授業 : 調べた業界・企業・職種についての発表 (プレゼンテーション) 復習 : プレゼンテーションの振り返り						
9	小林 幸夫	【第 9 回】 予習 : テキスト第 8 章を読んでおく 授業 : 社会を知る意味とその方法 (グループワーク) 復習 : 社会の中で問題であると思う内容や興味関心がある内容を選び、自分なりの意見をもつ						
10	小林 幸夫	【第 10 回】 予習 : テキスト第 9 章を読む 授業 : 働く上での法とルールについて (グループワーク) 復習 : 自身の経験や周囲の働く人の経験をふまえ、自分の身を守るために心がけたいことを挙げる						
11	小林 幸夫	【第 11 回】 予習 : 先輩たちに聴いてみたい質問を考えておく 授業 : 先輩から進路選択の経験や大学生生活の過ごし方を聴く 復習 : 学生生活をどう過ごすかについて考える						
12	小林 幸夫	【第 12 回】 予習 : 社会人の話を聞くにあたり事前に質問を考えておく 授業 : 社会人の話を聴く 復習 : 社会人の話を聴いて考えたことをまとめる						
13	小林 幸夫	【第 13 回】 予習 : これまでの授業を振り返り、新たに気付いたこと、不明点を整理しておく (授業時間内に説明) 授業 : 近い将来についての目標を立て、自身の大学生生活を点検する (グループワーク) 復習 : 授業時間内に明示						
14	小林 幸夫	【第 14 回】 予習 : プレゼンテーションの準備をする 授業 : 今後の大学生活から将来に向けての目標発表 (グループ内プレゼンテーション) 復習 : プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める						
15	小林 幸夫	【第 15 回】 予習 : プレゼンテーションの準備をする 授業 : 今後の大学生活から将来に向けての目標発表 (代表者プレゼンテーション、グループワーク) 復習 : プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める						
授業開始前学習		テキストに目を通す						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業で得た気づき、感想、質問などをリアクションペーパーにまとめて提出。 提出されたリアクションペーパーに対して講師が次の授業にてコメントする。						
テキスト・教材		『大学生のキャリアデザイントレーニング第 2 版』(晃洋書房)						
参考書		必要に応じて授業内で紹介する。						
評価の基準と方法		平常点 (授業態度及び各回のリアクションペーパー内容の評価 : 60%) と提出課題 4 つ (① 自己 PR 作成、②職業調べ、③社会課題に関する意見、④キャリアプラン) (40%) を基準とし、総合的に判断する。リアクションペーパーとは別に提示する 4 つの課題全てが提出されていることを単位取得の条件とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			○	
関連科目	相手に自分を伝えるための具体的な方法論を学ぶ、1 年次前後期の必修科目「言語表現演習Ⅰ」「言語表現演習Ⅱ」と関連する (例えばエントリーシートの書き方を学ぶ回等とは強く関連する)。また 2 年次前期の必修科目の「キャリアデザインⅡ/キャリアデザイン/進路設計」に連携する。							
その他	・本授業は社会に出る準備の場として、基本的なマナーを守ること (例えば授業の始めと終わりを含めたあいさつ、事前準備、課題・提出物の期限厳守など) ・30 分以上の遅刻は欠席とする。ただし遅延証明書が発行されている場合、学籍番号および氏名を書いた遅延証明書を提出することで考慮する。 ・全講義 (15 回) の 2/3 以上の出席がない場合は評価対象外となる。「履修ガイド」に該当する欠席事由については同ガイドに準じて対処する (補習等)。 ・毎回テキストのワークに取り組むため、必ず指定のテキストを手元に準備すること							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	民間企業での社会人経験、行政・産業・教育・地域領域での相談業務や研修・講演や研究業務経験、国家資格キャリアコンサルタントといった各教員の有する専門性を授業に活かす。							

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-111 SD-L-111 （ J ）		科目分類（～2024 年 入学者）		授業コード		F01674							
科目名称		☆キャリアデザイン I				単位数		2.0 単位							
英文名称		Career Design I				授業区分		講義							
科目責任者		新井 香子				必修・選択		履修ガイド参照							
担当教員		新井 香子				開講時期		1 年							
オフィスアワー		-				研究室		-							
授業概要		本授業は、学生が自分らしい人生を歩むためのキャリア形成能力と、社会で活躍するための就業力を養うことを目的とする。具体的には、ジェンダーギャップなどの社会課題や変化する社会の動向を学びながら、自己理解を深め、多様な価値観に触れることで必要な能力を身につける。これらの学びを通じて、将来の目標を設計して大学での学びとの関連性を意識するとともに、就職活動への不安を軽減し前向きに行動する力を育むことも目標とする。 授業はアクティブ・ラーニング形式で、「講義」→「個人ワーク」→「ペア・グループワーク」→「ディスカッション・発表」のように活動を組合せて進める。 上記を通じて、キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」のうち、特に「キャリアプランニング能力」と「人間関係形成能力」を育成する。													
到達目標		①社会を知る：過去・現在・未来の社会の在り様を理解する ②自分を知る：自分の興味・強み・価値観を理解する ③仕事を知る：業界・企業・職業など多様な働き方を理解する ④社会で求められる力を身につける：コミュニケーション能力や文章力等を養う ⑤大学生活および将来に向けた目標設定ができる													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		新井 香子		【第 1 回】 予習：学科シラバスとテキスト第 1 章を読む 授業：授業全体のガイダンス（進め方、評価方法、約束事）、キャリアデザインの考え方、大学生の直面するキャリアデザイン 復習：キャリアデザインの必要性について理解したことと今後なすべきことを整理する											
2		新井 香子		【第 2 回】 予習：テキスト第 2 章、13 章を読む 授業：社会で求められる「社会人基礎力」とコミュニケーションの方法について（グループワーク） 復習：自身がすでに身につけている／これから身につけたい社会人基礎力を確認し、それらを伸ばすための方法を考える											
3		新井 香子		【第 3 回】 予習：テキスト第 3 章を読む 授業：社会におけるジェンダーギャップ、ライフイベント、お金について（グループワーク） 復習：現状の社会について自身の考えを整理し、自分はどのような人生を歩みたいかについて考える											
4		新井 香子		【第 4 回】 予習：テキスト第 4 章を読む 授業：これまでの自分の振り返りと相手への伝え方について（グループワーク） 復習：自身の経験を整理して、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする											
5		新井 香子		【第 5 回】 予習：テキスト第 5 章、第 11 章を読む 授業：客観的な自己理解としてのアセスメントツールの活用について（検査実施、グループワーク） 復習：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする											
6		新井 香子		【第 6 回】 予習：テキスト第 6 章を読む 授業：仕事についての価値観の把握について（グループワーク） 復習：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする											
7		新井 香子		【第 7 回】 予習：テキスト第 7 章を読む 授業：業種、職種、職業について（グループワーク）※第 5・6 回で実施したアセスメントツールを持参すること 復習：アセスメントツールで興味をもった職業について、職業分類の観点から理解する											

8	新井 香子	【第 8 回】 予習 : 興味のある業界・企業・職種について調べる 授業 : 調べた業界・企業・職種についての発表 (プレゼンテーション) 復習 : プレゼンテーションの振り返り						
9	新井 香子	【第 9 回】 予習 : テキスト第 8 章を読んでおく 授業 : 社会を知る意味とその方法 (グループワーク) 復習 : 社会の中で問題であると思う内容や興味関心がある内容を選び、自分なりの意見をもつ						
10	新井 香子	【第 10 回】 予習 : テキスト第 9 章を読む 授業 : 働く上での法とルールについて (グループワーク) 復習 : 自身の経験や周囲の働く人の経験をふまえ、自分の身を守るために心がけたいことを挙げる						
11	新井 香子	【第 11 回】 予習 : 先輩たちに聴いてみたい質問を考えておく 授業 : 先輩から進路選択の経験や大学生生活の過ごし方を聴く 復習 : 学生生活をどう過ごすかについて考える						
12	新井 香子	【第 12 回】 予習 : 社会人の話を聞くにあたり事前に質問を考えておく 授業 : 社会人の話を聴く 復習 : 社会人の話を聴いて考えたことをまとめる						
13	新井 香子	【第 13 回】 予習 : これまでの授業を振り返り、新たに気付いたこと、不明点を整理しておく (授業時間内に説明) 授業 : 近い将来についての目標を立て、自身の大学生生活を点検する (グループワーク) 復習 : 授業時間内に明示						
14	新井 香子	【第 14 回】 予習 : プレゼンテーションの準備をする 授業 : 今後の大学生活から将来に向けての目標発表 (グループ内プレゼンテーション) 復習 : プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める						
15	新井 香子	【第 15 回】 予習 : プレゼンテーションの準備をする 授業 : 今後の大学生活から将来に向けての目標発表 (代表者プレゼンテーション、グループワーク) 復習 : プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める						
授業開始前学習		テキストに目を通す						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業で得た気づき、感想、質問などをリアクションペーパーにまとめて提出。 提出されたリアクションペーパーに対して講師が次の授業にてコメントする。						
テキスト・教材		『大学生のキャリアデザイントレーニング第 2 版』(晃洋書房)						
参考書		必要に応じて授業内で紹介する。						
評価の基準と方法		平常点 (授業態度及び各回のリアクションペーパー内容の評価 : 60%) と提出課題 4 つ (① 自己 PR 作成、②職業調べ、③社会課題に関する意見、④キャリアプラン) (40%) を基準とし、総合的に判断する。リアクションペーパーとは別に提示する 4 つの課題全てが提出されていることを単位取得の条件とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			○	
関連科目	相手に自分を伝えるための具体的な方法論を学ぶ、1 年次前後期の必修科目「言語表現演習Ⅰ」「言語表現演習Ⅱ」と関連する (例えばエントリーシートの書き方を学ぶ回等とは強く関連する)。また 2 年次前期の必修科目の「キャリアデザインⅡ/キャリアデザイン/進路設計」に連携する。							
その他	・本授業は社会に出る準備の場として、基本的なマナーを守ること (例えば授業の始めと終わりを含めたあいさつ、事前準備、課題・提出物の期限厳守など) ・30 分以上の遅刻は欠席とする。ただし遅延証明書が発行されている場合、学籍番号および氏名を書いた遅延証明書を提出することで考慮する。 ・全講義 (15 回) の 2/3 以上の出席がない場合は評価対象外となる。「履修ガイド」に該当する欠席事由については同ガイドに準じて対処する (補習等)。 ・毎回テキストのワークに取り組むため、必ず指定のテキストを手元に準備すること							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	民間企業での社会人経験、行政・産業・教育・地域領域での相談業務や研修・講演や研究業務経験、国家資格キャリアコンサルタントといった各教員の有する専門性を授業に活かす。							

☆女性とウェルビーイング I

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-131 CT-L-131	科目分類（～2024 年 入学者）	100-130-11	授業コード	F01750		
科目名称	☆女性とウェルビーイング I			単位数	2.0 単位		
英文名称	Women and Wellbeing I			授業区分	講義		
科目責任者	丸山 麻子			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	丸山 麻子			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	本授業では女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすための能力を養うことを目的とする。具体的には女性の各ライフステージにおける様々な健康問題の特徴について取り上げ、その問題の予防や改善のための知識について演習・実技も含めた講義とする。 女性と健康Ⅰでは、健康に関する基礎知識と「成人期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。 女性と健康Ⅱでは、「思春期」「妊娠・出産」「更年期」「老年期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。						
到達目標	1. 女性のライフサイクルの視点からみた健康について理解できる。 2. 女性の心身の健康ケアへのアプローチについて理解できる 3. 女性がよりよく生きることができる状態を計画・実践できる						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	丸山 麻子	【第 1 回】 予習：健康とは何か、なぜ健康が必要なのかについて考える 授業：健康の定義、女性の健康とは 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
2	丸山 麻子	【第 2 回】 予習：様々な女性の生き方について調べる 授業：女性のライフステージの種類と特徴について 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
3	丸山 麻子	【第 3 回】 予習：自分の体力の状態を考える 授業：健康と身体活動・運動 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
4	丸山 麻子	【第 4 回】 予習：体力改善のための運動を実践する 授業：女性と身体活動・運動 1 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
5	丸山 麻子	【第 5 回】 予習：体力改善のための運動を実践する 授業：女性と身体活動・運動 2 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
6	丸山 麻子	【第 6 回】 予習：普段の食生活を振り返り、食生活について意識していることをまとめる 授業：女性と栄養・食生活 1 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
7	丸山 麻子	【第 7 回】 予習：自分の食生活の問題点を整理し、見直す 授業：女性と栄養・食生活 2 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
8	丸山 麻子	【第 8 回】 予習：お酒を飲むことで起こる健康への悪影響を調べる 授業：女性と飲酒 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
9	丸山 麻子	【第 9 回】 予習：タバコを吸うことで起こる健康への悪影響を調べる 授業：女性と喫煙 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
10	丸山 麻子	【第 10 回】 予習：自分の睡眠状況を調べ、把握する 授業：女性の睡眠・休養 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					

11	丸山 麻子	【第 11 回】 予習 : 自分の心の状態を考える 授業 : 女性のメンタルヘルス 復習 : 授業で学んだ事項をノートにまとめる						
12	丸山 麻子	【第 12 回】 予習 : 自分の月経状況を把握し、まとめる 授業 : 女性ホルモンと月経 復習 : 授業で学んだ事項をノートにまとめる						
13	丸山 麻子	【第 13 回】 予習 : 婦人科系疾患について調べる 授業 : 女性特有の疾病 1 復習 : 授業で学んだ事項をノートにまとめる						
14	丸山 麻子	【第 14 回】 予習 : 【第 1 回】から【第 13 回】までの内容を振り返る 授業 : 女性と健康の基本要素に関するテスト 復習 : 自分の考えをレポートにまとめる						
15	丸山 麻子	【第 15 回】 予習 : AYA 世代の婦人科系疾患について調べる 授業 : 女性特有の疾病 2、女性と健康 I 総括 復習 : 授業で学んだ事項をレポートにまとめる						
授業開始前学習		新聞やニュースに掲載された女性の健康に関する記事を読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で実施した小テスト・レポートについては、次回以降の授業にて返却・回答を行う。						
テキスト・教材		適宜、授業内に資料を使用する。						
参考書		授業中に適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		小テスト・レポート 40 点、授業内テスト 50 点・最終提出課題 10 点 ※定期テストは行わない。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	△					
関連科目								
その他		講義に対する質問や個別連絡については、メールを使用すること。 なお、受講者数や授業の進捗状況、また、社会情勢により講義の予定を変更することがある。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-131 CT-L-131	科目分類（～2024 年 入学者）	100-130-11	授業コード	F01760		
科目名称	☆女性とウェルビーイングⅡ			単位数	2.0 単位		
英文名称	Women and Wellbeing I			授業区分	講義		
科目責任者	丸山 麻子			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	丸山 麻子			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	本授業では女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすための能力を養うことを目的とする。具体的には女性の各ライフステージにおける様々な健康問題の特徴について取り上げ、その問題の予防や改善のための知識について演習・実技も含めた講義とする。 女性と健康Ⅰでは、健康に関する基礎知識と「成人期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。 女性と健康Ⅱでは、「思春期」「妊娠・出産」「更年期」「老年期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。						
到達目標	1. 女性のライフサイクルの視点からみた健康について理解できる。 2. 女性の心身の健康ケアへのアプローチについて理解できる 3. 女性がよりよく生きることができる状態を計画・実践できる						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	丸山 麻子	【第 1 回】 予習：健康とは何か、なぜ健康が必要なのかについて考える 授業：オリエンテーション 女性と健康Ⅰの総復習 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
2	丸山 麻子	【第 2 回】 予習：自らのこれまでに生じた心身の問題を振り返る 授業：女性の思春期に生じやすい問題 1 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
3	丸山 麻子	【第 3 回】 予習：自らのこれまでに生じた心身の問題を振り返る 授業：女性の思春期に生じやすい問題 2 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
4	丸山 麻子	【第 4 回】 予習：妊娠と出産について中学校・高等学校等で学んだことをまとめる 授業：妊娠と出産 1 女性ホルモンの役割 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
5	丸山 麻子	【第 5 回】 予習：妊娠と出産に関する最近の情報を調べる 授業：妊娠と出産 2 妊娠・出産時期特有の疾患 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
6	丸山 麻子	【第 6 回】 予習：不妊治療に関する最近の情報を調べる 授業：妊娠と出産 3 妊孕性と不妊治療 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
7	丸山 麻子	【第 7 回】 予習：自分の今後のキャリアについて考える 授業：女性と仕事 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
8	丸山 麻子	【第 8 回】 予習：更年期障害について調べる 授業：更年期障害 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
9	丸山 麻子	【第 9 回】 予習：更年期の婦人科系疾患について調べる 授業：更年期に生じやすい疾患 1 がん 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					
10	丸山 麻子	【第 10 回】 予習：更年期の婦人科系疾患について調べる 授業：更年期に生じやすい疾患 2 うつ、生活習慣病 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる					

11	丸山 麻子	【第 11 回】 予習：老年期の疾患について調べる 授業：老年期に生じやすい疾患 1 骨粗鬆症、フレイル 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる						
12	丸山 麻子	【第 12 回】 予習：認知症について調べる 授業：老年期に生じやすい疾患 2 認知症 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる						
13	丸山 麻子	【第 13 回】 予習：アンチエイジングについて調べる 授業：女性とアンチエイジング 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめ、実践する						
14	丸山 麻子	【第 14 回】 予習：【第 1 回】から【第 13 回】までの内容を振り返る 授業：女性と健康に関するテスト 復習：自分の考えをレポートにまとめる						
15	丸山 麻子	【第 15 回】 予習：自身のこれからの人生を考える 授業：自身の人生設計、女性と健康Ⅱ 総括 復習：授業で学んだ事項をレポートにまとめる						
授業開始前学習		新聞やニュースに掲載された女性の健康に関する記事を読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で実施した小テスト・レポートについては、次回以降の授業にて返却・回答を行う。						
テキスト・教材		適宜、授業内に資料を使用する。						
参考書		授業中に適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		小テスト・レポート 30%、授業内テスト 60%・最終提出課題 10% ※定期テストは行わない。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	△					
関連科目								
その他		講義に対する質問や個別連絡については、メールを使用すること。 なお、受講者数や授業の進捗状況、また、社会情勢により講義の予定を変更することがある。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21	授業コード	F01771
科目名称	スポーツⅠ	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	Physical Education I	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1・2 年
科目責任者	丸山 麻子	研究室	-		
担当教員	丸山 麻子				
オフィスアワー	-				
授業概要	生涯にわたり健康的な生活を送る上で、自分自身の身体に関する知識・関心を持つことは重要である。そして、心身の健康を維持・増進するためには、運動を取り入れることが望ましい。しかし、誤った方法での運動は効果がないばかりか、心身を害することもあるため、正しい運動の実施方法を理解し、修得することが必要である。 本授業では様々な種類のスポーツを行うことにより、生涯を通して続けられるようなスポーツ・運動を見つけ、上達する方法について探究する。				
到達目標	本授業では様々なスポーツについて調べたうえで体験し、健やかな心身を形成するための運動に関する知識を得るとともに、様々な人と関わりながら互いに協力し合う力を身につけることを目的とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	丸山 麻子	【第 1 回】 予習 : 体育実技にふさわしい服装の準備 授業 : オリエンテーション、スポーツを行う上での注意点 復習 : 伝達事項ポイントの復習			
2	丸山 麻子	【第 2 回】 予習 : ニュースポーツ (ピロポロなど) のルールを調べる 授業 : ニュースポーツ (ピロポロなど) 復習 : 伝達事項ポイントの復習			
3	丸山 麻子	【第 3 回】 予習 : ドッジボールのルールを調べる 授業 : ドッジボール (球技系スポーツ 1) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
4	丸山 麻子	【第 4 回】 予習 : 卓球 (シングルス) のルールを調べる 授業 : 卓球 (シングルス) (ラケット系スポーツ 1) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
5	丸山 麻子	【第 5 回】 予習 : 卓球 (ダブルス) のルールを調べる 授業 : 卓球 (ダブルス) (ラケット系スポーツ 2) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
6	丸山 麻子	【第 6 回】 予習 : 卓球 (団体戦) のルールを調べる 授業 : 卓球 (団体戦) (ラケット系スポーツ 3) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
7	丸山 麻子	【第 7 回】 予習 : バドミントン (シングルス) のルールを調べる 授業 : バドミントン (シングルス) (ラケット系スポーツ 4) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
8	丸山 麻子	【第 8 回】 予習 : バドミントン (ダブルス) のルールを調べる 授業 : バドミントン (ダブルス) (ラケット系スポーツ 5) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
9	丸山 麻子	【第 9 回】 予習 : テーボールのルールを調べる 授業 : テーボール (球技系スポーツ 2) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
10	丸山 麻子	【第 10 回】 予習 : バスケットボールのルールを調べる 授業 : バスケットボール (球技系スポーツ 3) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			

11	丸山 麻子	【第 11 回】 予習 : 戦略を考える 授業 : バスケットボール (球技系スポーツ 4) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習						
12	丸山 麻子	【第 12 回】 予習 : レクリエーションスポーツ (バドボン等) のルールを調べる 授業 : レクリエーションスポーツ (バドボン等) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習						
13	丸山 麻子	【第 13 回】 予習 : ソフトバレーボールのルールを調べる 授業 : ソフトバレーボール (球技系スポーツ 5) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習						
14	丸山 麻子	【第 14 回】 予習 : シットティングバレーボールのルールを調べる 授業 : シットティングバレーボール (球技系スポーツ 5) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習						
15	丸山 麻子	【第 15 回】 予習 : ルールを調べる 授業 : バレーボール (球技系スポーツ 7) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習						
授業開始前学習		日ごろから体を動かす習慣を作り、自らの体をよく知ること。また、受講前に行うスポーツを見るなどして事前にルール等の知識を得てから受講すること。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎授業において回収するレポートに対しては、理解度の確認および適宜個別にコメントし、授業内にて全体の講評等を行う。						
テキスト・教材		なし						
参考書								
評価の基準と方法		小テスト・レポート課題 (60%)、授業参加態度 (20%)、最終レポート (20%) を総合して評価を行う。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				
関連科目	なし							
その他	受講の際には、ジャージ等運動着、靴下、運動靴 (外履き不可) にて臨むこと。運動を行うために適していないと判断される服装の場合には、受講を認めない。また、筆記用具および水分補給のための飲み物を持参すること。 また授業内容については、参加人数で適宜変更して行うこともある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21 (J)	授業コード	F01772
科目名称	スポーツ I			単位数	1.0 単位
英文名称	Physical Education I			授業区分	演習
科目責任者	塩嶋 理恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	塩嶋 理恵			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目の目標は、スポーツその他の身体運動（体操・バドミントン・バレーボール）を通して継続できるスポーツを選択しながら、健康志向への動機付けを図り、それらの実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験して養ってもらうことである。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。 スポーツ I の実技種目は、インドア（体育館）で体操・バドミントン・バレーボールなどを行う。				
到達目標	各種スポーツにおけるルールの理解・個々のスキルアップを目指す。 またチームプレイを通して協調性を養う。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	塩嶋 理恵	【第 1 回】 予習 : 体育実技にふさわしい服装の準備 授業 : ガイダンス (授業説明・注意事項) 復習 : 高等学校で使用した体育館専用シューズの確認			
2	塩嶋 理恵	【第 2 回】 予習 : 体育実技にふさわしい服装と体育館専用シューズの準備 授業 : ゆがみ修正体操 (実習) 復習 : ゆがみ修正体操 復習			
3	塩嶋 理恵	【第 3 回】 予習 : 服装とシューズの準備 授業 : バドミントン (基本練習・サーブ) (実習) 復習 : バドミントンのサーブの復習			
4	塩嶋 理恵	【第 4 回】 予習 : バドミントンのルール確認。服装とシューズの準備 授業 : バドミントン (ゲーム・ルール説明) (実習) 復習 : バドミントンのルールの復習			
5	塩嶋 理恵	【第 5 回】 予習 : バドミントンのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業 : バドミントン (ゲーム・マナー) (実習) 復習 : バドミントンのゲームとマナーの復習			
6	塩嶋 理恵	【第 6 回】 予習 : バドミントンのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業 : バドミントン (ゲーム・フォーメーション) (実習) 復習 : バドミントンのゲームとフォーメーションの復習			
7	塩嶋 理恵	【第 7 回】 予習 : バドミントンのシングルスゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業 : バドミントン (ゲーム・フォーメーション) (実習) 復習 : バドミントンのゲームとフォーメーションの復習			
8	塩嶋 理恵	【第 8 回】 予習 : バドミントンのダブルスゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業 : バドミントン (ゲーム・フォーメーション) (実習) 復習 : バドミントンのゲームとフォーメーションの復習			
9	塩嶋 理恵	【第 9 回】 予習 : バレーボールのオーバー・アンダーハンドパスの予習 授業 : バレーボール (基本練習、オーバー・アンダーハンドパス) (実習) 復習 : バレーボールのオーバー・アンダーハンドパスの復習			
10	塩嶋 理恵	【第 10 回】 予習 : バレーボールのアンダーサーブ・オーバーサーブの予習 授業 : バレーボール (基本練習・サーブ) (実習) 復習 : バレーボールのアンダー・オーバーサーブの復習			

11	塩嶋 理恵	【第 11 回】 予習 : バレーボールのサーブとレシーブの予習 授業 : バレーボール (基本練習・サーブとレシーブ) (実習) 復習 : バレーボールのサーブとレシーブの復習						
12	塩嶋 理恵	【第 12 回】 予習 : バレーボールのゲーム・ルールの予習 授業 : バレーボール (ゲーム・ルール説明) (実習) 復習 : バレーボールのゲーム・ルールの復習						
13	塩嶋 理恵	【第 13 回】 予習 : バレーボールのルールとマナーの予習 授業 : バレーボール (ゲーム・ルールとマナー説明) (実習) 復習 : バレーボールのルールとマナーの復習						
14	塩嶋 理恵	【第 14 回】 予習 : バレーボールのルールとマナーの予習 授業 : バレーボール (ゲーム・ルールとマナー説明) (実習) 復習 : バレーボールのルールとマナーの復習						
15	塩嶋 理恵	【第 15 回】 予習 : バスケットボールのドリブルの予習 授業 : バスケットボール (基本練習・ドリブル) (実習) 復習 : バスケットボールのドリブルの復習						
授業開始前学習		体育実技にふさわしい服装の準備と高等学校で使用した体育館専用シューズの確認						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 8 回目、14 回目に各種目ごとのゲーム結果を発表し、個人、チーム全体の講評を行う。 個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		特にありません						
参考書								
評価の基準と方法		実技態度 70%、技術・試合評価 30%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				
関連科目	スポーツⅡ							
その他	人数調整等により卓球などの他のスポーツを並行して実施することもある。 体操 では各自バスタオルを準備すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	競技チアリーディング上級指導資格・審査員資格をもち、幼児から大学生までを指導してきた経験を活かし、体のストレッチングや柔軟性を高めるよう授業に取り入れて行う。							

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年 入学者）	100-131-21	授業コード	F01781		
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂⅡ			単位数	1.0 単位		
英文名称	Physical Education Ⅱ			授業区分	演習		
科目責任者	三辻 浩子			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	三辻 浩子			開講時期	1・2 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	自分の身体とは一生つきあって行かねばなりません。そして健康を維持する事が Happy につながります。ストレスの多い日々の中で、音楽を使った運動で心も身体もリフレッシュしましょう。J-pop や K-pop も含め楽しい曲に合わせて動きます。初心者でも問題なく動ける STEP の組み合わせなので安心して参加してください。また、トレーニングの中にはヨガやストレッチ、レジスタンス（筋トレ）の要素も織り交ぜ、バランスよく楽しく運動を進めて行きましょう。毎回、スポーツクラブの 1 レッスン（60 分）が受けられるのと同様のイメージをしてください。最後は横になってヒーリング音楽で安らぎましょう。						
到達目標	・体力向上やシェイプアップできる運動を学ぶ ・身体に良い食事のアドバイス ・基本的な STEP を習得し楽しく動く事を学ぶ ・正しい姿勢を習得することを学ぶ						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	三辻 浩子	【第 1 回】 授業：エアロビクスとは 実技 1（フレックスクッション導入）（実習） ＊健康を考える 予習：エアロビクスについて調べておく 復習：本日の STEP を合致させておく					
2	三辻 浩子	【第 2 回】 授業：ウォームアップについて 実技 2（実習） ＊自己管理法 予習：ウォームアップについて調べておく 復習：本日の STEP を覚える					
3	三辻 浩子	【第 3 回】 授業：メインエクササイズについて 実技 3（実習） ＊H.R（脈拍の変化について） 予習：本日の STEP を合致させておく 復習：本日の S T E P を覚える					
4	三辻 浩子	【第 4 回】 授業：筋肉強化エクササイズついて 実技 4（ダンベル導入）（実習） ＊筋肉をつけるための食事について 予習：本日の STEP を合致させておく 復習：本日の S T E P を覚える					
5	三辻 浩子	【第 5 回】 授業：クールダウンについて 実技 5（実習） ＊食事についてアドバイス 予習：本日の STEP を合致させておく 復習：本日の STEP を覚える					
6	三辻 浩子	【第 6 回】 授業：（1）STEP のコンビネーションについて 実技 6（実習） ＊Step の組み合わせ方について 予習：今までの STEP 名を合致させておく 復習：本日の STEP コンビネーションを復習					
7	三辻 浩子	【第 7 回】 授業：（2）アームス導入 実技 7（実習） ＊Step の組み合わせと腕の動きについて 予習：今までの STEP 名を合致させておく 復習：本日の STEP コンビネーションを復習					
8	三辻 浩子	【第 8 回】 授業：（3）フォーメーション・方向の導入 実技 8（実習） ＊Step の組み合わせと重心の移動について（運動量を上げる方法） 予習：今までの STEP 名を合致させておく					

		復習：フォーメーションの種類を復習						
9	三辻 浩子	【第9回】 授業：(4) キューイングの導入 実技9（実習） * Step の組み合わせと声出しについて 予習：自分で 32 カウントの創作をしてみる（STEP のみ） 復習：32 カウントの創作したものを復習						
10	三辻 浩子	【第10回】 授業：(1) 自分で組み合わせてみる 実技10（実習） * Lesson の途中に 32 カウント創作の発表 予習：自分で 32 カウントの創作をしてみる（アーム入れ） 復習：自分で創作したものを好きな曲で復習						
11	三辻 浩子	【第11回】 授業：(2) 自分で組み合わせてみる 実技11（実習） 予習：自分で 32 カウントの創作をしてみる（方向入れ） 復習：自分で創作したものを好きな曲で復習						
12	三辻 浩子	【第12回】 授業：(3) 自分で組み合わせてみる 実技12（実習） 予習：自分で 32 カウントの創作をしてみる（シンメトリー） 復習：自分で創作したものを好きな曲で復習						
13	三辻 浩子	【第13回】 授業：(4) 自分で組み合わせてみる 実技13（実習） 予習：自分で創作してみる 復習：自分で創作したものを好きな曲で復習						
14	三辻 浩子	【第14回】 授業：(5) 自分で組み合わせてみる 実技14（実習） 予習：今までのまとめ 復習：自分で創作したものを好きな曲で復習						
15	三辻 浩子	【第15回】 授業：まとめ 実技15（実習） 予習：提出物の見直し（ステップシート） 復習：今後の自分なりの健康管理を考える						
授業開始前学習		『エアロビクス』が生まれた背景を調べておく。ケネス・H・クーパー、ジャッキー・ソーレンセン、ジェーン・フォンダの 3 人物を調べておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		少しずつ学び覚えた Step を組み合わせ創作を行う。その Step Sheet（用紙あり）を提出する。それに対してコメント（フィードバック）を行う。						
テキスト・教材		プリント配布						
参考書								
評価の基準と方法		実技＋授業態度（片付け・協力度・楽しく動いているか）・・・(80%) 提出物（ステップシート）・・・(20%)						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				
関連科目								
その他		シューズ・ソックス・ウェア（動ける用意）・筆記用具・タオル・飲料（水分補給）を持参のこと						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21 (J)	授業コード	F01782
科目名称	スポーツⅡ	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	Physical Education II	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1・2 年
科目責任者	塩嶋 理恵	研究室	-		
担当教員	塩嶋 理恵				
オフィスアワー	-				
授業概要	自分の身体とは一生つきあっていかねばならない。そして健康を維持する事が幸せにつながる。更になりたい自分の身体づくりをすることは楽しさにもつながる。脂肪燃焼の仕方、筋肉の適正な付け方、きれいな姿勢など身体を意識していく。本授業では、ソフトバレーボール・卓球・軽スポーツなどを行う。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。 スポーツⅡの実技種目は、インドア（体育館）でソフトバレーボール・卓球・軽スポーツなどを行う。				
到達目標	各種スポーツにおけるルールの理解・個々のスキルアップを目指す。 またチームプレイを通して協調性を養う。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	塩嶋 理恵	【第 1 回】 予習：体育実技にふさわしい服装の準備 授業：ガイダンス（授業説明・注意事項） 復習：高等学校で使用した体育館専用シューズの確認			
2	塩嶋 理恵	【第 2 回】 予習：体育実技にふさわしい服装と体育館専用シューズの準備 授業：リラックスヨガ（実習） 復習：リラックスヨガの復習			
3	塩嶋 理恵	【第 3 回】 予習：服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（基本練習・サーブ）（実習） 復習：ソフトバレーボールサーブの復習			
4	塩嶋 理恵	【第 4 回】 予習：ソフトバレーボールのルール確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・ルール説明）（実習） 復習：ソフトバレーボールのルールの復習			
5	塩嶋 理恵	【第 5 回】 予習：ソフトバレーボールのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・マナー）（実習） 復習：ソフトバレーボールのゲームとマナーの復習			
6	塩嶋 理恵	【第 6 回】 予習：ソフトバレーボールのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：ソフトバレーボールのゲームとフォーメーションの復習			
7	塩嶋 理恵	【第 7 回】 予習：ソフトバレーボールゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：ソフトバレーボールのフォーメーションの復習			
8	塩嶋 理恵	【第 8 回】 予習：ソフトバレーボールゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：ソフトバレーボールのゲームとフォーメーションの復習			
9	塩嶋 理恵	【第 9 回】 予習：卓球のフォア・バックの予習 授業：卓球（基本練習、フォア・バック）（実習） 復習：卓球のフォア・バックの復習			
10	塩嶋 理恵	【第 10 回】 予習：卓球のサーブの予習 授業：卓球（基本練習・サーブ）（実習） 復習：卓球のサーブの復習			

11	塩嶋 理恵	【第 11 回】 予習 : 卓球のサーブとレシーブの予習 授業 : 卓球 (基本練習・サーブとレシーブ) (実習) 復習 : 卓球のサーブとレシーブの復習						
12	塩嶋 理恵	【第 12 回】 予習 : 卓球のゲーム・ルールの予習 授業 : 卓球 (ゲーム・ルール説明) (実習) 復習 : 卓球のゲーム・ルールの復習						
13	塩嶋 理恵	【第 13 回】 予習 : 卓球のルールとマナーの予習 授業 : 卓球 (ゲーム・ルールとマナー説明) (実習) 復習 : 卓球のルールとマナーの復習						
14	塩嶋 理恵	【第 14 回】 予習 : 卓球のルールとマナーの予習 授業 : 卓球 (ゲーム・ルールとマナー説明) (実習) 復習 : 卓球のルールとマナーの復習						
15	塩嶋 理恵	【第 15 回】 予習 : 卓球のゲームとルールの予習 授業 : 卓球 (ゲーム・ルールの説明) (実習) 復習 : 卓球のゲームとルールの復習						
授業開始前学習		体育実技にふさわしい服装の準備と高等学校で使用した体育館専用シューズの確認						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 8 回目、14 回目に各種目ごとのゲーム結果を発表し、個人、チーム全体の講評を行う。 個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		特にありません						
参考書								
評価の基準と方法		実技態度 70%、技術・試合評価 30%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				
関連科目	スポーツ I							
その他	人数に応じて、バドミントンや軽スポーツなどの他のスポーツを並行して実施することもあります。 リラックスヨガでは各自バスタオルを準備すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	競技チアリーディング上級指導資格・審査員資格をもち、幼児から大学生までを指導してきた経験を活かし、体のストレッチングや柔軟性を高めるよう授業に取り入れて行う。							

言語表現演習 I

科目分類 (2025 年 ～入学者)		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		100-110-21	授業コード	F02011
科目名称		言語表現演習 I				単位数	1.0 単位
英文名称		Seminar on Japanese Representation I				授業区分	演習
科目責任者		松村 良				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		松村 良				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10				研究室	10-617
授業概要		ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。					
到達目標		大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことや、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	松村 良	【第 1 回】 予習 : 教科書 2 冊 (a と b) を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 授業 : 前期の授業の進め方について説明する。教科書 a「敬語の種類と使い分け」(12～14 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 12～14 頁を復習する。					
2	松村 良	【第 2 回】 予習 : 教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 : 教科書 a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題 (15～17 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 15～17 頁を復習する。					
3	松村 良	【第 3 回】 予習 : 教科書 a の 18～20 頁を読み、21～23 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 : 教科書 a「注意すべき敬語」(18～20 頁) について説明し、練習・応用問題 (21～23 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 18～23 頁を復習する					
4	松村 良	【第 4 回】 予習 : 教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「配慮を示す言葉」(24～26 頁) について説明する。教科書 b「手紙を書こう」(39～46 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。					
5	松村 良	【第 5 回】 予習 : 教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 授業 : 教科書 b「手紙を書こう」(39～46 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。作文課題 1 (手紙文) を授業時間内に書いて提出する (課題解決型学習)。 復習 : 手紙文の書き方を復習する。					
6	松村 良	【第 6 回】 予習 : 教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 : 作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題 (27～29 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 27～29 頁を復習する。					
7	松村 良	【第 7 回】 予習 : 教科書 a の 32～34 頁を読み、35～36 頁の練習問題を予習しておく。 授業 : 教科書 a「品詞・活用の種類」(32～34 頁) について説明してから、練習問題 (35～36 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 32～36 頁を復習する。					
8	松村 良	【第 8 回】 予習 : 教科書 a の 37 頁の応用問題を予習しておく。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「品詞・活用の種類」の応用問題 (37 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 教科書 b「まずは書いてみよう」(5～10 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 37 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。					
9	松村 良	【第 9 回】 予習 : 教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b「よい文章を書くために」(11～18 頁) の「(1)「文」を書くときの注意点」(11～13 頁) について説明してから、作文課題 2 (原稿用紙に書く) を授業時間内に書いて提出する (課題解決型学習)。					

		復習 : 「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。						
10	松村 良	【第 10 回】 予習 : 教科書 b の 11～18 頁を読み直す。 授業 : 作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 b「よい文章を書くために」(11～18 頁) の「(2)「文」から「文章」へ」以降 (13～18 頁) について説明する。 復習 : 教科書 b の 11～18 頁を復習する。						
11	松村 良	【第 11 回】 予習 : 教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。 授業 : 教科書 b「まずは書いてみよう」(5～10 頁) ・「よい文章を書くために」(11～18 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」(38～40 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。						
12	松村 良	【第 12 回】 予習 : 教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題 (41～43 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習) 、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」(44～46 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 41～46 頁を復習する。						
13	松村 良	【第 13 回】 予習 : 教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁) を説明してから、作文課題 3 (論理的な文章) の下書き (構成) を考えさせた上で、宿題にする (課題解決型学習) 。 復習 : 教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	松村 良	【第 14 回】 予習 : 教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 : 教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題 (47～49 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習) 。教科書 a で前期に学んだことを振り返る。 復習 : 教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。						
15	松村 良	【第 15 回】 予習 : 教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。 授業 : 教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。 復習 : 教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著 (東京書籍) b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著 (翰林書房) 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験 (60%) と作文課題・授業内テスト (40%) で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他		毎回、国語辞典 (電子辞書可) を持ってくること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

言語表現演習 I

科目分類 (2025 年 ～入学者)		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		100-110-21	授業コード	F02013
科目名称		言語表現演習 I				単位数	1.0 単位
英文名称		Seminar on Japanese Representation I				授業区分	演習
科目責任者		木内 英実				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		木内 英実				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 16:20～17:50 水曜日 16:20～17:50				研究室	10-620
授業概要		ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。					
到達目標		大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことや、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	木内 英実	【第 1 回】 予習 : 教科書 2 冊 (a と b) を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 授業 : 前期の授業の進め方について説明する。教科書 a「敬語の種類と使い分け」(12～14 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 12～14 頁を復習する。					
2	木内 英実	【第 2 回】 予習 : 教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 : 教科書 a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題 (15～17 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 15～17 頁を復習する。					
3	木内 英実	【第 3 回】 予習 : 教科書 a の 18～20 頁を読み、21～23 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 : 教科書 a「注意すべき敬語」(18～20 頁) について説明し、練習・応用問題 (21～23 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 18～23 頁を復習する					
4	木内 英実	【第 4 回】 予習 : 教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「配慮を示す言葉」(24～26 頁) について説明する。教科書 b「手紙を書こう」(39～46 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。					
5	木内 英実	【第 5 回】 予習 : 教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 授業 : 教科書 b「手紙を書こう」(39～46 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。作文課題 1 (手紙文) を授業時間内に書いて提出する (課題解決型学習)。 復習 : 手紙文の書き方を復習する。					
6	木内 英実	【第 6 回】 予習 : 教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 : 作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題 (27～29 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 27～29 頁を復習する。					
7	木内 英実	【第 7 回】 予習 : 教科書 a の 32～34 頁を読み、35～36 頁の練習問題を予習しておく。 授業 : 教科書 a「品詞・活用の種類」(32～34 頁) について説明してから、練習問題 (35～36 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 32～36 頁を復習する。					
8	木内 英実	【第 8 回】 予習 : 教科書 a の 37 頁の応用問題を予習しておく。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「品詞・活用の種類」の応用問題 (37 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 教科書 b「まずは書いてみよう」(5～10 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 37 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。					
9	木内 英実	【第 9 回】 予習 : 教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b「よい文章を書くために」(11～18 頁) の「(1)「文」を書くときの注意点」(11～13 頁) に					

		ついて説明してから、作文課題 2（原稿用紙に書く）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習：「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。						
10	木内 英実	【第 10 回】 予習：教科書 b の 11～18 頁を読み直す。 授業：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「(2)「文」から「文章」へ」以降（13～18 頁）について説明する。 復習：教科書 b の 11～18 頁を復習する。						
11	木内 英実	【第 11 回】 予習：教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。 授業：教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）・「よい文章を書くために」（11～18 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」（38～40 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。						
12	木内 英実	【第 12 回】 予習：教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題（41～43 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」（44～46 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 41～46 頁を復習する。						
13	木内 英実	【第 13 回】 予習：教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）を説明してから、作文課題 3（論理的な文章）の下書き（構成）を考えさせた上で、宿題にする（課題解決型学習）。 復習：教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	木内 英実	【第 14 回】 予習：教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。 授業：教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題（47～49 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 a で前期に学んだことを振り返る。 復習：教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。						
15	木内 英実	【第 15 回】 予習：教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。 授業：教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。 復習：教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験（60%）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他		毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

言語表現演習 I

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード	F02015	
科目名称		言語表現演習 I				単位数	1.0 単位	
英文名称		Seminar on Japanese Representation I				授業区分	演習	
科目責任者		大内 瑞恵				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		大内 瑞恵				開講時期	1 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。						
到達目標		大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことや、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。						
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	大内 瑞恵	【第 1 回】 予習：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 授業：前期の授業の進め方について説明する。教科書 a「敬語の種類と使い分け」（12～14 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 12～14 頁を復習する。						
2	大内 瑞恵	【第 2 回】 予習：教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習する。 授業：教科書 a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題（15～17 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 15～17 頁を復習する。						
3	大内 瑞恵	【第 3 回】 予習：教科書 a の 18～20 頁を読み、21～23 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業：教科書 a「注意すべき敬語」（18～20 頁）について説明し、練習・応用問題（21～23 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 18～23 頁を復習する						
4	大内 瑞恵	【第 4 回】 予習：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「配慮を示す言葉」（24～26 頁）について説明する。教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。						
5	大内 瑞恵	【第 5 回】 予習：教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 授業：教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。作文課題 1（手紙文）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習：手紙文の書き方を復習する。						
6	大内 瑞恵	【第 6 回】 予習：教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業：作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題（27～29 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 27～29 頁を復習する。						
7	大内 瑞恵	【第 7 回】 予習：教科書 a の 32～34 頁を読み、35～36 頁の練習問題を予習しておく。 授業：教科書 a「品詞・活用の種類」（32～34 頁）について説明してから、練習問題（35～36 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 32～36 頁を復習する。						
8	大内 瑞恵	【第 8 回】 予習：教科書 a の 37 頁の応用問題を予習しておく。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「品詞・活用の種類」の応用問題（37 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 37 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。						
9	大内 瑞恵	【第 9 回】 予習：教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「（1）「文」を書くときの注意点」（11～13 頁）について説明してから、作文課題 2（原稿用紙に書く）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。						

		復習 : 「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。						
10	大内 瑞恵	【第 10 回】 予習 : 教科書 b の 11～18 頁を読み直す。 授業 : 作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 b「よい文章を書くために」(11～18 頁) の「(2)「文」から「文章」へ」以降 (13～18 頁) について説明する。 復習 : 教科書 b の 11～18 頁を復習する。						
11	大内 瑞恵	【第 11 回】 予習 : 教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。 授業 : 教科書 b「まずは書いてみよう」(5～10 頁)・「よい文章を書くために」(11～18 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」(38～40 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。						
12	大内 瑞恵	【第 12 回】 予習 : 教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題 (41～43 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習)、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」(44～46 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 41～46 頁を復習する。						
13	大内 瑞恵	【第 13 回】 予習 : 教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁) を説明してから、作文課題 3 (論理的な文章) の下書き (構成) を考えさせた上で、宿題にする (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	大内 瑞恵	【第 14 回】 予習 : 教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 : 教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題 (47～49 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。教科書 a で前期に学んだことを振り返る。 復習 : 教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。						
15	大内 瑞恵	【第 15 回】 予習 : 教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。 授業 : 教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。 復習 : 教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著 (東京書籍) b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著 (翰林書房) 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験 (60%) と作文課題・授業内テスト (40%) で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他		毎回、国語辞典 (電子辞書可) を持ってくること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

言語表現演習 I

科目分類 (2025 年 ～入学者)		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類 (～2024 年 入学者)		100-110-21		授業コード		F02017					
科目名称		言語表現演習 I						単位数		1.0 単位					
英文名称		Seminar on Japanese Representation I						授業区分		演習					
科目責任者		何 芸凡						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		何 芸凡						開講時期		1 年					
オフィスアワー		前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10						研究室		16-307					
授業概要		ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。													
到達目標		大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことや、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数	担当者		授業の内容												
1	何 芸凡		【第 1 回】 予習 : 教科書 2 冊 (a と b) を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 授業 : 前期の授業の進め方について説明する。教科書 a「敬語の種類と使い分け」(12～14 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 12～14 頁を復習する。												
2	何 芸凡		【第 2 回】 予習 : 教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 : 教科書 a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題 (15～17 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 15～17 頁を復習する。												
3	何 芸凡		【第 3 回】 予習 : 教科書 a の 18～20 頁を読み、21～23 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 : 教科書 a「注意すべき敬語」(18～20 頁) について説明し、練習・応用問題 (21～23 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 18～23 頁を復習する												
4	何 芸凡		【第 4 回】 予習 : 教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「配慮を示す言葉」(24～26 頁) について説明する。教科書 b「手紙を書こう」(39～46 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。												
5	何 芸凡		【第 5 回】 予習 : 教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 授業 : 教科書 b「手紙を書こう」(39～46 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。作文課題 1 (手紙文) を授業時間内に書いて提出する (課題解決型学習)。 復習 : 手紙文の書き方を復習する。												
6	何 芸凡		【第 6 回】 予習 : 教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 : 作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題 (27～29 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 27～29 頁を復習する。												
7	何 芸凡		【第 7 回】 予習 : 教科書 a の 32～34 頁を読み、35～36 頁の練習問題を予習しておく。 授業 : 教科書 a「品詞・活用の種類」(32～34 頁) について説明してから、練習問題 (35～36 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 32～36 頁を復習する。												
8	何 芸凡		【第 8 回】 予習 : 教科書 a の 37 頁の応用問題を予習しておく。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「品詞・活用の種類」の応用問題 (37 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 教科書 b「まずは書いてみよう」(5～10 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 37 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。												
9	何 芸凡		【第 9 回】 予習 : 教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b「よい文章を書くために」(11～18 頁) の「(1)「文」を書くときの注意点」(11～13 頁) について説明してから、作文課題 2 (原稿用紙に書く) を授業時間内に書いて提出する (課題解決型学習)。												

		復習 : 「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。						
10	何 芸 芾	【第 10 回】 予習 : 教科書 b の 11～18 頁を読み直す。 授業 : 作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 b「よい文章を書くために」(11～18 頁) の「(2)「文」から「文章」へ」以降 (13～18 頁) について説明する。 復習 : 教科書 b の 11～18 頁を復習する。						
11	何 芸 芾	【第 11 回】 予習 : 教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。 授業 : 教科書 b「まずは書いてみよう」(5～10 頁) ・「よい文章を書くために」(11～18 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」(38～40 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。						
12	何 芸 芾	【第 12 回】 予習 : 教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題 (41～43 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習)、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」(44～46 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 41～46 頁を復習する。						
13	何 芸 芾	【第 13 回】 予習 : 教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁) を説明してから、作文課題 3 (論理的な文章) の下書き (構成) を考えさせた上で、宿題にする (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	何 芸 芾	【第 14 回】 予習 : 教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 : 教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題 (47～49 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。教科書 a で前期に学んだことを振り返る。 復習 : 教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。						
15	何 芸 芾	【第 15 回】 予習 : 教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。 授業 : 教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。 復習 : 教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著 (東京書籍) b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著 (翰林書房) 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験 (60%) と作文課題・授業内テスト (40%) で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他		毎回、国語辞典 (電子辞書可) を持ってくること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

言語表現演習 I

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21		授業コード		F02019			
科目名称		言語表現演習 I						単位数		1.0 単位			
英文名称		Seminar on Japanese Representation I						授業区分		演習			
科目責任者		中尾 真樹						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		中尾 真樹						開講時期		1 年			
オフィスアワー		-						研究室		-			
授業概要		ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。											
到達目標		大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことや、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。											
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容										
1	中尾 真樹		【第 1 回】 予習：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 授業：前期の授業の進め方について説明する。教科書 a「敬語の種類と使い分け」（12～14 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 12～14 頁を復習する。										
2	中尾 真樹		【第 2 回】 予習：教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習する。 授業：教科書 a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題（15～17 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 15～17 頁を復習する。										
3	中尾 真樹		【第 3 回】 予習：教科書 a の 18～20 頁を読み、21～23 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業：教科書 a「注意すべき敬語」（18～20 頁）について説明し、練習・応用問題（21～23 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 18～23 頁を復習する										
4	中尾 真樹		【第 4 回】 予習：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「配慮を示す言葉」（24～26 頁）について説明する。教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。										
5	中尾 真樹		【第 5 回】 予習：教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 授業：教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。作文課題 1（手紙文）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習：手紙文の書き方を復習する。										
6	中尾 真樹		【第 6 回】 予習：教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業：作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題（27～29 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 27～29 頁を復習する。										
7	中尾 真樹		【第 7 回】 予習：教科書 a の 32～34 頁を読み、35～36 頁の練習問題を予習しておく。 授業：教科書 a「品詞・活用の種類」（32～34 頁）について説明してから、練習問題（35～36 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 32～36 頁を復習する。										
8	中尾 真樹		【第 8 回】 予習：教科書 a の 37 頁の応用問題を予習しておく。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「品詞・活用の種類」の応用問題（37 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 37 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。										
9	中尾 真樹		【第 9 回】 予習：教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「（1）「文」を書くときの注意点」（11～13 頁）について説明してから、作文課題 2（原稿用紙に書く）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。										

		復習 : 「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。						
10	中尾 真樹	【第 10 回】 予習 : 教科書 b の 11～18 頁を読み直す。 授業 : 作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 b「よい文章を書くために」(11～18 頁) の「(2)「文」から「文章」へ」以降 (13～18 頁) について説明する。 復習 : 教科書 b の 11～18 頁を復習する。						
11	中尾 真樹	【第 11 回】 予習 : 教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。 授業 : 教科書 b「まずは書いてみよう」(5～10 頁)・「よい文章を書くために」(11～18 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」(38～40 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。						
12	中尾 真樹	【第 12 回】 予習 : 教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題 (41～43 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習)、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」(44～46 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 41～46 頁を復習する。						
13	中尾 真樹	【第 13 回】 予習 : 教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁) を説明してから、作文課題 3 (論理的な文章) の下書き (構成) を考えさせた上で、宿題にする (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	中尾 真樹	【第 14 回】 予習 : 教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 : 教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題 (47～49 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。教科書 a で前期に学んだことを振り返る。 復習 : 教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。						
15	中尾 真樹	【第 15 回】 予習 : 教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。 授業 : 教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。 復習 : 教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著 (東京書籍) b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著 (翰林書房) 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験 (60%) と作文課題・授業内テスト (40%) で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他		毎回、国語辞典 (電子辞書可) を持ってくること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

言語表現演習Ⅱ

科目分類 (2025 年 ～入学者)		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類 (～2024 年 入学者)		100-110-21		授業コード		F02061			
科目名称		言語表現演習Ⅱ						単位数		1.0 単位			
英文名称		Seminar on Japanese RepresentationⅡ						授業区分		演習			
科目責任者		松村 良						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		松村 良						開講時期		1 年			
オフィスアワー		前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10						研究室		10-617			
授業概要		言語表現演習Ⅰを受け、自分の日本語に関する知識を確認しながら、多くの語彙やさまざまな表現に触れることで、コミュニケーションツールとしての日本語力を高めるための技術を学んでいく。正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につけるために、文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考えたり、実際に文章を書いたりしながら理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。											
到達目標		日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を学んだうえで、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を習得し、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。											
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者			授業の内容									
1	松村 良			【第 1 回】 予習：教科書 2 冊 (a と b) を準備して目を通す。教科書 a の 50～52 頁を読み、53～54 頁の練習問題を予習する。 授業：後期の授業の進め方について説明する。教科書 a「接続語・指示語と文章」(50～52 頁) について説明し、53～54 頁の練習問題の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習：教科書 a の 50～54 頁を復習する。									
2	松村 良			【第 2 回】 予習：教科書 a の 55 頁の応用問題を予習し、58～60 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「接続語・指示語と文章」の応用問題 (55 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習)、「類義語・対義語」(58～60 頁) について説明する。 復習：教科書 a の 55 頁、58～60 頁を復習する。									
3	松村 良			【第 3 回】 予習：教科書 a の 61～63 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 47～52 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「類義語・対義語」の練習・応用問題 (61～63 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習)、教科書 b の「効果的な電子メールとは？」(47～52 頁) について説明する。作文課題 1 (電子メールの文章) を宿題にする (課題解決型学習)。 復習：教科書 a の 61～63 頁、教科書 b の 47～52 頁を復習し、作文課題 1 を書いて Classroom に提出する。									
4	松村 良			【第 4 回】 予習：教科書 b の 23～27 頁を読んでおく。 授業：作文課題 1 について解説する。教科書 b の「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」(23～27 頁) について説明する。 復習：電子メールの書き方と、教科書 b の 23～27 頁を復習する。									
5	松村 良			【第 5 回】 予習：教科書 a の 64～66 頁を読んでおく。教科書 b の 23～27 頁と 47～52 頁を読み直す。 授業：教科書 b「効果的な電子メールとは？」(47～52 頁) と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」(23～27 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。教科書 a の「動詞の自他・視点」(64～66 頁) について説明する。 復習：教科書 a の 64～66 頁を復習する。									
6	松村 良			【第 6 回】 予習：教科書 a の 67～69 頁の練習・応用問題を予習し、70～72 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題 (67～69 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習)、「文体・話し言葉・書き言葉」(70～72 頁) について説明する。 復習：教科書 a の 67～72 頁を復習する。									
7	松村 良			【第 7 回】 予習：教科書 a の 73～75 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 53～57 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題 (73～75 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習)、教科書 b「効果的な文書作成」(53～57 頁) について説明する。 復習：教科書 a の 73～75 頁、教科書 b の 53～57 頁を復習する。									
8	松村 良			【第 8 回】 予習：教科書 b の 53～57 頁を読み直す。 授業：教科書 b「効果的な文書作成」(53～57 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。作文課題 2 (履歴書・エントリーシート) を授業時間内に書いて提出する (課題解決型学習)。									

		復習：履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。						
9	松村 良	【第9回】 予習：教科書 a の 76～78 頁を読んでおく。 授業：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a「コロケーション」（76～78 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 76～78 頁を復習する。						
10	松村 良	【第10回】 予習：教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、84～86 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「コロケーション」の練習・応用問題（79～81 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「部首・音訓・熟語」（84～86 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 79～81 頁と 84～86 頁を復習する。						
11	松村 良	【第11回】 予習：教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題（87～89 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。						
12	松村 良	【第12回】 予習：教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。 復習：冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。						
13	松村 良	【第13回】 予習：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。 授業：教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。作文課題 3（授業で学んだこと）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習：教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	松村 良	【第14回】 予習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）と「敬語を適切に使う」（33～38 頁）について説明する。 復習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。						
15	松村 良	【第15回】 予習：教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。 授業：教科書 b の「敬語を適切に使う」（33～38 頁）の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。 復習：後期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験（60 %）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード	F02063
科目名称		言語表現演習Ⅱ				単位数	1.0 単位
英文名称		Seminar on Japanese RepresentationⅡ				授業区分	演習
科目責任者		木内 英実				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		木内 英実				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 16:20～17:50 水曜日 16:20～17:50				研究室	10-620
授業概要		言語表現演習Ⅰを受け、自分の日本語に関する知識を確認しながら、多くの語彙やさまざまな表現に触れることで、コミュニケーションツールとしての日本語力を高めるための技術を学んでいく。正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につけるために、文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考えたり、実際に文章を書いたりしながら理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。					
到達目標		日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を学んだうえで、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を習得し、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	木内 英実	【第 1 回】 予習：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 50～52 頁を読み、53～54 頁の練習問題を予習する。 授業：後期の授業の進め方について説明する。教科書 a「接続語・指示語と文章」（50～52 頁）について説明し、53～54 頁の練習問題の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 50～54 頁を復習する。					
2	木内 英実	【第 2 回】 予習：教科書 a の 55 頁の応用問題を予習し、58～60 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「接続語・指示語と文章」の応用問題（55 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「類義語・対義語」（58～60 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 55 頁、58～60 頁を復習する。					
3	木内 英実	【第 3 回】 予習：教科書 a の 61～63 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 47～52 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「類義語・対義語」の練習・応用問題（61～63 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「効果的な電子メールとは？」（47～52 頁）について説明する。作文課題 1（電子メールの文章）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 61～63 頁、教科書 b の 47～52 頁を復習し、作文課題 1 を書いて Classroom に提出する。					
4	木内 英実	【第 4 回】 予習：教科書 b の 23～27 頁を読んでおく。 授業：作文課題 1 について解説する。教科書 b の「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27 頁）について説明する。 復習：電子メールの書き方と、教科書 b の 23～27 頁を復習する。					
5	木内 英実	【第 5 回】 予習：教科書 a の 64～66 頁を読んでおく。教科書 b の 23～27 頁と 47～52 頁を読み直す。 授業：教科書 b「効果的な電子メールとは？」（47～52 頁）と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。教科書 a の「動詞の自他・視点」（64～66 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 64～66 頁を復習する。					
6	木内 英実	【第 6 回】 予習：教科書 a の 67～69 頁の練習・応用問題を予習し、70～72 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題（67～69 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文体・話し言葉・書き言葉」（70～72 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 67～72 頁を復習する。					
7	木内 英実	【第 7 回】 予習：教科書 a の 73～75 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 53～57 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題（73～75 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b「効果的な文書作成」（53～57 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 73～75 頁、教科書 b の 53～57 頁を復習する。					
8	木内 英実	【第 8 回】 予習：教科書 b の 53～57 頁を読み直す。 授業：教科書 b「効果的な文書作成」（53～57 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。作文課題 2（履歴書・エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。					

		復習：履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。						
9	木内 英実	【第9回】 予習：教科書 a の 76～78 頁を読んでおく。 授業：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a「コロケーション」（76～78 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 76～78 頁を復習する。						
10	木内 英実	【第10回】 予習：教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、84～86 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「コロケーション」の練習・応用問題（79～81 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「部首・音訓・熟語」（84～86 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 79～81 頁と 84～86 頁を復習する。						
11	木内 英実	【第11回】 予習：教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題（87～89 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。						
12	木内 英実	【第12回】 予習：教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。 復習：冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。						
13	木内 英実	【第13回】 予習：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。 授業：教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。作文課題 3（授業で学んだこと）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習：教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	木内 英実	【第14回】 予習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）と「敬語を適切に使う」（33～38 頁）について説明する。 復習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。						
15	木内 英実	【第15回】 予習：教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。 授業：教科書 b の「敬語を適切に使う」（33～38 頁）の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。 復習：後期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験（60 %）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード	F02065
科目名称		言語表現演習Ⅱ				単位数	1.0 単位
英文名称		Seminar on Japanese RepresentationⅡ				授業区分	演習
科目責任者		大内 瑞恵				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		大内 瑞恵				開講時期	1 年
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		言語表現演習Ⅰを受け、自分の日本語に関する知識を確認しながら、多くの語彙やさまざまな表現に触れることで、コミュニケーションツールとしての日本語力を高めるための技術を学んでいく。正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につけるため に、文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考えたり、実際に文章を書いたりしながら 理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。					
到達目標		日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を学 んだうえで、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を習得し、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本 語についての知識と教養を深め、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	大内 瑞恵	【第 1 回】 予習：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 50～52 頁を読み、53～54 頁の練習問題を 予習する。 授業：後期の授業の進め方について説明する。教科書 a「接続語・指示語と文章」（50～52 頁）について説明 し、53～54 頁の練習問題の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 50～54 頁を復習する。					
2	大内 瑞恵	【第 2 回】 予習：教科書 a の 55 頁の応用問題を予習し、58～60 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「接続語・指示語と文章」の応用問題（55 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学 習）、「類義語・対義語」（58～60 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 55 頁、58～60 頁を復習する。					
3	大内 瑞恵	【第 3 回】 予習：教科書 a の 61～63 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 47～52 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「類義語・対義語」の練習・応用問題（61～63 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決 型学習）、教科書 b の「効果的な電子メールとは？」（47～52 頁）について説明する。作文課題 1（電子メー ルの文章）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 61～63 頁、教科書 b の 47～52 頁を復習し、作文課題 1 を書いて Classroom に提出 する。					
4	大内 瑞恵	【第 4 回】 予習：教科書 b の 23～27 頁を読んでおく。 授業：作文課題 1 について解説する。教科書 b の「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27 頁）について説明する。 復習：電子メールの書き方と、教科書 b の 23～27 頁を復習する。					
5	大内 瑞恵	【第 5 回】 予習：教科書 a の 64～66 頁を読んでおく。教科書 b の 23～27 頁と 47～52 頁を読み直す。 授業：教科書 b「効果的な電子メールとは？」（47～52 頁）と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作 成」（23～27 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。教科書 a の「動詞の自他・視点」（64 ～66 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 64～66 頁を復習する。					
6	大内 瑞恵	【第 6 回】 予習：教科書 a の 67～69 頁の練習・応用問題を予習し、70～72 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題（67～69 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決 型学習）、「文体・話し言葉・書き言葉」（70～72 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 67～72 頁を復習する。					
7	大内 瑞恵	【第 7 回】 予習：教科書 a の 73～75 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 53～57 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題（73～75 頁）の答え合わせと解説を行い （課題解決型学習）、教科書 b「効果的な文書作成」（53～57 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 73～75 頁、教科書 b の 53～57 頁を復習する。					
8	大内 瑞恵	【第 8 回】 予習：教科書 b の 53～57 頁を読み直す。 授業：教科書 b「効果的な文書作成」（53～57 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。作 文課題 2（履歴書・エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。					

		復習：履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。						
9	大内 瑞恵	【第9回】 予習：教科書 a の 76～78 頁を読んでおく。 授業：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a「コロケーション」（76～78 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 76～78 頁を復習する。						
10	大内 瑞恵	【第10回】 予習：教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、84～86 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「コロケーション」の練習・応用問題（79～81 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「部首・音訓・熟語」（84～86 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 79～81 頁と 84～86 頁を復習する。						
11	大内 瑞恵	【第11回】 予習：教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題（87～89 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。						
12	大内 瑞恵	【第12回】 予習：教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。 復習：冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。						
13	大内 瑞恵	【第13回】 予習：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。 授業：教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。作文課題 3（授業で学んだこと）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習：教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	大内 瑞恵	【第14回】 予習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）と「敬語を適切に使う」（33～38 頁）について説明する。 復習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。						
15	大内 瑞恵	【第15回】 予習：教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。 授業：教科書 b の「敬語を適切に使う」（33～38 頁）の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。 復習：後期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験（60 %）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

言語表現演習Ⅱ

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード	F02067
科目名称		言語表現演習Ⅱ				単位数	1.0 単位
英文名称		Seminar on Japanese RepresentationⅡ				授業区分	演習
科目責任者		何 芸 凡				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		何 芸 凡				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10				研究室	16-307
授業概要		言語表現演習Ⅰを受け、自分の日本語に関する知識を確認しながら、多くの語彙やさまざまな表現に触れることで、コミュニケーションツールとしての日本語力を高めるための技術を学んでいく。正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につけるために、文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考えたり、実際に文章を書いたりしながら理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。					
到達目標		日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を学んだうえで、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を習得し、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	何 芸 凡	【第 1 回】 予習：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 50～52 頁を読み、53～54 頁の練習問題を予習する。 授業：後期の授業の進め方について説明する。教科書 a「接続語・指示語と文章」（50～52 頁）について説明し、53～54 頁の練習問題の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 50～54 頁を復習する。					
2	何 芸 凡	【第 2 回】 予習：教科書 a の 55 頁の応用問題を予習し、58～60 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「接続語・指示語と文章」の応用問題（55 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「類義語・対義語」（58～60 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 55 頁、58～60 頁を復習する。					
3	何 芸 凡	【第 3 回】 予習：教科書 a の 61～63 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 47～52 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「類義語・対義語」の練習・応用問題（61～63 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「効果的な電子メールとは？」（47～52 頁）について説明する。作文課題 1（電子メールの文章）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 61～63 頁、教科書 b の 47～52 頁を復習し、作文課題 1 を書いて Classroom に提出する。					
4	何 芸 凡	【第 4 回】 予習：教科書 b の 23～27 頁を読んでおく。 授業：作文課題 1 について解説する。教科書 b の「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27 頁）について説明する。 復習：電子メールの書き方と、教科書 b の 23～27 頁を復習する。					
5	何 芸 凡	【第 5 回】 予習：教科書 a の 64～66 頁を読んでおく。教科書 b の 23～27 頁と 47～52 頁を読み直す。 授業：教科書 b「効果的な電子メールとは？」（47～52 頁）と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。教科書 a の「動詞の自他・視点」（64～66 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 64～66 頁を復習する。					
6	何 芸 凡	【第 6 回】 予習：教科書 a の 67～69 頁の練習・応用問題を予習し、70～72 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題（67～69 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文体・話し言葉・書き言葉」（70～72 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 67～72 頁を復習する。					
7	何 芸 凡	【第 7 回】 予習：教科書 a の 73～75 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 53～57 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題（73～75 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b「効果的な文書作成」（53～57 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 73～75 頁、教科書 b の 53～57 頁を復習する。					
8	何 芸 凡	【第 8 回】 予習：教科書 b の 53～57 頁を読み直す。 授業：教科書 b「効果的な文書作成」（53～57 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。作文課題 2（履歴書・エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。					

		復習：履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。						
9	何 芸 芾	【第 9 回】 予習：教科書 a の 76～78 頁を読んでおく。 授業：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a「コロケーション」（76～78 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 76～78 頁を復習する。						
10	何 芸 芾	【第 10 回】 予習：教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、84～86 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「コロケーション」の練習・応用問題（79～81 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「部首・音訓・熟語」（84～86 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 79～81 頁と 84～86 頁を復習する。						
11	何 芸 芾	【第 11 回】 予習：教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題（87～89 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。						
12	何 芸 芾	【第 12 回】 予習：教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。 復習：冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。						
13	何 芸 芾	【第 13 回】 予習：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。 授業：教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。作文課題 3（授業で学んだこと）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習：教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	何 芸 芾	【第 14 回】 予習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）と「敬語を適切に使う」（33～38 頁）について説明する。 復習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。						
15	何 芸 芾	【第 15 回】 予習：教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。 授業：教科書 b の「敬語を適切に使う」（33～38 頁）の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。 復習：後期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験（60 %）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21		授業コード		F02069			
科目名称		言語表現演習Ⅱ						単位数		1.0 単位			
英文名称		Seminar on Japanese RepresentationⅡ						授業区分		演習			
科目責任者		中尾 真樹						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		中尾 真樹						開講時期		1 年			
オフィスアワー		-						研究室		-			
授業概要		言語表現演習Ⅰを受け、自分の日本語に関する知識を確認しながら、多くの語彙やさまざまな表現に触れることで、コミュニケーションツールとしての日本語力を高めるための技術を学んでいく。正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につけるために、文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考えたり、実際に文章を書いたりしながら理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。											
到達目標		日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を学んだうえで、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を習得し、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。											
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容										
1	中尾 真樹		【第 1 回】 予習：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 50～52 頁を読み、53～54 頁の練習問題を予習する。 授業：後期の授業の進め方について説明する。教科書 a「接続語・指示語と文章」（50～52 頁）について説明し、53～54 頁の練習問題の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 50～54 頁を復習する。										
2	中尾 真樹		【第 2 回】 予習：教科書 a の 55 頁の応用問題を予習し、58～60 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「接続語・指示語と文章」の応用問題（55 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「類義語・対義語」（58～60 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 55 頁、58～60 頁を復習する。										
3	中尾 真樹		【第 3 回】 予習：教科書 a の 61～63 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 47～52 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「類義語・対義語」の練習・応用問題（61～63 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「効果的な電子メールとは？」（47～52 頁）について説明する。作文課題 1（電子メールの文章）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 61～63 頁、教科書 b の 47～52 頁を復習し、作文課題 1 を書いて Classroom に提出する。										
4	中尾 真樹		【第 4 回】 予習：教科書 b の 23～27 頁を読んでおく。 授業：作文課題 1 について解説する。教科書 b の「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27 頁）について説明する。 復習：電子メールの書き方と、教科書 b の 23～27 頁を復習する。										
5	中尾 真樹		【第 5 回】 予習：教科書 a の 64～66 頁を読んでおく。教科書 b の 23～27 頁と 47～52 頁を読み直す。 授業：教科書 b「効果的な電子メールとは？」（47～52 頁）と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。教科書 a の「動詞の自他・視点」（64～66 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 64～66 頁を復習する。										
6	中尾 真樹		【第 6 回】 予習：教科書 a の 67～69 頁の練習・応用問題を予習し、70～72 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題（67～69 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文体・話し言葉・書き言葉」（70～72 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 67～72 頁を復習する。										
7	中尾 真樹		【第 7 回】 予習：教科書 a の 73～75 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 53～57 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題（73～75 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b「効果的な文書作成」（53～57 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 73～75 頁、教科書 b の 53～57 頁を復習する。										
8	中尾 真樹		【第 8 回】 予習：教科書 b の 53～57 頁を読み直す。 授業：教科書 b「効果的な文書作成」（53～57 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。作文課題 2（履歴書・エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。										

		復習：履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。						
9	中尾 真樹	【第9回】 予習：教科書 a の 76～78 頁を読んでおく。 授業：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a「コロケーション」（76～78 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 76～78 頁を復習する。						
10	中尾 真樹	【第10回】 予習：教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、84～86 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「コロケーション」の練習・応用問題（79～81 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「部首・音訓・熟語」（84～86 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 79～81 頁と 84～86 頁を復習する。						
11	中尾 真樹	【第11回】 予習：教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題（87～89 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。						
12	中尾 真樹	【第12回】 予習：教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。 復習：冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。						
13	中尾 真樹	【第13回】 予習：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。 授業：教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。作文課題 3（授業で学んだこと）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習：教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	中尾 真樹	【第14回】 予習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）と「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）について説明する。 復習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。						
15	中尾 真樹	【第15回】 予習：教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。 授業：教科書 b の「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。 復習：後期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験（60 %）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02111
科目名称	☆英語(会話表現) I			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishA I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	バラダッドリチャード			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	R.バラダッド			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	インタラクティブな練習を通じて英語の聞き取りと会話を体感します。英語会話表現 I では、英語の基礎的な運用能力の習得のために「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。英語のコミュニケーションスキルを高めることを目的とする				
到達目標	この授業では、さまざまな楽しく興味深いリスニングや発音、スピーキングアクティビティ（個人、ペア、グループアクティビティなど）を通して、英語を話す力、および理解力を向上させることに焦点を当てます。基本的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。基本的な英語表現を使って、日常的なトピックについて自分の考えを述べたり、やりとりをすることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	R.バラダッド	【第 1 回】 予習 : Read pp. 8-11 授業 : Self-Introductions/Course goals, Q&A, get to know other 復習 : Review notes/ Do homework			
2	R.バラダッド	【第 2 回】 予習 : Read pp. 12-15 授業 : Hobbies, Interests, pair work 復習 : Review notes/ Do homework			
3	R.バラダッド	【第 3 回】 予習 : Read pp. 16-19 授業 : Personal Questions, group work 復習 : Review notes/ Do homework/ Do GC video presentation 1			
4	R.バラダッド	【第 4 回】 予習 : Read pp. 20-23 授業 : Appearance adjectives, pair work, Unit 1 Quiz 復習 : Review notes/ Do homework			
5	R.バラダッド	【第 5 回】 予習 : Read pp. 24-27 授業 : Describing friends, group work 復習 : Review notes/ Do homework/ Do GC video presentation 2			
6	R.バラダッド	【第 6 回】 予習 : Read pp. 28-31 授業 : Describing routines and schedules, pair work, Unit 2 Quiz 復習 : Review notes/ Do homework			
7	R.バラダッド	【第 7 回】 予習 : Read pp. 32-35 授業 : Talking about things you do, group work 復習 : Review notes/ Do homework			
8	R.バラダッド	【第 8 回】 予習 : Prepare for quiz 授業 : Quiz for units 1-3 / Speaking exercise in pairs 復習 : Preview Unit 4 / Do homework			
9	R.バラダッド	【第 9 回】 予習 : Read pp. 36-39 授業 : Talking about locations, furniture and household furnishings, pair work 復習 : Review notes/ Do homework			
10	R.バラダッド	【第 10 回】 予習 : Read pp. 40-43 授業 : Describing a place that is special for you, group work 復習 : Review notes/ Do homework			
11	R.バラダッド	【第 11 回】 予習 : Read pp. 44-47 授業 : Giving directions; stores and services, pair work, Unit 4 Quiz			

		復習 : Review notes/ Do homework						
12	R.バラダッド	【第 12 回】 予習 : Read pp. 48-51 授業 : Giving and understanding map directions, group work 復習 : Review notes/ Do homework						
13	R.バラダッド	【第 13 回】 予習 : Read pp. 52-55 授業 : Talking about important life events and past activities, pair work, Unit 5 Quiz 復習 : Review notes/ Do homework / Do GC video presentation 3						
14	R.バラダッド	【第 14 回】 予習 : Read pp. 56-59 授業 : Talking about your experiences, group work 復習 : Review notes/ Do homework						
15	R.バラダッド	【第 15 回】 予習 : Prepare for quiz 授業 : Quiz for units 4 - 6 / Speaking exercise in pairs 復習 : Do Portal evaluations in class (after quiz)						
授業開始前学習		映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。授業 7 回目、1 3 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、1 5 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		English Firsthand 1, 5th Edition (Marc Helgesen), Pearson						
参考書								
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始 3 0 分以上の遅刻は欠席をみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）+ 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02112
科目名称	☆英語(会話表現) I			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishA I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	R.ヨシダ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	R.ヨシダ			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English (Conversational Expressions) I lessons are aimed at integrating the four skills (listening, speaking, reading and writing) through group works, discussions, presentations, etc. to develop basic functional ability in English. English (Conversational Expressions) I has a particular focus on improving the productive skills of speaking and writing. The lessons are designed to help develop students' confidence and fluency in communicating in English through the use of various vocabulary, essential grammar and engaging topics. In principle, lessons are conducted in English.				
到達目標	English (Conversational Expressions) I aims to improve students' confidence and proficiency in their spoken and written English. With the guidance of the teacher, students speak and write English using basic syntax. Each student will have many opportun				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－ 複数教員の場 合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	R.ヨシダ	【第 1 回】 予習 : Don't forget your textbook! 授業 : Class orientation; Unit 0 (pp.8-11); Unit 1 (pp.12-14): Personal information - vocabulary; listening; conversation 復習 : Vocabulary review			
2	R.ヨシダ	【第 2 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 1 (pp.15-18): Personal information - grammar; pair/group work; discussions 復習 : Grammar review			
3	R.ヨシダ	【第 3 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 2 (pp.20-22): Appearance - vocabulary; listening; conversation 復習 : Vocabulary review			
4	R.ヨシダ	【第 4 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 2 (pp.23-26): Appearance - grammar; pair/group work; discussions 復習 : Grammar review			
5	R.ヨシダ	【第 5 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 3 (pp.28-30): Daily activities - vocabulary; listening; conversation 復習 : Vocabulary review			
6	R.ヨシダ	【第 6 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 3 (pp.31-35): Daily activities - grammar; pair/group work; discussions 復習 : Vocabulary review			
7	R.ヨシダ	【第 7 回】 予習 : preparation for Midterm Task 1 授業 : Midterm Task 1: Students submit a review of content learned in Units 0-3; Preparation for Midterm Task 2 復習 : Grammar & Vocabulary review			
8	R.ヨシダ	【第 8 回】 予習 : preparation for Midterm Task 2 授業 : Midterm Task 2 (speaking): Students give individual presentations 復習 : Grammar & Vocabulary review			

9	R.ヨシダ	【第 9 回】 予習 : Vocabulary 授業 : Students receive feedback on Midterm Task 1 (writing) and Task 2 (speaking); Unit 4 (pp.36-38): Locations - vocabulary; listening; conversation 復習 : Vocabulary review						
10	R.ヨシダ	【第 10 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 4 (pp.39-42): Locations - grammar; pair/group work; discussions 復習 : Grammar review						
11	R.ヨシダ	【第 11 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 5 (pp.44-46): Directions - vocabulary; listening; conversation 復習 : Vocabulary review						
12	R.ヨシダ	【第 12 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 5 (pp.47-51): Directions - grammar; pair/group work; discussions 復習 : Grammar review						
13	R.ヨシダ	【第 13 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 6 (pp.52-59): Past events - vocabulary; listening; grammar; pair/group work; discussions 復習 : Grammar & Vocabulary review						
14	R.ヨシダ	【第 14 回】 予習 : preparation for Final Task 1 授業 : Final Task 1: Students submit a review of content learned in Units 4-6; Preparation for Final Task 2 復習 : Grammar & Vocabulary review						
15	R.ヨシダ	【第 15 回】 予習 : preparation for Final Task 2 授業 : Final Task 2 (speaking): Students give individual presentations 復習 : Self reflection						
授業開始前学習		Take every opportunity to encounter and enjoy English through movies, music, TV, the Internet, etc.						
授業内課題のフィードバックの方法		- Each "Review Quiz" (weekly quiz given at the beginning of each class) will be marked and returned in the following week. - A written feedback will be provided for each Midterm and Final task.						
テキスト・教材		English Firsthand 1 (Pearson) ISBN: 978-981-313-022-7						
参考書		Information will be given in class						
評価の基準と方法		Students are evaluated on a total of class participation points 40% (review quizzes, submitted assignments, effort & attitude) and midterm and final tasks 60% (midterm 30% & final 30%).						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席重視。最低限必要な出席率: 2/3 It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02113
科目名称	☆英語(会話表現) I			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishA I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.オーズランド			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.オーズランド			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AI is aimed at integrating the four skills (listening, speaking, reading and writing) through group work, discussions, presentations etc. to develop basic functional ability in English. English AI has a particular focus on improving the productive skills of writing and speaking.				
到達目標	Students speak and write basic English using basic syntax.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	M.オーズランド	【第 1 回】 予習 : Overview unit 1. Prepare a short introductory speech (2 minutes). 授業 : Unit 1; Where are you from? Introductions and greetings. pp.2-4. Pair-work, groupwork. 復習 : Review unit pp.2-4			
2	M.オーズランド	【第 2 回】 予習 : Overview unit 1 pp. 5-7 授業 : Unit 1 continued; pp.5-7. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習 : Review unit 1.			
3	M.オーズランド	【第 3 回】 予習 : Overview Unit 2. 授業 : Unit 2; What do you do? Asking for and giving opinions. pp.8-10. Pair-work, groupwork, discussions. 復習 : Review unit 2 pp.8-10.			
4	M.オーズランド	【第 4 回】 予習 : Overview unit 2 pp.11-13 授業 : Unit 2 continued. pp.11-13. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習 : Review unit 2.			
5	M.オーズランド	【第 5 回】 予習 : Overview Unit 3. 授業 : Unit 3; How much are these? Shopping and prices. pp.16-18. Pair-work, groupwork, discussion. 復習 : Review unit 3 pp.16-18			
6	M.オーズランド	【第 6 回】 予習 : Overview Unit 3 pp.19-21 授業 : Unit 3 continued. Pp.19-21. Pair-work, groupwork, writing exercise, short presentation. 復習 : Review Unit 3.			
7	M.オーズランド	【第 7 回】 予習 : Review units 1-3. Prepare a short, written report. 授業 : General Comprehension exercises. 復習 : Reflect on personal performance and skills that need more work.			
8	M.オーズランド	【第 8 回】 予習 : Overview Unit 4. 授業 : Unit 4; Do you play the guitar? Likes and dislikes. pp.22-24. Pair-work, groupwork. 復習 : Review Unit 4 pp.22-24			
9	M.オーズランド	【第 9 回】 予習 : Overview Unit 4 pp.25-27. 授業 : Unit 4 continued. pp.25-27. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習 : Review Unit 4			
10	M.オーズランド	【第 10 回】 予習 : Overview Unit 6. 授業 : Unit 6; How often do you run? Describing routines, discussing exercise/sports. pp.36-38. Pair-work, groupwork.			

		復習 : Review Unit 6 pp.36-38						
11	M.オーズランド	【第 11 回】 予習 : Overview Unit 6 pp.39-41. 授業 : Unit 6 continued; pp.39-41. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習 : Review Unit 6.						
12	M.オーズランド	【第 12 回】 予習 : Overview Unit 7. 授業 : We went dancing; Talking about past events and experiences. pp.44-46. Pair-work, groupwork. 復習 : Review pp.44-46						
13	M.オーズランド	【第 13 回】 予習 : Overview Unit 7 pp.47-49. 授業 : Unit 7 continued; pp.47-49. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習 : Review Unit 7.						
14	M.オーズランド	【第 14 回】 予習 : Overview Unit 8. 授業 : Unit 8; How's the neighbourhood? Asking about and describing locations pp.50-52. Pair-work, groupwork. 復習 : Review unit 8.						
15	M.オーズランド	【第 15 回】 予習 : Review units 4,6,7 and 8. Prepare a short, written report. 授業 : General comprehension exercises. 復習 : Reflect on personal performance and skills that need more work.						
授業開始前学習		Prepare yourself to actively participate in classes in English. Consider your strong points and those that need improvement. Focus on topics that interest you, review vocabulary and listen to as much English as possible before the course.						
授業内課題のフィードバックの方法		Students take a quiz at the beginning of every class or submit assignments and comprehensive feedback on these will be provided. Any questions from individual students will be answered.						
テキスト・教材		Richards, R.C, Hull, J., Proctor, S., Interchange 1 Students Book (Cambridge: C.U.P., 2020) ISBN: 978-1-316-62031-1						
参考書								
評価の基準と方法		Students are evaluated on a total of class participation points 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examination 60%.						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02114
科目名称	☆英語(会話表現) I			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishA I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AI is aimed at integrating the four skills (listening, speaking, reading, and writing) through group work, discussions, presentations, etc., to develop basic functional ability in English. English AI has a particular focus on improving the productive skills of writing and speaking. In principle, classes will be conducted entirely in English.				
到達目標	Students speak and write basic English using basic syntax.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習 : Read Unit 0 'Welcome to English Firsthand 1', p.8-11 授業 : Course goals and structure will be explained. Q & A activities (pair work) 復習 : Review notes			
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 : Read Unit 1 'It's nice to meet you.', p.12-16 授業 : Build vocabulary about hobbies, interests, and occupations to use in dialogues (pair work) 復習 : Review notes			
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 : Finish Reading Unit 1 'It's nice to meet you.', p.17-19 授業 : Grammar: Q & A using simple present form / Group work / Real Stories: 'My Introduction' 復習 : Review notes / Do homework: Unit 1 Assignment in Google Classroom			
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 : Read Unit 2 'Who are they talking about?', p.20-24 授業 : Build vocabulary about appearance to use in model dialogues (pair work) 復習 : Review notes			
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 : Finish Reading Unit 2 'Who are they talking about?', p.25-27 授業 : Grammar: Using simple present: be vs. have / Group work / Real Stories: 'My Family' 復習 : Review notes / Do homework: Unit 2 Assignment in Google Classroom			
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 : Read Unit 3 'When do you start?', p.28-32 授業 : Build vocabulary about daily activities to use in model dialogues (pair work) 復習 : Review notes			
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 : Finish Reading Unit 3 'When do you start?', p.33-35 授業 : Grammar: Using adverbs of frequency / Group work / Real Stories: 'My Routine' 復習 : Review notes / Do homework: Unit 3 Assignment in Google Classroom			
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 : Review all homework assignments and textbook p. 12-35 授業 : Midterm Quiz of Unit 1 ~ Unit 3 復習 : Reread textbook p. 36-40			
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 : Read Unit 4 'Where does this go?', p.36-40 授業 : Build vocabulary about locations to use in model dialogues (pair work) 復習 : Review notes			
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 : Finish Reading Unit 4 'Where does this go?', p.41-43 授業 : Grammar: Using to, at, from, on, in, with directions / Group work / Real Stories: 'My Room'			

		復習 : Review notes / Do homework: Unit 4 Assignment in Google Classroom						
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 : Read Unit 5 'How do I get there?', p.44-48 授業 : Build vocabulary about directions to use in model dialogues (pair work) 復習 : Review notes						
12	W.ミラー	【第 12 回】 予習 : Finish Reading Unit 5 'How do I get there?', p.49-51 授業 : Grammar: Using prepositions with there is and there are / Group work / Real Stories: 'My Farewell Party' 復習 : Review notes / Do homework: Unit 5 Assignment in Google Classroom						
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習 : Read Unit 6 'What happened?', p.52-56 授業 : Build vocabulary about important life events, leisure activities to use in model dialogues (pair work) 復習 : Review notes						
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習 : Finish Reading Unit 6 'What happened?', p.57-59 授業 : Grammar: Using the past tense: Irregular verbs / Group work / Real Stories: 'My Trip' 復習 : Review notes / Do homework: Unit 6 Assignment in Google Classroom						
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習 : Review all homework assignments and textbook p. 36-59 授業 : Final Quiz of Unit 4 ~ Unit 6 復習 : Complete course Questionnaire on the Komajo Portal.						
授業開始前学習		Practice listening to spoken English through videos or audio recordings and read English books, magazines, or comics. Look up unknown words in a dictionary.						
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students for tasks and assignments. Students are encouraged to ask questions, which the teacher will answer.						
テキスト・教材		English Firsthand 1 (Fifth Edition), Pearson Longman, by Helgesen et al						
参考書								
評価の基準と方法		Students are evaluated on total class participation, which is 40% of grade (quizzes, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations are 60% of grade.						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02115
科目名称	☆英語(会話表現) I			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishA I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.				
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English. They will be able to have a basic conversation in English.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	K.バーンズ	The topics of the class will follow the text book. 【第 1 回】予習 : Read pp. 8 -11 in the textbook 授業 : Self-Introductions/Course goals/Pairwork-Q&A activities to get to know each other 復習 : Review notes/ Do homework			
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 : Read pp. 12-19 授業 : Hobbies and Interests/Pairwork 復習 : Review notes/ Do homework			
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 : Read pp. 20-24 授業 : Appearance adjectives/Pairwork 復習 : Review notes/ Do homework			
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 : Read pp. 25 -27 授業 : Simple Present Pairwork and Group work 復習 : Review notes/ Do homework			
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 : Read pp. 28-32 授業 : Daily activities and routines Pairwork and Discussion 復習 : Review notes/ Do homework			
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 : Read pp. 33-35 授業 : Adverbs of Frequency Pairwork 復習 : Review notes/ Do homework			
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review - Pairwork 復習 : Reread textbook pp.8 -24			
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review/Group Work prepare a Group Presentation (Project Based Learning) 復習 : Reread textbook pp.25-35			
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 : Read pp. 36-39 授業 : Furniture, household furnishing, and locations/Group Work - Prepare a Presentation (Project Based Learning) 復習 : Review notes/ Do homework			
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 : Read pp. 40-43 授業 : Prepositions-There is and There are/ Pairwork / Groupwork - Perform Presentations (Project Based Learning)			

		復習 : Review notes/ Do homework						
11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習 : Read pp. 44-47 授業 : Giving Directions - Pairwork 復習 : Review notes/ Do homework						
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習 : Read pp. 48-51 授業 : To,at,from,on,in with directions - Pairwork and Discussion 復習 : Review notes/ Do homework						
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習 : Read pp. 52-55 授業 : Important life events,past activities Pairwork and Group work 復習 : Review notes/ Do homework						
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習 : Read pp. 56-59 授業 : Talk about a trip you took - Pairwork 復習 : Review notes/ Do homework						
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Reread textbook pp.36-59						
授業開始前学習		Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics. Look up words in the dictionary.						
授業内課題のフィードバックの方法		Comprehensive feedback will be provided on coursework. Once class starts, evaluated homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.						
テキスト・教材		English Firsthand 1 by Helgesen et al (Pearson Longman)						
参考書								
評価の基準と方法		Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations 60%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目	English Conversation							
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted a							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

☆英語(会話表現) I

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）	100-110-21	授業コード	F02116	
科目名称	☆英語(会話表現) I			単位数	1.0 単位	
英文名称	EnglishA I			授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	鈴木 悠理			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	鈴木 悠理			開講時期	1 年	
オフィスアワー	-			研究室	-	
授業概要	本科目では、英語の基礎的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」を中心に英語を発信する能力の向上を目標とする。					
到達目標	基本的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	鈴木 悠理	【第 1 回】 予習：シラバスを確認する。今までの英語学習を振り返り、復習する。 授業：ガイダンス（授業概要、到達目標、授業の進め方について） 復習：ガイダンスをもとに、前期の目標を立てる。テキストを用意する。Google Classroom に登録する。				
2	鈴木 悠理	【第 2 回】 予習：Unit 1 の音声を聞き、音読する。Unit 1 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 1（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。				
3	鈴木 悠理	【第 3 回】 予習：Unit 1 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 1（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 1（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。				
4	鈴木 悠理	【第 4 回】 予習：Unit 2 の音声を聞き、音読する。Unit 2 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 2（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。				
5	鈴木 悠理	【第 5 回】 予習：Unit 2 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 2（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 2（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。				
6	鈴木 悠理	【第 6 回】 予習：Unit 3 の音声を聞き、音読する。Unit 3 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 3（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。				
7	鈴木 悠理	【第 7 回】 予習：Unit 3 の音声を聞き、音読する。 授業：Unit 3（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 3（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。				
8	鈴木 悠理	【第 8 回】 予習：Unit 1～3 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 1～3 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。				
9	鈴木 悠理	【第 9 回】 予習：Unit 4 の音声を聞き、音読する。Unit 4 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 4（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。				
10	鈴木 悠理	【第 10 回】 予習：Unit 4 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 4（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 4（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。				

11	鈴木 悠理	【第 11 回】 予習：Unit 5 の音声を読み、音読する。Unit 5 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 5（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。						
12	鈴木 悠理	【第 12 回】 予習：Unit 5 の音声を読み、音読する。 授業：Unit 5（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 5（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。						
13	鈴木 悠理	【第 13 回】 予習：Unit 6 の音声を読み、音読する。Unit 6 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 6（全体）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。						
14	鈴木 悠理	【第 14 回】 予習：Unit 4～6 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 4～6 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。						
15	鈴木 悠理	【第 15 回】 予習：Unit 1～6 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 1～6 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。						
授業開始前学習		時事ニュースや文化（映画・音楽・ファッションなど）を通して英語に触れる機会を持つこと。 これまでの英語学習を振り返ること。						
授業内課題のフィードバックの方法		約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目に授業内容の復習を行い、クラスおよび個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		VELC 研究会教育開発グループ（編）『AMBITIONS Beginner 4 技能統合型で学ぶ英語コース：入門編』金星堂						
参考書		英和辞典・和英辞典があるとよい（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		平常点 40%（授業参加態度、小テスト、課題提出など）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

☆英語(会話表現) I

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード	F02117
科目名称		☆英語(会話表現) I				単位数	履修ガイド参照
英文名称		EnglishA I				授業区分	演習・実習・実技
科目責任者		中川 優一				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		中川 優一				開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		高校までの英語学習を基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。日常生活において、数字や品物の値段の確認、日付、曜日等の、必要であると同時に重要な情報を正確に聞き取ったり、伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるかを意識しながら、会話や英作文での表現の幅を広げる。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。					
到達目標		基本的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	中川 優一	第 1 回 予習：教科書や辞書の確認をする。自分の今までの英語学習を振り返り、今学期の目標を考える。 授業：オリエンテーション（授業のねらいと課題解決型学習について）。 復習：授業の内容を振り返る。ワークシート。					
2	中川 優一	第 2 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 5-7）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 1 It's So Nice to Meet You! 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。					
3	中川 優一	第 3 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 8-10）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 1 It's So Nice to Meet You! 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。					
4	中川 優一	第 4 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 11-13）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 2 Is He a Popular Professor? 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。					
5	中川 優一	第 5 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 14-16）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 2 Is He a Popular Professor? 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。					
6	中川 優一	第 6 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 17-19）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 3 He Showed Me “a” Way 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。					
7	中川 優一	第 7 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 20-22）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 3 He Showed Me "a" Way 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。					
8	中川 優一	第 8 回 予習：これまでの授業を総復習する。 授業：前期前半のまとめを行う。 復習：まとめてわからなかったところを確認する。					
9	中川 優一	第 9 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 23-25）。 授業：前期前半のまとめの講評、及び Scene 4 For Here or To Go? 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。					
10	中川 優一	第 10 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 26-28）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 4 For Here or To Go? 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。					

11	中川 優一	第 11 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す (pp. 29-31)。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 5 She is So Beautiful 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。						
12	中川 優一	第 12 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す (pp. 32-34)。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 5 She is So Beautiful 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。						
13	中川 優一	第 13 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す (pp. 35-37)。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 6 Catching a Cab 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。						
14	中川 優一	第 14 回 予習：これまでの授業を総復習する。 授業：前期後半のまとめを行う。 復習：まとめてわからなかったところを確認する。						
15	中川 優一	第 15 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す (pp. 38-40)。 授業：前期後半のまとめの講評、及び Scene 6 Catching a Cab 復習：まとめの内容を振り返り、自分の課題を見つける。						
授業開始前学習		映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		土屋武久他著『Hello New York! (映像で学ぶはじめての NY ホームステイ) 』(金星堂)						
参考書								
評価の基準と方法		平常点 40% (小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等) および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02118		
科目名称	☆英語(会話表現) I			単位数	1.0 単位		
英文名称	EnglishA I			授業区分	演習・実習・実技		
科目責任者	佐々木 千恵			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	佐々木 千恵			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	英語会話表現 I では、英語の基礎的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。英語のコミュニケーションスキルを高めることを目的とする。						
到達目標	基本的な英語表現を使って、日常的なトピックについて自分の考えを述べたり、やりとりをすることができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	佐々木 千恵	【第 1 回】 予習：とくにありません。 授業：オリエンテーション。今後の授業の進め方等の説明。プリントを使用して学習。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。					
2	佐々木 千恵	【第 2 回】 予習：p11-13 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業：p11 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。12p リスニング&ディクテーション。p 13 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。					
3	佐々木 千恵	【第 3 回】 予習：p14-16 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業：前回の単語チェックテスト。p14 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p15 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p 16 リスニング&ディクテーション。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。					
4	佐々木 千恵	【第 4 回】 予習：p17-19 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業：前回の単語チェックテスト。p 17 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p18 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p 19 の写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。					
5	佐々木 千恵	【第 5 回】 予習：p20-22 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業：前回の単語チェックテスト。p 20 リスニング&ディクテーション。p 21 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p 22 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。					
6	佐々木 千恵	【第 6 回】 予習 p23-25 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業：前回の単語チェックテスト。p23 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p24 リスニング&ディクテーション。p 25 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。					
7	佐々木 千恵	【第 7 回】 予習：p26-28 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業：前回の単語チェックテスト。p26 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p27 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p 28 リスニング&ディクテーション。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。					
8	佐々木 千恵	【第 8 回】 予習：ここまでの授業を総復習する。 授業：前期前半の振り返り。 復習：自分の弱点を見極めて重点的に復習をする。					
9	佐々木 千恵	【第 9 回】 予習：p29-31 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業：p 29 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p30 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p 31 の写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。					

10	佐々木 千恵	【第 10 回】 予習 : p32-34 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業 : 前回の単語チェックテスト。 p 32 リスニング&ディクテーション。 p 33 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 p 34 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 復習 : 授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。							
11	佐々木 千恵	【第 11 回】 予習 : p35-37 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業 : 前回の単語チェックテスト。 p35 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 p36 リスニング&ディクテーション。 p 37 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習 : 授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。							
12	佐々木 千恵	【第 12 回】 予習 : p38-40 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業 : 前回の単語チェックテスト。 p38 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 p39 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 p 40 リスニング&ディクテーション。 復習 : 授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。							
13	佐々木 千恵	【第 13 回】 予習 : p41-43 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業 : 前回の単語チェックテスト。 p 41 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 p42 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 p 43 の写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 復習 : 授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。							
14	佐々木 千恵	【第 14 回】 予習 : p44-46 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業 : 前回の単語チェックテスト。 p 44 リスニング&ディクテーション。 p 45 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 p 46 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 復習 : 授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。							
15	佐々木 千恵	【第 15 回】 予習 : ここまでの授業を総復習する。 授業 : 前期後半の振り返り。 復習 : 自分の課題を見つけ今後の対策を立てる。							
授業開始前学習		映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業中に予習の確認、あるいは復習のための小テストを適宜行い、返却時に解説し復習を促す。							
テキスト・教材		Andrew E. Bennett 著『English Listening and Speaking Patterns 1 』 南雲堂							
参考書		特にありません。							
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎				△	○
関連科目									
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

☆英語(会話表現) I

科目分類 (2025 年 ～入学者)		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類 (～2024 年 入学者)		100-110-21		授業コード		F02134					
科目名称		☆英語(会話表現) I						単位数		1.0 単位					
英文名称		EnglishA I						授業区分		演習・実習・実技					
科目責任者		薬師 英子						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		薬師 英子						開講時期		1 年					
オフィスアワー		前期 火曜日 10:00～13:00 後期 火曜日 10:00～13:00						研究室		10-55					
授業概要		英語 A I では、英語の基礎的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力の向上を目標とする。													
到達目標		基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数	担当者		授業の内容												
1	薬師 英子		【第 1 回】 予習 : 自分の英語学習を振り返る 授業 : オリエンテーション (授業のねらい、授業の進め方等について) グループワーク 復習 : 家庭学習を考える												
2	薬師 英子		【第 2 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 1 Icebreaking (pp.16～18) Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習 : 授業中の活動を振り返る												
3	薬師 英子		【第 3 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 1 Icebreaking (pp.19～21) Review & Activity 前週のディスカッションをふまえた発表 復習 : 授業中の活動を振り返る												
4	薬師 英子		【第 4 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 2 Describing People (Character) (pp.22～24) Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習 : 授業中の活動を振り返る												
5	薬師 英子		【第 5 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 2 Describing People (Character) (pp.25～27) Review & Activity 前週のディスカッションをふまえた発表 復習 : 授業中の活動を振り返る												
6	薬師 英子		【第 6 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 3 Describing People (Appearance) (pp.28～30) Unit の Dialogue を活用したグループワーク 復習 : 授業中の活動を振り返る												
7	薬師 英子		【第 7 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 3 Describing People (Appearance) (pp.31～33) Review & Activity、これまで学んできた Unit1～3(pp.16～33)についてのまとめ提出 復習 : 授業中の活動を振り返る												
8	薬師 英子		【第 8 回】 予習 : ここまでの授業を総復習する 授業 : 前期前半のまとめをする 復習 : まとめを振り返る												
9	薬師 英子		【第 9 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 4 Inviting People (pp.34～36)、これまで学んできた Unit1～4(pp.16～36)についてのまとめの講評 復習 : 授業中の活動を振り返る												

10	薬師 英子	【第 10 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 4 Inviting People (pp.37~39) Review & Activity Unit の Dialogue を活用したグループワーク 復習 : 授業中の活動を振り返る							
11	薬師 英子	【第 11 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 5 Giving Directions (pp.40~42) Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習 : 授業中の活動を振り返る							
12	薬師 英子	【第 12 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 5 Giving Directions (pp.43~45) Review & Activity 前週のディスカッションをふまえた発表 復習 : 授業中の活動を振り返る							
13	薬師 英子	【第 13 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 6 Complaining & Apologizing (pp.46~48)、これまで学んできた Unit1~6(pp.16~48)についてのまとめ提出 復習 : 授業中の活動を振り返る							
14	薬師 英子	【第 14 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 6 Complaining & Apologizing (pp.49~51) Review & Activity グループワーク 復習 : 授業中の活動を振り返る							
15	薬師 英子	【第 15 回】 予習 : 今まで授業で学んだことを振り返る 授業 : Review of Unit 1 Icebreaking ~ Unit 6 Complaining & Apologizing (pp.16~51)、これまで学んできた Unit1~6(pp.16~51)についてのまとめの講評 復習 : 自分の課題を見つけ対策を立てる							
授業開始前学習		学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		吉富 昇著『Communication Builder -Revised Edition』（南雲堂）							
参考書		授業中に紹介する。							
評価の基準と方法		試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業参加意欲）							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎				△	○
関連科目									
その他		出席を重視する。単位認定には全授業数の 3 分の 2 以上の出席が必須とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。テキスト忘れ、授業内での携帯使用等は授業参加意欲の減点対象とする。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の学習内容はシラバス、配信資料等に確認し、各自でフォローアップする。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

☆英語(会話表現)Ⅱ

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）	100-110-21	授業コード	F02161		
科目名称	☆英語(会話表現)Ⅱ			単位数	1.0 単位		
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技		
科目責任者	バラダッドリチャード			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	R.バラダッド			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	インタラクティブな練習を通じて英語の聞き取りと会話を体感します。英語会話表現Ⅱでは、英語の基礎的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の4技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力のさらなる向上を目標とする。						
到達目標	この授業では、さまざまな楽しく興味深いリスニングや発音、スピーキングアクティビティー（個人、ペア、グループアクティビティーなど）を通して、英語を話す力、および理解力を向上させることに焦点を当てます。標準的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。標準的な英語表現を使って、さまざまなトピックについて自分の考えを述べたり、やりとりをすることができます。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	R.バラダッド	【第1回】 予習：Come prepared to talk about your summer vacation 授業：Introduction/ Course goals/ talking about summer vacation, Q&A activities 復習：Review notes/ Do homework					
2	R.バラダッド	【第2回】 予習：Read pp. 60-63 授業：Talking about types of jobs and job skills, pair work 復習：Review notes/ Do homework					
3	R.バラダッド	【第3回】 予習：Read pp. 64-67 授業：Exchanging job skill information, group work 復習：Review notes/ Do homework/ do GC video presentation Unit 7					
4	R.バラダッド	【第4回】 予習：Read pp. 68-71 授業：Talking about entertainment, pair work, Unit 7 quiz 復習：Review notes/ Do homework					
5	R.バラダッド	【第5回】 予習：Read pp. 72-75 授業：Inviting and suggesting, group work 復習：Review notes/ Do homework/ do GC video presentation Unit 8					
6	R.バラダッド	【第6回】 予習：Read pp. 76-79 授業：Talking about the future, pair work, Unit 8 Quiz 復習：Review notes/ Do homework					
7	R.バラダッド	【第7回】 予習：Read pp. 80-83 授業：Talking about your partner's future, group work 復習：Do homework/review 64-83 for mid-term quiz					
8	R.バラダッド	【第8回】 予習：Prepare for quiz 授業：Quiz for units 7-9 / Speaking exercise in pairs 復習：Preview Unit 10/ Do homework					
9	R.バラダッド	【第9回】 予習：Read pp. 84-87 授業：Talking about shopping, clothing, and electronics, pair work 復習：Review notes/ Do homework					
10	R.バラダッド	【第10回】 予習：Read pp. 88-91 授業：Talking about shopping experiences, group work 復習：Review notes/ Do homework					
11	R.バラダッド	【第11回】 予習：Read pp. 92-95 授業：Describing processes, pair work, Unit 10 Quiz					

		復習 : Review notes/ Do homework						
12	R.バラダッド	【第 12 回】 予習 : Read pp. 96-99 授業 : Grammar focus: Using sequence markers and imperatives, group work 復習 : Review notes/ Do homework/ do GC video presentation Unit 11						
13	R.バラダッド	【第 13 回】 予習 : Read pp. 100-103 授業 : Talking about and giving opinions about music, pair work, Unit 11 Quiz 復習 : Review notes/ Do homework						
14	R.バラダッド	【第 14 回】 予習 : Read pp. 104-107 授業 : Talking about a personal story or series of events, group work 復習 : Do homework/ review 84-107 for final quiz						
15	R.バラダッド	【第 15 回】 予習 : Prepare for quiz 授業 : Quiz for units 10-12 / Speaking exercise in pairs 復習 : Do Portal evaluations in class (after quiz)						
授業開始前学習		映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。授業 7 回目、1 3 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、1 5 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		English Firsthand 1, 5th Edition (Marc Helgesen) Pearson						
参考書								
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始 3 0 分以上の遅刻は欠席をみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）+ 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02162
科目名称	☆英語(会話表現)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	R.ヨシダ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	R.ヨシダ			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English (Conversational Expressions) II continues to integrate the four skills (listening, speaking, reading and writing), based on what students learned in AI. We focus on group works, discussions, presentations etc. to further develop functional ability in English. English (Conversational Expressions) II has a particular focus on improving the productive skills of speaking and writing. The lessons are designed to help develop students' confidence and fluency in communicating in English.				
到達目標	English (Conversational Expressions) II aims to improve students' confidence and proficiency in their spoken and written English. Students speak and write English using basic syntax, receiving guidance where necessary. Each student will have many oppor				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	R.ヨシダ	【第 1 回】 予習 : Don't forget your textbook! 授業 : Unit 7 (pp.60-62): Jobs - vocabulary; listening; conversation 復習 : Vocabulary review			
2	R.ヨシダ	【第 2 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 7 (pp.63-67): Jobs - grammar; pair/group work; discussions 復習 : Grammar review			
3	R.ヨシダ	【第 3 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 8 (pp.68-70): Entertainment - vocabulary; listening; conversation 復習 : Vocabulary review			
4	R.ヨシダ	【第 4 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 8 (pp.71-75): Entertainment - grammar; pair/group work; discussions 復習 : Grammar review			
5	R.ヨシダ	【第 5 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 9 (pp.76-78): Plans & activities - vocabulary; listening; conversation 復習 : Vocabulary review			
6	R.ヨシダ	【第 6 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 9 (pp.79-83): Plans & activities - grammar; pair/group work; discussions 復習 : Grammar review			
7	R.ヨシダ	【第 7 回】 予習 : preparation for Midterm Task 1 授業 : Midterm Task 1: Students submit a review of content learned in Units 7-9; Preparation for Midterm Task 2 復習 : Grammar & Vocabulary review			
8	R.ヨシダ	【第 8 回】 予習 : preparation for Midterm Task 2 授業 : Midterm Task 2 (speaking): Students give individual presentations 復習 : Grammar & Vocabulary review			
9	R.ヨシダ	【第 9 回】 予習 : Vocabulary 授業 : Students receive feedback on Midterm Task 1 (writing) and Task 2 (speaking); Unit 10 (pp.84-86): Shopping - vocabulary; listening; conversation 復習 : Vocabulary review			

10	R.ヨシダ	【第 10 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 10 (pp.87-91): Shopping - grammar; pair/group work; discussions 復習 : Grammar review						
11	R.ヨシダ	【第 11 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 11 (pp.92-94): Giving instructions - vocabulary; listening; conversation 復習 : Vocabulary review						
12	R.ヨシダ	【第 12 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 11 (pp.92-94): Giving instructions - grammar; pair/group work; discussions 復習 : Grammar review						
13	R.ヨシダ	【第 13 回】 予習 : preparation for Review quiz 授業 : Unit 12 (pp.95-99): Opinions - vocabulary; listening; grammar; pair/group work; discussions 復習 : Grammar & Vocabulary review						
14	R.ヨシダ	【第 14 回】 予習 : preparation for Final Task 1 授業 : Final Task 1: Students submit a review of content learned in Units 10-12 復習 : Grammar & Vocabulary review						
15	R.ヨシダ	【第 15 回】 予習 : preparation for Final Task 2 授業 : Final Task 2 (speaking): Students give individual presentations 復習 : Self reflection						
授業開始前学習		Take every opportunity to encounter and enjoy English through movies, music, TV, the Internet, etc.						
授業内課題のフィードバックの方法		- Each "Review Quiz" (weekly quiz given at the beginning of each class) will be marked and returned in the following week. - A written feedback will be provided for each Midterm and Final task.						
テキスト・教材		English Firsthand 1 (Pearson) ISBN: 978-981-313-022-7						
参考書		Information will be given in class						
評価の基準と方法		Students are evaluated on a total of class participation points 40% (review quizzes, submitted assignments, effort & attitude) and midterm and final tasks 60% (midterm 30% & final 30%).						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席重視。最低限必要な出席率: 2/3 It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02163
科目名称	☆英語(会話表現)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.オーズランド			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.オーズランド			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AII continues to integrate the four skills (listening, speaking, reading and writing), based on what students learned in AI. We focus on group works, discussions, presentations etc. to further develop functional ability in English. English AII has a particular focus on improving the productive skills of writing and speaking.				
到達目標	Students speak and write various kinds of English using basic syntax.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	M.オーズランド	【第 1 回】 予習 : Overview unit 10. Prepare a short speech about your summer vacation (2 minutes). 授業 : Unit 10; Have you ever been there? Describing past experiences. pp.64-66. Pair-work, groupwork, discussions. 復習 : Review unit 10 pp.64-66.			
2	M.オーズランド	【第 2 回】 予習 : Overview unit 10 pp.67-69 授業 : Unit 10 continued. pp.67-69. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習 : Review unit 10.			
3	M.オーズランド	【第 3 回】 予習 : Overview Unit 11. 授業 : Unit 11; It's a really nice city. Describing cities. Giving suggestions. pp.72-74. Pair-work, groupwork. 復習 : Review Unit 11 pp.72-74.			
4	M.オーズランド	【第 4 回】 予習 : Overview Unit 11 pp.74-76 授業 : Unit 11 continued. pp.74-76. Pair-work, groupwork, discussions. 復習 : Review Unit 11.			
5	M.オーズランド	【第 5 回】 予習 : Overview Unit 12. 授業 : Unit 12; It's important to get rest. Talking about health. pp.78-80. Pair-work, groupwork, discussion. 復習 : Review unit 12 pp.78-80			
6	M.オーズランド	【第 6 回】 予習 : Overview Unit 12 pp.81-83 授業 : Unit 12 continued. Pp.81-83. Pair-work, groupwork, writing exercise, short presentation. 復習 : Review Unit 12.			
7	M.オーズランド	【第 7 回】 予習 : Review units 10-12. Prepare a short, written report. 授業 : General Comprehension exercises. 復習 : Reflect on personal performance and skills that need more work.			
8	M.オーズランド	【第 8 回】 予習 : Overview Unit 13. 授業 : Unit 13; What would you like? Food and restaurants. Likes and dislikes. pp.86-88. Pair-work, groupwork. 復習 : Review Unit 13 pp.86-88			
9	M.オーズランド	【第 9 回】 予習 : Overview Unit 13 pp.89-91. 授業 : Unit 13 continued. pp.89-91. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習 : Review Unit 13			

10	M.オーズランド	【第10回】 予習 : Overview Unit 14. 授業 : Unit 14; It's the coldest city. Describing countries. Expressing opinions. pp.92-94. Pair-work, groupwork. 復習 : Review Unit 14 pp.92-94						
11	M.オーズランド	【第11回】 予習 : Overview Unit 14 pp.95-97. 授業 : Unit 14 continued; pp95-97. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習 : Review Unit 14.						
12	M.オーズランド	【第12回】 予習 : Overview Unit 15. 授業 : Unit 15; What are you doing later?; Talking about plans. Accepting/refusing. pp.100-102. Pair-work, groupwork. 復習 : Review pp.100-102						
13	M.オーズランド	【第13回】 予習 : Overview Unit 15 pp.103-105. 授業 : Unit 15 continued; pp103-105. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習 : Review Unit 15.						
14	M.オーズランド	【第14回】 予習 : Overview Unit 16. 授業 : Unit 16; How have you changed? Describing change and plans for the future. pp.106-111. Pair-work, groupwork. 復習 : Review unit 16.						
15	M.オーズランド	【第15回】 予習 : Review units 13-16. Prepare a short, written report. 授業 : General comprehension exercises. 復習 : Reflect on personal performance and skills that need more work.						
授業開始前学習		Prepare yourself to actively participate in classes in English. Consider your strong points and those that need improvement. Focus on topics that interest you, review vocabulary and listen to as much English as possible before the course.						
授業内課題のフィードバックの方法		Students take a quiz at the beginning of every class or submit assignments and comprehensive feedback on these will be provided. Any questions from individual students will be answered.						
テキスト・教材		Richards, R.C, Hull, J., Proctor, S., Interchange 1 Students Book (Cambridge: C.U.P., 2020) ISBN: 978-1-316-62031-1						
参考書								
評価の基準と方法		Students are evaluated on a total of class participation points 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examination 60%.						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目		This course follows on from the first semester course Required English AI-f and uses the same textbook.						
その他		It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02164
科目名称	☆英語(会話表現)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AII continues to integrate the four skills (listening, speaking, reading, and writing) based on what students learned in AI. We focus on group work, discussions, presentations, etc., to further develop functional ability in English. English AII has a particular focus on improving the productive skills of writing and speaking. In principle, classes will be conducted entirely in English.				
到達目標	Students speak and write various kinds of English using basic syntax.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習 : Read Unit 0 'Welcome to English Firsthand 1', p.8-11 授業 : Course goals and structure will be explained. Q & A activities to get to know others. (pair work) 復習 : Review notes			
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 : Read Unit 7 'I'd love that job.', p.60-64 授業 : Build vocabulary about different occupations to use in model dialogues (pair work) 復習 : Review notes			
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 : Finish Reading Unit 7 'I'd love that job.', p.65-67 授業 : Grammar: Use enjoy..., like ..., good at ... / Group work / Real Stories: 'My Hobby' 復習 : Review notes / Do homework: Unit 7 Assignment in Google Classroom			
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 : Read Unit 8 'What's playing?', p.68-72 授業 : Build vocabulary about entertainment to use in model dialogues (pair work) 復習 : Review notes			
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 : Finish Reading Unit 8 'What's playing?', p.73-75 授業 : Grammar: Use various verb patterns for invitations / Group work / Real Stories: 'My Special Place' 復習 : Review notes / Do homework: Unit 8 Assignment in Google Classroom			
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 : Read Unit 9 'What are you going to do?', p.76-80 授業 : Build vocabulary about plans and activities to use in model dialogues (pair work) 復習 : Review notes			
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 : Finish Reading Unit 9 'What are you going to do?', p.81-83 授業 : Grammar: Use will and be going to for future events / Group work / Real Stories: 'Our One-Year Plan' 復習 : Review notes / Do homework: Unit 9 Assignment in Google Classroom			
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 : Review all homework assignments and textbook p. 60-83 授業 : Midterm Quiz of Unit 7 ~ Unit 9 復習 : Review notes			
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 : Read Unit 10 'How much is this?', p.84-88 授業 : Build vocabulary about shopping to use in model dialogues (pair work) 復習 : Review notes			
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 : Finish Reading Unit 10 'How much is this?', p.89-91 授業 : Grammar: Use comparative adjectives + intensifiers / Group work / Real Stories: 'My Way'			

		復習 : Review notes / Do homework: Unit 10 Assignment in Google Classroom						
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 : Read Unit 11 'How do you make it?', p.92-96 授業 : Build vocabulary about instructions to use in model dialogues (pair work) 復習 : Review notes						
12	W.ミラー	【第 12 回】 予習 : Finish Reading Unit 11 'How do you make it?', p.97-99 授業 : Grammar: Use sequence markers and imperatives / Group work / Real Stories: 'My Passion' 復習 : Review notes / Do homework: Unit 11 Assignment in Google Classroom						
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習 : Read Unit 12 'Listen to the music.', p.100-104 授業 : Build vocabulary about opinions to use in model dialogues (pair work) 復習 : Review notes						
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習 : Finish Reading Unit 12 'Listen to the music.', p.105-107 授業 : Grammar: Use simple past vs. present perfect / Group work / Real Stories: 'My Favorite Trend' 復習 : Review notes / Do homework: Unit 12 Assignment in Google Classroom						
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習 : Review all homework assignments and textbook p. 81-107 授業 : Final Quiz of Unit 10 ~ Unit 12 復習 : Complete course Questionnaire on the Komajo Portal.						
授業開始前学習		Practice listening to spoken English through videos or audio recordings and read English books, magazines, or comics. Look up unknown words in a dictionary.						
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students for tasks and assignments. Students are encouraged to ask questions, which the teacher will answer.						
テキスト・教材		English Firsthand 1 (Fifth Edition), Pearson Longman, by Helgesen et al						
参考書								
評価の基準と方法		Students are evaluated on total class participation, which is 40% of grade (quizzes, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations are 60% of grade.						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02165
科目名称	☆英語(会話表現)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.				
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 : Come prepared to talk about your summer vacation 授業 : Introduction/ Course goals/Talking about summer vacation -Pairwork 復習 : Review notes/ Do homework			
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 : Read pp. 64-67 授業 : Occupations Pairwork and Discussion 復習 : Review notes/ Do homework			
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 : Read pp. 68-71 授業 : Enjoy, like, good at and good with Pairwork and Group work 復習 : Review notes/ Do homework			
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 : Read pp. 72-75 授業 : Entertainment Pairwork and Group work 復習 : Review notes/ Do homework			
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 : Read pp. 76-79 授業 : Plan a Perfect Day Out Pairwork and Discussion 復習 : Review notes/ Do homework			
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 : Read pp. 80-83 授業 : Future Plans and activities Pairwork and Group work 復習 : Review notes/ Do homework			
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 : Read pp. 84-87 授業 : Future Tense 復習 : Review notes/ Do homework			
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review - Project Based Learning/Group work 復習 : Reread textbook pp.64-87			
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 : Read pp. 88-91 授業 : Clothing, electronics, and personal items -Pairwork, Project Based Learning 復習 : Review notes/ Do homework			
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 : Read pp. 92-95 授業 : Buy and Sell things at a Flea Market (Presentations) 復習 : Review notes/ Do homework			

11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習 : Read pp. 96-99 授業 : Processes - Pairwork 復習 : Review notes/ Do homework						
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習 : Read pp. 100-103 授業 : Learn and teach origami paper folding -Pairwork and Group work 復習 : Review notes/ Do homework						
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習 : Read pp. 104-107 授業 : Opinions and Music - Pairwork and Discussion 復習 : Review notes/ Do homework						
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習 : Read pp. 107-111 授業 : Talk about your musical history - Pairwork 復習 : Review notes/ Do homework						
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Reread textbook pp.64-111						
授業開始前学習		Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics. Look up words in the dictionary.						
授業内課題のフィードバックの方法		Comprehensive feedback will be provided on coursework. Once class starts, evaluated homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.						
テキスト・教材		English Firsthand 1 by Helgesen et al (Pearson Longman)						
参考書								
評価の基準と方法		Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations 60%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目		English Conversation						
その他		It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted a						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02166
科目名称	☆英語(会話表現)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鈴木 悠理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 悠理			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本科目では、前期に引き続き、英語の標準的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」を中心に英語を発信する能力の向上を目標とする。				
到達目標	標準的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鈴木 悠理	【第 1 回】 予習：シラバスを確認する。今までの英語学習を振り返り、復習する。 授業：ガイダンス（授業概要、到達目標、授業の進め方について）、前期の復習（特に Unit 6） 復習：ガイダンスをもとに、前期の目標を立てる。テキストを用意する。Google Classroom に登録する。			
2	鈴木 悠理	【第 2 回】 予習：Unit 7 の音声を聞き、音読する。Unit 7 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 7（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。			
3	鈴木 悠理	【第 3 回】 予習：Unit 7 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 7（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 7（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。			
4	鈴木 悠理	【第 4 回】 予習：Unit 8 の音声を聞き、音読する。Unit 8 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 8（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。			
5	鈴木 悠理	【第 5 回】 予習：Unit 8 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 8（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 8（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。			
6	鈴木 悠理	【第 6 回】 予習：Unit 9 の音声を聞き、音読する。Unit 9 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 9（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。			
7	鈴木 悠理	【第 7 回】 予習：Unit 9 の音声を聞き、音読する。 授業：Unit 9（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 9（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。			
8	鈴木 悠理	【第 8 回】 予習：Unit 7～9 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 7～9 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。			
9	鈴木 悠理	【第 9 回】 予習：Unit 10 の音声を聞き、音読する。Unit 10 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 10（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。			
10	鈴木 悠理	【第 10 回】 予習：Unit 10 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 10（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 10（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。			

11	鈴木 悠理	【第 11 回】 予習：Unit 12 の音声を聞き、音読する。Unit 12 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 12（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。						
12	鈴木 悠理	【第 12 回】 予習：Unit 12 の音声を聞き、音読する。 授業：Unit 12（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 12（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。						
13	鈴木 悠理	【第 13 回】 予習：Unit 13 の音声を聞き、音読する。Unit 13 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 13（全体）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。						
14	鈴木 悠理	【第 14 回】 予習：Unit 10, 12～13 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 10, 12～13 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。						
15	鈴木 悠理	【第 15 回】 予習：Unit 7～13 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 7～13 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。						
授業開始前学習		時事ニュースや文化（映画・音楽・ファッションなど）を通して英語に触れる機会を持つこと。 これまでの英語学習を振り返ること。						
授業内課題のフィードバックの方法		約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目に授業内容の復習を行い、クラスおよび個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		VELC 研究会教育開発グループ（編）『AMBITIONS Beginner 4 技能統合型で学ぶ英語コース：入門編』金星堂 *前期と同じテキスト						
参考書		英和辞典・和英辞典があるとよい（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		平常点 40%（授業参加態度、小テスト、課題提出など）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21		授業コード		F02167					
科目名称		☆英語(会話表現)Ⅱ							単位数		履修ガイド参照				
英文名称		EnglishAⅡ							授業区分		演習・実習・実技				
科目責任者		中川 優一							必修・選択		履修ガイド参照				
担当教員		中川 優一							開講時期		履修ガイド参照				
オフィスアワー		-							研究室		-				
授業概要		英語（会話表現）Ⅰを基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。自分の身の回りのトピックについて、場所や時間といった具体的な情報を聞き取ったり、自分の趣味や興味のあることなどを伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えることを意識させ、会話や英作文での表現の幅を広げていく。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。													
到達目標		標準的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合 の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		中川 優一		第 1 回 予習：今学期の目標を考える。教科書の該当箇所に目を通す（pp. 41-43）。 授業：オリエンテーション。Scene 7 How Romantic! 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。											
2		中川 優一		第 2 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 44-46）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 7 How Romantic! 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。											
3		中川 優一		第 3 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 47-49）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 8 I'm Not Feeling Well 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。											
4		中川 優一		第 4 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 50-52）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 8 I'm Not Feeling Well 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。											
5		中川 優一		第 5 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 53-55）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 9 Tickets for a Yankees Game 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。											
6		中川 優一		第 6 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 56-58）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 9 Tickets for a Yankees Game 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。											
7		中川 優一		第 7 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 59-61）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 10 What's on the Shopping List? 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。											
8		中川 優一		第 8 回 予習：これまでの授業を総復習する。 授業：後期前半のまとめを行う。 復習：まとめてわからなかったところを確認する。											
9		中川 優一		第 9 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 62-64）。 授業：後期前半のまとめの講評、及び Scene 10 What's on the Shopping List? 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。											
10		中川 優一		第 10 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 65-67）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 11 MoMA is Fun! 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。											

11	中川 優一	第 11 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す (pp. 68-70)。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 11 MoMA is Fun! 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。						
12	中川 優一	第 12 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す (pp. 71-73)。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 12 The "Fourth of July" Is Coming Up 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。						
13	中川 優一	第 13 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す (pp. 74-76)。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 12 The "Fourth of July" Is Coming Up 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。						
14	中川 優一	第 14 回 予習：これまでの授業を総復習する。 授業：後期後半のまとめを行う。 復習：まとめてわからなかったところを確認する。						
15	中川 優一	第 15 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す (pp. 77-79)。 授業：後期後半のまとめの講評、及び Scene 13 Who Is That Guy? 復習：まとめの内容を振り返り、自分の課題を見つける。						
授業開始前学習		映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		土屋武久他著『Hello New York! (映像で学ぶはじめての NY ホームステイ)』(金星堂)						
参考書								
評価の基準と方法		平常点 40% (小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等) および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

☆英語(会話表現)Ⅱ

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02168
科目名称	☆英語(会話表現)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐々木 千恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木 千恵			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語会話表現Ⅱでは、英語の基礎的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の4技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。英語のコミュニケーションスキルを高めることを目的とする。				
到達目標	標準的な構文を使って、さまざまなトピックについて自分の考えを述べたり、やりとりをすることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	佐々木 千恵	【第1回】 予習 : p47-49 の中で知らない単語は意味調べしておく。 授業 : p47 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。48p リスニング & ディクテーション。p 49 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習 : 授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。			
2	佐々木 千恵	【第2回】 予習 : p50-52 の中で知らない単語は意味調べしておく。 授業 : 前回の単語チェックテスト。p50 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p51 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p 52 リスニング & ディクテーション。 復習 : 授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。			
3	佐々木 千恵	【第3回】 予習 : p53-55 の中で知らない単語は意味調べしておく。 授業 : 前回の単語チェックテスト。p 53 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p54 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p 55 の写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 復習 : 授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。			
4	佐々木 千恵	【第4回】 予習 : p56-58 の中で知らない単語は意味調べしておく。 授業 : 前回の単語チェックテスト。p 56 リスニング & ディクテーション。p 57 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p 58 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 復習 : 授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。			
5	佐々木 千恵	【第5回】 予習 : p59-61 の中で知らない単語は意味調べしておく。 授業 : 前回の単語チェックテスト。p59 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p60 リスニング & ディクテーション。p 61 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習 : 授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。			
6	佐々木 千恵	【第6回】 予習 : p62-64 の中で知らない単語は意味調べしておく。 授業 : 前回の単語チェックテスト。p62 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p63 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p 64 リスニング & ディクテーション。 復習 : 授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。			
7	佐々木 千恵	【第7回】 予習 : p65-67 の中で知らない単語は意味調べしておく。 授業 : p 65 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p66 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p 67 の写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 復習 : 授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。			
8	佐々木 千恵	【第8回】 予習 : ここまでの授業を総復習する。 授業 : 後期前半の振り返り。 復習 : 自分の弱点を見極めて重点的に復習をする。			
9	佐々木 千恵	【第9回】 予習 : p68-70 の中で知らない単語は意味調べしておく。 授業 : p 68 リスニング & ディクテーション。p 69 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p 70 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。			

		復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。						
10	佐々木 千恵	【第10回】 予習：p71-73の中で知らない単語は意味調しておく。 授業：前回の単語チェックテスト。p71 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p72 リスニング & ディクテーション。p 73 をグルーブワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。						
11	佐々木 千恵	【第11回】 予習：p74-76の中で知らない単語は意味調しておく。 授業：前回の単語チェックテスト。p74 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p75 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p 76 リスニング & ディクテーション。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。						
12	佐々木 千恵	【第12回】 予習：p77-79の中で知らない単語は意味調しておく。 授業：前回の単語チェックテスト。p 77 をグルーブワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p78 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p 79 の写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。						
13	佐々木 千恵	【第13回】 予習：p80-82の中で知らない単語は意味調しておく。 授業：前回の単語チェックテスト。p 80 リスニング & ディクテーション。p 81 をグルーブワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p 82 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。						
14	佐々木 千恵	【第14回】 予習：p83-85の中で知らない単語は意味調しておく。 授業：前回の単語チェックテスト。p83 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p84 リスニング & ディクテーション。p 85 をグルーブワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。						
15	佐々木 千恵	【第15回】 予習：ここまでの授業を総復習する。 授業：後期後半の振り返り。 復習：自分の課題を見つけ今後の対策を立てる。						
授業開始前学習		映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業中に予習の確認、あるいは復習のための小テストを適宜行い、返却時に解説し、復習を促す。						
テキスト・教材		Andrew E. Bennett 著『English Listening and Speaking Patterns 1』南雲堂						
参考書		特にありません。						
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

☆英語(会話表現)Ⅱ

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02184		
科目名称	☆英語(会話表現)Ⅱ			単位数	1.0 単位		
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技		
科目責任者	薬師 英子			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	薬師 英子			開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 火曜日 10:00～13:00 後期 火曜日 10:00～13:00			研究室	10-55		
授業概要	英語 AⅡ では、英語 AⅠ で修得した英語の運用能力をさらに向上させるために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力のさらなる向上を目標とする。						
到達目標	標準的な構文を使って、英文を書いたり話したりできる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	薬師 英子	【第 1 回】 予習 : 自分の英語学習を振り返る 授業 : Talk about Summer Vacation / Review of the first term & Introduction ペアワーク 復習 : 家庭学習を考える					
2	薬師 英子	【第 2 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 7 Giving Advice (pp.52～54) Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習 : 授業中の活動を振り返る					
3	薬師 英子	【第 3 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 7 Giving Advice (pp.55～57) Review & Activity 前週のディスカッションをふまえた発表 復習 : 授業中の活動を振り返る					
4	薬師 英子	【第 4 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 8 Getting Information (pp.58～60) Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習 : 授業中の活動を振り返る					
5	薬師 英子	【第 5 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 8 Getting Information (pp.61～63) Review & Activity 前週のディスカッションをふまえた発表 復習 : 授業中の活動を振り返る					
6	薬師 英子	【第 6 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 9 Comparing & Contrasting (pp.64～66) Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習 : 授業中の活動を振り返る					
7	薬師 英子	【第 7 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 9 Comparing & Contrasting (pp.67～69) Review & Activity、これまで学んできた Unit7～9(pp.52～69)についてのまとめ提出 復習 : 授業中の活動を振り返る					
8	薬師 英子	【第 8 回】 予習 : ここまでの授業を総復習する 授業 : 後期前半のまとめをする 復習 : まとめを振り返る					
9	薬師 英子	【第 9 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 10 Talking about Experiences (pp.70～72)、これまで学んできた Unit7～10(pp.52～72)についてのまとめの講評 復習 : 授業中の活動を振り返る					

10	薬師 英子	【第 10 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 10 Talking about Experiences (pp.73~75) Review & Activity グループワーク 復習 : 授業中の活動を振り返る						
11	薬師 英子	【第 11 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 11 Interviewing (pp.76~78) Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習 : 授業中の活動を振り返る						
12	薬師 英子	【第 12 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 11 Interviewing (pp.79~81) Review & Activity 前週のディスカッションをふまえた発表 復習 : 授業中の活動を振り返る						
13	薬師 英子	【第 13 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Prepare for Presentation、これまで学んできた Unit7~11(pp.52~81)についてのまとめ提出 復習 : 授業中の活動を振り返る						
14	薬師 英子	【第 14 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Presentation 復習 : 授業中の活動を振り返る						
15	薬師 英子	【第 15 回】 予習 : 今までの授業で学んだことを振り返る 授業 : Review of Unit 7 Giving Advice ~ Unit 11 Interviewing (pp.52~81) 、これまで学んできた Unit7~11(pp.52~81)についてのまとめの講評 復習 : 自分の課題を見つけ対策を立てる						
授業開始前学習		学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		吉富 昇著『Communication Builder -Revised Edition』（南雲堂）						
参考書		授業中に紹介する。						
評価の基準と方法		試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業参加意欲）						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。単位認定には全授業数の 3 分の 2 以上の出席を必須とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。テキスト忘れ、授業内での携帯使用等は授業参加意欲の減点対象とする。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容はシラバスや配信資料等を確認し、各自フォローアップする。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）+ 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21		授業コード		F02311					
科目名称		☆英語(読解) I						単位数		1.0 単位					
英文名称		EnglishB I						授業区分		演習・実習・実技					
科目責任者		中川 優一						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		中川 優一						開講時期		1 年					
オフィスアワー		-						研究室		-					
授業概要		これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC 等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習に取り組む。本授業では、主に「語彙・文法」について学ぶ。													
到達目標		基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		中川 優一		【第 1 回】 予習：今まで学習した英語（特に単語と英文法）を見直しておく。 授業：オリエンテーション（今後の授業方針について、成績評価基準の説明等） 復習：今後の学習の確認。											
2		中川 優一		【第 2 回】 予習：Unit 1 (Traveling, p.15-17)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 1 (Traveling, p.15-17) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 2 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。											
3		中川 優一		【第 3 回】 予習：Unit 1 (Traveling, p.18-21)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 1 (Traveling, p.18-21) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 3 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。											
4		中川 優一		【第 4 回】 予習：Unit 2 (Daily Life & Shopping, p.23-25)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 2 (Daily Life & Shopping, p.23-25) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 4 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。											
5		中川 優一		【第 5 回】 予習：Unit 2 (Daily Life & Shopping, p.26-29)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 2 (Daily Life & Shopping, p.26-29)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 5 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。											
6		中川 優一		【第 6 回】 予習：Unit 3 (At Restaurants, p.31-33)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 3 (At Restaurants, p.31-33)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 6 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。											
7		中川 優一		【第 7 回】 予習：Unit 3 (At Restaurants, p.34-37)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 3 (At Restaurants, p.34-37) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 7 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。											
8		中川 優一		【第 8 回】 予習：第 1 回から第 7 回までの復習。 授業：前期前半のまとめを行う。 復習：まとめてわからなかったところの確認。											
9		中川 優一		【第 9 回】 予習：Unit 4 (Job Hunting, p.39-41)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：前期前半のまとめのフィードバック及び Unit 4 (Job Hunting, p.39-41) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 9 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。											
10		中川 優一		【第 10 回】 予習：Unit 4 (Job Hunting, p.42-47)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 4 (Job Hunting, p.42-47) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 10 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。											

11	中川 優一	【第 11 回】 予習：Unit 5 (At the office, p.49-51)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 5 (At the office, p.49-51)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 11 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。						
12	中川 優一	【第 12 回】 予習：Unit 5 (At the office, p.52-55) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 5 (At the office, p.52-55) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 12 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。						
13	中川 優一	【第 13 回】 予習：Unit 6 (At the office 2, p.57-59) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 6 (At the office 2, p.57-59) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 13 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。						
14	中川 優一	【第 14 回】 予習：第 9 回から第 13 回までの復習。 授業：前期後半のまとめを行う。 復習：まとめてわからなかったところの確認。						
15	中川 優一	【第 15 回】 予習：Unit 6 (At the office 2, p.60-63) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：前期後半のまとめのフィードバック及び Unit 6 (At the office 2, p.60-63) およびそれに付随したグループワーク。 復習：後期に向けて、前期でわからなかったところの再確認。						
授業開始前学習		高校までの英単語、英文法をできるだけ見直しておくこと。映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持ち、興味がある文章や単語を、辞書で調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業内で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		Illuminating the Path to the TOEIC L&R Test, (2022) Michiko Ueki, et al., 金星堂						
参考書								
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード	F02312
科目名称		☆英語(読解) I				単位数	1.0 単位
英文名称		EnglishB I				授業区分	演習・実習・実技
科目責任者		境 奈津希				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		境 奈津希				開講時期	1 年
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		英語読解 I は、基礎的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。					
到達目標		基本的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、基礎的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	境 奈津希	【第 1 回】 予習： 中学、高校で学んだことの整理 授業： オリエンテーション、Prologue（教科書 p.5-6）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
2	境 奈津希	【第 2 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.7） 授業： Chapter 1（教科書 p.7-10）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
3	境 奈津希	【第 3 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.11） 授業： Chapter 2（教科書 p.11-14）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
4	境 奈津希	【第 4 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.7,11） 授業： Chapter 1,2（教科書 p.7-14）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
5	境 奈津希	【第 5 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.7,11） 授業： Chapter 1,2（教科書 p.7-14）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
6	境 奈津希	【第 6 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.15） 授業： Chapter 3（教科書 p.15-18）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
7	境 奈津希	【第 7 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.19） 授業： Chapter 4（教科書 p.19-22）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
8	境 奈津希	【第 8 回】 予習： 前期前半の授業で学んだことを復習する 授業： 前期前半の振り返り 復習： 前期前半の授業で学んだことを復習する					
9	境 奈津希	【第 9 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.15,19） 授業： Chapter 3,4（教科書 p.15-22）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
10	境 奈津希	【第 10 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.15,19） 授業： Chapter 3,4（教科書 p.15-22）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
11	境 奈津希	【第 11 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.23） 授業： Chapter 5（教科書 p.23-26）（グループワーク・ディスカッション）					

		復習：授業で学んだ文法、語彙を復習する						
12	境 奈津希	【第12回】 予習：Get Ready for the Story（教科書 p.27） 授業：Chapter 6（教科書 p.27-30）（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業で学んだ文法、語彙を復習する						
13	境 奈津希	【第13回】 予習：Get Ready for the Story（教科書 p.23,27） 授業：Chapter 5,6（教科書 p.23-30）（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業で学んだ文法、語彙を復習する						
14	境 奈津希	【第14回】 予習：Get Ready for the Story（教科書 p.23,27） 授業：Chapter 5,6（教科書 p.23-30）（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業で学んだ文法、語彙を復習する						
15	境 奈津希	【第15回】 予習：前期後半の授業で学んだことを復習する 授業：前期後半のふりかえり 復習：この授業を通して学んだことを復習する						
授業開始前学習		中学校、高等学校で学んだことを再確認しておきましょう。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		Atsuko Uemura, Irene Iwasaki『Mystery Break』（センゲージラーニング）						
参考書		授業内で適宜配布します。						
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト 20%、授業への取り組み 20%）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）	100-110-21		授業コード	F02313	
科目名称		☆英語(読解) I					単位数	1.0 単位	
英文名称		EnglishB I					授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者		鈴木 悠理					必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		鈴木 悠理					開講時期	1 年	
オフィスアワー		-					研究室	-	
授業概要		本科目では、基礎的な英語を読むのに必要な力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、ペア・グループワークやディスカッション等の活動も行う。							
到達目標		基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。							
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態		
授業 回数	担当者	授業の内容							
1	鈴木 悠理	【第 1 回】 予習：シラバスを確認する。これまでの英語学習を振り返る。 授業：ガイダンス（授業概要、到達目標、授業の進め方について） 復習：授業で説明を受けたガイダンスをもとに、前期の目標を立てる。テキストと辞書（電子辞書可）を用意する。							
2	鈴木 悠理	【第 2 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 1（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。							
3	鈴木 悠理	【第 3 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 1（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 1（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。							
4	鈴木 悠理	【第 4 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 2（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。							
5	鈴木 悠理	【第 5 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 2（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 2（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。							
6	鈴木 悠理	【第 6 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 3（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。							
7	鈴木 悠理	【第 7 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 3（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 3（全体）小テスト、前期前半の振り返り 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。							
8	鈴木 悠理	【第 8 回】 予習：Unit 1～3 の学習を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 1～3 の学習 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。							
9	鈴木 悠理	【第 9 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 4（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。							
10	鈴木 悠理	【第 10 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 4（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 4（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。							
11	鈴木 悠理	【第 11 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 5（前半）リーディング、ペア・グループワーク							

		復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。						
12	鈴木 悠理	【第 12 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 5（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 5（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。						
13	鈴木 悠理	【第 13 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 6（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。						
14	鈴木 悠理	【第 14 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 6（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 6（全体）小テスト、前期後半の振り返り 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。						
15	鈴木 悠理	【第 15 回】 予習：前期の学習を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：前期の学習 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。						
授業開始前学習		時事ニュースや文化（映画・音楽・ファッションなど）を通して英語に触れる機会を持つこと。 これまでの英語学習を振り返ること。						
授業内課題のフィードバックの方法		約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目に授業内容の復習を行い、クラスおよび個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		木村博是、三原京『Answers to Everyday Questions 1 〈High-beginning〉身近な不思議を英語で学ぶ〈初級〉』（南雲堂）						
参考書		英和辞典・和英辞典は必須（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		平常点 40%（授業参加態度、小テスト、課題提出など）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）	100-110-21	授業コード	F02314		
科目名称	☆英語(読解) I			単位数	1.0 単位		
英文名称	EnglishB I			授業区分	演習・実習・実技		
科目責任者	池上 俊彦			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	池上 俊彦			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	本授業では、実践的英語力の育成のために、TOEIC 試験で一定の得点を取得できる英語力を身につけることを目指す。ただし、問題演習に終始するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。						
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	池上 俊彦	毎時間ペアワーク等を適宜行う 【第 1 回】 予習：シラバスを確認しておく 授業：Introduction 復習：新出単語と文法項目の暗記					
2	池上 俊彦	【第 2 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 1: The Beatles & Strawberry Fields ビートルズ：ストロベリーではなくアップル（pp. 2-3） 復習：新出単語と文法項目の暗記					
3	池上 俊彦	【第 3 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 1: The Beatles & Strawberry Fields ビートルズ：ストロベリーではなくアップル（pp. 4-5） 復習：新出単語と文法項目の暗記					
4	池上 俊彦	【第 4 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 2: Fuzjko Hemming & Potato Pancakes フジコ・ヘミング：ポテトパンケーキは思い出の味（pp. 6-7） 復習：新出単語と文法項目の暗記					
5	池上 俊彦	【第 5 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 2: Fuzjko Hemming & Potato Pancakes フジコ・ヘミング：ポテトパンケーキは思い出の味（pp. 8-9） 復習：新出単語と文法項目の暗記					
6	池上 俊彦	【第 6 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 3: Mozart & the Beef Tongue モーツァルト：懐かしい故郷ザルツブルクの牛タン(pp. 10-11) 復習：新出単語と文法項目の暗記					
7	池上 俊彦	【第 7 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 3: Mozart & the Beef Tongue モーツァルト：懐かしい故郷ザルツブルクの牛タン(pp. 12-13)、課題提出 復習：新出単語と文法項目の暗記					
8	池上 俊彦	【第 8 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：前期前半の振り返り 復習：新出単語と文法項目の暗記					
9	池上 俊彦	【第 9 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 4: Mozart & Fashionable Foods モーツァルト：最先端の食べ物でおもてなし(pp. 14-15)、提出課題のおさらい（グループワーク）					

		復習：新出単語と文法項目の暗記						
10	池上 俊彦	【第 10 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 4: Mozart & Fashionable Foods モーツァルト：最先端の食べ物でおもてなし(pp. 16-17) 復習：新出単語と文法項目の暗記						
11	池上 俊彦	【第 11 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 5: Beethoven & his Particular Viands ベートーヴェン：こだわりの食べ物(pp. 18-19) 復習：新出単語と文法項目の暗記						
12	池上 俊彦	【第 12 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 5: Beethoven & his Particular Viands ベートーヴェン：こだわりの食べ物(pp. 20-21) 復習：新出単語と文法項目の暗記						
13	池上 俊彦	【第 13 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 6: Rentaro Taki & Fukujinzuke 滝廉太郎：ドイツで食べた福神漬け(pp. 22-23)、課題提出 復習：新出単語と文法項目の暗記						
14	池上 俊彦	【第 14 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 6: Rentaro Taki & Fukujinzuke 滝廉太郎：ドイツで食べた福神漬け(pp. 24-25) 復習：新出単語と文法項目の暗記						
15	池上 俊彦	【第 15 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：前期後半の振り返り、提出課題のおさらい（グループワーク） 復習：新出単語と文法項目の暗記						
授業開始前学習		英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を辞書で調べる。教科書のリーディングセクションの音読。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 7 回目、13 回目に提出する課題については、2 週間後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		堀越ウェンディ、松井真帆、本山ふじ子 『音楽家たちが奏でる食文化 At the Musician's Table : Food and Music』朝日出版社、2024 年。（ISBN: 978-4-255-15722-1） 適宜プリント						
参考書								
評価の基準と方法		授業態度と課題提出 40% テスト 60%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21		授業コード		F02315					
科目名称		☆英語(読解) I						単位数		1.0 単位					
英文名称		EnglishB I						授業区分		演習・実習・実技					
科目責任者		長谷 陸						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		長谷 陸						開講時期		1 年					
オフィスアワー		-						研究室		-					
授業概要		英語 B I では、基礎的な英語を読むのに必要な力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。													
到達目標		基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数	担当者			授業の内容											
1	長谷 陸			【第 1 回】 予習：これまでの英語学習を振り返る。シラバスを確認する。 授業：ガイダンス(授業の進め方の説明、評価の基準と方法など) 復習：授業の内容を振り返る。											
2	長谷 陸			【第 2 回】 予習：教科書の文法解説を予習する。 授業：Unit1 ペア・グループワーク 復習：授業の内容を振り返る。											
3	長谷 陸			【第 3 回】 予習：教科書の文法解説を予習する。 授業：Unit2 ペア・グループワーク 復習：授業の内容を振り返る。											
4	長谷 陸			【第 4 回】 予習：教科書の文法解説を予習する。 授業：Unit3 ペア・グループワーク 復習：授業の内容を振り返る。											
5	長谷 陸			【第 5 回】 予習：教科書の文法解説を予習する。 授業：Unit4 ペア・グループワーク 復習：授業の内容を振り返る。											
6	長谷 陸			【第 6 回】 予習：教科書の文法解説を予習する。 授業：Unit5 ペア・グループワーク 復習：授業の内容を振り返る。											
7	長谷 陸			【第 7 回】 予習：教科書の文法解説を予習する。 授業：Unit6 ペア・グループワーク 復習：授業の内容を振り返る。											
8	長谷 陸			【第 8 回】 予習：第 2 ～7 回の授業を振り返る。 授業：前期前半の授業のまとめ 復習：授業の内容を振り返る。											
9	長谷 陸			【第 9 回】 予習：教科書の文法解説を予習する。 授業：Unit7 ペア・グループワーク 復習：授業の内容を振り返る											
10	長谷 陸			【第 10 回】 予習：教科書の文法解説を予習する。 授業：Unit8 ペア・グループワーク 復習：授業の内容を振り返る。											
11	長谷 陸			【第 11 回】 予習：教科書の文法解説を予習する。 授業：Unit9 ペア・グループワーク											

		復習 : 授業の内容を振り返る。						
12	長谷 陸	【第 12 回】 予習 : 教科書の文法解説を予習する。 授業 : Unit10 ペア・グループワーク 復習 : 授業の内容を振り返る。						
13	長谷 陸	【第 13 回】 予習 : 教科書の文法解説を予習する。 授業 : Unit11 ペア・グループワーク 復習 : 授業の内容を振り返る。						
14	長谷 陸	【第 14 回】 予習 : 教科書の文法解説を予習する。 授業 : Unit12 ペア・グループワーク 復習 : 授業の内容を振り返る。						
15	長谷 陸	【第 15 回】 予習 : 第 9～14 回の授業を振り返る。 授業 : 前期後半の授業のまとめ 復習 : 前期の授業を振り返る。						
授業開始前学習		国際的なニュースや自分の興味のある文化(映画、音楽、スポーツなど)を通して英語に触れること。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業の冒頭で小テストを行い、翌週の返却時に解説を行う。第 8 回、第 15 回の授業で振り返りを行う。						
テキスト・教材		佐藤哲三、愛甲ゆかり著『English Primer(Revised Edition) 大学生の英語入門(改訂新版)』(南雲堂)						
参考書		英和辞典、和英辞典(電子辞書可)						
評価の基準と方法		平常点 40% (小テスト、課題提出、授業態度等) および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード	F02316	
科目名称		☆英語(読解) I				単位数	1.0 単位	
英文名称		EnglishB I				授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者		江連 成美				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		江連 成美				開講時期	1 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		英語読解 I は、基礎的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。						
到達目標		基本的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、基礎的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	江連 成美	【第 1 回】 予習：テキストの「はじめに」「本書の使い方」「CONTENTS」に目を通しておく 授業：オリエンテーション（授業の進め方などについての説明） 復習：オリエンテーションの内容を理解する（Google Classroom の登録が終わっていない場合は、第 2 回までに必ず登録を終わらせておく）						
2	江連 成美	【第 2 回】 予習：Unit 1: Vocabulary 授業：Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone - 読解 復習：語彙や表現の復習						
3	江連 成美	【第 3 回】 予習：Unit 1: Comprehension & Listening 授業：Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習						
4	江連 成美	【第 4 回】 予習：Unit 2: Vocabulary 授業：Unit 2: Studying in a Café vs. Home - 読解 復習：語彙や表現の復習						
5	江連 成美	【第 5 回】 予習：Unit 2: Comprehension & Listening 授業：Unit 2: Studying in a Café vs. Home - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習						
6	江連 成美	【第 6 回】 予習：Unit 5: Vocabulary 授業：Unit 5: 24/7 Convenience Stores - 読解 復習：語彙や表現の復習						
7	江連 成美	【第 7 回】 予習：Unit 5: Comprehension & Listening 授業：Unit 5: 24/7 Convenience Stores - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習						
8	江連 成美	【第 8 回】 予習：前期前半に学習した語彙や文法を復習する 授業：前期前半の振り返り 復習：理解できていなかった点を整理しておく						
9	江連 成美	【第 9 回】 予習：Unit 7: Vocabulary 授業：Unit 7: Point Cards - 読解 復習：語彙や表現の復習						
10	江連 成美	【第 10 回】 予習：Unit 7: Comprehension & Listening 授業：Unit 7: Point Cards - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習						
11	江連 成美	【第 11 回】 予習：Unit 9: Vocabulary 授業：Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad - 読解						

		復習：語彙や表現の復習						
12	江連 成美	【第 12 回】 予習：Unit 9: Comprehension & Listening 授業：Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習						
13	江連 成美	【第 13 回】 予習：Unit 10: Vocabulary 授業：Unit 10: Studying English Abroad - 読解 復習：語彙や表現の復習						
14	江連 成美	【第 14 回】 予習：Unit 10: Comprehension & Listening 授業：Unit 10: Studying English Abroad - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習						
15	江連 成美	【第 15 回】 予習：前期後半に学習した語彙や文法を復習する 授業：前期後半の振り返り 復習：前期に学習した項目を整理し、後期に備える						
授業開始前学習		映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		テキスト名：Two Sides to Every Discussion 2（英語で考え、英語で発信する 2） 出版社：成美堂						
参考書		特になし。						
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21		授業コード		F02317					
科目名称		☆英語(読解) I						単位数		1.0 単位					
英文名称		EnglishB I						授業区分		演習・実習・実技					
科目責任者		本村 万喜子						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		本村 万喜子						開講時期		1 年					
オフィスアワー		-						研究室		-					
授業概要		英語読解 I は、基礎的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。													
到達目標		基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数	担当者			授業の内容											
1	本村 万喜子			※ペアワークやディスカッションを含む回がある。 【第 1 回】 予習：これまでの英語学習を振り返る 授業：オリエンテーション（授業のすすめ方について）、Unit1 前半 復習：課題に取り組む											
2	本村 万喜子			【第 2 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit1 後半 復習：課題に取り組む											
3	本村 万喜子			【第 3 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit2 前半 復習：課題に取り組む											
4	本村 万喜子			【第 4 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit2 後半 復習：課題に取り組む											
5	本村 万喜子			【第 5 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit3 前半 復習：課題に取り組む											
6	本村 万喜子			【第 6 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit3 後半 復習：課題に取り組む											
7	本村 万喜子			【第 7 回】 予習：Unit1-3 の内容を確認する 授業：Unit1-3 の振り返り 復習：前期前半の学習を振り返り、前期後半の学習計画を立てる											
8	本村 万喜子			【第 8 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit4 前半 復習：課題に取り組む											
9	本村 万喜子			【第 9 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit4 後半 復習：課題に取り組む											
10	本村 万喜子			【第 10 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit5 前半 復習：課題に取り組む											
11	本村 万喜子			【第 11 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit5 後半											

		復習：課題に取り組む						
12	本村 万喜子	【第 12 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit6 前半 復習：課題に取り組む						
13	本村 万喜子	【第 13 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit6 後半 復習：課題に取り組む						
14	本村 万喜子	【第 14 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit7 復習：課題に取り組む						
15	本村 万喜子	【第 15 回】 予習：前期の学習内容を確認する 授業：前期の学習についての講評 復習：苦手な学習内容等、自分の課題を見つけ、前期の学習を分析する						
授業開始前学習		映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		Alison Kitzman/三原 京/田中 善紀/木村 博 著 『TOEIC Bridge L&R テストで英語演習 - Practical TOEIC Bridge L&R Tests』（南雲堂） ISBN：9784523179085						
参考書								
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト、課題提出）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード	F02318	
科目名称		☆英語(読解) I				単位数	1.0 単位	
英文名称		EnglishB I				授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者		遠藤 玲奈				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		遠藤 玲奈				開講時期	1 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		英語読解 I は、基礎的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。						
到達目標		基本的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、基礎的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	遠藤 玲奈	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく。テキストと辞書（電子辞書可）を用意する 授業：オリエンテーション（授業概要、到達目標、授業の進め方について）、グループワーク 復習：授業中に説明を受けた授業概要、到達目標、授業の進め方をもとに、今学期の目標を立てる						
2	遠藤 玲奈	【第 2 回】 予習：Unit 1（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 1（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る						
3	遠藤 玲奈	【第 3 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 1（後半）、グループワーク、Unit 1（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る						
4	遠藤 玲奈	【第 4 回】 予習：Unit 2（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 2（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする						
5	遠藤 玲奈	【第 5 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 2（後半）、グループワーク、Unit 2（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る						
6	遠藤 玲奈	【第 6 回】 予習：Unit 3（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 3（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする						
7	遠藤 玲奈	【第 7 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う前期前半の振り返りの準備をする 授業：Unit 3（後半）、グループワーク、前期前半の振り返り 復習：授業中の活動を振り返る						
8	遠藤 玲奈	【第 8 回】 予習：Unit 4（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 4（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る						
9	遠藤 玲奈	【第 9 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 4（後半）、グループワーク、Unit 4（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る						
10	遠藤 玲奈	【第 10 回】 予習：Unit 5（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 5（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする						
11	遠藤 玲奈	【第 11 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 5（後半）、グループワーク、Unit 5（全体）小テスト						

		復習：授業中の活動を振り返る						
12	遠藤 玲奈	【第 12 回】 予習：Unit 6（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 6（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする						
13	遠藤 玲奈	【第 13 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 6（後半）、グループワーク、Unit 6（全体）小テスト 復習：授業中の活動を振り返る						
14	遠藤 玲奈	【第 14 回】 予習：Unit 7（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 7（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする						
15	遠藤 玲奈	【第 15 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う前期後半の振り返りの準備をする 授業：Unit 7（後半）、グループワーク、前期後半の振り返り 復習：自分の課題を見つけ対策を立てる						
授業開始前学習		映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。また、学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストの準備を必ず行うこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 7 回目、15 回目に授業内容の振り返りを行い、クラスおよび個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		Arnold Arao, Kei Mihara, Yoshinori Miwa, Hiroshi Kimura『Answers to Everyday Questions 1【High-beginning】』（南雲堂）						
参考書		授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト、課題提出、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード		F02334
科目名称		☆英語(読解) I				単位数	1.0 単位	
英文名称		EnglishB I				授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者		薬師 英子				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		薬師 英子				開講時期	1 年	
オフィスアワー		前期 火曜日 10:00～13:00 後期 火曜日 10:00～13:00				研究室	10-55	
授業概要		英語 B I では、基礎的な英語を読むのに必要な力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。						
到達目標		基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	薬師 英子	【第 1 回】 予習：自分の英語学習を振り返る 授業：ガイダンス：（授業についての説明や事前指導） Pre-Test 復習：授業の活動を振り返る						
2	薬師 英子	【第 2 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 1 ① Home Appliances （P1-9） 写真問題：Part 1 写真の見方を強化する グループワーク 復習：授業の活動を振り返る						
3	薬師 英子	【第 3 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 1 ② Home Appliances (P1-9) 疑問詞・代名詞を学ぶ 復習：授業の活動を振り返る						
4	薬師 英子	【第 4 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 2 ① Recreation (P10-18) 会話問題：Part 3 会話問題の設問の種類を知る グループワーク 復習：授業の活動を振り返る						
5	薬師 英子	【第 5 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 2 ② Recreation (P10-18) 長文穴埋め問題：Part 6 読み物のジャンルと流れを知る。 復習：授業の活動を振り返る						
6	薬師 英子	【第 6 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 3 ① Restaurants(P19-27) 説明文問題：Part 4 設問の先読みをする。 グループワーク 復習：授業の活動を振り返る						
7	薬師 英子	【第 7 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 3 ②：Restaurants （P19-27） 読解問題：Part 7 頻出の読み物の特徴と流れを知る。 これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめの提出 復習：授業の活動を振り返る						
8	薬師 英子	【第 8 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：【第 1 回】～【第 7 回】の学習のまとめ 復習：授業の活動を振り返る						
9	薬師 英子	【第 9 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 4 ①：Supermarket Shopping （P28-36） 応答問題：Part 2 疑問詞の応答に慣れる。グループワーク これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめの講評。 復習：授業の活動を振り返る						
10	薬師 英子	【第 10 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 4 ②：Supermarket Shopping （P28-36） 接続詞を学ぶ。 復習：授業の活動を振り返る						

11	薬師 英子	【第 11 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 5 ①: Housing (P37-45) 問題提起と問題解決のための提案を知る。グループワーク 復習：授業の活動を振り返る						
12	薬師 英子	【第 12 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 5 ②: Housing (P37-45) ストーリーの流れと逆接の表現を学ぶ。 復習：授業の活動を振り返る						
13	薬師 英子	【第 13 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 6 ①: Business (P46-55) 会話の種類と電話メッセージ グループワーク これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめの提出 復習：授業の活動を振り返る						
14	薬師 英子	【第 14 回】 予習：教科書の該当箇所の予習をする 授業：Unit 6 ②: Business (P46-55) ストーリーの流れと逆接の追加表現を学ぶ。 復習：授業の活動を振り返る						
15	薬師 英子	【第 15 回】 予習：教科書の該当箇所の予習をする 授業：【第 8 回】～【第 14 回】の学習のまとめ これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめの講評。 復習：授業の活動を振り返る						
授業開始前学習		学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		"AN AMAZING APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST"、菰 寛美、Eleanor Smith、福井 美奈子、中井 達也、倉田 誠 著、成美堂						
参考書		授業中に紹介する。						
評価の基準と方法		試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業参加意欲）						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。単位認定には全授業数の 3 分の 2 以上の出席を必須とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。テキスト忘れ、授業内での携帯電話使用等は授業参加意欲の減点対象とする。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容はシラバスや配信資料等を確認し、各自フォローアップする。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F02351
科目名称	☆英語(読解) I			単位数	1.0 単位
英文名称	English (Reading Comprehension) I / EnglishB I			授業区分	演習
科目責任者	加藤 久子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 久子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC 等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「語彙・語法」について学ぶ。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	加藤 久子	【第 1 回】 予習：今まで学習した英語（特に単語と文法）を見直しておく 授業：オリエンテーション（授業概要、到達目標、成績評価基準の説明等） 復習：授業中に説明を受けた授業概要、到達目標、成績評価基準の説明等を確認する			
2	加藤 久子	【第 2 回】 予習：Unit1 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 1 前半およびグループワーク 復習：第 2 回で学んだ内容を振り返る。			
3	加藤 久子	【第 3 回】 予習：Unit 1 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 1 後半およびグループワーク、Unit1 小テスト 復習：第 3 回で学んだ内容を振り返る。			
4	加藤 久子	【第 4 回】 予習：Unit 2①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 2 前半およびペアワーク 復習：第 4 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。			
5	加藤 久子	【第 5 回】 予習：Unit 2⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 2 後半およびグループワーク、Unit 2 小テスト 復習：第 3 回で学んだ内容を振り返る。			
6	加藤 久子	【第 6 回】 予習：Unit 3 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 3 前半およびグループワーク 復習：第 6 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。			
7	加藤 久子	【第 7 回】 予習：Unit 3 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 3 後半およびグループワーク、Unit3 小テスト 復習：第 7 回で学んだ内容を振り返る。			
8	加藤 久子	【第 8 回】 予習：Unit 4 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 4 前半およびグループワーク 復習：第 8 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。			
9	加藤 久子	【第 9 回】 予習：Unit 4 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 4 後半およびグループワーク、Unit4 小テスト 復習：第 9 回で学んだ内容を振り返る。			
10	加藤 久子	【第 10 回】 予習：Unit 5 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 5 前半およびグループワーク			

		復習：第 10 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。						
11	加藤 久子	【第 11 回】 予習：Unit 5 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 5 後半およびグループワーク、Unit5 小テスト 復習：第 11 回で学んだ内容を振り返る。						
12	加藤 久子	【第 12 回】 予習：Unit 6 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 6 前半およびグループワーク 復習：第 12 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。						
13	加藤 久子	【第 13 回】 予習：Unit 6 ⑤ Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 6 後半およびグループワーク、Unit6 小テスト 復習：第 13 回で学んだ内容を振り返る。						
14	加藤 久子	【第 14 回】 予習：Unit 7 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 7 前半およびグループワーク 復習：第 14 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。						
15	加藤 久子	【第 15 回】 予習：Unit 7 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 7 後半およびグループワーク、Unit7 小テスト 復習：第 15 回で学んだ内容を振り返る。						
授業開始前学習		高校までの英単語、英文法をできるだけ見直しておくこと。映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持ち、興味のある文章や単語を辞書で調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業内で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		①Charles Browne /Brent Culligan / Joseph Phillips 著『IN FOCUS INTRO』(金星堂) ②Robert Hickling 著『FIRST TRY FOR THE TOEIC®L&R テスト』(金星堂) ※①②の 2 冊を通年使用する。						
参考書								
評価の基準と方法		小テスト 20%および平常点(課題提出、Presentation、授業態度等)80%を総合して評価する。 定期試験は実施しない。 出席を重視する。 その他、第 1 回の授業で説明する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		①授業前半に『IN FOCUS INTRO』を使用し、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行いながら語彙、語法を身につける。 ②授業後半には、『FIRST TRY FOR THE TOEIC®L&R TEST』を使って演習問題を実践し、自身の英語力を向上させる。 毎回、①②両方のテキストを持参すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02361
科目名称	☆英語(読解)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中川 優一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中川 優一			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC 等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習に取り組む。本授業では、主に「文法」について学ぶ。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。標準的な構文で書かれた英文を読むと理解することができる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中川 優一	【第 1 回】 予習：Unit 8 (Doing Business Online, p.75-77) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 8 (Doing Business Online, p.75-77)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 1 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。			
2	中川 優一	【第 2 回】 予習：Unit 8 (Doing Business Online, p.78-81)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 8 (Doing Business Online, p.78-81)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 2 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。			
3	中川 優一	【第 3 回】 予習：Unit 9 (Housing, p.83-85)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 9 (Housing, p.83-85)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 3 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。			
4	中川 優一	【第 4 回】 予習：Unit 9 (Housing, p.86-91)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 9 (Housing, p.86-91)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 4 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。			
5	中川 優一	【第 5 回】 予習：Unit 10 (Making Deals & Contracts, p.93-95) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 10 (Making Deals & Contracts, p.93-95) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 5 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。			
6	中川 優一	【第 6 回】 予習：Unit 10 (Making Deals & Contracts, p.96-99)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 10 (Making Deals & Contracts, p.96-99) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 6 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。			
7	中川 優一	【第 7 回】 予習：第 1 回から第 6 回までの復習 授業：後期前半のまとめを行う。 復習：まとめてわからなかったところの確認。			
8	中川 優一	【第 8 回】 予習：Unit 11 (Public Service, p.101-103)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：後期前半のまとめのフィードバック及び Unit 11 (Public Service, p.101-103) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 8 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。			
9	中川 優一	【第 9 回】 予習：Unit 11 (Public Service, p.104-109) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 11 (Public Service, p.104-109) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 9 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。			
10	中川 優一	【第 10 回】 予習：Unit 12 (Banking & Finance, p.111-113) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 12 (Banking & Finance, p.111-113)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 10 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。			

11	中川 優一	【第 11 回】 予習：Unit 12 (Banking & Finance, p.114-117) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 12 (Banking & Finance, p.114-117)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 11 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。						
12	中川 優一	【第 12 回】 予習：Unit 13 (At Seminars & Workshops, p.119-121)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 13 (At Seminars & Workshops, p.119-121)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 12 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。						
13	中川 優一	【第 13 回】 予習：Unit 13 (At Seminars & Workshops, p.122-125)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 13 (At Seminars & Workshops, p.122-125)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 13 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。						
14	中川 優一	【第 14 回】 予習：第 8 回から第 13 回までの復習。 授業：後期後半のまとめを行う。 復習：まとめてわからなかったところの確認。						
15	中川 優一	【第 15 回】 予習：一年間の学習の振り返り。 授業：一年を通して振り返り、及びフィードバック。 復習：今後に向けて必要な内容を振り返る。						
授業開始前学習		高校までの英単語、英文法をできるだけ見直しておくこと。映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持ち、興味がある文章や単語を、辞書で調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業の冒頭で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		Illuminating the Path to the TOEIC L&R Test, (2022) Michiko Ueki, et al., 金星堂						
参考書								
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード	F02362
科目名称		☆英語(読解)Ⅱ				単位数	1.0 単位
英文名称		EnglishBⅡ				授業区分	演習・実習・実技
科目責任者		境 奈津希				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		境 奈津希				開講時期	1 年
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		英語読解Ⅱは、標準的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。					
到達目標		標準的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、標準的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	境 奈津希	【第 1 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.31） 授業： オリエンテーション、Chapter 7（教科書 p.31-34）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
2	境 奈津希	【第 2 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.35） 授業： Chapter 8（教科書 p.35-38）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
3	境 奈津希	【第 3 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.31,35） 授業： Chapter 7,8（教科書 p.31-38）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
4	境 奈津希	【第 4 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.31,35） 授業： Chapter 7,8（教科書 p.31-38）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
5	境 奈津希	【第 5 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.39） 授業： Chapter 9（教科書 p.39-42）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
6	境 奈津希	【第 6 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.43） 授業： Chapter 10（教科書 p.43-46）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
7	境 奈津希	【第 7 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.39,43） 授業： Chapter 9,10（教科書 p.39-46）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
8	境 奈津希	【第 8 回】 予習： 後期前半の授業で学んだことを復習する 授業： 後期前半の振り返り 復習： 後期前半の授業で学んだことを復習する					
9	境 奈津希	【第 9 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.39,43） 授業： Chapter 9,10（教科書 p.39-46）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
10	境 奈津希	【第 10 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.47） 授業： Chapter 11（教科書 p.47-50）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する					
11	境 奈津希	【第 11 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.51） 授業： Chapter 12（教科書 p.51-54）（グループワーク・ディスカッション）					

		復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する						
12	境 奈津希	【第 12 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.47,51） 授業： Chapter 11,12（教科書 p.47-54）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する						
13	境 奈津希	【第 13 回】 予習： Get Ready for the Story（教科書 p.47,51） 授業： Chapter 11,12（教科書 p.47-54）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する						
14	境 奈津希	【第 14 回】 予習： 前期前半の授業で学んだことを復習する 授業： Epilogue（教科書 p.55-57）（グループワーク・ディスカッション） 復習： 授業で学んだ文法、語彙を復習する						
15	境 奈津希	【第 15 回】 予習： 後期後半の授業で学んだことを復習する 授業： 後期後半のふりかえり 復習： この授業を通して学んだことを復習する						
授業開始前学習		中学校、高等学校で学んだこと、及び英語 I で学んだことを再確認しておきましょう。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		Atsuko Uemura, Irene Iwasaki『Mystery Break』（センゲージラーニング）						
参考書		授業内で適宜配布します。						
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト 20%、授業への取り組み 20%） および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード	F02363	
科目名称		☆英語(読解)Ⅱ				単位数	1.0 単位	
英文名称		EnglishBⅡ				授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者		鈴木 悠理				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		鈴木 悠理				開講時期	1 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		本科目では前期に引き続き、標準的な英語を読むのに必要な力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、ペア・グループワークやディスカッション等の活動も行う。						
到達目標		標準的な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。標準的な構文で書かれた英文を読み、理解することができる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	鈴木 悠理	【第 1 回】 予習：シラバスを確認する。Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 7（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。後期の目標を立てる。						
2	鈴木 悠理	【第 2 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 7（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 7（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。						
3	鈴木 悠理	【第 3 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 8（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。						
4	鈴木 悠理	【第 4 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 8（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 8（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。						
5	鈴木 悠理	【第 5 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 9（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。						
6	鈴木 悠理	【第 6 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 9（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 9（全体）小テスト、後期前半の振り返り 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。						
7	鈴木 悠理	【第 7 回】 予習：Unit 7～9 の学習を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 7～9 の学習 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。						
8	鈴木 悠理	【第 8 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 10（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。						
9	鈴木 悠理	【第 9 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 10（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 10（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。						
10	鈴木 悠理	【第 10 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 11（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。						
11	鈴木 悠理	【第 11 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 11（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 11（全体）小テスト						

		復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。						
12	鈴木 悠理	【第 12 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 13（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。						
13	鈴木 悠理	【第 13 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 13（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 13（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。						
14	鈴木 悠理	【第 14 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 14（全体）リーディング、ペア・グループワーク、後期後半の振り返り 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。						
15	鈴木 悠理	【第 15 回】 予習：後期の学習を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：後期の学習 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。						
授業開始前学習		時事ニュースや文化（映画・音楽・ファッションなど）を通して英語に触れる機会を持つこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 7 回目、15 回目に授業内容の復習を行い、クラスおよび個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		木村博是、三原京『Answers to Everyday Questions 1 〈High-beginning〉身近な不思議を英語で学ぶ〈初級〉』（南雲堂） *前期と同じテキスト						
参考書		英和辞典・和英辞典は必須（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		平常点 40%（授業参加態度、小テスト、課題提出など）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02364
科目名称	☆英語(読解)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	池上 俊彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	池上 俊彦			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、実践的英語力のさらなる育成のために、TOEIC 試験で一定の得点を取得できる英語力を身につけることを目指す。ただし、問題演習に終始するのではなく、英語の運用能力向上のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。標準的な構文で書かれた英文を読むと理解することができる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	池上 俊彦	毎時間ペアワーク等を適宜行う 【第 1 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 7: Chopin & Pot-au-feu ショパン：ジョルジュ・サンドお手製のボトフ(pp. 26-27) 復習：新出単語と文法項目の暗記			
2	池上 俊彦	【第 2 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 7: Chopin & Pot-au-feu ショパン：ジョルジュ・サンドお手製のボトフ(pp. 28-29) 復習：新出単語と文法項目の暗記			
3	池上 俊彦	【第 3 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 8: Dvorak & his Last Dinner ドヴォルザーク：家族と囲んだ最後の食卓(pp. 30-31) 復習：新出単語と文法項目の暗記			
4	池上 俊彦	【第 4 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 8: Dvorak & his Last Dinner ドヴォルザーク：家族と囲んだ最後の食卓(pp. 32-33) 復習：新出単語と文法項目の暗記			
5	池上 俊彦	【第 5 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 9: Elvis Presley & the Elvis Sandwich エルビスプレスリー：エルビス・サンドイッチはおふくろの味(pp. 34-35) 復習：新出単語と文法項目の暗記			
6	池上 俊彦	【第 6 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 9: Elvis Presley & the Elvis Sandwich エルビスプレスリー：エルビス・サンドイッチはおふくろの味(pp. 36-37) 復習：新出単語と文法項目の暗記			
7	池上 俊彦	【第 7 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 10: Aretha Franklin & Soul Food アレサ・フランクリン：ソウルの女王のソウルフード(pp. 38-39)、課題提出 復習：新出単語と文法項目の暗記			
8	池上 俊彦	【第 8 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：後期前半の振り返り 復習：新出単語と文法項目の暗記			
9	池上 俊彦	【第 9 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 10: Aretha Franklin & Soul Food アレサ・フランクリン：ソウルの女王のソウルフード(pp. 40-41)、提出課題のおさらい (グループワーク)			

		復習：新出単語と文法項目の暗記						
10	池上 俊彦	【第 10 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 11: Seiji Ozawa & Nostalgic Nibbles 小澤征爾：海外にいと恋しくなる和食(pp. 42-43) 復習：新出単語と文法項目の暗記						
11	池上 俊彦	【第 11 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 11: Seiji Ozawa & Nostalgic Nibbles 小澤征爾：海外にいと恋しくなる和食(pp. 44-45) 復習：新出単語と文法項目の暗記						
12	池上 俊彦	【第 12 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 12: Bob Dylan & Country Pie ボブ・ディラン：答えはパイの中(pp. 46-47) 復習：新出単語と文法項目の暗記						
13	池上 俊彦	【第 13 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 12: Bob Dylan & Country Pie ボブ・ディラン：答えはパイの中(pp. 48-49))、課題提出 復習：新出単語と文法項目の暗記						
14	池上 俊彦	【第 14 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 13: Taylor Swift & her Shake Shake Shake テイラー・スウィフト：歌姫のお気に入りシェイク・シェイク・シェイク(pp. 50-51) 復習：新出単語と文法項目の暗記						
15	池上 俊彦	【第 15 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：後期後半の振り返り、提出課題のおさらい（グループワーク） 復習：新出単語と文法項目の暗記						
授業開始前学習		英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。教科書のリーディングセクションの音読。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 7 回目、13 回目に提出する課題については、2 週間後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		堀越ウェンディ、松井真帆、本山ふじ子 『音楽家たちが奏でる食文化 At the Musician's Table : Food and Music』朝日出版社、2024 年。（ISBN: 978-4-255-15722-1） 適宜プリント						
参考書								
評価の基準と方法		授業態度と課題提出 40% テスト 60%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02365
科目名称	☆英語(読解)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	長谷 陸			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷 陸			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語 BⅠ に引き続き、英語 BⅡ では、標準的な英語を読むのに必要な力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。標準的な構文で書かれた英文を読むと理解することができる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場 合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	長谷 陸	【第 1 回】 予習： 前期の振り返り 授業： 授業の目標と評価の説明 復習： 教科書の進め方の確認			
2	長谷 陸	【第 2 回】 予習： 教科書の文法解説を予習する。 授業： Unit13 ペア・グループワーク 復習： 授業の内容を振り返る。			
3	長谷 陸	【第 3 回】 予習： 教科書の文法解説を予習する。 授業： Unit14 ペア・グループワーク 復習： 授業の内容を振り返る。			
4	長谷 陸	【第 4 回】 予習： 教科書の文法解説を予習する。 授業： Unit15 ペア・グループワーク 復習： 授業の内容を振り返る。			
5	長谷 陸	【第 5 回】 予習： 教科書の文法解説を予習する。 授業： Unit16 ペア・グループワーク 復習： 授業の内容を振り返る。			
6	長谷 陸	【第 6 回】 予習： 教科書の文法解説を予習する。 授業： Unit17 ペア・グループワーク 復習： 授業の内容を振り返る。			
7	長谷 陸	【第 7 回】 予習： 教科書の文法解説を予習する。 授業： Unit18 ペア・グループワーク 復習： 授業の内容を振り返る。			
8	長谷 陸	【第 8 回】 予習： 第 2 ～ 7 回の授業を振り返る。 授業： 後期前半の授業のまとめ 復習： 授業の内容を振り返る。			
9	長谷 陸	【第 9 回】 予習： 教科書の文法解説を予習する。 授業： Unit19 ペア・グループワーク 復習： 授業の内容を振り返る。			
10	長谷 陸	【第 10 回】 予習： 教科書の文法解説を予習する。 授業： Unit20 ペア・グループワーク 復習： 授業の内容を振り返る。			
11	長谷 陸	【第 11 回】 予習： 教科書の文法解説を予習する。 授業： Unit21 ペア・グループワーク			

		復習 : 授業の内容を振り返る。						
12	長谷 陸	【第 12 回】 予習 : 教科書の文法解説を予習する。 授業 : Unit22 ペア・グループワーク 復習 : 授業の内容を振り返る。						
13	長谷 陸	【第 13 回】 予習 : 教科書の文法解説を予習する。 授業 : Unit23 ペア・グループワーク 復習 : 授業の内容を振り返る。						
14	長谷 陸	【第 14 回】 予習 : 教科書の文法解説を予習する。 授業 : Unit24 ペア・グループワーク 復習 : 授業の内容を振り返る。						
15	長谷 陸	【第 15 回】 予習 : 第 9～14 回の授業を振り返る。 授業 : 後期後半の授業のまとめ 復習 : 授業の内容を振り返る。						
授業開始前学習		国際的なニュースや自分の興味のある文化(映画、音楽、スポーツなど)を通して英語に触れること。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業の冒頭で小テストを行い、翌週の返却時に解説を行う。第 8 回、第 15 回の授業で振り返りを行う。						
テキスト・教材		佐藤哲三、愛甲ゆかり著『English Primer(Revised Edition) 大学生の英語入門(改訂新版)』(南雲堂)						
参考書		英和辞典、和英辞典(電子辞書可)						
評価の基準と方法		平常点 40% (小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等) および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02366
科目名称	☆英語(読解)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	江連 成美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	江連 成美			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語読解Ⅱは、標準的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、標準的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	江連 成美	【第 1 回】 予習：Unit 14: Vocabulary 授業：Unit 14: Summer-Vacation Assignments - 読解 復習：語彙や表現の復習			
2	江連 成美	【第 2 回】 予習：Unit 14: Comprehension & Listening 授業：Unit 14: Summer-Vacation Assignments - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習			
3	江連 成美	【第 3 回】 予習：Unit 15: Vocabulary 授業：Unit 15: Halloween Is Best! - 読解 復習：語彙や表現の復習			
4	江連 成美	【第 4 回】 予習：Unit 15: Comprehension & Listening 授業：Unit 15: Halloween Is Best! - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習			
5	江連 成美	【第 5 回】 予習：Unit 16: Vocabulary 授業：Unit 16: Valentine's Day in Japan - 読解 復習：語彙や表現の復習			
6	江連 成美	【第 6 回】 予習：Unit 16: Comprehension & Listening 授業：Unit 16: Valentine's Day in Japan - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習			
7	江連 成美	【第 7 回】 予習：後期前半に学習した語彙や文法を復習する 授業：後期前半の振り返り 復習：理解できていなかった点を整理しておく			
8	江連 成美	【第 8 回】 予習：Unit 18: Vocabulary 授業：Unit 18: YouTube vs. Normal TV - 読解 復習：語彙や表現の復習			
9	江連 成美	【第 9 回】 予習：Unit 18: Comprehension & Listening 授業：Unit 18: YouTube vs. Normal TV - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習			
10	江連 成美	【第 10 回】 予習：Unit 19: Vocabulary 授業：Unit 19: Internet vs. Bricks-and-Mortar - 読解 復習：語彙や表現の復習			
11	江連 成美	【第 11 回】 予習：Unit 19: Comprehension & Listening 授業：Unit 19: Internet vs. Bricks-and-Mortar - Writing & Speaking			

		復習：語彙や表現の復習						
12	江連 成美	【第 12 回】 予習：Unit 20: Vocabulary 授業：Unit 20: Translation Software - 読解 復習：語彙や表現の復習						
13	江連 成美	【第 13 回】 予習：Unit 20: Comprehension & Listening 授業：Unit 20: Translation Software - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習						
14	江連 成美	【第 14 回】 予習：発表の準備 授業：自分のテーマについて発表する 復習：授業中のフィードバックを基に、自分の発表内容について振り返る						
15	江連 成美	【第 15 回】 予習：後期後半に学習した語彙や文法を復習する 授業：後期後半の振り返り 復習：後期に学習した項目を整理し振り返る						
授業開始前学習		映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		テキスト名：Two Sides to Every Discussion 2（英語で考え、英語で発信する 2） 出版社：成美堂						
参考書		特になし。						
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード	F02367	
科目名称		☆英語(読解)Ⅱ				単位数	1.0 単位	
英文名称		EnglishBⅡ				授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者		本村 万喜子				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		本村 万喜子				開講時期	1 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		英語読解Ⅱは、標準的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。						
到達目標		標準的な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。標準的な構文で書かれた英文を読むと理解することができる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	本村 万喜子	※ペアワークやディスカッションを含む回がある。 【第 1 回】 予習：これまでの英語学習を振り返る 授業：オリエンテーション（授業のすすめ方について）、Unit8 前半 復習：課題に取り組む						
2	本村 万喜子	【第 2 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit8 後半 復習：課題に取り組む						
3	本村 万喜子	【第 3 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit9 前半 復習：Unit19 の課題に取り組む						
4	本村 万喜子	【第 4 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit9 後半 復習：課題に取り組む						
5	本村 万喜子	【第 5 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit10 前半 復習：課題に取り組む						
6	本村 万喜子	【第 6 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit10 後半 復習：課題に取り組む						
7	本村 万喜子	【第 7 回】 予習：Unit8-10 の内容を確認する 授業：Unit8-10 の振り返り 復習：後期前半の学習を振り返り、後期後半の学習計画を立てる						
8	本村 万喜子	【第 8 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit11 前半 復習：課題に取り組む						
9	本村 万喜子	【第 9 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit11 後半 復習：課題に取り組む						
10	本村 万喜子	【第 10 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit12 前半 復習：課題に取り組む						
11	本村 万喜子	【第 11 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit12 後半						

		復習：課題に取り組む						
12	本村 万喜子	【第 12 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit13 復習：課題に取り組む						
13	本村 万喜子	【第 13 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit14 復習：課題に取り組む						
14	本村 万喜子	【第 14 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit15 復習：課題に取り組む						
15	本村 万喜子	【第 15 回】 予習：Unit11-15 の内容を確認する 授業：Unit11-15 の振り返り 復習：苦手な学習内容等、自分の課題を見つけ、後期の学習を分析する						
授業開始前学習		映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		Alison Kitzman/三原 京/田中 善紀/木村 博 著 『TOEIC Bridge L&R テストで英語演習 - Practical TOEIC Bridge L&R Tests』（南雲堂） ISBN：9784523179085						
参考書								
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト、課題提出）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21		授業コード		F02368					
科目名称		☆英語(読解)Ⅱ						単位数		1.0 単位					
英文名称		EnglishBⅡ						授業区分		演習・実習・実技					
科目責任者		遠藤 玲奈						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		遠藤 玲奈						開講時期		1 年					
オフィスアワー		-						研究室		-					
授業概要		英語読解Ⅱは、標準的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。													
到達目標		標準的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、標準的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数	担当者			授業の内容											
1	遠藤 玲奈			【第 1 回】 予習：Unit 8（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 8（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る											
2	遠藤 玲奈			【第 2 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 8（後半）、グループワーク、Unit 8（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る											
3	遠藤 玲奈			【第 3 回】 予習：Unit 9（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 9（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする											
4	遠藤 玲奈			【第 4 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 9（後半）、グループワーク、Unit 9（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る											
5	遠藤 玲奈			【第 5 回】 予習：Unit 10（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 10（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする											
6	遠藤 玲奈			【第 6 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う前期前半の振り返りの準備をする 授業：Unit 10（後半）、グループワーク、前期前半の振り返り 復習：授業中の活動を振り返る											
7	遠藤 玲奈			【第 7 回】 予習：Unit 11（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 11（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る											
8	遠藤 玲奈			【第 8 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 11（後半）、グループワーク、Unit 11（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る											
9	遠藤 玲奈			【第 9 回】 予習：Unit 12（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 12（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする											
10	遠藤 玲奈			【第 10 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 12（後半）、グループワーク、Unit 12（全体）小テスト 復習：授業中の活動を振り返る											
11	遠藤 玲奈			【第 11 回】 予習：Unit 13（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 13（前半）、グループワーク											

		復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする						
12	遠藤 玲奈	【第 12 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 13（後半）、グループワーク、Unit 13（全体）小テスト 復習：授業中の活動を振り返る						
13	遠藤 玲奈	【第 13 回】 予習：Unit 14（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 14（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする						
14	遠藤 玲奈	【第 14 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う前期後半の振り返りの準備をする 授業：Unit 14（後半）、グループワーク、前期後半の振り返り 復習：自分の課題を見つけ対策を立てる						
15	遠藤 玲奈	【第 15 回】 予習：今まで授業で学んだことを振り返る 授業：一年間のまとめ 復習：自分の課題を見つけ対策を立てる						
授業開始前学習		映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。また、学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストの準備を必ず行うこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 7 回目、15 回目に授業内容の振り返りを行い、クラスおよび個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		Arnold Arao, Kei Mihara, Yoshinori Miwa, Hiroshi Kimura『Answers to Everyday Questions 1【High-beginning】』（南雲堂）						
参考書		授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト、課題提出、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F02384
科目名称	☆英語(読解)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	薬師 英子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	薬師 英子			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:00～13:00 後期 火曜日 10:00～13:00			研究室	10-55
授業概要	英語 BⅠに引き続き、英語 BⅡでは、標準的な英語を読むのに必要な力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を聞き取り理解できる。標準的な構文で書かれた英文を、読むと理解できる。身近な話題について、主体的に書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	薬師 英子	【第 1 回】 予習 : 自分の英語学習を振り返る 授業 : ガイダンス (授業についての説明や事前指導) TOEIC Pre-Test 復習 : 授業で学んだ語彙・文法・活動を振り返る			
2	薬師 英子	【第 2 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 7 ① : Bank & Post office (P57-65) 人間や物の位置関係を表す表現を学ぶ。 復習 : 授業中の活動を振り返る			
3	薬師 英子	【第 3 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 7 ② : Bank & Post office (P57-65) 不定詞と動名詞 グループワーク 復習 : 授業中の活動を振り返る			
4	薬師 英子	【第 4 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 8 ① : Job Hunting (P66-74) 会話の詳細な情報を聞き取る グループワーク 復習 : 授業中の活動を振り返る			
5	薬師 英子	【第 5 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 8 ② : Job Hunting (P66-74) ストーリーの流れ : 例示、追加表現の使い方 復習 : 授業中の活動を振り返る			
6	薬師 英子	【第 6 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 9 ① Health (P75-86) 全体把握のための鍵を知る。 グループワーク 復習 : 授業中の活動を振り返る			
7	薬師 英子	【第 7 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 9 ② Health (P75-86) これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめ提出。 復習 : 授業中の活動を振り返る			
8	薬師 英子	【第 8 回】 予習 : ここまでの授業を総復習する 授業 : 【第 1 回】～【第 7 回】の学習のまとめ 復習 : まとめを振り返る			
9	薬師 英子	【第 9 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 10 ① : Tourism : Travel by Land (P87-95) 物が主語になる受動態の表現 これまで学んできた Unit7～9(pp.67～86)についてのまとめの講評・ 復習 : 授業中の活動を振り返る			
10	薬師 英子	【第 10 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 10 ② : Tourism : Travel by Land (P87-95) 比較表現を学ぶ グループワーク 復習 : 授業中の活動を振り返る			
11	薬師 英子	【第 11 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 11 ① : Tourism : Travel by Air (P96-104) 意図問題 : 文の真意を理解する グループワーク			

		復習 : 授業中の活動を振り返る						
12	薬師 英子	【第 12 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 11 ② : Tourism : Travel by Air (P96-104) ストーリーの流れ : 結論を述べる表現を学ぶ 復習 : 授業中の活動を振り返る						
13	薬師 英子	【第 13 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 12 ① : Tourism: Hotels (P105-115) 図表問題 : グラフの見方と情報を聞き取る これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめ提出。 復習 : 授業中の活動を振り返る						
14	薬師 英子	【第 14 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 12 ② : Tourism: Hotels (P105-115) ストーリーの流れ : 追加・結論の表現を学ぶ 復習 : 授業中の活動を振り返る						
15	薬師 英子	【第 15 回】 予習 : 今までの授業で学んだことを振り返る 授業 : 【第 8 回】～【第 14 回】の学習のまとめ これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめの講評。 復習 : 自分の課題を見つけ対策を立てる						
授業開始前学習		学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		"AN AMAZING APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST"、種 寛美、Eleanor Smith、福井 美奈子、中井 達也、倉田 誠 著、成美堂						
参考書		授業中に紹介する。						
評価の基準と方法		試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業参加意欲）						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		出席を重視する。単位認定には全授業数の 3 分の 2 以上の出席を必須とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。テキスト忘れ、授業内での携帯電話の使用等は授業参加意欲の減点対象とする。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容はシラバスや配信資料等を確認し、各自フォローアップする。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21	授業コード	F02611
科目名称	英会話 I			単位数	1.0 単位
英文名称	English Conversation I			授業区分	演習
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.				
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English. They will be able to have a basic conversation in English.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 : Read pp. 9-12 in the textbook/ Listen to CD, tracks 3-7 授業 : Self-Introductions/Course goals 復習 : Review notes/ Do homework			
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 : Read pp. 13-16/ Listen to tracks 10-14 授業 : Talking about entertainment ? movies and music 復習 : Review notes/ Do homework			
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 : Read pp. 17-20/ Listen to tracks 17-21 授業 : Talking about art and impressions 復習 : Review notes/ Do homework			
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 : Read pp. 21-24 /Listen to tracks 24-28 授業 : Talking about family members 復習 : Review notes/ Do homework p. 84			
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 : Prepare a short talk about your family 授業 : Talking about family customs and traditions 復習 : Review notes/ Do homework			
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 : Prepare any questions you have about class material 授業 : Consolidation and review 復習 : Reread textbook pp.9-24			
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 : Prepare several topics you want to talk about 授業 : Conversation advice and coaching 復習 : Write self-evaluation for your conversation practice			
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Reread textbook pp.9-24			
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 : Read pp. 25-28/ Listen to tracks 31-35 授業 : Talking about beliefs and fears 復習 : Review notes/ Do homework			
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 : Read pp. 29-32/ Listen to tracks 38-43 授業 : Talking about experiences 復習 : Review notes/ Do homework			

11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習 : Read pp. 33-36/ Listen to tracks 46-48 授業 : Telling stories 復習 : Review notes/ Do homework						
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習 : Prepare some sentences about your plans for summer vacation 授業 : Talking about future plans 復習 : Review notes/ Do homework						
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習 : Prepare any questions you have about class material 授業 : Consolidation and review 復習 : Reread textbook pp.25-36						
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習 : Prepare several topics you want to talk about 授業 : Conversation advice and coaching 復習 : Write self-evaluation for your conversation practice						
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Reread textbook pp.9-36						
授業開始前学習		Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics. Look up words in the dictionary.						
授業内課題のフィードバックの方法		Once class starts, homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.						
テキスト・教材		Impact Conversation 1 Kirsten Sullivan, Todd Beuckens (Pearson Longman)						
参考書								
評価の基準と方法		Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations 60%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目		English Conversation						
その他		It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted a						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21	授業コード	F02612		
科目名称	英会話 I			単位数	1.0 単位		
英文名称	English Conversation I			授業区分	演習		
科目責任者	D.パートレイ			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	D.パートレイ			開講時期	1・2 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	This course aims at enjoyment & interest. When you are interested in something, you will enjoy doing it, so this class is based on enjoyment & interest. The key to success in anything you do depends on how interesting it is & how much you enjoy doing it. Through interest & enjoyment, you will improve your ability to speak English.						
到達目標	The goal of this class is a purely practical one: to get you to speak English better. To do this, we must find out what you are interested in because when you are interested in something, you will want to talk about it. So our lessons are designed to be i						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	D.パートレイ	【第 1 回】 予習 : Getting settled in 授業 : Course Introduction: I will explain the policies (attendance, participation & assignments) & protocols (contact, feedback & evaluation) of this course. 復習 : generally assess the English you have studied from high school unt					
2	D.パートレイ	【第 2 回】 予習 : Checking class materials (paper, dictionary, writing implements). 授業 : Preparation: What things interest you? 復習 : Take stock of the English you have studied up until now.					
3	D.パートレイ	【第 3 回】 予習 : Review all class notes from the previous lesson, Q&A 授業 : Practice: talking about what interests you with your classmates & I will explain how to prepare your class notes so that you can express your thoughts more easily. 復習 : Review today's exp					
4	D.パートレイ	【第 4 回】 予習 : Study your class notes in preparation for our discussion of the 1st topic. 授業 : Begin our first group discussion on the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.					
5	D.パートレイ	【第 5 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.					
6	D.パートレイ	【第 6 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson 授業 : Conclude our discussion of the 1st topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to write y					
7	D.パートレイ	【第 7 回】 予習 : Prepare to announce & decide the 2nd topic of discussion. 授業 : Decide the 2nd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that yo					
8	D.パートレイ	【第 8 回】 予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業 : Begin your group's discussion on the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.					
9	D.パートレイ	【第 9 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 2nd topic.					

		復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.						
10	D.パートレイ	【第 10 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業 : Conclude our discussion of the 2nd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to						
11	D.パートレイ	【第 11 回】 予習 : Prepare to announce & decide the 3rd topic of discussion. 授業 : Decide the 3rd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that y						
12	D.パートレイ	【第 12 回】 予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業 : Begin your group's discussion on the 3rd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.						
13	D.パートレイ	【第 13 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.						
14	D.パートレイ	【第 14 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業 : Conclude our discussion of the 3rd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to						
15	D.パートレイ	【第 15 回】 予習 : Prepare to submit all post-discussion rewrites (optional activity). 授業 : We will have a general assessment of our progress this semester. 復習 : Students will complete their final reports & submit them to me by email.						
授業開始前学習		Students are encouraged to encounter English in their daily lives whenever & wherever possible whether it be watching TV, listening to music, or reading English newspapers.						
授業内課題のフィードバックの方法		Feedback is an essential part of the course & is embedded in every lesson. A thorough review of the previous lesson is assessed in the daily lesson activities which provide ample opportunities for both the student & the teacher to appraise her level of pr						
テキスト・教材		No textbook is assigned for this course. All necessary & relevant materials will be provided by the teacher. However, every student is required to bring paper, a dictionary, & writing implements to every lesson.						
参考書		notebook, dictionary, pen & pencil						
評価の基準と方法		continuous assessment based on attendance, participation & post-discussion reports (100%) .						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21	授業コード	F02621
科目名称	英会話Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	English Conversation II			授業区分	演習
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.				
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English. They will be able to have a basic conversation in English.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 : Read pp. 37-40 in the textbook/ Listen to CD, tracks 51-55 授業 : Self-Introductions/Course goals 復習 : Review notes/ Do homework			
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 : Read pp. 45-48/ Listen to tracks 58-59 授業 : Talking about health and habits 復習 : Review notes/ Do homework			
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 : Read pp. 49-52/ Listen to track 62 授業 : Talking about friends and relationships 復習 : Review notes/ Do homework			
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 : Read pp. 53-56/ Listen to tracks 65-69 授業 : Talking about family members 復習 : Review notes/ Do homework p. 84			
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 : Prepare a short talk about a travel experience 授業 : Talking about travel and studying abroad 復習 : Review notes/ Do homework			
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 : Prepare any questions you have about class material 授業 : Consolidation and review 復習 : Reread textbook pp.37-40,45-56			
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 : Prepare several topics you want to talk about 授業 : Conversation advice and coaching 復習 : Write self-evaluation for your conversation practice			
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Reread textbook pp.37-40,45-56			
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 : Read pp. 57-60/ Listen to tracks 72-73 授業 : Talking about behavior and qualities in people 復習 : Review notes/ Do homework			
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 : Read pp. 61-64/ Listen to tracks 76-77 授業 : Talking about cultural stereotypes 復習 : Review notes/ Do homework			

11	K.バーズ	【第 11 回】 予習 : Read pp. 65-68/ Listen to tracks 80-84 授業 : Talking about cooking and food 復習 : Review notes/ Do homework						
12	K.バーズ	【第 12 回】 予習 : Prepare some sentences about something interesting you have done recently 授業 : Talking about past experiences 復習 : Review notes/ Do homework						
13	K.バーズ	【第 13 回】 予習 : Prepare any questions you have about class material 授業 : Consolidation and review 復習 : Reread textbook pp.57-68						
14	K.バーズ	【第 14 回】 予習 : Prepare several topics you want to talk about 授業 : Conversation advice and coaching 復習 : Write self-evaluation for your conversation practice						
15	K.バーズ	【第 15 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Reread textbook pp. 37-40,45-68						
授業開始前学習		Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics. Look up words in the dictionary.						
授業内課題のフィードバックの方法		Once class starts, homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.						
テキスト・教材		Impact Conversation 1 Kirsten Sullivan, Todd Beuckens (Pearson Longman)						
参考書								
評価の基準と方法		Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations 60%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目	English Conversation							
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted a							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21	授業コード	F02622		
科目名称	英会話Ⅱ			単位数	1.0 単位		
英文名称	English ConversationⅡ			授業区分	演習		
科目責任者	D.パートレイ			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	D.パートレイ			開講時期	1・2 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	This course builds upon the foundation of the previous course & also aims at enjoyment & interest. When you are interested in something, you will enjoy doing it, so this class is based on enjoyment & interest. The key to success in anything you do depends on how interesting it is & how much you enjoy doing it. Through interest & enjoyment, you will improve your ability to speak English.						
到達目標	As in the previous course, this course, the goal of this class is a purely practical one: to get you to speak English better. To do this, we must find out what you are interested in because when you are interested in something, you will want to talk about						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	D.パートレイ	【第 1 回】 予習 : Getting settled in 授業 : Course Introduction: I will explain the policies (attendance, participation & assignments) & protocols (contact, feedback & evaluation) of this course. 復習 : generally assess the English you have studied from high school unt					
2	D.パートレイ	【第 2 回】 予習 : Checking class materials (paper, dictionary, writing implements). 授業 : Preparation: What things interest you? 復習 : Take stock of the English you have studied up until now.					
3	D.パートレイ	【第 3 回】 予習 : Review all class notes from the previous lesson, Q&A 授業 : Practice: talking about what interests you with your classmates & I will explain how to prepare your class notes so that you can express your thoughts more easily. 復習 : Review today's exp					
4	D.パートレイ	【第 4 回】 予習 : Study your class notes in preparation for our discussion of the 1st topic. 授業 : Begin our first group discussion on the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.					
5	D.パートレイ	【第 5 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.					
6	D.パートレイ	【第 6 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson 授業 : Conclude our discussion of the 1st topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to write y					
7	D.パートレイ	【第 7 回】 予習 : Prepare to announce & decide the 2nd topic of discussion. 授業 : Decide the 2nd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that yo					
8	D.パートレイ	【第 8 回】 予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業 : Begin your group's discussion on the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.					
9	D.パートレイ	【第 9 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 2nd topic.					

		復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.						
10	D.パートレイ	【第 10 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業 : Conclude our discussion of the 2nd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to						
11	D.パートレイ	【第 11 回】 予習 : Prepare to announce & decide the 3rd topic of discussion. 授業 : Decide the 3rd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that y						
12	D.パートレイ	【第 12 回】 予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業 : Begin your group's discussion on the 3rd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.						
13	D.パートレイ	【第 13 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.						
14	D.パートレイ	【第 14 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業 : Conclude our discussion of the 3rd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to						
15	D.パートレイ	【第 15 回】 予習 : Prepare to submit all post-discussion rewrites (optional activity). 授業 : We will have a general assessment of our progress this semester. 復習 : Students will complete their final reports & submit them to me by email.						
授業開始前学習		Students are encouraged to encounter English in their daily lives whenever & where-ever possible whether it be watching TV, listening to music or reading English newspapers.						
授業内課題のフィードバックの方法		Feedback is an essential part of the course & is embedded in every lesson. A thorough review of the previous lesson is assessed in the daily lesson activities which provide ample opportunities for both the student & the teacher to appraise her level of pr						
テキスト・教材		No textbook is assigned for this course. All necessary & relevant materials will be provided by the teacher. However, every student is required to bring paper, a dictionary, & writing implements to every lesson.						
参考書		notebook, dictionary, pen & pencil						
評価の基準と方法		continuous assessment based on attendance, participation & module tests (100%) .						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-22	授業コード	F02630
科目名称	☆英会話Ⅲ			単位数	1.0 単位
英文名称	English ConversationⅢ			授業区分	演習
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be speaking. However, listening, reading, and writing will also be developed. This class will focus on speaking strategies and improving the skills of speaking. In principle, lessons will be conducted entirely in English.				
到達目標	After this class, students increased listening and speaking skills will allow them to participate in conversations more actively.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習 : Read p.9-12 授業 : Self-introductions / Course goals 復習 : Review notes / Do homework			
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 : Read p.13-16 授業 : Interview classmates 復習 : Review notes / Do homework			
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 : Read p.17-20 授業 : Living Situations 復習 : Prepare for 1st Dialog Task			
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 : Read p.21-24 授業 : Favorite Foods: Expressing likes / dislikes and 1st Dialog Task 復習 : Reflect on 1st Dialog Task			
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 : Read p.25-28 授業 : Fashion: Expressing importance 復習 : Review notes / Do homework			
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 : Read p.29-32 授業 : Work experience: Expressing suitability 復習 : Prepare for 2nd Dialog Task			
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 : Prepare for 2nd Dialog Task 授業 : 2nd Dialog Task 復習 : Reflect on 2nd Dialog Task			
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Review notes / Do homework			
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 : Read p. 33-36 授業 : Travel Advice / Recommending 復習 : Review notes / Do homework			
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 : Read p. 37-40 授業 : Weather Conditions: Expressing concern 復習 : Prepare for 3rd Dialog Task			
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 : Prepare for 3rd Dialog Task 授業 : Dealing with Stress: Expressing a need for a change 3rd Dialog Task 復習 : Reflect on 3rd Dialog Task			

12	W.ミラー	【第12回】 予習 : Read p. 71-79 授業 : Review Unit 1 / Conversation starters / Building fluency / Express yourself 復習 : Review notes / Do homework						
13	W.ミラー	【第13回】 予習 : Read p. 80-84 授業 : Conversation activity 復習 : Prepare for 4th Dialog Task						
14	W.ミラー	【第14回】 予習 : Prepare for 4th Dialog Task 授業 : 4th Dialog Task 復習 : Reflect on 4th Dialog Task						
15	W.ミラー	【第15回】 予習 : Complete Questionnaire on Komajo Portal 授業 : Take care of old business and discuss pros and cons of this course 復習 : Complete Questionnaire on Komajo Portal (if not completed yet)						
授業開始前学習		Watch movies and listen to the dialogues. Read comics in English. Look up unknown words in a dictionary. Seek opportunities to speak in English.						
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students.						
テキスト・教材		Impact Conversation 2, Pearson Longman, by Sullivan and Beuckens						
参考書								
評価の基準と方法		Participation 20%, 1st Dialogue Task 20%, 2nd Dialogue Task 20%, 3rd Dialogue Task 20%, 4th Dialogue Task 20%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目								
その他		It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-22	授業コード	F02640
科目名称	☆英会話Ⅳ			単位数	1.0 単位
英文名称	English ConversationⅣ			授業区分	演習
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be speaking. However, listening, reading, and writing will also be developed. This class will focus on speaking strategies and improving the skills of speaking. In principle, lessons will be conducted entirely in English.				
到達目標	After this class, students increased listening and speaking skills will allow them to participate in conversations more actively.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習 : Read p.45-48 授業 : Self-introductions / Course goals 復習 : Review notes / Do homework			
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 : Read p.49-52 授業 : Family Stories 復習 : Review notes / Do homework			
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 : Read p.53-56 授業 : Cleaning Habits 復習 : Prepare for 1st Dialogue Task			
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 : Read p.57-60 授業 : Strange Stories and 1st Dialogue Task 復習 : Reflect on 1st Dialogue Task			
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 : Read p.61-64 授業 : Relationship Problems 復習 : Review notes / Do homework			
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Prepare for 2nd Dialogue Task			
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 : Prepare for 2nd Dialogue Task 授業 : 2nd Dialogue Task 復習 : Reflect on 2nd Dialogue Task			
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Review notes / Do homework			
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 : Read p. 61-64 授業 : Learning a Language 復習 : Review notes / Do homework			
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 : Read p. 65-68 授業 : School Memories 復習 : Prepare for 3rd Dialogue Task			
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 : Read p. 69-72 授業 : Special Events and 3rd Dialogue Task 復習 : Reflect on 3rd Dialogue Task			

12	W.ミラー	【第12回】 予習 : Read p. 73-76 授業 : Review Unit 1 / Conversation starters / Building fluency / Express yourself 復習 : Review notes / Do homework						
13	W.ミラー	【第13回】 予習 : Read p. 80-84 授業 : Conversation activity 復習 : Prepare for 4th Dialogue Task						
14	W.ミラー	【第14回】 予習 : Prepare for 4th Dialogue Task 授業 : 4th Dialogue Task 復習 : Reflect on 4th Dialogue Task						
15	W.ミラー	【第15回】 予習 : Complete Questionnaire on Komajo Portal 授業 : Take care of old business and discuss pros and cons of this course 復習 : Complete Questionnaire on Komajo Portal (if not completed yet)						
授業開始前学習		Watch movies and listen to the dialogues. Read comics in English. Look up unknown words in a dictionary. Seek opportunities to speak in English.						
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students.						
テキスト・教材		Impact Conversation 2, Pearson Longman, by Sullivan and Beuckens						
参考書								
評価の基準と方法		Participation 20%, 1st Dialogue Task 20%, 2nd Dialogue Task 20%, 3rd Dialogue Task 20%, 4th Dialogue Task 20%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目								
その他		It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）+ 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-130-21	授業コード	F02811
科目名称	フランス語 I			単位数	1.0 単位
英文名称	French I			授業区分	演習
科目責任者	松村 悠子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村 悠子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎的な会話練習を主体にフランス語の学修を行う。会話から出発して、発音、文法、語彙、表現を学ぶ。文法解説・練習問題、発話練習、聞き取り、テキスト読解、作文を通して、文法学習と、話す・聞く・読む・書く、の 4 技能の訓練をバランスよく行う。				
到達目標	基礎的な文法、語彙、表現を習得して、初歩的な会話を理解し遂行できるようになる。これらの文法、語彙、表現を用いた短い文を読み、簡単な文が書けるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	松村 悠子	【第 1 回】 予習 : フランス語やフランスについて調べる 授業 : 前期授業ガイダンス、辞書の紹介、自己紹介 復習 : 身の回りにあるフランス語とアルファベについての課題に取り組む			
2	松村 悠子	【第 2 回】 予習 : フランス語の挨拶表現について調べる 授業 : フランス語の挨拶。フランス語が話されている地域、アルファベ、フランス語に特有の音 (教科書 6 から 7 頁) (発見学習) 復習 : 挨拶表現、フランス語に特有の音の練習、アルファベの復習			
3	松村 悠子	【第 3 回】 予習 : 複母音字、鼻母音について調べる レッスン 1 の会話音声聴く 授業 : 綴り字の読み方 (プリント) (発見学習) レッスン 1 : 挨拶、自分の名前を言う。国籍を言う。(教科書 8 から 9 頁) (ペアワーク) 復習 : 綴り字の読み方の復習 挨拶、名前を言う表現の反復練習			
4	松村 悠子	【第 4 回】 予習 : レッスン 1 の会話音声聴く 授業 : レッスン 1 : 挨拶、自分の名前を言う。国籍を言う、聞く、数字 1 から 5、練習問題。(教科書 10 から 11 頁) (ペアワーク) 復習 : 挨拶、名前・国籍を言う表現の反復練習			
5	松村 悠子	【第 5 回】 予習 : レッスン 2 の音声教材を聴く 授業 : 語彙の練習、練習問題、会話練習 (教科書 12 から 13 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
6	松村 悠子	【第 6 回】 予習 : レッスン 2 の音声教材を聴く 授業 : 職業を言う、数字 6 から 10、練習問題 (教科書 14 から 15 頁) 復習 : 読解・作文したテキストの再考、復習			
7	松村 悠子	【第 7 回】 予習 : レッスン 3 の音声教材を聴く 授業 : 第 1 回目から第 6 回目授業内容の復習 名前を言う、聞く (教科書 16 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
8	松村 悠子	【第 8 回】 予習 : 第 1 回目から第 6 回目授業内容の復習 (小テスト 1 の準備) 授業 : 小テスト 1 住んでいるところを言う、聞く (教科書 17 頁) (ペアワーク) 復習 : 小テスト 1 の問題再考			
9	松村 悠子	【第 9 回】 予習 : レッスン 3 の音声教材を聴く 授業 : 国籍、名前、住んでいる場所を言う・聞く、練習問題 (教科書 18 から 19 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			

10	松村 悠子	【第 10 回】 予習 : レッスン 4 の音声教材を聴く 授業 : 第 7 回目から第 9 回目授業内容の復習 だれかについてやりとりする、だれかの職業を言う (教科書 20 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習						
11	松村 悠子	【第 11 回】 予習 : 第 7 回目から第 9 回目授業内容の復習 (小テスト 2 の準備) 授業 : 小テスト 2 だれかについてやりとりする、だれかの住んでいる所を言う (教科書 21 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習 復習 : 小テスト 2 の問題再考						
12	松村 悠子	【第 12 回】 予習 : レッスン 4 の音声教材を聴く 授業 : 自分が話せる言語について言う、相手の話せる言語についてきく、だれかが話せる言語について言う (教科書 22 頁) (ペアワーク) 数字 11 から 15 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習						
13	松村 悠子	【第 13 回】 予習 : レッスン 4 の音声教材を聴く 授業 : 第 10 回目から第 12 回目授業内容の復習 レッスン 4 の練習問題 (教科書 23 頁) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習						
14	松村 悠子	【第 14 回】 予習 : 第 10 回目から第 12 回目授業内容の復習 (小テスト 3 の準備) 授業 : 小テスト 3 フランスの街の場所をさく、言う (教科書 24 から 25 頁) (ペアワーク) 復習 : 小テスト 3 の問題再考						
15	松村 悠子	【第 15 回】 予習 : 第 14 回目までの授業内容を振り返る 授業 : 前期授業のまとめ 復習 : 授業で扱った項目の復習						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法								
課題、小テストを返却後、問題を再考させ解説を行う。								
テキスト・教材								
ロイク・ホグス 著『プティットゥ・コンヴェルサシオン』駿河台出版社 (定価 : 2,300 円 + 税) 仏和辞書 (主要なものを第 1 回目授業で紹介)								
参考書								
評価の基準と方法								
小テスト 75 点、平常点 (授業態度・課題提出) 25 点								
ディプロマポリシー								
「カリキュラムマップ」参照								
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目	海外観光資源研究 A (ヨーロッパ 1) 海外観光資源研究 B (ヨーロッパ 2) 言葉と心理 観光のフランス語							
その他	単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要です。遅刻 1 回、あるいは早退 1 回を欠席 3 分の 1 回とみなします。つまり遅刻ないし早退 3 回で欠席 1 回と数えます。授業開始時刻より 30 分以上遅れて到着した場合、授業終了時刻より 30 分以上早く早退した場合は欠席扱いです。出席数配慮は原則として証明書類の提出により検討します。 宿題を出すことがあります。 全 15 回の授業計画を上 に示していますが、受講者やクラス の特性、また社会状況など諸々の都合に応じて若干変更になる場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132		科目分類（～2024 年 入学者）		100-130-21		授業コード		F02812			
科目名称		フランス語 I						単位数		1.0 単位			
英文名称		French I						授業区分		演習			
科目責任者		米金 孝雄						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		米金 孝雄						開講時期		1 年			
オフィスアワー		前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40～12:10～13:00 木曜日 10:00～10:40～12:10～13:00						研究室		10-711			
授業概要		基礎的なフランス語の表現・成句を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す（氏名、職業、国籍、挨拶の仕方、自己紹介、住んでいる場所の表現、tu と vous， 性数の一致、アルファベ、冠詞の縮約形、など）。また、Etre 動詞や ER 動詞（parler, habiter, s'appeler, など）を学習し、基本的な文の構造を理解する。特に、フランス語特有の音に慣れ親しむため、R の発音、重母音、鼻母音などを理解し、練習を重ね、単に文を暗誦するだけでなく、現実的なインタラクション（「ロール・プレイ」、「シミュレーション」など）に即したコミュニケーションのための言語使用に重点を置いた授業である。											
到達目標		初歩的なフランス語運用能力（話す・聞く・読む・書く）を習得することが目標である。 フランス語特有のアルファベの発音・基本的な挨拶の仕方・綴り字などを学び、積極的に使用する。											
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容										
1	米金 孝雄		【第 1 回】 予習：自分の知っているフランス語、フランス文化の紹介 1 授業：自己紹介、授業概要、授業の進め方、勉強の仕方、教科書、辞書の紹介、注意点など 復習：アルファベの復習										
2	米金 孝雄		【第 2 回】 予習：自分の知っているフランス語、フランス文化を紹介する 2 授業：特有の音、フランス語の使われている国、フランス語に慣れ親しむ（テキスト 6-7 頁） 復習：基本的なフランス語表現、アルファベの復習										
3	米金 孝雄		【第 3 回】 予習：レッスン 1 の音声を聴くこと 授業：綴り字と発音の仕方、挨拶の仕方、名前を言う、国籍を言う、男性形と女性形（8-9 頁）（ペアワーク） 復習：主語人称代名詞、s'appeler 動詞、Etre 動詞、国籍の表現										
4	米金 孝雄		【第 4 回】 予習：レッスン 1 の音声を聴くこと 授業：国籍、数の数え方、職業、名前、数字、アルファベの練習（10-11 頁）（ペアワーク） 復習：職業名詞、形容詞性数に一致										
5	米金 孝雄		【第 5 回】 予習：レッスン 1,1+の音声を聴くこと 授業：名前・国籍、数字、アルファベの練習， 基本表現、アクセント記号（11 頁、76-77 頁）（ペアワーク） 復習：名前の言い方、対話練習										
6	米金 孝雄		【第 6 回】 予習：レッスン 2 の音声を聴くこと 授業：綴り字と発音の仕方、国籍、職業（12-13 頁）（ペアワーク） 復習：質問と答え										
7	米金 孝雄		【第 7 回】 予習：レッスン 2 の音声を聴くこと 授業：数の数え方、職業（14-15 頁）（ペアワーク） 復習：女性形、自己紹介、職業										
8	米金 孝雄		【第 8 回】 予習：レッスン 2,2+の音声を聴くこと 授業：国籍、職業、tu と vous の表現（78 頁）（ペアワーク） 復習：女性形、自己紹介										
9	米金 孝雄		【第 9 回】 予習：レッスン 3 の音声を聴くこと 授業：発音の仕方、アポストロフ、名前・職業・国籍を言う、住んでいる場所を尋ねる、国名、都市、 人称代名詞強制形、En+国籍、冠詞の縮約形（16-17 頁）（ペアワーク） 復習：Etre,Habiter, S'appeler 動詞の活用、対話練習、En+国籍、冠詞の縮約形										
10	米金 孝雄		【第 10 回】 予習：レッスン 3,3+の音声を聴くこと 授業：否定文の答え方、名前、職業、国籍、住んでいる場所の質問と答え。（18 頁、79 頁）（ペアワーク）										

		復習：対話練習						
11	米金 孝雄	【第 11 回】 予習：レッスン 3,3+の音声を聴くこと 授業：練習問題（19,79,91 頁）（ペアワーク） 復習：練習問題の確認と再考						
12	米金 孝雄	【第 12 回】 予習：レッスン 4 の音声を聴くこと 授業：アンシェンヌマン、この人は誰？、場所を示す疑問文、Parler,habiter,etre 動詞活用の確認（20-21 頁）（ペアワーク） 復習：人・場所を示す質問と答え、Parler,habiter,etre 動詞活用						
13	米金 孝雄	【第 13 回】 予習：レッスン 4 の音声を聴くこと 授業：parler 動詞を使った質問と答え、数字、紹介と質問の仕方、練習問題（22-23 頁）（ペアワーク） 復習：「名前、国籍、職業、住んでいる場所、話せる言語」についての質問と答え						
14	米金 孝雄	【第 14 回】 予習：レッスン 4,4+の音声を聴くこと 授業：er 動詞の確認、quel を使った疑問文、練習問題（80 頁）（ペアワーク） 復習：er 動詞(aimer,preferer...),quel の用法、練習問題の確認と再考						
15	米金 孝雄	【第 15 回】 予習：フランス語を話す国・フランス語に慣れ親しむ・特有の音の確認と再考 授業：前期授業の復習と確認（Dans la classe1 から leçon4/4+）、場所の表現と都市（C'est ou ?）（6-25 頁,77-80 頁）（ペアワーク） 復習：前期学習事項を再考し、自分の弱点を克服すること						
授業開始前学習		前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題(レポート・練習問題・小テスト等)を提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の修得へと導く。						
テキスト・教材		Petites Conversations(プティットゥ・コンヴェルサシオン)（駿河台出版社）						
参考書		適宜、授業内で資料を配布する。						
評価の基準と方法		【配点】：小テスト・提出課題・レポート 80 点、平常点(授業態度)20 点						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目	海外観光資源研究 A(ヨーロッパ 1) 言葉と心理 観光のフランス語							
その他	注意事項： 3 回の遅刻で 1 回欠席とみなす 予習・復習を怠らないこと							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）+ 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-130-21	授業コード	F02821
科目名称	フランス語Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	French II			授業区分	演習
科目責任者	松村 悠子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村 悠子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎的な会話練習を主体にフランス語の学修を行う。会話から出発して、発音、文法、語彙、表現を学ぶ。文法解説・練習問題、発話練習、聞き取り、テキスト読解、作文を通して、文法学習と、話す・聞く・読む・書く、の 4 技能の訓練をバランスよく行う。				
到達目標	基礎的な文法、語彙、表現を習得して、初歩的な会話を理解し遂行できるようになる。これらの文法、語彙、表現を用いた短い文を読み、簡単な文が書けるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	松村 悠子	【第 1 回】 予習 : 前期に学習した項目の要点をまとめる 授業 : 後期授業ガイダンス、前期の復習 復習 : 授業で扱った文法、語彙、表現の復習			
2	松村 悠子	【第 2 回】 予習 : レッスン 5 の音声教材を聴く 授業 : レッスン 5、国籍、話せる言語について否定形を用いて表現する (教科書 26 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
3	松村 悠子	【第 3 回】 予習 : レッスン 5 の音声教材を聴く 授業 : レッスン 5、だれかについて聞く、だれかの国籍、話せる言語について否定形を用いて表現する (教科書 27 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
4	松村 悠子	【第 4 回】 予習 : レッスン 5 の音声教材を聴く 授業 : レッスン 5、だれかについて聞く、だれかの国籍、職業について名詞と形容詞を組み合わせで表現する、数字 16 から 20、練習問題 (教科書 28 から 29 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
5	松村 悠子	【第 5 回】 予習 : レッスン 6 の音声教材を聴く 授業 : 第 1 回目から第 4 回目授業内容の復習 レッスン 6、年齢を言う、さく、動詞 avoir (教科書 30 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
6	松村 悠子	【第 6 回】 予習 : 第 1 回目から第 4 回目授業内容の復習 (小テスト 1 の準備) 授業 : 小テスト 1 だれかの年齢を言う、さく、数字 21 から 30 (教科書 31 頁) 復習 : 小テスト 1 の問題再考			
7	松村 悠子	【第 7 回】 予習 : レッスン 6 の音声教材を聴く 授業 : 曜日と 1 週間の時間割を言う、さく、練習問題 (教科書 32 から 33 頁) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
8	松村 悠子	【第 8 回】 予習 : レッスン 7 の音声教材を聴く 授業 : 第 5 回目から第 7 回目授業内容の復習 レッスン 7、動詞 avoir を使った熟語 (お腹が空いた等)、tu (君) と vous (あなた、君たち、あなたたち)、on (私たち) (教科書 36 から 37 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
9	松村 悠子	【第 9 回】 予習 : 第 5 回目から第 7 回目授業内容の復習 (小テスト 2 の準備) 授業 : 小テスト 2 レッスン 7、数字 31 から 40、動詞 etre を使った表現 (疲れた等) (教科書 37 から 38 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			

		復習 : 小テスト 2 の問題再考						
10	松村 悠子	【第 10 回】 予習 : レッスン 7 の音声教材を聴く 授業 : レッスン 7、動詞 etre を使った表現 (疲れた等)、練習問題 (教科書 38 から 39 頁) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習						
11	松村 悠子	【第 11 回】 予習 : レッスン 8 の音声教材を聴く 授業 : 第 8 回目から第 10 回目授業内容の復習 レッスン 8、物の名前、名詞の性、不定冠詞 (教科書 40 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習						
12	松村 悠子	【第 12 回】 予習 : 第 8 回目から第 10 回目授業内容の復習 (小テスト 3 の準備) 授業 : 小テスト 3 物を指し示す、物についてさく (教科書 41 頁) (ペアワーク) 復習 : 小テスト 3 の問題再考						
13	松村 悠子	【第 13 回】 予習 : レッスン 8 の音声教材を聞く 授業 : 第 11 回目から第 12 回目授業内容の復習 レッスン 8、数字 41 から 50、物の値段を言う、さく (教科書 42) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習						
14	松村 悠子	【第 14 回】 予習 : 第 11 回目から第 12 回目授業内容の復習 (小テスト 4 の準備) 授業 : 小テスト 4 レッスン 8 の練習問題 (教科書 43 頁) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習 復習 : 小テスト 4 の問題再考						
15	松村 悠子	【第 15 回】 予習 : 第 14 回目までの授業を振り返る。 授業 : 後期授業のまとめ 復習 : 授業で扱った項目の復習						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		課題、小テストを返却後、問題を再考させ解説を行う。						
テキスト・教材		ロイク・ホグス 著『プティットゥ・コンヴェルサシオン』駿河台出版社 (定価 : 2,300 円 + 税) 仏和辞書						
参考書								
評価の基準と方法		小テスト 80 点、平常点 (授業態度・課題提出) 20 点						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目	海外観光資源研究 A (ヨーロッパ 1) 海外観光資源研究 B (ヨーロッパ 2) 言葉と心理 観光のフランス語							
その他	単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要です。遅刻 1 回、あるいは早退 1 回を欠席 3 分の 1 回とみなします。つまり遅刻ないし早退 3 回で欠席 1 回と数えます。授業開始時刻より 30 分以上遅れて到着した場合、授業終了時刻より 30 分以上早く早退した場合は欠席扱いです。出席数配慮は原則として証明書類の提出により検討します。 宿題を出すことがあります。 全 15 回の授業計画を上 に示していますが、受講者やクラス の特性、また社会状況など諸々の都合に応じて若干変更になる場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年 入学者）	100-130-21	授業コード	F02822		
科目名称	フランス語Ⅱ			単位数	1.0 単位		
英文名称	FrenchⅡ			授業区分	演習		
科目責任者	米金 孝雄			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	米金 孝雄			開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40～12:10～13:00 木曜日 10:00～ 10:40～12:10～13:00			研究室	10-711		
授業概要	基礎的なフランス語の表現・成句を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す(否定形、年齢を言う、疑問詞、日時、曜日、科目名の表現、c'est の表現、体調を伝える、不定冠詞の用法、など)。フランス語Ⅰで学んだ基本的な音（R の発音、重母音、鼻母音）や文の構造（Etre 動詞、ER 動詞を使用した構文、新たに、Avoir 動詞や人称代名詞 On を用いた構文）の理解を深める。さらに、「音の連鎖や音の省略」(リエゾン、アンシェンヌマン、エリジョン、など)の練習を重ね、フランス語の音に慣れ親しむ。 特に、現実的なインタラクション（「ロール・プレイ」、「シミュレーション」など）に即した実践的なコミュニケーションのための言語使用に重点を置いた授業である。						
到達目標	初歩的なフランス語運用能力（話す・聞く・読む・書く）を習得することが目標である。 フランス語特有のアルファベの発音・基本的な挨拶の仕方・綴り字などを学び、積極的に使用する。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	米金 孝雄	【第 1 回】 予習：前期の復習(レッスン 1-4)とレッスン 5 の音声を聴くこと 授業：前期の復習、前期課題の確認、否定形の作り方と答え方、エリズイオン（26-27 頁,80 頁）（ペアワーク） 復習：国籍名詞、habiter の練習					
2	米金 孝雄	【第 2 回】 予習：レッスン 5 の音声を聴くこと 授業：どこに住んでるの、否定形、名前、職業 数字、不定冠詞、男性名詞、女性名詞（27-28 頁）（ペアワーク） 復習：職業名詞、 いイエの答え方、1-20 の数字、C'est + 名詞の練習					
3	米金 孝雄	【第 3 回】 予習：レッスン 5 ,5+の音声を聴くこと 授業：練習問題（女性形、否定文）、Etre de + 地名、対話練習（29 頁、81 頁）（ペアワーク） 復習：地図、国籍と名前の言い方					
4	米金 孝雄	【第 4 回】 予習：レッスン 6 の音声を聴くこと 授業：発音、年齢を言う、数字、リエゾン（30-31 頁）（ペアワーク） 復習：1-30 の数字、年齢表現					
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習：レッスン 6 の音声を聴くこと 授業：年号、曜日、科目名詞、練習問題（31-33 頁）（ペアワーク） 復習：年号、曜日、科目名を言う					
6	米金 孝雄	【第 6 回】 予習：レッスン 6 ,6+の音声を聴くこと 授業：前回の復習、自己紹介、会話練習（34 頁、82 頁）（ペアワーク） 復習：自己紹介の練習					
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習：レッスン 5, 6 の復習と確認 授業：レッスン 5, 6 の課題（27-34 頁、81-82 頁）（ペアワーク） 復習：レッスン 5, 6 の課題再考					
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習：レッスン 7 の音声を聴くこと 授業：中間試験再考、フランス語圏、体調を伝える、On の用法、Avoir 動詞の疑問文と答え（35-36 頁）（ペアワーク） 復習：on の用法、Aoir 動詞の確認、					
9	米金 孝雄	【第 9 回】 予習：レッスン 7 の音声を聴くこと 授業：数字、形容詞の質問と答え、Etre の否定文（37-38 頁）（ペアワーク）					

		復習：1-40 の数字、形容詞を使った表現						
10	米金 孝雄	【第 10 回】 予習：レッスン 7,7+の音声を聴くこと 授業：練習問題（形容詞の用法と avoir/etre 動詞）（39 頁、83 頁）（ペアワーク） 復習：練習問題、レッスン 5-7 の復習						
11	米金 孝雄	【第 11 回】 予習：レッスン 8 の音声を聴くこと 授業：不定冠詞の種類と用法、「C'est?」表現（40-41 頁）（ペアワーク） 復習：不定冠詞の練習、C'est?の練習						
12	米金 孝雄	【第 12 回】 予習：レッスン 8 の音声を聴くこと 授業：数字 1-50、「C'est combien?」表現，練習問題（42-43 頁）（ペアワーク） 復習：数字表現の練習、C'est?の練習						
13	米金 孝雄	【第 13 回】 予習：レッスン 8,8+の音声を聴くこと 授業：Revisions 会話表現，練習問題（44-45 頁）（ペアワーク） 復習：聞き取り練習、応答練習						
14	米金 孝雄	【第 14 回】 予習：レッスン 8,8+の音声を聴くこと 授業：「Qu'est-ce que c'est ?」の応答練習（84 頁）（ペアワーク） 復習：「Qu'est-ce que c'est ?」の練習、課題						
15	米金 孝雄	【第 15 回】 予習：後期授業の復習 授業：1 年次授業内容・重要事項の確認 復習：1 年次授業内容再考						
授業開始前学習		前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること。						
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト・課題・レポート等提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の習得へと導く。						
テキスト・教材		Petites Conversations(プティットゥ・コンヴェルサシオン)（駿河台出版社）						
参考書		適宜、授業内で資料を配布する。						
評価の基準と方法		配点：小テスト・提出課題・レポート 80 点，平常点(授業態度)20 点						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目	海外観光資源研究 A(ヨーロッパ 1) 言葉と心理 観光のフランス語							
その他	注意事項： 3 回の遅刻で 1 回欠席とみなす 予習・復習を怠らないこと							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年 入学者）	100-130-21	授業コード	F02850						
科目名称	ドイツ語 I	単位数	1.0 単位	授業区分	演習						
英文名称	German I	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1 年						
科目責任者	岡野 史	研究室	-	授業概要	ドイツ語初学者を対象とし、ドイツ語初級文法の修得を目指す。具体的な文法事項としては、ドイツ語の読み方、発音からはじめ、人称代名詞、動詞の現在形活用、名詞の性と格変化、ドイツ語の語順、様々な冠詞類や並列接続詞の習得を目標とする。合わせて基本的な挨拶などの表現や、ドイツ語圏における様々な都市や文化について触れていく。各課において短いドイツ語の文章読解や、ドイツ語作文に取り組み、初級ドイツ語の基礎を確実に身につける。さらに動画資料や文学作品、時事的なニュースなど実際に用いられているドイツ語表現を紹介し、ドイツ語圏文化に対する関心をさらに高めていくことができるよう進めていく。						
担当教員	岡野 史	到達目標	基本的なドイツ語の読み方、発音ができるようになることをはじめ、ドイツ語学習の基礎となる人称代名詞の変化、動詞の現在形、冠詞の格変化や語順のルールなどを理解し、簡単な文章読解、ドイツ語作文のなかで用いることができるようになることを目標とする。また基本的な挨拶や自己紹介などの会話表現を学び、短くともドイツ語でコミュニケーションをとることができるようになる。同時に、第二外国語としてドイツ語を学ぶ意義や目標を各々が見つけられるよう、ドイツ語圏への文化理解を深めていく。	アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容									
1	岡野 史	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を確認。 授業：ガイダンス・ドイツ語とは：ヨーロッパにおけるドイツ語圏。アルファベット 復習：授業計画の内容確認。配布資料の確認。									
2	岡野 史	【第 2 回】 予習：テキスト p.1-3「アルファベット」「つづりと発音」の予習。前回の授業での配布資料を確認。 授業：アルファベット、つづりと発音① 復習：テキスト p.1-3 までの範囲で不明点を再チェック。配布資料の確認。									
3	岡野 史	【第 3 回】 予習：テキスト p.1-3「アルファベット」「つづりと発音」の確認。テキスト p.4-5「あいさつ」p.9「数字」の確認。前回の授業での配布資料を確認。 授業：つづりと発音②、簡単な挨拶と数字 復習：テキスト p.1-3, 4-5, 9 までの内容を確認。配布資料の確認。									
4	岡野 史	【第 4 回】 予習：テキスト p.10「主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化」の確認。 授業：Lektion1：主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化（規則変化） 復習：テキスト p.10-11 の文法事項と単語を確認すること。配布資料の確認。									
5	岡野 史	【第 5 回】 予習：テキスト p.12-15 の確認。 授業：Lektion1：自己紹介 復習：テキスト p.12-15 の表現と単語の確認、確認テストの準備。									
6	岡野 史	【第 6 回】 予習：確認テスト（Lektion1）の準備。p.80: Freut mich!の確認。 授業：確認テスト（Lektion1）、p.80: Freut mich!、Lektion2：名詞の性・冠詞 復習：テキスト p.80 の文法事項と単語の確認をすること。									
7	岡野 史	【第 7 回】 予習：テキスト p.16-17「名詞の性・冠詞、名詞の格変化」の予習。 授業：Lektion2：名詞の性・冠詞、名詞の格変化 復習：テキスト p.16-17 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。									
8	岡野 史	【第 8 回】 予習：テキスト p.18-19「疑問代名詞の格変化、並列の接続詞」の予習。 授業：Lektion2：疑問代名詞の格変化、並列の接続詞 復習：テキスト p.18-19 の表現と単語の確認、確認テストの準備。									
9	岡野 史	【第 9 回】 予習：確認テスト（Lektion2）の準備。p.80: Werner Adam, Fotografの確認。 授業：確認テスト（Lektion2）、p.20-21：職業、p.80: Werner Adam, Fotograf 復習：テキスト p.20-23, 80 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。									
10	岡野 史	【第 10 回】 予習：テキスト p.24「動詞の現在人称変化 2、命令形」の予習。 授業：Lektion3：動詞の現在人称変化 2、命令形									

		復習：テキスト p.24-25 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。						
11	岡野 史	【第 11 回】 予習：テキスト p.26「名詞の複数形、人称代名詞の 3・4 格、語順」の予習。 授業：Lektion3：名詞の複数形、人称代名詞の 3・4 格、語順 復習：テキスト p.26-27 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。						
12	岡野 史	【第 12 回】 予習：テキスト p.28-29, p.81: Pierre in Köln の確認。 授業：趣味、p.81: Pierre in Köln 復習：テキスト p.28-29, p.81 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。						
13	岡野 史	【第 13 回】 予習：第 12 回までの文法事項確認 授業：Lektion1 復習 復習：テキスト p.15 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。						
14	岡野 史	【第 14 回】 予習：第 12 回までの文法事項確認 授業：Lektion2 復習 復習：テキスト p.23 まで全体の復習。						
15	岡野 史	【第 15 回】 予習：ドイツ語 I で扱った内容について、不明点がないか確認。全体の復習。 授業：Lektion3 復習、ドイツ語 I で扱った内容の確認 復習：Lektion1-3 の内容を確認、これまでの配布資料の確認。						
授業開始前学習		ドイツ語がどのような言語であるのかを知るために、教科書などに目を通しておくこと。 ドイツ文学、映画、音楽などにふれ、ドイツ語文化圏への理解を深めておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で確認小テストを行う。次週までに返却し、解説を行う。						
テキスト・教材		小野寿美子、中川明博『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語 改訂版』(朝日出版社)						
参考書		授業内で適宜紹介。 独和辞典については紙でも電子でも可						
評価の基準と方法		平常点（授業内での課題への取り組み、確認テスト）50%、期末試験 50%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目	観光のドイツ語、海外観光資源研究 B（ヨーロッパ 2）							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年 入学者）	100-130-21	授業コード	F02860		
科目名称	ドイツ語Ⅱ			単位数	1.0 単位		
英文名称	GermanⅡ			授業区分	演習		
科目責任者	岡野 史			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	岡野 史			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	ドイツ語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。前置詞・話法の助動詞・未来形・不定代名詞などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。動画や音声などを利用した学習により、ドイツ語の音に親しみ、自然なドイツ語の表現を学んでいく。						
到達目標	ドイツ語の初級文法を理解し、ドイツ語でさらに幅広い表現ができるようになる。ドイツ語の音に慣れ親しむことで、簡単な会話を聞き取り、さらにそれに答えることができるようになる。またドイツ語圏についての知識を得ることで、言葉だけでなくドイツ文化の理解も深める。						
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	岡野 史	【第1回】 予習：シラバスの内容を確認。ドイツ語Ⅰでの既習事項について、復習と確認をすること。 授業：ガイダンス・Lektion 3 までの復習と確認 復習：授業計画の内容確認。Lektion 3 までの範囲で不明点があるか確認。					
2	岡野 史	【第2回】 予習：Lektion 3 までの復習と確認。前回の授業での配布資料を確認。 授業：Lektion 3 までの復習と確認、発音の確認 復習：Lektion 3 までの範囲で不明点の再チェック。					
3	岡野 史	【第3回】 予習：テキスト p.30「冠詞類」の予習。 授業：Lektion 4: 冠詞類 復習：テキスト p.30-31 の文法事項の確認をすること。配布資料の確認。					
4	岡野 史	【第4回】 予習：テキスト p.32「否定冠詞、否定疑問文、非人称の es」の予習。 授業：Lektion4: 否定冠詞、否定疑問文、非人称の es 復習：テキスト p.32-33 の文法事項と単語を確認すること。配布資料の確認。					
5	岡野 史	【第5回】 予習：テキスト p.34 単語の意味を調べておく。 授業：Lektion4: 買い物、p.81「Anna und Familie Müller」 復習：テキスト p.34,p.81 の表現と単語の確認、確認テストの準備。					
6	岡野 史	【第6回】 予習：テキスト p.38-39「前置詞」の予習。 授業：確認テスト（Lektion4）、Lektion 5: 前置詞 復習：テキスト p.38-39 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。					
7	岡野 史	【第7回】 予習：テキスト p.40「前置詞と定冠詞の融合形、時を表す表現」の予習。 授業：Lektion5: 前置詞と定冠詞の融合形、時を表す表現 復習：テキスト p.40-41 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。					
8	岡野 史	【第8回】 予習：テキスト p.42 単語の性と意味を確認しておく。 授業：Lektion5:どう行けばいいですか？、p.82「Mozartstadt」 復習：テキスト p.42, p.82 の表現と単語の確認、確認テストの準備。					
9	岡野 史	【第9回】 予習：テキスト p.44「話法の助動詞、未来形」の予習。 授業：確認テスト（Lektion5）、Lektion6: 話法の助動詞、未来形 復習：テキスト p.44-45 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。					
10	岡野 史	【第10回】 予習：テキスト p.46「従属の接続詞と副文」の予習。 授業：Lektion6: 従属の接続詞と副文 復習：テキスト p.46-47 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。					

11	岡野 史	【第 11 回】 予習：テキスト p.48 の単語の性と意味を確認しておく。 授業：Lektion6:誕生日おめでとう、p.83「Geburtstagsbräuche in Deutschland」 復習：テキスト p.48, p.83 の表現と単語の確認、確認テストの準備。						
12	岡野 史	【第 12 回】 予習：確認テストの準備。 授業：確認テスト（Lektion6）、冠詞類まとめ 復習：配布資料の確認。						
13	岡野 史	【第 13 回】 予習：動詞（現在形）についてこれまでの内容を復習 授業：動詞（現在形）まとめ 復習：配布資料の確認。						
14	岡野 史	【第 14 回】 予習：前置詞についてこれまでの内容を復習 授業：前置詞まとめ 復習：配布資料の確認。Lektion6 まで全体の復習。						
15	岡野 史	【第 15 回】 予習：ドイツ語 II で扱った内容について、不明点がないか確認。全体の復習。 授業：理解度の確認、ドイツ語 II で扱った内容、理解度の確認 復習：Lektion4-6 の内容を確認、これまでの配布資料の確認。						
授業開始前学習		ドイツ語 I で学習した内容を確認しておくこと。 またドイツ文学、映画、音楽などにふれ、ドイツ語文化圏への理解を深めておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内にて確認小テストを行う。次週までに返却し、解説を行う。						
テキスト・教材		小野寿美子、中川明博ほか『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語 改訂版』（朝日出版社）						
参考書		授業内で適宜紹介 独和辞典を持参すること（紙、電子など媒体は問わず）						
評価の基準と方法		平常点（授業内での課題への取り組み、確認テスト） 50%、期末試験 50%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目	観光のドイツ語、海外観光資源研究 B(ヨーロッパ 2)							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F04070
科目名称	韓国語 I	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	Korean I	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1 年
科目責任者	宋 美玲	研究室	-		
担当教員	宋 美玲				
オフィスアワー	-				
授業概要	本授業では、主に韓国語未習者を対象に、韓国語文法の基礎内容を学習し、韓国の歴史や文物などを通じて韓国語に対する初歩的な理解を身につけることを目指す。具体的には文法理解に加え、読み・書き・会話の基礎力を育成することが目標となり、表記と発音の関係を学び、特徴的な発音法を理解し、韓国語学習の基本的習得を目指す。日本と韓国の文化比較や社会事情などに関したテーマを扱い、学生の関心をより高めることを重視していく。				
到達目標	1. 韓国語の文字と発音を習得し、ハングルの読み書きができるようになる。 2. 基礎的な語彙と文法を学び、コミュニケーションの基礎能力を身につける。 3. 韓国の文化や社会事情等を学び、異文化に対する理解力と対応力を高めることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	宋 美玲	【第 1 回】 予習：シラバスと授業スケジュールを確認しておくこと 授業：ガイダンス 復習：韓国語のハングル文字について振り返る			
2	宋 美玲	【第 2 回】 予習：第 1 課 韓国語について(教科書 pp.2-3)を講読 授業：韓国語の特徴とハングルについて 復習：韓国語の特徴とハングルの仕組みについて振り返る			
3	宋 美玲	【第 3 回】 予習：第 2 課 文字と発音-母音を講読 授業：母音の文字と発音を学ぶ 復習：ハングルの基本母音を読み書きする			
4	宋 美玲	【第 4 回】 予習：第 3 課 文字と発音-子音(1) を講読 授業：子音(1)の文字と発音を学ぶ 復習：ハングルの子音(1)の単語を覚える			
5	宋 美玲	【第 5 回】 予習：第 4 課 文字と発音-子音(2)を講読 授業：子音(2)の文字と発音を学ぶ 復習：ハングルの子音(2)の文字と発音を覚える			
6	宋 美玲	【第 6 回】 予習：第 5 課 文字と発音-合成母音を講読 授業：合成母音の文字と発音を学ぶ 復習：ハングルの合成母音の単語を覚える			
7	宋 美玲	【第 7 回】 予習：韓国語のあいさつことば(1)(2)(3)(4) p.6,8,13,15 の音読練習 授業：韓国語のあいさつことばを学ぶ<出会いと別れ、感謝と謝罪> 復習：韓国語のあいさつことばを覚える			
8	宋 美玲	【第 8 回】 予習：第 6 課 文字と発音-パッチムを講読 授業：パッチムの文字と発音を学ぶ 復習：ハングルのパッチムを覚えて単語を読み書きする			
9	宋 美玲	【第 9 回】 予習：第 7 課 発音規則について p.23-25 を講読 授業：ハングルの発音規則について学ぶ 復習：発音規則について振り返り、発音練習をする			
10	宋 美玲	【第 10 回】 予習：第 7 課 日本語のハングル表記について p.26-27 を講読 授業：日本語のハングル表記について学ぶ 復習：練習問題を参照し、日本語のハングル表記を振り返り、自分の名前と大学名、住まいをハングルで表記する			

11	宋 美玲	【第 11 回】 予習：第 8 課「文法と表現」(p.30-31)を講読 授業：名詞文「～は～です」の文法と表現を学び、自己紹介(1)をする 復習：会話文 A の音読練習						
12	宋 美玲	【第 12 回】 予習：第 9 課「文法と表現」を講読 授業：名詞文「～ではありません」の表現を学び、専攻名を話す 復習：名詞文の否定表現を振り返る						
13	宋 美玲	【第 13 回】 予習：第 10 課 漢字語数詞と助詞 授業：漢字語数詞と助詞を学ぶ 復習：漢字語数詞を振り返り、自分の学年、誕生日などを話す						
14	宋 美玲	【第 14 回】 予習：表現演習の資料に出る単語を読み書きする 授業：名詞文の文法と語彙をもって自己紹介(2)の表現を学ぶ 復習：表現演習 1 資料を振り返る						
15	宋 美玲	【第 15 回】 予習：表現演習の自己紹介(2)を暗唱 授業：グループワークで自己紹介をし、韓国語でコミュニケーションする 復習：表現演習の資料を振り返る						
授業開始前学習		最初の約 1 か月間に行われる「文字と発音」の授業は大変重要なので、積極的な取り組みが望ましい。						
授業内課題のフィードバックの方法		・隔週で小テストを行い、授業内でフィードバックする。 ・教科書の練習(問題)は自主課題とするので、学習内容を復習したうえで行うこと。答え合わせは授業内で提示し、フィードバックする。 ・会話文の音読課題は授業内で確認し、個別でフィードバックを行う。						
テキスト・教材		宋美玲・印省熙・白寅英 著『踏みだそう! 韓国語への第一歩』白帝社 (2,400 円 + 税) ISBN 978-4863981553						
参考書		必要に応じて適宜提示・紹介する。						
評価の基準と方法		・授業内での小テスト(30%)、試験(50%)、課題(20%)により評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F04080
科目名称	韓国語Ⅱ	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	KoreanⅡ	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1 年
科目責任者	宋 美玲	研究室	-		
担当教員	宋 美玲				
オフィスアワー	-				
授業概要	韓国語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進め、既習の語彙・文法を復習しながら語彙力・表現力を高める。会話表現については、韓国語の自然なリズムとイントネーションを身に付け、基礎的な「受信・発信」ができる力を身につける。自分のことについて話ことができ、かつ相手についての簡単な質問ができることをめざし、韓国語による会話能力の向上を図る。				
到達目標	1. 韓国語の基礎的な文法と語彙を学び、読み書きができるようになる。 2. 基礎文法と語彙力を強化し、コミュニケーション能力を高める。 3. 韓国の文化や社会事情等を知り、異文化への理解を深める。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	宋 美玲	【第 1 回】 予習：シラバスと授業スケジュールを確認しておく 授業：ガイダンスと自己紹介 復習：自己紹介で用いられた既習文法と表現を振り返る			
2	宋 美玲	【第 2 回】 予習：第 11 課 指示代名詞と位置を表す名詞を読み書きする 授業：位置を表す名詞と助詞をもって存在表現を学ぶ(1) 復習：「文法と表現」と会話文 A の音読			
3	宋 美玲	【第 3 回】 予習：第 11 課 まめ情報(p49)「親族名称」を講読 授業：親族名称(p.49)を用いた家族紹介と言語文化について学ぶ 復習：韓国語で家族紹介が出来るようにする			
4	宋 美玲	【第 4 回】 予習：第 12 課「用言の活用について」を講読 授業：韓国語の用言活用について学ぶ(1) 復習：用言の活用についての概説を振り返る			
5	宋 美玲	【第 5 回】 予習：第 12 課 練習に出る単語を読み書きする 授業：用言の活用について学ぶ(2) 復習：練習の単語をもって丁寧形を作る			
6	宋 美玲	【第 6 回】 予習：第 13 課「文法と表現」の単語を読み書きする 授業：自分の日課を書いて話すことを学ぶ(1) 復習：会話文 A の音読で日課の表現を振り返る			
7	宋 美玲	【第 7 回】 予習：第 13 課の会話文 B を参考に自分の日課について考える 授業：時間を表す名詞を用いた日課を作文する 復習：会話文 B の音読で日課の表現を振り返る			
8	宋 美玲	【第 8 回】 予習：表現演習 1 の資料で自分の 1 日で用いる単語を覚える 授業：「自分の 1 日の日課」を作文する 復習：作文内容を暗記し、発表できるようにする			
9	宋 美玲	【第 9 回】 予習：第 14 課「文法と表現」を講読 授業：過去を表す表現を学ぶ 復習：会話文 A を正確に音読する			
10	宋 美玲	【第 10 回】 予習：第 14 課 練習問題を解く 授業：過去を表す表現を理解し、先週末にあったことを作文する 復習：先週末の作文を暗記する。			

11	宋 美玲	【第 11 回】 予習：第 15 課「文法と表現」を講読 授業：好き嫌いの表現を学ぶ 復習：会話文 A を正確に音読する						
12	宋 美玲	【第 12 回】 予習：第 15 課 練習問題を解く 授業：好みや趣味などの語彙を学び、好みの表現を学ぶ 復習：表現演習 2 の資料の単語を覚える						
13	宋 美玲	【第 13 回】 予習：第 16 課「文法と表現」を講読 授業：理由や原因、願望等の表現を学ぶ 復習：会話文 A を正確に音読する						
14	宋 美玲	【第 14 回】 予習：第 16 課 練習問題を解く 授業：不可能の表現などを学び、作文演習をする 復習：完成した表現演習 2 の資料を Q & A で練習する						
15	宋 美玲	【第 15 回】 予習：表現演習 1 と 2 の暗誦 授業：資料にある質問を中心に Q & A 形式でコミュニケーションを行う 復習：コミュニケーション練習における様々な表現を振り返る						
授業開始前学習		1. 語彙力を伸ばすために、各課の単語を読み書きする。 2. 用言の活用を理解するために、会話文の音読練習をする。 3. 表現力を高めるために、ペアワークを積極的に取り組む。						
授業内課題のフィードバックの方法		1. 各課の練習問題は自主課題とし、授業内で答え合わせをする。 2. 会話文の音読課題は、授業内でペアワークで確認し、フィードバックする。 3. 作文演習と表現演習の資料は、授業内で個別指導し、フィードバックする。						
テキスト・教材		宋美玲・印省熙・白寅英 著『踏みだそう! 韓国語への第一歩』白帝社 (2,400 円 + 税) ISBN 978-4863981553						
参考書		必要に応じて授業内で提示・紹介する。						
評価の基準と方法		授業内の小テストと試験(60%)、発表(20%)と課題(20%)により評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-130-21	授業コード	F02931
科目名称	中国語 I	単位数	1.0 単位		
英文名称	Chinese I	授業区分	演習		
科目責任者	保坂 律子	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	保坂 律子	開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 水曜日 10:00～13:00 後期 水曜日 10:00～13:00	研究室	10-709		
授業概要	隣国中国は歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進などによって、中国に対する関心が高まっています。中国語は日本語と同様に漢字で表記されることもあり親しみやすいが、同じ漢字でも意味も発音も全く異なることが少なくないため、誤解を生むことも多々ある。授業では中国語と日本語の相違点なども取り上げながら、中国語の文法ルールを中国語の発想と共に学ぶ。				
到達目標	中国語のピンイン表記の規則を理解し、4つの声調と母音、子音が正しく発音できる。中国語で基本的な挨拶ができる。基本的な文法ルールを身につけ、中国語で簡単な意思疎通ができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	保坂 律子	【第 1 回】 予習 : テキスト 8 頁～9 頁の講読 授業 : 中国語入門オリエンテーション、中国語の発音表記 復習 : テキスト 8～9 頁の音読			
2	保坂 律子	【第 2 回】 予習 : テキスト 10 頁～12 頁の講読 授業 : 4つの声調、単母音(テキスト 10 頁～12 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 4つの声調、単母音の発音練習			
3	保坂 律子	【第 3 回】 予習 : テキスト 13 頁～15 頁の講読 授業 : 複母音 3 タイプ(テキスト 13 頁～15 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 複母音 3 タイプの発音練習			
4	保坂 律子	【第 4 回】 予習 : テキスト 16 頁～19 頁の講読 授業 : 子音、無気音と有気音、そり舌音(テキスト 16 頁～19 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 子音、無気音と有気音、そり舌音の発音練習			
5	保坂 律子	【第 5 回】 予習 : テキスト 20 頁～22 頁の講読 授業 : 鼻音を伴う母音、声調変化の規則(テキスト 20 頁～22 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 鼻音を伴う母音、声調変化の発音練習			
6	保坂 律子	【第 6 回】 予習 : テキスト 23 頁～25 頁の講読 授業 : ピンイン表記の規則、数字の読み方(テキスト 23 頁～25 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 数字の読み方の発音練習			
7	保坂 律子	【第 7 回】 予習 : テキスト 26 頁～29 頁の講読 授業 : 声調の組み合わせ、挨拶言葉(テキスト 26 頁～29 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 声調の組み合わせ、挨拶言葉の発音練習			
8	保坂 律子	【第 8 回】 予習 : テキスト 29 頁までの復習 授業 : 中間テストと問題解説 復習 : 中間テストの解き直し			
9	保坂 律子	【第 9 回】 予習 : テキスト 30 頁～32 頁の講読、単語の復習 授業 : 人称代名詞、動詞述語文 (テキスト 30 頁～32 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 人称代名詞、動詞述語文のドリル			
10	保坂 律子	【第 10 回】 予習 : テキスト 33 頁～35 頁の講読 授業 : 諾否疑問文、名前の聞き方(テキスト 33 頁～35 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 諾否疑問文、名前の聞き方のドリル			

11	保坂 律子	【第 11 回】 予習 : テキスト 36 頁～38 頁の講読 授業 : 指示代詞、連体修飾語(テキスト 36 頁～38 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 指示代詞、連体修飾語のドリル						
12	保坂 律子	【第 12 回】 予習 : テキスト 39 頁～41 頁の講読 授業 : 経験の表し方(テキスト 39 頁～41 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 疑問詞疑問文のドリル						
13	保坂 律子	【第 13 回】 予習 : テキスト 42 頁～44 頁の講読 授業 : モノの数え方、所有の表し方(テキスト 42 頁～44 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : モノの数え方、所有の表し方のドリル						
14	保坂 律子	【第 14 回】 予習 : テキスト 45 頁～47 頁の講読 授業 : 数、数量のたずね方(テキスト 45 頁～47 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 数、数量のたずね方のドリル						
15	保坂 律子	【第 15 回】 予習 : 挨拶言葉の暗唱、単語のまとめ 授業 : 前期ポイントのまとめ 復習 : 前期ポイント構文の音読						
授業開始前学習		身の回りにみられる中国語表記や街中で耳にする中国語、中国に関するニュースに関心を持つように心がける。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で実施する中間テストは採点の上返却し、弱点の補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。また適宜実施する小テストについても都度解説する。						
テキスト・教材		『ケンタくんの中国語』(朝日出版社)						
参考書		辞書も含め授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点(授業態度・課題提出等) 30 点とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間(1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-130-21	授業コード	F02932
科目名称	中国語 I	単位数	1.0 単位		
英文名称	Chinese I	授業区分	演習		
科目責任者	盧 尤	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	盧 尤	開講時期	1 年		
オフィスアワー	-	研究室	-		
授業概要	隣国中国は歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進などによって、中国に対する関心が高まっています。中国語は日本語と同様に漢字で表記されることもあり親しみやすいが、同じ漢字でも意味も発音も全く異なることが少なくないため、誤解を生むことも多々ある。授業では中国語と日本語の相違点なども取り上げながら、中国語の文法ルールを中国語の発想と共に学ぶ。				
到達目標	中国語のピンイン表記の規則を理解し、4つの声調と母音、子音が正しく発音できる。中国語で基本的な挨拶ができる。基本的な文法ルールを身につけ、中国語で簡単な意思疎通ができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	盧 尤	【第 1 回】 予習 : テキスト 8 頁～9 頁の講読 授業 : 中国語入門オリエンテーション、中国語の発音表記 復習 : テキスト 8～9 頁の音読			
2	盧 尤	【第 2 回】 予習 : テキスト 10 頁～12 頁の講読 授業 : 4つの声調、単母音(テキスト 10 頁～12 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 4つの声調、単母音の発音練習			
3	盧 尤	【第 3 回】 予習 : テキスト 13 頁～15 頁の講読 授業 : 複母音 3 タイプ(テキスト 13 頁～15 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 複母音 3 タイプの発音練習			
4	盧 尤	【第 4 回】 予習 : テキスト 16 頁～19 頁の講読 授業 : 子音、無気音と有気音、そり舌音(テキスト 16 頁～19 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 子音、無気音と有気音、そり舌音の発音練習			
5	盧 尤	【第 5 回】 予習 : テキスト 20 頁～22 頁の講読 授業 : 鼻音を伴う母音、声調変化の規則(テキスト 20 頁～22 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 鼻音を伴う母音、声調変化の発音練習			
6	盧 尤	【第 6 回】 予習 : テキスト 23 頁～25 頁の講読 授業 : ピンイン表記の規則、数字の読み方(テキスト 23 頁～25 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 数字の読み方の発音練習			
7	盧 尤	【第 7 回】 予習 : テキスト 26 頁～29 頁の講読 授業 : 声調の組み合わせ、挨拶言葉(テキスト 26 頁～29 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 声調の組み合わせ、挨拶言葉の発音練習			
8	盧 尤	【第 8 回】 予習 : テキスト 29 頁までの復習 授業 : 中間テストと問題解説 復習 : 中間テストの解き直し			
9	盧 尤	【第 9 回】 予習 : テキスト 30 頁～32 頁の講読、単語の復習 授業 : 人称代名詞、動詞述語文 (テキスト 30 頁～32 頁) 復習 : 人称代名詞、動詞述語文のドリル			
10	盧 尤	【第 10 回】 予習 : テキスト 33 頁～35 頁の講読 授業 : 諾否疑問文、名前の聞き方(テキスト 33 頁～35 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 諾否疑問文、名前の聞き方のドリル			

11	盧 尤	【第 11 回】 予習 : テキスト 36 頁～38 頁の講読 授業 : 指示代詞、連体修飾語(テキスト 36 頁?38 頁) 復習 : 指示代詞、連体修飾語のドリル						
12	盧 尤	【第 12 回】 予習 : テキスト 39 頁～41 頁の講読 授業 : 経験の表し方 (テキスト 39 頁～41 頁) 復習 : 疑問詞疑問文のドリル						
13	盧 尤	【第 13 回】 予習 : テキスト 42 頁～44 頁の講読 授業 : モノの数え方、所有の表し方(テキスト 42 頁～44 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : モノの数え方、所有の表し方のドリル						
14	盧 尤	【第 14 回】 予習 : テキスト 45 頁～47 頁の講読 授業 : 数、数量のたずね方(テキスト 45 頁～47 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 数、数量のたずね方のドリル						
15	盧 尤	【第 15 回】 予習 : 挨拶言葉の暗唱、単語のまとめ 授業 : 前期ポイントのまとめ 復習 : 前期ポイント構文の音読						
授業開始前学習		身の回りにみられる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つように心がける。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で実施する中間テストは採点の上返却し、弱点の補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。また適宜実施する小テスト(クイズ)についても都度解説する。						
テキスト・教材		『ケンタくんの中国語』(朝日出版社)						
参考書		辞書も含め授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点(授業態度・課題提出等) 30 点とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間(1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132		科目分類（～2024 年 入学者）		100-130-21		授業コード		F02941			
科目名称		中国語Ⅱ						単位数		1.0 単位			
英文名称		ChineseⅡ						授業区分		演習			
科目責任者		保坂 律子						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		保坂 律子						開講時期		1 年			
オフィスアワー		前期 水曜日 10:00～13:00 後期 水曜日 10:00～13:00						研究室		10-709			
授業概要		隣国中国は歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進などによって、中国に対する関心はますます高まっている。中国語は日本語と同様に漢字で表記されることもあり親しみやすいが、同じ漢字でも意味も発音も全く異なることが少なくないため、誤解を生むことも多々ある。授業では中国語と日本語の相違点なども取り上げながら、中国語の文法ルールを中国語の発想と共に学ぶ。											
到達目標		中国語の基本文法を理解し、正しく簡体字を書くことができる。中国語の語彙を増やし、単文の基本文型が理解できる。											
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容										
1	保坂 律子		【第 1 回】 予習：テキスト 48 頁～49 頁の講読 授業：形容詞述語文、程度を表す副詞（テキスト 48 頁～49 頁） 復習：形容詞述語文、程度を表す副詞のドリル										
2	保坂 律子		【第 2 回】 予習：テキスト 50 頁～52 頁の講読 授業：反復疑問文、名詞＋“？”疑問文(テキスト 50 頁～52 頁)（ペア・グループワーク） 復習：反復疑問文、名詞＋“？”疑問文のドリル										
3	保坂 律子		【第 3 回】 予習：テキスト 53 頁～55 頁の講読 授業：場所を表す指示代詞、存在の表し方（テキスト 53 頁～55 頁）（ペア・グループワーク） 復習：場所を表す指示代詞、存在の表し方のドリル										
4	保坂 律子		【第 4 回】 予習：テキスト 56 頁～58 頁の講読 授業：願望を表す助動詞(テキスト 56 頁～58 頁)（ペア・グループワーク） 復習：願望を表す助動詞のドリル										
5	保坂 律子		【第 5 回】 予習：テキスト 59 頁～60 頁の講読 授業：日付・時を表す言葉（テキスト 59 頁～60 頁）（ペア・グループワーク） 復習：日付・時を表す言葉のドリル										
6	保坂 律子		【第 6 回】 予習：テキスト 61 頁～62 頁の講読 授業：名詞述語文(テキスト 61 頁～62 頁)（ペア・グループワーク） 復習：名詞述語文のドリル										
7	保坂 律子		【第 7 回】 予習：テキスト 63 頁～64 頁の講読 授業：提案、推量の表し方(テキスト 63 頁～64 頁)（ペア・グループワーク） 復習：提案、推量の表し方のドリル										
8	保坂 律子		【第 8 回】 予習：テキスト 64 頁までの復習 授業：中間テストと問題解説 復習：中間テストの解き直し										
9	保坂 律子		【第 9 回】 予習：テキスト 65 頁～66 頁の講読 授業：連動文（テキスト 65 頁～66 頁）（ペア・グループワーク） 復習：連動文のドリル										
10	保坂 律子		【第 10 回】 予習：テキスト 67 頁～68 頁の講読 授業：時間量、介詞（テキスト 67 頁～68 頁）（ペア・グループワーク） 復習：時間量、介詞のドリル										

11	保坂 律子	【第 11 回】 予習 : テキスト 69 頁～70 頁の講読 授業 : どれくらい～？のたずね方(テキスト 69 頁～70 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : どれくらい～？のドリル							
12	保坂 律子	【第 12 回】 予習 : テキスト 71 頁～72 頁の講読 授業 : 経験の表し方 (テキスト 71 頁～72 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 経験の表し方のドリル							
13	保坂 律子	【第 13 回】 予習 : テキスト 73～74 頁の講読 授業 : 動詞の繰り返し型 (テキスト 73 頁～74 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 動詞の繰り返し型のドリル							
14	保坂 律子	【第 14 回】 予習 : テキスト 75 頁～77 頁の講読 授業 : 選択疑問文(テキスト 75 頁～77 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 選択疑問文のドリル							
15	保坂 律子	【第 15 回】 予習 : 挨拶言葉の暗誦、単語のまとめ 授業 : 後期ポイントのまとめ 復習 : 後期ポイント構文の音読							
授業開始前学習		身の回りにみられる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つようにしておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内に実施する中間テストは返却時に全体の講評を行い、弱点補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。 また適宜実施する小テスト（クイズ）についても都度解説する。							
テキスト・教材		『ケンタくんの中国語』（朝日出版社）							
参考書		辞書も含め授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点（授業態度・課題提出） 30 点とする。							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎	○			△	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-130-21	授業コード	F02942
科目名称	中国語Ⅱ	単位数	1.0 単位		
英文名称	ChineseⅡ	授業区分	演習		
科目責任者	盧 尤	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	盧 尤	開講時期	1 年		
オフィスアワー	-	研究室	-		
授業概要	隣国中国は、歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進などによって、中国に対する関心が高まっている。中国語は日本語と同様に、漢字で表記されることもあり、親しみやすいが、同じ漢字でも意味も発音も全く異なることが少なくないため、誤解を生むことも多々ある。授業では中国語と日本語の相違点なども取り上げながら、中国語の文法ルールを中国語の発想と共に学ぶ。				
到達目標	中国語の基本文法を理解し、正しく簡体字を書くことができる。中国語の語彙を増やし、単文の基本文型が理解できる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	盧 尤	【第 1 回】 予習 : テキスト 48 頁～49 頁の講読 授業 : 形容詞述語文、程度を表す副詞 (テキスト 48 頁～49 頁) 復習 : 形容詞述語文、程度を表す副詞のドリル			
2	盧 尤	【第 2 回】 予習 : テキスト 50 頁～52 頁の講読 授業 : 反復疑問文、名詞+“?”疑問文(テキスト 50 頁～52 頁) (ペア・ワーク) 復習 : 反復疑問文、名詞+“?”疑問文のドリル			
3	盧 尤	【第 3 回】 予習 : テキスト 53 頁～55 頁の講読 授業 : 場所を表す指示代詞、存在の表し方 (テキスト 53 頁～55 頁) 復習 : 場所を表す指示代詞、存在の表し方のドリル			
4	盧 尤	【第 4 回】 予習 : テキスト 56 頁～58 頁の講読 授業 : 願望を表す助動詞(テキスト 56 頁～58 頁) (ペア・ワーク) 復習 : 願望を表す助動詞のドリル			
5	盧 尤	【第 5 回】 予習 : テキスト 59 頁～60 頁の講読 授業 : 日付・時を表す言葉 (テキスト 59 頁～60 頁)			
6	盧 尤	【第 6 回】 予習 : テキスト 61 頁～62 頁の講読 授業 : 名詞述語文(テキスト 61 頁～62 頁) (ペア・ワーク) 復習 : 名詞述語文のドリル			
7	盧 尤	【第 7 回】 予習 : テキスト 63 頁～64 頁の講読 授業 : 提案、推量の表し方(テキスト 63 頁～64 頁) 復習 : 提案、推量の表し方			
8	盧 尤	【第 8 回】 予習 : テキスト 64 頁までの復習 授業 : 小テストと問題解説 復習 : 小テストの解き直し			
9	盧 尤	【第 9 回】 予習 : テキスト 65 頁～66 頁の講読 授業 : 連動文 (テキスト 65 頁～66 頁) (ペア・ワーク) 復習 : 連動文のドリル			
10	盧 尤	【第 10 回】 予習 : テキスト 67 頁～68 頁の講読 授業 : 時間量、介詞 (テキスト 67 頁～68 頁) 復習 : 時間量、介詞のドリル			
11	盧 尤	【第 11 回】 予習 : テキスト 69 頁～70 頁の講読 授業 : どれくらい? ?のたずね方(テキスト 69 頁～70 頁) (ペア・ワーク)			

		復習 : どれくらい? ? のドリル						
12	盧 尤	【第 12 回】 予習 : テキスト 71 頁～72 頁の講読 授業 : 経験の表し方 (テキスト 71 頁～72 頁) 復習 : 経験の表し方のドリル						
13	盧 尤	【第 13 回】 予習 : テキスト 73 頁～74 頁の講読 授業 : 動詞の繰り返し型 (テキスト 73 頁～74 頁) (ペア・ワーク) 復習 : 動詞の繰り返し型のドリル						
14	盧 尤	【第 14 回】 予習 : テキスト 75 頁～77 頁の講読 授業 : 選択疑問文 (テキスト 75 頁～77 頁) 復習 : 選択疑問文のドリル						
15	盧 尤	【第 15 回】 予習 : 挨拶言葉の暗誦、単語のまとめ 授業 : 後期ポイントのまとめ 復習 : 後期ポイント構文の音読						
授業開始前学習		身の回りにみられる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つようにしておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内に適宜実施する小テストおよび中間テストは採点の上翌週返却し、弱点の補強とステップアップのポイントについてアドバイスする。						
テキスト・教材		『ケンタくんの中国語』(朝日出版社)						
参考書		辞書も含め授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点 (授業態度・課題提出) 30 点とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-111-21	授業コード	F03110
科目名称	ICT リテラシーの基礎			単位数	1.0 単位
英文名称	Basics of ICT Literacy			授業区分	演習
科目責任者	高橋 大介			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	高橋 大介			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ここ数年、情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しいものがあります。コンピュータ中心だった情報処理から、スマートフォンやタブレット端末が主流となる情報共有へと変化し、情報そのものも複雑化してきました。コロナ禍における社会の変化はすさまじく、テレワークや遠隔授業などが私たちの生活を一変させました。また、小中高等学校においても、情報活用能力の育成と ICT 活用が新学習指導要領のもとで全面的に実施されました。こうした中で、ICT リテラシーの基礎および応用では、ICT (情報通信技術) を中心とした情報リテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。前期の ICT リテラシーの基礎では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた演習を行います。併せて、情報リテラシーを理解できるよう、簡単な講義も行います。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン (タブレット) を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	高橋 大介	予習 : 履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと 授業 : コンピュータの仕組みと起動 / KOMAJO ポータルの使い方 / Google クラウドの使い方 / メールの使い方 復習 : KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと			
2	高橋 大介	予習 : 教科書 P10 から P13 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : タイピング (課題 2-1-1) 復習 : タイピングのホームポジションを振り返っておくこと			
3	高橋 大介	予習 : 教科書 P14 から P15 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 四字熟語・慣用句の入力 (課題 2-1-2・課題 2-1-3) 復習 : 四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと			
4	高橋 大介	予習 : 教科書 P16 から P17 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 文書作成とレイアウト (課題 2-1-4・課題 2-2-1・課題 2-2-5) (課題解決型課題) 復習 : ささまざまな文章のレイアウトを確認すること			
5	高橋 大介	予習 : 教科書 P18 から P21 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (時間割) (課題 2-3-1) (課題解決型課題) 復習 : 作成した時間割から操作方法を振り返ること			
6	高橋 大介	予習 : 教科書 P22 から P23 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (履歴書) (課題 2-3-2) (課題解決型課題) 復習 : 作成した履歴書から操作方法を振り返ること			
7	高橋 大介	予習 : 教科書 P24 から P25 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (レシピ) (課題 2-3-3) (課題解決型課題) 復習 : 作成したレシピから操作方法を振り返ること			
8	高橋 大介	予習 : 教科書 P26 から P27 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (レシピ) (課題 2-3-3) (課題解決型課題) 復習 : 作成したレシピから画像の取り扱いを振り返ること			
9	高橋 大介	予習 : 教科書 P28 から P30 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : ビジネス文書の作成 (見積書) (課題 2-3-4) 復習 : ささまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること			
10	高橋 大介	予習 : 教科書 P31 から P32 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 図形描画 (キャラクタ) (課題 2-4-1) (課題解決型課題) 復習 : 図形描画の操作方法を振り返ること			
11	高橋 大介	予習 : 教科書 P33 から P35 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 図形描画 (地図) (課題 2-4-2) (課題解決型課題) 復習 : ささまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること			

12	高橋 大介	予習 : 教科書 P36 から P40 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : ビジネス文書の作成 (クラス会) (課題 2-4-3) (課題解決型課題) 復習 : 文字データと図形データが混在した書類等を確認すること						
13	高橋 大介	予習 : 教科書 P41 から P42 を読んでおくこと 授業 : プレゼン演習 : シナリオメイキングと情報収集 (旅行計画) (課題解決型課題) 復習 : シナリオ (ストーリー) を何度も振り返ること						
14	高橋 大介	予習 : 教科書 P43 から P44 を読んでおくこと 授業 : プレゼン演習 : 情報の構造化と構成 (旅行計画) (課題解決型課題) 復習 : ささまざまなプレゼン資料を確認すること						
15	高橋 大介	予習 : 教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業 : プレゼン演習 : プレゼンテーションと演出 (旅行計画) (課題解決型課題) 復習 : 全体の流れの振り返りを行うこと						
授業開始前学習		高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。						
テキスト・教材		『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版						
参考書								
評価の基準と方法		毎回出される課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目	ICT リテラシーの応用							
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-111-21	授業コード	F03112
科目名称	ICT リテラーの基礎			単位数	1.0 単位
英文名称	Basics of ICT Literacy			授業区分	演習
科目責任者	星野 好晃			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	星野 好晃			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ここ数年、情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しいものがあります。コンピュータ中心だった情報処理から、スマートフォンやタブレット端末が主流となる情報共有へと変化し、情報そのものも複雑化してきました。コロナ禍における社会の変化はますます、テレワークや遠隔授業などが私たちの生活を一変させました。また、小中高等学校においても、情報活用能力の育成と ICT 活用が新学習指導要領のもとで全面的に実施されました。こうした中で、ICT リテラーの基礎および応用では、ICT (情報通信技術) を中心とした情報リテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。前期の ICT リテラーの基礎では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた演習を行います。併せて、情報リテラシーを理解できるよう、簡単な講義も行います。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン (タブレット) を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	星野 好晃	予習 : 履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと 授業 : コンピュータの仕組みと起動 / KOMAJO ポータルの使い方 / Google クラウドの使い方 / メールの使い方 復習 : KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと			
2	星野 好晃	予習 : 教科書 P10 から P13 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : タイピング (課題 2-1-1) 復習 : タイピングのホームポジションを振り返っておくこと			
3	星野 好晃	予習 : 教科書 P14 から P15 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 四字熟語・慣用句の入力 (課題 2-1-2・課題 2-1-3) 復習 : 四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと			
4	星野 好晃	予習 : 教科書 P16 から P17 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 文書作成とレイアウト (課題 2-1-4・課題 2-2-1・課題 2-2-5) (課題解決型課題) 復習 : さまざまな文章のレイアウトを確認すること			
5	星野 好晃	予習 : 教科書 P18 から P21 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (時間割) (課題 2-3-1) (課題解決型課題) 復習 : 作成した時間割から操作方法を振り返ること			
6	星野 好晃	予習 : 教科書 P22 から P23 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (履歴書) (課題 2-3-2) (課題解決型課題) 復習 : 作成した履歴書から操作方法を振り返ること			
7	星野 好晃	予習 : 教科書 P24 から P25 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (レシピ) (課題 2-3-3) (課題解決型課題) 復習 : 作成したレシピから操作方法を振り返ること			
8	星野 好晃	予習 : 教科書 P26 から P27 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (レシピ) (課題 2-3-3) (課題解決型課題) 復習 : 作成したレシピから画像の取り扱いを振り返ること			
9	星野 好晃	予習 : 教科書 P28 から P30 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : ビジネス文書の作成 (見積書) (課題 2-3-4) 復習 : さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること			
10	星野 好晃	予習 : 教科書 P31 から P32 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 図形描画 (キャラクタ) (課題 2-4-1) (課題解決型課題) 復習 : 図形描画の操作方法を振り返ること			
11	星野 好晃	予習 : 教科書 P33 から P35 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 図形描画 (地図) (課題 2-4-2) (課題解決型課題) 復習 : さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること			

12	星野 好晃	予習：教科書 P36 から P40 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（クラス会）（課題 2－4－3）（課題解決型課題） 復習：文字データと図形データが混在した書類等を確認すること						
13	星野 好晃	予習：教科書 P41 から P42 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：シナリオメイキングと情報収集（旅行計画）（課題解決型課題） 復習：シナリオ（ストーリー）を何度も振り返ること						
14	星野 好晃	予習：教科書 P43 から P44 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：情報の構造化と構成（旅行計画）（課題解決型課題） 復習：さまざまなプレゼン資料を確認すること						
15	星野 好晃	予習：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：プレゼンテーションと演出（旅行計画）（課題解決型課題） 復習：全体の流れの振り返りを行うこと						
授業開始前学習		高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。						
テキスト・教材		『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版						
参考書								
評価の基準と方法		毎回出される課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目	ICT リテラシーの応用							
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）		100-111-21		授業コード		F03114			
科目名称		ICT リテラーの基礎						単位数		1.0 単位			
英文名称		Basics of ICT Literacy						授業区分		演習			
科目責任者		明田川 紀彦						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		明田川 紀彦						開講時期		1 年			
オフィスアワー		前期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30						研究室		10-707			
授業概要		ここ数年、情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しいものがあります。コンピュータ中心だった情報処理から、スマートフォンやタブレット端末が主流となる情報共有へと変化し、情報そのものも複雑化してきました。コロナ禍における社会の変化はすさまじく、テレワークや遠隔授業などが私たちの生活を一変させました。また、小中高等学校においても、情報活用能力の育成と ICT 活用が新学習指導要領のもとで全面的に実施されました。こうした中で、ICT リテラーの基礎および応用では、ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。前期の ICT リテラーの基礎では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた演習を行います。併せて、情報リテラーを理解できるよう、簡単な講義も行います。											
到達目標		コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。											
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態	
授業 回数		担当者		授業の内容									
1		明田川 紀彦		予習：履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと 授業：コンピュータの仕組みと起動／KOMAJO ポータルの使い方／Google クラスルームの使い方／メールの使い方 復習：KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと									
2		明田川 紀彦		予習：教科書 P10 から P13 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：タイピング（課題 2－1－1） 復習：タイピングのホームポジションを振り返っておくこと									
3		明田川 紀彦		予習：教科書 P14 から P15 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：四字熟語・慣用句の入力（課題 2－1－2・課題 2－1－3） 復習：四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと									
4		明田川 紀彦		予習：教科書 P16 から P17 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：文書作成とレイアウト（課題 2－1－4・課題 2－2－1・課題 2－2－5）（課題解決型課題） 復習：さまざまな文章のレイアウトを確認すること									
5		明田川 紀彦		予習：教科書 P18 から P21 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（時間割）（課題 2－3－1）（課題解決型課題） 復習：作成した時間割から操作方法を振り返ること									
6		明田川 紀彦		予習：教科書 P22 から P23 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（履歴書）（課題 2－3－2）（課題解決型課題） 復習：作成した履歴書から操作方法を振り返ること									
7		明田川 紀彦		予習：教科書 P24 から P25 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題 2－3－3）（課題解決型課題） 復習：作成したレシピから操作方法を振り返ること									
8		明田川 紀彦		予習：教科書 P26 から P27 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題 2－3－3）（課題解決型課題） 復習：作成したレシピから画像の取り扱いを振り返ること									
9		明田川 紀彦		予習：教科書 P28 から P30 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（見積書）（課題 2－3－4） 復習：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること									
10		明田川 紀彦		予習：教科書 P31 から P32 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：図形描画（キャラクタ）（課題 2－4－1）（課題解決型課題） 復習：図形描画の操作方法を振り返ること									
11		明田川 紀彦		予習：教科書 P33 から P35 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：図形描画（地図）（課題 2－4－2）（課題解決型課題） 復習：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること									

12	明田川 紀彦	予習：教科書 P36 から P40 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（クラス会）（課題 2－4－3）（課題解決型課題） 復習：文字データと図形データが混在した書類等を確認すること						
13	明田川 紀彦	予習：教科書 P41 から P42 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：シナリオメイキングと情報収集（旅行計画）（課題解決型課題） 復習：シナリオ（ストーリー）を何度も振り返ること						
14	明田川 紀彦	予習：教科書 P43 から P44 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：情報の構造化と構成（旅行計画）（課題解決型課題） 復習：さまざまなプレゼン資料を確認すること						
15	明田川 紀彦	予習：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：プレゼンテーションと演出（旅行計画）（課題解決型課題） 復習：全体の流れの振り返りを行うこと						
授業開始前学習		高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。						
テキスト・教材		『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版						
参考書								
評価の基準と方法		毎回出される課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目		ICT リテラシーの応用						
その他		GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-111-21	授業コード	F03116
科目名称	ICT リテラシーの基礎			単位数	1.0 単位
英文名称	Basics of ICT Literacy			授業区分	演習
科目責任者	中澤 美奈			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中澤 美奈			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ここ数年、情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しいものがあります。コンピュータ中心だった情報処理から、スマートフォンやタブレット端末が主流となる情報共有へと変化し、情報そのものも複雑化してきました。コロナ禍における社会の変化はますます、テレワークや遠隔授業などが私たちの生活を一変させました。また、小中高等学校においても、情報活用能力の育成と ICT 活用が新学習指導要領のもとで全面的に実施されました。こうした中で、ICT リテラシーの基礎および応用では、ICT (情報通信技術) を中心とした情報リテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。前期の ICT リテラシーの基礎では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた演習を行います。併せて、情報リテラシーを理解できるよう、簡単な講義も行います。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン (タブレット) を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中澤 美奈	予習 : 履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと 授業 : コンピュータの仕組みと起動 / KOMAJO ポータルの使い方 / Google クラウドの使い方 / メールの使い方 復習 : KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと			
2	中澤 美奈	予習 : 教科書 P10 から P13 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : タイピング (課題 2-1-1) 復習 : タイピングのホームポジションを振り返っておくこと			
3	中澤 美奈	予習 : 教科書 P14 から P15 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 四字熟語・慣用句の入力 (課題 2-1-2・課題 2-1-3) 復習 : 四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと			
4	中澤 美奈	予習 : 教科書 P16 から P17 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 文書作成とレイアウト (課題 2-1-4・課題 2-2-1・課題 2-2-5) (課題解決型課題) 復習 : さまざまな文章のレイアウトを確認すること			
5	中澤 美奈	予習 : 教科書 P18 から P21 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (時間割) (課題 2-3-1) (課題解決型課題) 復習 : 作成した時間割から操作方法を振り返ること			
6	中澤 美奈	予習 : 教科書 P22 から P23 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (履歴書) (課題 2-3-2) (課題解決型課題) 復習 : 作成した履歴書から操作方法を振り返ること			
7	中澤 美奈	予習 : 教科書 P24 から P25 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (レシピ) (課題 2-3-3) (課題解決型課題) 復習 : 作成したレシピから操作方法を振り返ること			
8	中澤 美奈	予習 : 教科書 P26 から P27 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (レシピ) (課題 2-3-3) (課題解決型課題) 復習 : 作成したレシピから画像の取り扱いを振り返ること			
9	中澤 美奈	予習 : 教科書 P28 から P30 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : ビジネス文書の作成 (見積書) (課題 2-3-4) 復習 : さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること			
10	中澤 美奈	予習 : 教科書 P31 から P32 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 図形描画 (キャラクタ) (課題 2-4-1) (課題解決型課題) 復習 : 図形描画の操作方法を振り返ること			
11	中澤 美奈	予習 : 教科書 P33 から P35 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 図形描画 (地図) (課題 2-4-2) (課題解決型課題) 復習 : さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること			

12	中澤 美奈	予習 : 教科書 P36 から P40 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : ビジネス文書の作成 (クラス会) (課題 2-4-3) (課題解決型課題) 復習 : 文字データと図形データが混在した書類等を確認すること						
13	中澤 美奈	予習 : 教科書 P41 から P42 を読んでおくこと 授業 : プレゼン演習 : シナリオメイキングと情報収集 (旅行計画) (課題解決型課題) 復習 : シナリオ (ストーリー) を何度も振り返ること						
14	中澤 美奈	予習 : 教科書 P43 から P44 を読んでおくこと 授業 : プレゼン演習 : 情報の構造化と構成 (旅行計画) (課題解決型課題) 復習 : ささまざまなプレゼン資料を確認すること						
15	中澤 美奈	予習 : 教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業 : プレゼン演習 : プレゼンテーションと演出 (旅行計画) (課題解決型課題) 復習 : 全体の流れの振り返りを行うこと						
授業開始前学習		高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。						
テキスト・教材		『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版						
参考書								
評価の基準と方法		毎回出される課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目		ICT リテラシーの応用						
その他		GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		授業コード	F03118	
科目名称	☆ICT リテラー／ICT リテラーの基礎／コンピュータ演習 I			単位数	1.0 単位	
英文名称	Basics of ICT Literacy／Computer Laboratory I			授業区分	演習	
科目責任者	鈴木利彦			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	鈴木 利彦			開講時期	1 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 後期 火曜日 09:00～12:10			研究室	10-509	
授業概要	ここ数年の情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しく、コンピュータ、スマートフォン、タブレット端末を使ってテレワークや遠隔授業などを行うようになりました。こうした中、ICT リテラーでは ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラシーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。授業では、社会的に多用しているオフィス系ソフト（ドキュメント、スプレッドシート、スライド）の基礎的な操作技術と、1 年後期以降の授業で生かせるよう課題解決型学習に準じて演習を行います。					
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書や図表、スライド資料を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	鈴木 利彦	予習：履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと／使用するノート PC を各自用意すること 授業：コンピュータの仕組みと起動①／Wi-Fi の接続方法／KOMAJO ポータルの使い方／Google クラスルールの使い方／メールの使い方 復習：KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと				
2	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：コンピュータの仕組みと起動②／ワープロ演習：タイピングのホームポジション 復習：PC のキーボード入力とトラック入力の違いを振り返っておくこと				
3	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：ワープロ演習：四字熟語・慣用句の入力 復習：四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと				
4	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：ワープロ演習：文書作成とレイアウト 復習：さまざまな文章のレイアウトを確認すること				
5	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理①「料理レシピ作成（1）」 復習：作成した料理レシピから操作方法を振り返ること				
6	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理②「料理レシピ作成（2）」 復習：作成した料理レシピから画像の取り扱いを振り返ること				
7	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：表計算演習：計算とグラフの基本① セル入力と四則計算 復習：ワープロソフトと表計算ソフトの操作方法の相違を振り返ること				
8	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：表計算演習：計算とグラフの基本② 代表的な関数計算 復習：作成した表から操作方法を振り返ること				
9	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：表計算演習：計算とグラフの基本③ 特殊な関数計算 復習：作成した表から操作方法や関数計算を振り返ること				
10	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：表計算演習：計算とグラフの基本④ 歳入・歳出の概要（1） 復習：それぞれの区分について理解すること				
11	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：表計算演習：計算とグラフの基本⑤ 歳入・歳出の概要（2） 復習：財政状況と時事問題を理解すること				
12	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること／ドキュメントで作成した料理レシピの内容を確認すること 授業：スライド演習：スライド資料の作成①「料理レシピ紹介」スライド作成のための操作練習 復習：作成した料理レシピの内容をわかりやすく伝えるスライドを検討すること				

13	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること／ 授業：スライド演習：スライド資料の作成②「料理レシピ紹介」スライド作成の実行 復習：作成した料理レシピの内容をわかりやすく伝えるために、追加の図や画像を収集すること						
14	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：スライド演習：スライド資料の作成③「料理レシピ紹介」図や画像の挿入 復習：作成した料理レシピから画像の取り扱いを振り返ること						
15	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：スライド演習：スライド資料の作成④「料理レシピ紹介」さまざまな出力 復習：ドキュメント、スプレッドシート、スライドのそれぞれについて、出力操作を振り返ること						
授業開始前学習		高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスをを行う。						
テキスト・教材		GWE（Google クラスルーム）で適宜配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		授業内提出の課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%、授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目		空間デザインと ICT CADI						
その他		・授業では毎回ノートパソコンを各自で持参すること。充電は授業前までに十分に行っておくこと。 ・初回授業までにノート PC が用意できなかった場合は、初回授業で申し出ること。 ・GWE(Google Workspace for Education) = Google クラスルームを中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 ・課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）	100-111-21	授業コード	F03121		
科目名称	☆ICT リテラシーの応用			単位数	1.0 単位		
英文名称	Applications of ICT Literacy			授業区分	演習		
科目責任者	高橋 大介			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	高橋 大介			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	ICT リテラシーの基礎と同様に、総合的に ICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって行います。本演習では、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に数値処理や統計処理など、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた実務的な演習を行います。また、演習で用いるデータについては、国内外のオープンデータにアクセスして最新のデータを収集します。						
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、国内外のオープンデータのアクセス・情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	高橋 大介	予習：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業：表計算演習：作表（データ入力と罫線処理）（課題 3－1－1） 復習：時間割、カレンダーなど格子状のデータを確認すること					
2	高橋 大介	予習：教科書 P47 から P48 を読んでおくこと 授業：表計算演習：作表（複雑な罫線処理）（課題 3－1－2） 復習：フロアマップや料金表など複雑な表形式のデータを確認すること					
3	高橋 大介	予習：教科書 P49 から P50、P53 から 54 を読んでおくこと 授業：表計算演習：計算とグラフの基本（前期成績表の作成） 復習：構造化された情報を紙に書き起こして見返すこと					
4	高橋 大介	予習：教科書 P51 から P52 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の人口分布（課題 3－3－1）（課題解決型課題） 復習：総務省統計局のさまざまなデータを確認すること					
5	高橋 大介	予習：教科書 P56 から P57 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の主要都市の平均気温（課題 3－3－2）（課題解決型課題） 復習：気象庁のさまざまなデータを確認すること					
6	高橋 大介	予習：教科書 P58 から P59 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の所得ランキング（課題解決型課題） 復習：国連統計局のさまざまなデータを確認すること					
7	高橋 大介	予習：教科書 P60 から P62 を読んでおくこと 授業：表計算演習：ジェンダーギャップ指数（課題解決型課題） 復習：世界経済フォーラムのさまざまなデータを確認すること					
8	高橋 大介	予習：教科書 P63 から P64 を読んでおくこと 授業：表計算演習：企業研究（課題解決型課題） 復習：注目した企業の活動をニュースメディアを通して確認すること					
9	高橋 大介	予習：教科書 P65 から P66 を読んでおくこと 授業：表計算演習：レシート（課題 3－4－1） 復習：さまざまなレシートを確認すること					
10	高橋 大介	予習：教科書 P67 から P68 を読んでおくこと 授業：表計算演習：成績表（課題 3－3－3） 復習：基本統計量（その 1）を振り返ること					
11	高橋 大介	予習：教科書 P69 から P71 を読んでおくこと 授業：表計算演習：身体測定表（課題 3－3－4）（課題解決型課題） 復習：基本統計量（その 2）を振り返ること					
12	高橋 大介	予習：教科書 P72 から P73 を読んでおくこと 授業：表計算演習：レシピ（課題 3－4－7）（課題解決型課題） 復習：栄養管理について確認すること					
13	高橋 大介	予習：教科書 P75 から P77 を読んでおくこと 授業：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題 3－4－2）（課題解決型課題） 復習：それぞれの区分について理解すること					

14	高橋 大介	予習 : 次年度予算関連のニュース記事を確認すること 授業 : 表計算演習 : 歳入・歳出の概要 (課題 3-4-2) (課題解決型課題) 復習 : 財政状況と時事問題を理解すること						
15	高橋 大介	予習 : いままでの課題について振り返ること 授業 : 表計算演習 : 見積書 (課題 3-4-3) (課題解決型課題) 復習 : それぞれの課題について振り返ること						
授業開始前学習		高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。ICT リテラシーの基礎の内容をおさらいしておくこと						
授業内課題のフィードバックの方法		全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。						
テキスト・教材		『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版						
参考書								
評価の基準と方法		毎時間出される課題 40%、課題の内容および出来映え 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目		ICT リテラシーの基礎						
その他		GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）	100-111-21	授業コード	F03123		
科目名称	☆ICT リテラシーの応用			単位数	1.0 単位		
英文名称	Applications of ICT Literacy			授業区分	演習		
科目責任者	星野 好晃			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	星野 好晃			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	ICT リテラシーの基礎と同様に、総合的に ICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって行います。本演習では、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に数値処理や統計処理など、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた実務的な演習を行います。また、演習で用いるデータについては、国内外のオープンデータにアクセスして最新のデータを収集します。						
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、国内外のオープンデータのアクセス・情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	星野 好晃	予習：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業：表計算演習：作表（データ入力と罫線処理）（課題 3－1－1） 復習：時間割、カレンダーなど格子状のデータを確認すること					
2	星野 好晃	予習：教科書 P47 から P48 を読んでおくこと 授業：表計算演習：作表（複雑な罫線処理）（課題 3－1－2） 復習：フロアマップや料金表など複雑な表形式のデータを確認すること					
3	星野 好晃	予習：教科書 P49 から P50、P53 から 54 を読んでおくこと 授業：表計算演習：計算とグラフの基本（前期成績表の作成） 復習：構造化された情報を紙に書き起こして見返すこと					
4	星野 好晃	予習：教科書 P51 から P52 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の人口分布（課題 3－3－1）（課題解決型課題） 復習：総務省統計局のさまざまなデータを確認すること					
5	星野 好晃	予習：教科書 P56 から P57 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の主要都市の平均気温（課題 3－3－2）（課題解決型課題） 復習：気象庁のさまざまなデータを確認すること					
6	星野 好晃	予習：教科書 P58 から P59 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の所得ランキング（課題解決型課題） 復習：国連統計局のさまざまなデータを確認すること					
7	星野 好晃	予習：教科書 P60 から P62 を読んでおくこと 授業：表計算演習：ジェンダーギャップ指数（課題解決型課題） 復習：世界経済フォーラムのさまざまなデータを確認すること					
8	星野 好晃	予習：教科書 P63 から P64 を読んでおくこと 授業：表計算演習：企業研究（課題解決型課題） 復習：注目した企業の活動をニュースメディアを通して確認すること					
9	星野 好晃	予習：教科書 P65 から P66 を読んでおくこと 授業：表計算演習：レシート（課題 3－4－1） 復習：さまざまなレシートを確認すること					
10	星野 好晃	予習：教科書 P67 から P68 を読んでおくこと 授業：表計算演習：成績表（課題 3－3－3） 復習：基本統計量（その 1）を振り返ること					
11	星野 好晃	予習：教科書 P69 から P71 を読んでおくこと 授業：表計算演習：身体測定表（課題 3－3－4）（課題解決型課題） 復習：基本統計量（その 2）を振り返ること					
12	星野 好晃	予習：教科書 P72 から P73 を読んでおくこと 授業：表計算演習：レシピ（課題 3－4－7）（課題解決型課題） 復習：栄養管理について確認すること					
13	星野 好晃	予習：教科書 P75 から P77 を読んでおくこと 授業：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題 3－4－2）（課題解決型課題） 復習：それぞれの区分について理解すること					

14	星野 好晃	予習 : 次年度予算関連のニュース記事を確認すること 授業 : 表計算演習 : 歳入・歳出の概要 (課題 3-4-2) (課題解決型課題) 復習 : 財政状況と時事問題を理解すること						
15	星野 好晃	予習 : いままでの課題について振り返ること 授業 : 表計算演習 : 見積書 (課題 3-4-3) (課題解決型課題) 復習 : それぞれの課題について振り返ること						
授業開始前学習		高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。ICT リテラシーの基礎の内容をおさらいしておくこと						
授業内課題のフィードバックの方法		全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。						
テキスト・教材		『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版						
参考書								
評価の基準と方法		毎時間出される課題 40%、課題の内容および出来映え 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目		ICT リテラシーの基礎						
その他		GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）	100-111-21	授業コード	F03125		
科目名称	☆ICT リテラーの応用			単位数	1.0 単位		
英文名称	Applications of ICT Literacy			授業区分	演習		
科目責任者	明田川 紀彦			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	明田川 紀彦			開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-707		
授業概要	ICT リテラーの基礎と同様に、総合的に ICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって行います。本演習では、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に数値処理や統計処理など、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた実務的な演習を行います。また、演習で用いるデータについては、国内外のオープンデータにアクセスして最新のデータを収集します。						
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、国内外のオープンデータのアクセス・情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	明田川 紀彦	予習：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業：表計算演習：作表（データ入力と罫線処理）（課題 3－1－1） 復習：時間割、カレンダーなど格子状のデータを確認すること					
2	明田川 紀彦	予習：教科書 P47 から P48 を読んでおくこと 授業：表計算演習：作表（複雑な罫線処理）（課題 3－1－2） 復習：フロアマップや料金表など複雑な表形式のデータを確認すること					
3	明田川 紀彦	予習：教科書 P49 から P50、P53 から 54 を読んでおくこと 授業：表計算演習：計算とグラフの基本（前期成績表の作成） 復習：構造化された情報を紙に書き起こして見返すこと					
4	明田川 紀彦	予習：教科書 P51 から P52 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の人口分布（課題 3－3－1）（課題解決型課題） 復習：総務省統計局のさまざまなデータを確認すること					
5	明田川 紀彦	予習：教科書 P56 から P57 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の主要都市の平均気温（課題 3－3－2）（課題解決型課題） 復習：気象庁のさまざまなデータを確認すること					
6	明田川 紀彦	予習：教科書 P58 から P59 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の所得ランキング（課題解決型課題） 復習：国連統計局のさまざまなデータを確認すること					
7	明田川 紀彦	予習：教科書 P60 から P62 を読んでおくこと 授業：表計算演習：ジェンダーギャップ指数（課題解決型課題） 復習：世界経済フォーラムのさまざまなデータを確認すること					
8	明田川 紀彦	予習：教科書 P63 から P64 を読んでおくこと 授業：表計算演習：企業研究（課題解決型課題） 復習：注目した企業の活動をニュースメディアを通して確認すること					
9	明田川 紀彦	予習：教科書 P65 から P66 を読んでおくこと 授業：表計算演習：レシート（課題 3－4－1） 復習：さまざまなレシートを確認すること					
10	明田川 紀彦	予習：教科書 P67 から P68 を読んでおくこと 授業：表計算演習：成績表（課題 3－3－3） 復習：基本統計量（その 1）を振り返ること					
11	明田川 紀彦	予習：教科書 P69 から P71 を読んでおくこと 授業：表計算演習：身体測定表（課題 3－3－4）（課題解決型課題） 復習：基本統計量（その 2）を振り返ること					
12	明田川 紀彦	予習：教科書 P72 から P73 を読んでおくこと 授業：表計算演習：レシピ（課題 3－4－7）（課題解決型課題） 復習：栄養管理について確認すること					
13	明田川 紀彦	予習：教科書 P75 から P77 を読んでおくこと 授業：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題 3－4－2）（課題解決型課題） 復習：それぞれの区分について理解すること					

14	明田川 紀彦	予習：次年度予算関連のニュース記事を確認すること 授業：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題 3-4-2）（課題解決型課題） 復習：財政状況と時事問題を理解すること						
15	明田川 紀彦	予習：いままでの課題について振り返ること 授業：表計算演習：見積書（課題 3-4-3）（課題解決型課題） 復習：それぞれの課題について振り返ること						
授業開始前学習		高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。ICT リテラシーの基礎の内容をおさらいしておくこと						
授業内課題のフィードバックの方法		全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。						
テキスト・教材		『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版						
参考書								
評価の基準と方法		毎時間出される課題 40%、課題の内容および出来映え 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目		ICT リテラシーの基礎						
その他		GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）	100-111-21	授業コード	F03127		
科目名称	☆ICT リテラシーの応用			単位数	1.0 単位		
英文名称	Applications of ICT Literacy			授業区分	演習		
科目責任者	中澤 美奈			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	中澤 美奈			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	ICT リテラシーの基礎と同様に、総合的に ICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって行います。本演習では、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に数値処理や統計処理など、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた実務的な演習を行います。また、演習で用いるデータについては、国内外のオープンデータにアクセスして最新のデータを収集します。						
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、国内外のオープンデータのアクセス・情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	中澤 美奈	予習：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業：表計算演習：作表（データ入力と罫線処理）（課題 3－1－1） 復習：時間割、カレンダーなど格子状のデータを確認すること					
2	中澤 美奈	予習：教科書 P47 から P48 を読んでおくこと 授業：表計算演習：作表（複雑な罫線処理）（課題 3－1－2） 復習：フロアマップや料金表など複雑な表形式のデータを確認すること					
3	中澤 美奈	予習：教科書 P49 から P50、P53 から 54 を読んでおくこと 授業：表計算演習：計算とグラフの基本（前期成績表の作成） 復習：構造化された情報を紙に書き起こして見返すこと					
4	中澤 美奈	予習：教科書 P51 から P52 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の人口分布（課題 3－3－1）（課題解決型課題） 復習：総務省統計局のさまざまなデータを確認すること					
5	中澤 美奈	予習：教科書 P56 から P57 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の主要都市の平均気温（課題 3－3－2）（課題解決型課題） 復習：気象庁のさまざまなデータを確認すること					
6	中澤 美奈	予習：教科書 P58 から P59 を読んでおくこと 授業：表計算演習：世界の所得ランキング（課題解決型課題） 復習：国連統計局のさまざまなデータを確認すること					
7	中澤 美奈	予習：教科書 P60 から P62 を読んでおくこと 授業：表計算演習：ジェンダーギャップ指数（課題解決型課題） 復習：世界経済フォーラムのさまざまなデータを確認すること					
8	中澤 美奈	予習：教科書 P63 から P64 を読んでおくこと 授業：表計算演習：企業研究（課題解決型課題） 復習：注目した企業の活動をニュースメディアを通して確認すること					
9	中澤 美奈	予習：教科書 P65 から P66 を読んでおくこと 授業：表計算演習：レシート（課題 3－4－1） 復習：さまざまなレシートを確認すること					
10	中澤 美奈	予習：教科書 P67 から P68 を読んでおくこと 授業：表計算演習：成績表（課題 3－3－3） 復習：基本統計量（その 1）を振り返ること					
11	中澤 美奈	予習：教科書 P69 から P71 を読んでおくこと 授業：表計算演習：身体測定表（課題 3－3－4）（課題解決型課題） 復習：基本統計量（その 2）を振り返ること					
12	中澤 美奈	予習：教科書 P72 から P73 を読んでおくこと 授業：表計算演習：レシピ（課題 3－4－7）（課題解決型課題） 復習：栄養管理について確認すること					
13	中澤 美奈	予習：教科書 P75 から P77 を読んでおくこと 授業：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題 3－4－2）（課題解決型課題） 復習：それぞれの区分について理解すること					

14	中澤 美奈	予習：次年度予算関連のニュース記事を確認すること 授業：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題 3-4-2）（課題解決型課題） 復習：財政状況と時事問題を理解すること						
15	中澤 美奈	予習：いままでの課題について振り返ること 授業：表計算演習：見積書（課題 3-4-3）（課題解決型課題） 復習：それぞれの課題について振り返ること						
授業開始前学習		高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。ICT リテラシーの基礎の内容をおさらいしておくこと						
授業内課題のフィードバックの方法		全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。						
テキスト・教材		『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版						
参考書								
評価の基準と方法		毎時間出される課題 40%、課題の内容および出来映え 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目		ICT リテラシーの基礎						
その他		GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）		授業コード		F04120							
科目名称		日本語 I				単位数		1.0 単位							
英文名称		Japanese I				授業区分		演習							
科目責任者		何 芸凡				必修・選択		履修ガイド参照							
担当教員		何 芸凡				開講時期		1 年							
オフィスアワー		前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10				研究室		16-307							
授業概要		大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という 4 技能の習得を目指す。 特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験 N 1 レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。 聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようになることを目指す。この授業では発表とディスカッションを行う。													
到達目標		1 日本語能力試験 N 1 レベルの語彙・文型を身につける 2 あるテーマについて、自分の考えをまとめ、聞き手に伝わるように話せるようになる 3 口頭発表のための資料を、分かりやすく作成することができるようになる 4 他者のスピーチを聞いて要点を理解し、質問できるようになる													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		何 芸凡		【第 1 回】 予習：印象に残る自己紹介を考えておく。 授業：自己紹介（1）：スピーチをするときの段取りを身につける。（発表） 「時間・時期に関する文型」の学習。 復習：授業で学習した文型を使って文を作る。											
2		何 芸凡		【第 2 回】 予習：前回配布したプリントの内容を見直す。 授業：自己紹介（2）：聞き手が聞きとりやすい発声やスピードを身につける。（発表） 「立場・状況・場合に関する文型」の学習。 復習：立場・状況・場合に関する文型を使って文を作る。											
3		何 芸凡		【第 3 回】 予習：前回配布したプリントの内容を見直す。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「限定に関する文型」の学習。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。限定の文型を使って文を作る。											
4		何 芸凡		【第 4 回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 「例示・比喩に関する文型」の学習。 復習：例示・比喩に関する文型を使って文を作る。											
5		何 芸凡		【第 5 回】 予習：ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「対比に関する文型」の学習。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 対比に関する文型を使って文を作る。											
6		何 芸凡		【第 6 回】 予習：これまでに学習した文型について復習する。 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：文型に関する小テスト。 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 復習：小テストで出題された文型を使って文を作る。											
7		何 芸凡		【第 7 回】 予習：自分の出身地について、情報をまとめる。 授業：出身地紹介（1）：聞き手が興味をもつようなテーマ選びを考える。（発表） 「同時・2 つの事柄を述べる文型」の学習。 復習：同時・2 つの事柄を述べる文型を使って文を作る。											

8	何 芸 芑	【第 8 回】 予習：前回学んだ発表の仕方について復習する。 授業：出身地紹介（2）：発表に際してはポイントを絞り、分かりやすく伝える工夫をする。（発表） 「不変・無関係に関する文型」の学習。 復習：不変・無関係に関する文型を使って文を作る						
9	何 芸 芑	【第 9 回】 予習：ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「強調・繰り返しに関する文型」の学習。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 強調・繰り返しに関する文型を使って文を作る。						
10	何 芸 芑	【第 10 回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 「逆接・意外な気持ちに関する文型」の学習。 復習：逆接・意外な気持ちに関する文型を使って文を作る。						
11	何 芸 芑	【第 11 回】 予習：ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「結果に関する文型」の学習。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 結果に関する文型を使って文を作る。						
12	何 芸 芑	【第 12 回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 「条件に関する文型」の学習。 復習：条件に関する文型を使って文を作る。						
13	何 芸 芑	【第 13 回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題を調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「基準に関する文型」の学習 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 基準に関する文型を使って文を作る。						
14	何 芸 芑	【第 14 回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 これまでに学習した文型を見直す。 授業：文型に関する小テスト。 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 復習：小テストで取り上げた文型を使って、文を作る。						
15	何 芸 芑	【第 15 回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題について、問題点を明確にしながらディスカッションする。（ディスカッション） 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 これまでに学んだ発表の仕方を復習する。						
授業開始前学習		N2,N3 の語彙・文法などを復習しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		受講者の発表について、直すべきところなどを指摘する。随時小テストを実施して、次の授業でフィードバックする。また、提出された意見文を添削して返却する。						
テキスト・教材		テキストは使用しない。授業時にプリントを配布する。						
参考書		三浦香苗ほか『最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房,2006 年 12 月 その他、随時指示する。						
評価の基準と方法		課題への取り組みと到達度を総合的に評価する。発表・作文 60%、ディスカッション 20%、小テスト 20%。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F04121
科目名称	日本語 I	単位数	1.0 単位		
英文名称	Japanese I	授業区分	演習		
科目責任者	中尾 真樹	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	中尾 真樹	開講時期	1 年		
オフィスアワー	-	研究室	-		
授業概要	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という 4 技能の習得を目指す。 特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験 N 1 レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。 聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようになることを目指す。この授業では発表とディスカッションを行う。				
到達目標	1 日本語能力試験 N 1 レベルの語彙・文型を身につける 2 あるテーマについて、自分の考えをまとめ、聞き手に伝わるように話せるようになる 3 口頭発表のための資料を、分かりやすく作成することができるようになる 4 他者のスピーチを聞いて要点を理解し、質問できるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中尾 真樹	【第 1 回】 予習 : 印象に残る自己紹介を考えておく。 授業 : 自己紹介 (1) : スピーチをするときの段取りを身につける。(発表) 「時間・時期に関する文型」の学習。 復習 : 授業で学習した文型を使って文を作る。			
2	中尾 真樹	【第 2 回】 予習 : 前回配布したプリントの内容を見直す。 授業 : 自己紹介 (2) : 聞き手が聞きとりやすい発声やスピードを身につける。(発表) 「立場・状況・場合に関する文型」の学習。 復習 : 立場・状況・場合に関する文型を使って文を作る。			
3	中尾 真樹	【第 3 回】 予習 : 前回配布したプリントの内容を見直す。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「限定に関する文型」の学習。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。限定の文型を使って文を作る。			
4	中尾 真樹	【第 4 回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 「例示・比喩に関する文型」の学習。 復習 : 例示・比喩に関する文型を使って文を作る。			
5	中尾 真樹	【第 5 回】 予習 : ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「対比に関する文型」の学習。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 対比に関する文型を使って文を作る。			
6	中尾 真樹	【第 6 回】 予習 : これまでに学習した文型について復習する。 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 文型に関する小テスト。 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 復習 : 小テストで出題された文型を使って文を作る。			
7	中尾 真樹	【第 7 回】 予習 : 自分の出身地について、情報をまとめる。 授業 : 出身地紹介 (1) : 聞き手が興味をもつようなテーマ選びを考える。(発表) 「同時・2 つの事柄を述べる文型」の学習。 復習 : 同時・2 つの事柄を述べる文型を使って文を作る。			

8	中尾 真樹	【第 8 回】 予習 : 前回学んだ発表の仕方について復習する。 授業 : 出身地紹介 (2) : 発表に際してはポイントを絞り、分かりやすく伝える工夫をする。(発表) 「不変・無関係に関する文型」の学習。 復習 : 不変・無関係に関する文型を使って文を作る						
9	中尾 真樹	【第 9 回】 予習 : ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「強調・繰り返しに関する文型」の学習。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 強調・繰り返しに関する文型を使って文を作る。						
10	中尾 真樹	【第 10 回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 「逆接・意外な気持ちに関する文型」の学習。 復習 : 逆接・意外な気持ちに関する文型を使って文を作る。						
11	中尾 真樹	【第 11 回】 予習 : ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「結果に関する文型」の学習。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 結果に関する文型を使って文を作る。						
12	中尾 真樹	【第 12 回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 「条件に関する文型」の学習。 復習 : 条件に関する文型を使って文を作る。						
13	中尾 真樹	【第 13 回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題を調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「基準に関する文型」の学習 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 基準に関する文型を使って文を作る。						
14	中尾 真樹	【第 14 回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 これまでに学習した文型を見直す。 授業 : 文型に関する小テスト。 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 復習 : 小テストで取り上げた文型を使って、文を作る。						
15	中尾 真樹	【第 15 回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業 : 時事問題について、問題点を明確にしながらかディスカッションする。(ディスカッション) 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 これまでに学んだ発表の仕方を復習する。						
授業開始前学習		N2,N3 の語彙・文法などを復習しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		受講者の発表について、直すべきところなどを指摘する。随時小テストを実施して、次の授業でフィードバックする。また、提出された意見文を添削して返却する。						
テキスト・教材		テキストは使用しない。授業時にプリントを配布する。						
参考書		三浦香苗ほか『最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房,2006 年 12 月 その他、随時指示する。						
評価の基準と方法		課題への取り組みと到達度を総合的に評価する。発表・作文 60%、ディスカッション 20%、小テスト 20%。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F04130
科目名称	日本語Ⅱ	単位数	1.0 単位		
英文名称	JapaneseⅡ	授業区分	演習		
科目責任者	何 芸凡	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	何 芸凡	開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10	研究室	16-307		
授業概要	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の習得を目指す。特に講義を聴くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。 また、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。				
到達目標	1 日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につける 2 あるテーマについて、自分の考えを論理的な文章にまとめることができるようになる 3 口頭発表のための資料を、分かりやすく作成することができるようになる 4 他者のスピーチを聞いて要点を理解し、質問できるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	何 芸凡	【第1回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「方法に関する文型」の学習。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 方法に関する文型を使って文を作る。			
2	中尾 真樹	【第2回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) スピーチの導入について、言葉遣いや決まり文句を確認する。 「様子に関する文型」を学習する。 復習：様子に関する文型を使って文を作る。			
3	中尾 真樹	【第3回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) スピーチをする際に、声の大きさや姿勢などが重要であることを確認する。 「傾向に関する文型(1)」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 傾向に関する文型を使って文を作る。			
4	中尾 真樹	【第4回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 予期せぬ質問などへの対応方法を考える。 「傾向に関する文型(2)」を学習する。 復習：傾向に関する文型を使って文を作る。			
5	中尾 真樹	【第5回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) パワーポイントなどの資料は、情報の読み取りやすさが重要であることを確認する。 「話題・対象に関する文型」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 話題・対象に関する文型を使って文を作る。			
6	中尾 真樹	【第6回】 予習：これまでに学習した文型を見直す。 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：小テスト(これまでに学習した文型について) 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) スピーチはテーマを絞り、問題点を明確にする必要があることを確認する。 復習：小テストで扱った文型を使って文を作る。			

7	中尾 真樹	【第7回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) スピーチの内容を考える際には、聞き手が何を求めているかを考える必要があることを確認する。 「意思・意向に関する文型」を学習する。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 意思・意向に関する文型を使って文を作る。
8	中尾 真樹	【第8回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 日頃から時事問題に接しておくことの必要性を考える。 「理由・根拠に関する文型」を学習する。 復習 : 理由・根拠に関する文型を使って文を作る。
9	中尾 真樹	【第9回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) SNS 以外の情報に目配りすることの重要性を考える。 「目的に関する文型」を学習する。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 目的に関する文型を使って文を作る。
10	何 芸芄	【第10回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 時事問題の情報源には信頼性に差があることを確認する。 「可能・不可能に関する文型」を学習する。 復習 : 可能・不可能に関する文型を使って文を作る。
11	中尾 真樹	【第11回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 情報源の信頼性をどのように見分けるかを考える。 「評価に関する文型」を学習する。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 評価に関する文型を使って文を作る。
12	中尾 真樹	【第12回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 特定の時事問題について、いくつかの視点を設定して論じる練習をする。 「感想に関する文型」を学習する。 復習 : 感想に関する文型を使って文を作る。
13	中尾 真樹	【第13回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 意見を述べる際には、まず問題点を明確にする必要があることを確認する。 「見方・考え方に関する文型」を学習する。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 見方・考え方に関する文型を使って文を作る。
14	中尾 真樹	【第14回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 これまでに学んだ文型を見直す。 授業 : 小テスト : これまでに学習した文型について 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 特定の時事問題について、各自が設定した視点を比較する。 「禁止に関する文型」を学習する。 復習 : 禁止に関する文型を使って文を作る。
15	中尾 真樹	【第15回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 授業で行ったディスカッションで、他者が設定した視点からあらためて問題を見直す。
授業開始前学習		N2、N3 の学習内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法		受講者の発表について、直すべきところなどを指摘する。随時小テストを実施して、次の授業でフィードバックする。また、提出された意見文を添削して返却する。
テキスト・教材		テキストは使用しない。授業時にプリントを配布する。
参考書		三浦香苗ほか『最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房, 2006 年 12 月 その他、随時指示する。
評価の基準と方法		課題への取り組みと到達度を総合的に評価する。発表・作文 60%、ディスカッション 20%、小テスト 20%。

ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F04131
科目名称	日本語Ⅱ	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	JapaneseⅡ	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1 年
科目責任者	中尾 真樹	研究室	-		
担当教員	中尾 真樹				
オフィスアワー	-				
授業概要	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の習得を目指す。特に講義を聴くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。 また、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。				
到達目標	1 日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につける 2 あるテーマについて、自分の考えを論理的な文章にまとめることができるようになる 3 口頭発表のための資料を、分かりやすく作成することができるようになる 4 他者のスピーチを聞いて要点を理解し、質問できるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中尾 真樹	【第1回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「方法に関する文型」の学習。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 方法に関する文型を使って文を作る。			
2	中尾 真樹	【第2回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) スピーチの導入について、言葉遣いや決まり文句を確認する。 「様子に関する文型」を学習する。 復習：様子に関する文型を使って文を作る。			
3	中尾 真樹	【第3回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) スピーチをする際に、声の大きさや姿勢などが重要であることを確認する。 「傾向に関する文型(1)」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 傾向に関する文型を使って文を作る。			
4	中尾 真樹	【第4回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 予期せぬ質問などへの対応方法を考える。 「傾向に関する文型(2)」を学習する。 復習：傾向に関する文型を使って文を作る。			
5	中尾 真樹	【第5回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) パワーポイントなどの資料は、情報の読み取りやすさが重要であることを確認する。 「話題・対象に関する文型」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 話題・対象に関する文型を使って文を作る。			
6	中尾 真樹	【第6回】 予習：これまでに学習した文型を見直す。 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：小テスト(これまでに学習した文型について) 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) スピーチはテーマを絞り、問題点を明確にする必要があることを確認する。 復習：小テストで扱った文型を使って文を作る。			

7	中尾 真樹	【第7回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) スピーチの内容を考える際には、聞き手が何を求めているかを考える必要があることを確認する。 「意思・意向に関する文型」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 意思・意向に関する文型を使って文を作る。
8	中尾 真樹	【第8回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 日頃から時事問題に接しておくことの必要性を考える。 「理由・根拠に関する文型」を学習する。 復習：理由・根拠に関する文型を使って文を作る。
9	中尾 真樹	【第9回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) SNS 以外の情報に目配りすることの重要性を考える。 「目的に関する文型」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 目的に関する文型を使って文を作る。
10	中尾 真樹	【第10回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 時事問題の情報源には信頼性に差があることを確認する。 「可能・不可能に関する文型」を学習する。 復習：可能・不可能に関する文型を使って文を作る。
11	中尾 真樹	【第11回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 情報源の信頼性をどのように見分けるかを考える。 「評価に関する文型」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 評価に関する文型を使って文を作る。
12	中尾 真樹	【第12回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 特定の時事問題について、いくつかの視点を設定して論じる練習をする。 「感想に関する文型」を学習する。 復習：感想に関する文型を使って文を作る。
13	中尾 真樹	【第13回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 意見を述べる際には、まず問題点を明確にする必要があることを確認する。 「見方・考え方に関する文型」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 見方・考え方に関する文型を使って文を作る。
14	中尾 真樹	【第14回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 これまでに学んだ文型を見直す。 授業：小テスト：これまでに学習した文型について 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 特定の時事問題について、各自が設定した視点を比較する。 「禁止に関する文型」を学習する。 復習：禁止に関する文型を使って文を作る。
15	中尾 真樹	【第15回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 授業で行ったディスカッションで、他者が設定した視点からあらためて問題を見直す。
授業開始前学習		N2、N3 の学習内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法		受講者の発表について、直すべきところなどを指摘する。随時小テストを実施して、次の授業でフィードバックする。また、提出された意見文を添削して返却する。
テキスト・教材		テキストは使用しない。授業時にプリントを配布する。
参考書		三浦香苗ほか『最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房,2006 年 12 月 その他、随時指示する。
評価の基準と方法		課題への取り組みと到達度を総合的に評価する。発表・作文 60%、ディスカッション 20%、小テスト 20%。

ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-111 CT-L-111 SD-L-111		科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-11		授業コード		F03690			
科目名称		日本事情Ⅰ						単位数		2.0 単位			
英文名称		Studies of Japanese SocietyⅠ						授業区分		講義			
科目責任者		安井 裕司						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		安井 裕司						開講時期		1 年			
オフィスアワー		前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30						研究室		16-306			
授業概要		日本の伝統行事や日本文化を学術文献を押さえながら、学問的フレームワークを確認し、その上で、アニメ、映画、ドラマ、漫画、小説作品を用いて、日常的な視点から「日本文化」を相対化していく。また、毎回、冒頭においてできるだけ日本社会の時事問題を取り上げ、解説し、アクティブラーニングの一環として履修した皆さんと議論していきたい。											
到達目標		日本の社会や文化、習慣、伝統行事を、学術書、小説、漫画、映画、ドラマなどを通じて、「日本学」として捉え直し、履修者のそれぞれの専門に役立てることを目標とする。											
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容											
1	安井 裕司	【第 1 回】 予習：お花見に関して書籍、学術論文を調べる。白幡三郎『花見と桜』（2000 年）等もできれば読んでおく。 授業：日本の伝統行事(1)：お花見（桜） 復習：映画『秒速 5 センチメートル』（2007 年）等、桜がテーマの映画や小説を読む。											
2	安井 裕司	【第 2 回】 予習：日本の暦を再確認する。時ネットや図書館で時間と文化についても調べる。 授業：日本の暦 復習：映画『天地明察』（2012 年）等の暦に関する映画、ドラマを観る。漫画、小説などを読む。											
3	安井 裕司	【第 3 回】 予習：桃の節句、ひな祭りについてネットや図書館で記事、学術文献、学術書を読んでおく。 授業：日本の伝統行事(2)：桃の節句・ひな祭り 復習：映画『夢』（1990 年）、映画『時をかける少女』（1983 年）等、ひな祭りがテーマや重要シーンとなっている映画、ドラマ、アニメ作品を観る。小説、漫画を読む。											
4	安井 裕司	【第 4 回】 予習：端午の節句、子どもの日、鯉のぼりについてネットや図書館で調べる。柳田國男『年中行事覚書』（1977 年）、是澤博昭『子供を祝う端午の節句と雛祭』（2015 年）等の学術書も読む。 授業：日本の伝統行事(3)：端午の節句 復習：映画『二十四の瞳』（1954 年）と「二十四の瞳映画村」のニュース。鯉のぼりや端午の節句がテーマやイメージになっている映画、アニメを観る。小説、漫画を読む。											
5	安井 裕司	【第 5 回】 予習：三重大学国際忍者研究センターの「忍者学」の研究業績を調べておく。 授業：忍者 復習：アニメ『NARUTO』（2002 年）、アニメ『忍者ハットリくん』（1981 年）を忍者学の観点から考察する。											
6	安井 裕司	【第 6 回】 予習：将棋のルールを確認し、その歴史を調べ、今日の日本人と将棋の関係を考えておく。 授業：日本の伝統遊戯(1)：将棋 復習：アニメ『3 月のライオン』（2016 年）等の将棋がテーマのアニメ、映画作品などを観る。											
7	安井 裕司	【第 7 回】 予習：碁のルールを確認し、その歴史を調べ、今日の日本人と碁の関係を考えておく。 授業：日本の伝統遊戯(2)：碁 復習：映画『碁盤斬り』（2024 年）等の碁がテーマの映画作品を観る。											
8	安井 裕司	【第 8 回】 予習：かるた/競技かるたについてネットや書籍を調べる。できれば、楠木早紀『瞬間の記憶力』（2012 年）も読んでおく。 授業：日本の伝統遊戯(3)：かるた 復習：アニメ『ちはやふる』（2011 年）等の競技かるたがテーマのアニメ、漫画作品を観てかるたを考える。											
9	安井 裕司	【第 9 回】 予習：日本人と俳句についてネット、図書館、調べる。 授業：俳句 復習：映画『サイダーのように言葉が湧き上がる』（2021 年）等、映画、漫画、小説で俳句がテーマとなっている作品を観る、読む。											

10	安井 裕司	【第 10 回】 予習：三味線についてネット、図書館で調べる。大條和雄『津軽三味線の誕生 新装版－民俗芸能の生成と隆盛』（2024 年）等の三味線研究を読んでおく。 授業：日本の伝統音楽；三味線 復習：映画『ましろのおと』（2021 年）等の三味線がテーマの映像作品を観る。小説、漫画などを読む。						
11	安井 裕司	【第 11 回】 予習：梅雨あるいは日本人と雨の関係、日本文化と雨についてネットや書籍、論文を読んで調べる。 授業：日本人と梅雨 復習：映画『天気の子』（2019 年）、映画『言の葉の庭』（2013 年）等、雨や梅雨がテーマの映画、アニメ、ドラマを観る。						
12	安井 裕司	【第 12 回】 予習：ネットや書籍、学術論文で日本の妖怪について調べる。井上円了『妖怪学とは何か』（2023 年）、小松和彦『妖怪学新考 妖怪からみる日本人の心』（2013 年）柳田 国男『新訂 妖怪談義』（2013 年）などを読む。 授業：日本人と妖怪 復習：アニメ『妖怪ウォッチ』（2014 年）、アニメ『夏目友人帳』（2008 年）、アニメ『ゲゲゲの鬼太郎』（1968 年、1971 年）、を妖怪学の視点から観る。						
13	安井 裕司	【第 13 回】 予習：七夕に関してネットや図書館で調べておく。七夕に関する学術論文を読む。 授業：日本の伝統行事（4）七夕 復習：七夕がテーマとなっている映画、アニメ、ドラマ作品を観る。小説、漫画を読む。						
14	安井 裕司	【第 14 回】 予習：花火と日本人の関係する情報をネットや図書館を使って調べる。吉田 忠雄/丁 大玉『花火学入門』（2006 年）等の書籍に目を通す。 授業 日本の伝統行事（5）夏祭りと花火 復習：映画『君の名は。』（2016 年）等、夏祭り、花火がテーマや重要シーンとなっている映画、アニメ作品を観る。小説、漫画を読む。						
15	安井 裕司	【第 15 回】 予習：ネットや書籍、学術論文でお盆について調べる。お盆に関する学術書を読む。 授業：日本の伝統行事（6）お盆 復習：お盆がテーマの映画、アニメ作品。小説、漫画を読む。						
授業開始前学習		シラバスに記載されている映画、ドラマ、小説、学術論文などに可能な限りに目を通す。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題を出した場合は、次の回の授業時にフィードバックを行う。課題や授業に関する質問は、G.Classroom 内で随時受け付ける。						
テキスト・教材								
参考書		毎回、講義前にリーディングリスト、ウォッチングリストを紹介していく。						
評価の基準と方法		平常点（授業態度・課題）30%、レポートを 70%とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎				△
関連科目	日本事情Ⅱ、日本事情Ⅲ、日本事情Ⅳ							
その他	受講者数や受講者の日本滞在年数によって、授業内容は変更になる場合がある。PPT を用いてのプレゼンテーションを課すケースがある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-111 CT-L-111 SD-L-111	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-11	授業コード	F03700
科目名称		日本事情Ⅱ				単位数	2.0 単位
英文名称		Studies of Japanese Society Ⅱ				授業区分	講義
科目責任者		安井 裕司				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		安井 裕司				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30				研究室	16-306
授業概要		日本の季節の伝統行事や日本文化を学術文献を押さえながら、学問的フレームワークを確認し、その上で、アニメ、映画、ドラマ、漫画、小説作品を用いて、日常的な視点から「日本文化」を相対化していく。また、毎回、冒頭においてできるだけ日本社会の時事問題を取り上げ、解説し、アクティブラーニングの一環として履修した皆さんと議論していきたい。					
到達目標		日本の社会や文化、習慣、伝統行事を、学術書、小説、漫画、映画、ドラマなどを通じて、「日本学」として捉え直し、履修者のそれぞれの専門に役立てることを目標とする。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	安井 裕司	【第 1 回】 予習：日本の月見についてネット、図書館にて新聞記事や学術書を調べる。『新版 竹取物語 』（2001 年）を読んでおく。 授業：日本の文化的行事（1）： 月見 復習：映画『かぐや姫』等の月見や竹取物語がテーマとなっている映像作品を観る。あるいは小説、漫画等を読む。					
2	安井 裕司	【第 2 回】 予習：寿司についてネットや図書館で新聞記事を調べる。大川智彦『現代すし学：すしの歴史と、すしの今がわかる』（2007 年）、王昊凡『グローバル化する寿司の社会学』（2023 年）、学術論文、学術書を読む。 授業：日本の飲食文化(1)：寿司 復習：ドラマ「エピソード 5,第 5 話」『孤独のグルメ』（2017 年）、映画『二郎は鮎の夢を見る』（2011 年）、アニメ「寿司の心」『美味しんぼ』（1988 年）等の映像作品をすし学の観点から観る。漫画『江戸前の旬』（2000 年）を同様の観点から読む。					
3	安井 裕司	【第 3 回】 予習：日本のラーメンについてネットや図書館で新聞記事を調べる。バラク・クシュナー『ラーメンの歴史学——ホットな国民食からクールな世界食へ』（2018 年）等のラーメンに関する学術書、学術論文を読む。 授業：日本の飲食文化(2):ラーメン 復習：ラーメンがテーマの映画、ドラマ、アニメ、漫画などを鑑賞する。					
4	安井 裕司	【第 4 回】 予習：日本酒についてネットや図書館で新聞記事や学術文献を調べる。新潟大学日本酒学センターの研究蓄積を調べる。 授業：日本の飲食文化（3）：日本酒 復習：漫画『夏子の酒』（1988 年）等、日本酒がテーマである映画、漫画、ドラマを学術的観点から見る。					
5	安井 裕司	【第 5 回】 予習：茶道に関してネットや図書館で調べる。学術論文、研究書を探して読む。 授業：茶道 復習：映画『日日是好日』（2018 年）等の茶道がテーマの映画、ドラマを観る。小説、漫画等を読む。					
6	安井 裕司	【第 6 回】 予習：舞妓・芸妓についてネットや書籍、論文を読んで調べる。可能ならば西尾久美子『舞妓の言葉』（2012 年）等の書籍を読んでおく。 授業：舞妓・芸妓 復習：映画『舞妓はレディ』（2014 年）等の舞妓が主役の映画、小説を観る。					
7	安井 裕司	【第 7 回】 予習：落語についてネット、図書館で調べる。野村雅昭『落語のレトリック』（1996 年）等、落語に関する学術書も読む。 授業：落語 復習：アニメ『昭和元禄落語心中』（2016 年）、ドラマ『タイガー＆ドラゴン』（2005 年）等の落語がテーマの映画、ドラマを観る。小説、漫画を読む					
8	安井 裕司	【第 8 回】 予習：弓道についてネット、図書館で調べる。小笠原清信・白石暁 著『弓道 増補版』（1971 年）等弓道に関する専門書を読む。 授業：弓道 復習：アニメ『ツルネ -風舞高校弓道部-』（2018 年）等、弓道に関する映画、アニメを観る。小説、漫画を読む。					

9	安井 裕司	【第9回】 予習：日本人と紅葉の関係をネットや図書館で新聞記事や学術文献を調べる。紅葉の研究書を読む。 授業：日本の文化的な行事（2）：紅葉 復習：紅葉がテーマとなっている映画、ドラマ、小説を観る、読む。							
10	安井 裕司	【第10回】 予習：日本人とお風呂の関係についてネット、図書館で新聞記事や学術書、学術文献を調べる。別府大学の温泉学の研究蓄積を調べる。 授業：温泉・銭湯 復習：映画『テルマエ・ロマエ』（2012 年）を温泉学の観点から見る。							
11	安井 裕司	【第11回】 予習：富士山に関してネットや図書館で、新聞記事、学術書を調べる。富士学会の学会誌『富士学研究』、静岡県富士山世界遺産センター発行の『富士山学』等に掲載された学術論文も読む。 授業：日本人と富士山 復習：富士山がテーマである映画、ドラマを観る。富士山がテーマや背景にある小説、漫画などを読む。							
12	安井 裕司	【第12回】 予習：日本のクリスマスをネット、図書館で新聞記事や学術書を調べる。日本のクリスマスに関する学術文献を読む。 授業：日本の文化的な行事（3）：日本のクリスマス 復習：クリスマスがテーマとなっている映画、ドラマなどの映像作品を観る、同じく楽曲を聴き、小説、漫画を読む。							
13	安井 裕司	【第13回】 予習：『NHK 紅白歌合戦』についてネットや図書館で新聞記事、学術論文を探す。太田省一『紅白歌合戦と日本人』（2013 年） 授業：NHK 紅白歌合戦 復習：過去の『NHK 紅白歌合戦』を可能な限り、観る。							
14	安井 裕司	【第14回】 予習：日本のお正月に関して、ネットや図書館で新聞記事や学術文献を調べる。お正月に関する学術書を読む。 授業：日本の文化的な行事を考える（4）：お正月 復習：お正月がテーマである映画、ドラマを観て、小説、漫画などを読む。							
15	安井 裕司	【第15回】 予習：節分や日本の鬼についてネットや図書館で日本の暦について調べる。 授業：日本の文化的な行事を考える（5）：節分 復習：節分や鬼に関する映画、ドラマを観る。漫画、小説などを読む。							
授業開始前学習		紹介する学術書、一般書、漫画を読み、映像作品（映画、ドラマ）を鑑賞することを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題を出した場合は、次の回の授業時にフィードバックを行う。課題や授業に関する質問は、Google Classroom 内で随時受け付ける。							
テキスト・教材		1 冊の教科書ではなく、毎回、講義前に Google Classroom を通じてリーディングリスト、ウォッチングリストを紹介する形式となる。							
参考書		講義前に Google Classroom を通じてリーディングリスト、ウォッチングリストを紹介する。							
評価の基準と方法		平常点（授業態度・課題）30%、最終回のレポートを 70%とする。							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		○	◎				△
関連科目		日本事情Ⅰ、日本事情Ⅲ、日本事情Ⅳ							
その他		講義内容を踏まえ、日本の文化、社会をテーマに独自に調べ、講義中に短時間のプレゼンテーションを課す場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類（2025 年 ～入学者）	GJ-M-112	科目分類（～2024 年 入学者）	100-110-21	授業コード	F00011		
	HR-M-112						
	PS-M-112						
	CT-L-112						
科目名称	基礎ゼミ I			単位数	1.0 単位		
英文名称	Freshmen Seminar I			授業区分	演習		
科目責任者	工藤 俊			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	工藤・松山・安井			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	本授業は、大学におけるさまざまなタイプの授業に対応するための基礎的な学習方法を学ぶ。自ら問題意識をもって講義に参加し、さまざまな課題に対して主体的に取り組む姿勢を養うことを目的とする。大学でなにを学ぶか、どのような大学生活を過ごし、どのような将来を切り拓くかを考え、個々の学生が自分の目的を発見する手助けをする。言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化や、国際社会における日本の立場等について、広く基礎知識を習得することもあわせて行う。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。						
到達目標	大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	工藤 俊	【第 1 回】 予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：前期ガイダンス、履修登録の方法 復習：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。					
2	工藤 俊	【第 2 回】 予習：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：大学での学び、社会人へのステップ 復習：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。					
3	工藤 俊	【第 3 回】 予習：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：学内ツアー 復習：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。					
4	工藤 俊	【第 4 回】 予習：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：メールのマナーとルール 復習：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。					
5	工藤 俊	【第 5 回】 予習：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：講義の聞き方、メモ・ノートの取り方、学習ポートフォリオ 復習：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。					
6	工藤 俊	【第 6 回】 予習：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：自己分析の意義と方法 復習：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。					
7	工藤 俊	【第 7 回】 予習：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：図書館を活用しよう 復習：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。					
8	工藤 俊	【第 8 回】 予習：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：本を読もう 1 復習：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。					
9	工藤 俊	【第 9 回】 予習：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：本を読もう 2 復習：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。					

10	工藤 俊	【第 10 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : 論理的に考える、問いを立てる、Web を活用した情報検索 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。						
11	工藤 俊	【第 11 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 1 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。						
12	工藤 俊	【第 12 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 2 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。						
13	工藤 俊	【第 13 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 3 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。						
14	工藤 俊	【第 14 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 4 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。						
15	工藤 俊	【第 15 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : 前期の振り返り 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。						
テキスト・教材		各回プリントを配布します。						
参考書		授業を通じて適時紹介します。						
評価の基準と方法		授業への参加度 70%、および提出課題 30%により総合的に評価します。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目								
その他		臨時に合同授業を実施する場合があります。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F00061
科目名称	基礎ゼミⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	工藤 俊			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤・松山・安井			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業は、基礎ゼミⅠに引き続き、大学生活と大学での学びを充実させるための技術と姿勢を養うことを目的とする。自分で調べ、それらを整理し、他者に的確に伝えるための技術と習熟を目指し、さらに、自己について理解と認識を深めることも目標とする。学生の主体的な参加と、相互の積極的な意見交換、発表等を通して、大学で学ぶことの意義について理解を深める。また、多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、2 年次以降の専門的学習に必要な不可欠な教養も学習する。この学びを通じて、日本文化に込められた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。				
到達目標	大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	工藤 俊	【第 1 回】 予習 : シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : 後期ガイダンス 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。			
2	工藤 俊	【第 2 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : ICT メディアの活用、新聞を読もう 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。			
3	工藤 俊	【第 3 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : プレゼンテーション 1 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。			
4	工藤 俊	【第 4 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : プレゼンテーション 2 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。			
5	工藤 俊	【第 5 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : プレゼンテーション 3 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。			
6	工藤 俊	【第 6 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : プレゼンテーション 4 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。			
7	工藤 俊	【第 7 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : プレゼンテーション 5 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。			
8	工藤 俊	【第 8 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : 文献の読み方、論理的に書く 1 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。			
9	工藤 俊	【第 9 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : 文献の読み方、論理的に書く 2 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。			
10	工藤 俊	【第 10 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : 文献の読み方、論理的に書く 3			

		復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。						
11	工藤 俊	【第 11 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : ディスカッションの方法 1 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。						
12	工藤 俊	【第 12 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : ディスカッションの方法 2 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。						
13	工藤 俊	【第 13 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : ディスカッションの方法 3 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。						
14	工藤 俊	【第 14 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : ディスカッションの方法 4 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。						
15	工藤 俊	【第 15 回】 予習 : 質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : 1 年間の振り返り 復習 : 授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。						
テキスト・教材		各回プリントを配布します。						
参考書		授業を通じて随時紹介します。						
評価の基準と方法		授業への参加度 70%、および提出課題 30%により総合的に評価します。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目								
その他		臨時に合同授業を実施する場合があります。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

☆身体文化実習Ⅱ／日本文化体験実習

科目分類（2025 年 ～入学者）		GJ-M-133 HR-M-133 （ J ）		科目分類（～2024 年 入学者）		110-330-22 （ J ）		授業コード		FD0050					
科目名称		☆身体文化実習Ⅱ／日本文化体験実習						単位数		1.0 単位					
英文名称		Japanese Culture Experience Practice／Physical Culture TrainingⅡ						授業区分		実験・実習					
科目責任者		藤間 香鳳						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		藤間 香鳳						開講時期		1 年					
オフィスアワー		-						研究室		-					
授業概要		・和装について基本を学ぶ。 ・着物を美しく身につけ楽しむことができるようにする。 ・着物の着付けの演習を通して日本女性としての品格のある美しい立ち居振る舞いを目指す。 ・着物を着ての日本舞踊の表現を通して日本文化の探求とコミュニケーション力を高める。													
到達目標		・自分自身で着付けとたたみ方を習得する。 ・日本舞踊を通しての美しい立ち居振る舞いを身につけることを目標とする。 ・着物の着付けと動きの基礎を学ぶことで品格のある美しい女性を目指す。 ・日本舞踊を習得し自己表現力を高め発表と鑑賞を学習することでコミュニケーション能力を高める。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		藤間 香鳳		【第 1 回】 予習：和服についての知識を確認 授業：オリエンテーション・着物着付け、たたみ方、帯結びをプリントで確認し実践する 復習：着付けに必要なゆかたセットの確認											
2		藤間 香鳳		【第 2 回】 予習：着付けの順序をプリントで確認 授業：美しい着こなしと正しいたたみ方を知る 復習：美しく着付ける工夫と美しい仕草を確認											
3		藤間 香鳳		【第 3 回】 予習：着物の帯の結び方と手直しの確認 授業：素早く美しく着付け美しい仕草を体験する 復習：着物のたたみ方をプリントで再確認											
4		藤間 香鳳		【第 4 回】 予習：着物を着付けての身のこなしと美しい仕草を予習 授業：舞扇の正しい持ち方、美しい使い方、着物のたたみ方実技テスト 復習：順番と仕草の確認と着付けの実技テストの準備											
5		藤間 香鳳		【第 5 回】 予習：着付けの順番を確認し実技テストの準備 授業：美しい正座の姿勢と扇を使ってお辞儀や歩き方を学ぶ、着付けのテスト。 復習：踊りの手順を確認											
6		藤間 香鳳		【第 6 回】 予習：踊りの手順を確認 授業：「祇園小唄」を踊る 復習：踊りの手順を確認											
7		藤間 香鳳		【第 7 回】 予習：踊りの手順を確認し、美しい動きができるかできているかを確認 授業：「祇園小唄」を踊る 復習：挨拶・踊り・終了の挨拶まで一連の流れを確認する											
8		藤間 香鳳		【第 8 回】 予習：着物に合う和の化粧と髪型について調べる 授業：「祇園小唄」を踊る。 復習：和服に相応しい化粧のしかたを確認、着物の身のこなし、舞踊の動きを確認											
9		藤間 香鳳		【第 9 回】 予習：踊りの手順の確認 授業：「祇園小唄」実技テスト 復習：素早い着付けとたたみ方の確認											
10		藤間 香鳳		【第 10 回】 予習：発表のための踊り込み 授業：「祇園小唄」グループ発表と鑑賞、相互評価 復習：グループ学習の反省と自己評価											

11	藤間 香鳳	【第 11 回】 予習 : 「さくら さくら」の歌詞を調べる 授業 : 「さくら さくら」を踊る 復習 : 踊りの流れと手順の確認						
12	藤間 香鳳	【第 12 回】 予習 : 扇の使い方について確認 授業 : 「さくら さくら」を踊る 復習 : 扇子を使った正式な挨拶の確認						
13	藤間 香鳳	【第 13 回】 予習 : 踊りの手順を確認 授業 : 「さくら さくら」を踊る。正月に向けて挨拶、お茶の出し方茶の飲み方の実践 復習 : 曲想にあった季節感や背景を考えた踊りの復習						
14	藤間 香鳳	【第 14 回】 予習 : 発表会をイメージする 授業 : 「さくら さくら」実技テスト。 復習 : 出来栄を確認する						
15	藤間 香鳳	【第 15 回】 予習 : 発表会をイメージする。着物を着ての日常生活の立ち居振る舞いをイメージする 授業 : 「さくら さくら」グループ発表と鑑賞、相互評価 復習 : 自己の取り組みと成長を確認し今後の生活に生かす工夫をする						
授業開始前学習		・着付けに必要な着物道具についてインターネットで調べておく ・浴衣、半幅帯、足袋、着物用下着、ひも類など用意できる持ち物の確認をしておく						
授業内課題のフィードバックの方法		・出題されたプリントをチェックし、質問に答えたものを返却する。 ・身体表現について評価を行う。						
テキスト・教材		着物の着付けとたたみ方、帯結びのプリント						
参考書								
評価の基準と方法		①正しく手早い着物のたたみ方 10/100 ②正しく美しい着付け 15/100 ③「祇園小唄」実技テスト 25/100 ④「さくらさくら」実技テスト 25/100 ⑤平常点（授業態度、課題提出） 25/100 5 項目の 60/100 を合格基準点とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	○			◎	
関連科目								
その他		・浴衣（着物）に必要な小物セット（浴衣、半襦袢、着物用下着、足袋、ひも類）をなるべく初回の授業に準備して持参することが望ましい。オリエンテーションで着物に必要な持ち物の説明を受けてからでも可。 ・着物（長襦袢が必要）と半幅帯の組み合わせでも可。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		藤間流の名取として多くの舞台を踏んできた経験と、師範として関わった文化センターや海外における舞踊指導経験を活かしながら、我が国の伝統文化の素晴らしさを、若き学生の方々に伝承していきたいと考えています。						

☆江戸文化体験実習

科目分類（2025 年 ～入学者）		GJ-M-133 （J）	科目分類（～2024 年 入学者）		110-330-23 （J）	授業コード	FD0020
科目名称		☆江戸文化体験実習				単位数	1.0 単位
英文名称		Edo Culture Experience Practice				授業区分	実験・実習
科目責任者		皆川 義孝				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		皆川 義孝				開講時期	1・2 年
オフィスアワー		前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00				研究室	10-507
授業概要		江戸時代には江戸などの大都市を中心に大衆文化が花開いた。江戸時代の文化は現代日本のさまざまな部分に受け継がれ、その中には浮世絵のように世界的にも注目されている文化財もある。そこで、本実習では実際に都内の寺院・神社・史跡などを訪ね、そこにある文化財を調査し、そこから見えてくる江戸時代の文化的特質について考えていく。					
到達目標		１．寺院・神社・史跡の文化財を調査、分析することができる。 ２．寺院・神社・史跡の文化財から見えてくる日本文化の特質を考察することができる。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	8 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	皆川 義孝	【第 1 回】 予習：シラバスで授業内容を確認する。 授業：江戸時代の文化の特質 復習：授業で学んだ事項をノートに整理する					
2	皆川 義孝	【第 2 回】 予習：文化財の意味について調べる 授業：寺院・神社・史跡等の文化財の調査方法① 復習：授業で学んだ事項をノートに整理する					
3	皆川 義孝	【第 3 回】 予習：文化財の役割について調べる 授業：寺院・神社・史跡等の文化財の調査方法② 復習：授業で学んだ事項をノートに整理する					
4	皆川 義孝	【第 4 回】 予習：調査先の寺院・神社・史跡の基礎情報を調べる 授業：調査先の寺院・神社・史跡の歴史と文化財 復習：授業で学んだ事項をノートに整理する					
5	皆川 義孝	【第 5 回】 予習：調査先の寺院・神社・史跡の基礎情報を確認する 授業：東京の寺院・神社・史跡の現地調査（グループワーク） 復習：現地調査で調べた事項をノートに整理する					
6	皆川 義孝	【第 6 回】 予習：現地調査で調べて考えたことを確認する 授業：現地調査の報告書の作成 復習：現地調査の報告書の校正を行う					
7	皆川 義孝	【第 7 回】 予習：現地調査の報告書を読む 授業：現地調査の成果報告（発表） 復習：発表と質疑応答から考えた事項をノートに整理する					
8	皆川 義孝	【第 8 回】 予習：東京の寺院・神社・史跡と日本文化の関わりについて考える 授業：「東京の寺院・神社・史跡から見た日本文化の特質」のレポート作成 復習：第 1 回から第 8 回までの授業について振り返る					
授業開始前学習		大学の図書館にある日本の歴史と寺院に関する図書を読んでおく授業が理解しやすい。					
授業内課題のフィードバックの方法		授業で提出する課題・レポートについては、適宜、講評を行い、個別の質問等に回答する。					
テキスト・教材		特定のテキストは使用しない。適宜、プリントを配付する。					
参考書		今泉淑夫編『日本仏教史辞典』吉川弘文館、1999 年等。					
評価の基準と方法		配点（100 点満点における）は平常点（提出物）30 点、レポート 50 点、発表 20 点で評価する。レポートは寺院調査を踏まえての提出なので、寺院調査参加を原則義務づける。					

ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○		△		◎
関連科目								
その他	都内近郊の寺院・神社・史跡等での現地調査を1回行う。交通し1,000円程度。実習方法が変更される場合もある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	担当教員の皆川義孝は各地の寺院調査・文化財保護業務の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし、第2回～第3回まで東京の寺院・神社・史跡の調査方法と分析方法について講義する。							

科目分類（2025 年 ～入学者）		GJ-M-111	科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11	授業コード	F00310
科目名称		☆日本文化入門				単位数	2.0 単位
英文名称		Introduction to Japanese Cultural Studies				授業区分	講義
科目責任者		下川 雅弘				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		下川 雅弘				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30				研究室	10-706
授業概要		この授業では、日本の文化の専門的学習を行うために必要な基礎知識と方法を身に付ける。具体的には、文化的景観（地域の人々の生活・生業や風土により形成された景観）の価値が評価された日本各地の世界遺産を事例とし、これらを通して日本のさまざまな文化事象及び日本人の物の考え方について考察する。この授業によって、日本の文化に対する考えを深めるきっかけとする。授業では課題解決型学習・発表を行う。					
到達目標		１．日本の世界遺産や文化的景観に関する自分の調査内容を適切にまとめることができる。 ２．日本の文化を育んできた日本人の特質について自分なりの考えを説明することができる。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学習内容を確認する 授業：日本文化入門Ⅰの学習内容（教科書 1 頁）／法隆寺から考える日本の木造建築文化（教科書 2～4 頁） 復習：授業内容の整理課題と考察課題をフォームで提出する（6 点）					
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習：「京町家は未来に伝えられるか」の部分について教科書を読んでおく 授業：未来に伝えたい日本の文化（課題解決型学習）／京町家は未来に伝えられるか（教科書 5 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（6 点）					
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習：「世界遺産と無形文化遺産」の部分について教科書を読んでおく 授業：世界遺産と無形文化遺産（教科書 6～7 頁）／世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（6 点）					
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習：「世界遺産と文化的景観」の部分について教科書を読んでおく 授業：世界遺産と文化的景観（教科書 8～9 頁）／世界遺産レジュメによる発表について（教科書 12 頁） 復習：授業内容の整理課題と考察課題 1 をフォームで提出する（6 点）					
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習：ブルーノ・タウト『日本美の再発見』についてプリントを読んでおく 授業：ブルーノ・タウト『日本美の再発見』を読む（課題解決型学習）／世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」から考える文化的景観とその保存（教科書 10～11 頁） 復習：授業内容の整理課題と考察課題 2 をフォームで提出する（6 点）					
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習：「文化的景観を守る意義」の部分について教科書を読んでおく 授業：文化的景観を守る意義（教科書 16～17 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（6 点）					
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習：世界遺産レジュメ（世界遺産の概要部分）を提出する 授業：世界遺産レジュメの参考文献について（教科書 13～15 頁）／世界遺産レジュメ考察部分の執筆とアドバイス 復習：世界遺産レジュメ（世界遺産の考察部分）を書き進める					
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習：「里地・里山という文化的景観」の部分について教科書を読んでおく 授業：里地・里山という文化的景観（教科書 18～19 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（6 点）					
9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習：「谷戸と棚田の文化的景観」の部分について教科書を読んでおく 授業：谷戸と棚田の文化的景観（教科書 20～22 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（6 点）					
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習：「文化的景観を未来にどう伝えるか」の部分について教科書を読んでおく 授業：正課学外活動【地元発見プロジェクト】「大学付近の谷戸田を歩く」／文化的景観を未来にどう伝えるか（教科書 22 頁）					

		復習：考察課題をフォームで提出する（6点）						
11	下川 雅弘	【第11回】 予習：世界遺産レジメを提出する（30点）／「世界文化遺産と世界自然遺産」の部分について教科書を読んでおく 授業：世界文化遺産と世界自然遺産（教科書23～24頁）／世界遺産レジメの修正とアドバイス 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（6点）／世界遺産レジメを完成させ、発表に使用する写真をアップする						
12	下川 雅弘	【第12回】 予習：世界遺産レジメ集を読んでおく 授業：世界遺産レジメ集を読む①（世界遺産「宗像・沖ノ島と関連遺産群」）（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
13	下川 雅弘	【第13回】 予習：世界遺産レジメ集を読んでおく 授業：世界遺産レジメ集を読む②（世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」）（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
14	下川 雅弘	【第14回】 予習：世界遺産レジメ集を読んでおく 授業：世界遺産レジメ集を読む③（世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」）（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
15	下川 雅弘	【第15回】 予習：ミニレポートをフォームで提出する（10点） 授業：世界遺産から考える日本文化の学びの総括（課題解決型学習） 復習：ミニレポートの感想をフォームで提出する						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。						
テキスト・教材		授業中に教科書やプリントを配付する。						
参考書		授業中に指示する。						
評価の基準と方法		課題60%、発表レジメ30%、ミニレポート10%により評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	△					
関連科目								
その他		授業の進捗状況等によって、内容を変更することがある。 この授業では、稲城市内の文化的景観を体感するため、授業時間内に正課学外活動（大学付近の谷戸田を歩く）を行う可能性がある。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		GJ-M-111	科目分類（～2024 年 入学者）		111-330-13	授業コード	FA0710
科目名称		☆仏教と古典				単位数	2.0 単位
英文名称		Buddhism and Classics				授業区分	講義
科目責任者		山本 元隆				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		山本 元隆				開講時期	3・4 年
オフィスアワー		前期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 09:00～10:30 後期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 09:00～10:30				研究室	10-506
授業概要		本科目では、仏教に関する説話や民話、あるいは随筆などをひろく講読し、文学に描かれた仏教思想および文化について解説する。具体的には、平安期の『日本霊異記』『今昔物語集』、鎌倉期の『沙石集』をはじめとする仏教説話と、江戸期の『夫婦宗論物語』『続沙石集』など文学作品を取り上げ、重要と思われる箇所を講じる。また、履修者にゆかりのある地元の昔話についても調べてもらい、日本の各地域に溶け込んだ仏教（文化）についても関心を深めるきっかけとする。					
到達目標		・仏教を受容した日本がどのような文学を築き上げたかを理解し、その概要を説明することができる。 ・仏教思想を受容した文学作品を講読するための仏教用語の基礎知識を身につける。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	山本 元隆	【第 1 回】 予習：シラバスをよみ、授業の概要を確認する。 授業：ガイダンス 授業の進め方と「仏教」と「文学」「古典」について 復習：仏教文学について学んだことをノートにまとめる。					
2	山本 元隆	【第 2 回】 予習：平安時代の仏教文学について調べておく。 授業：平安時代の仏教文学概説『万葉集』を読む 復習：平安時代の仏教と文学の特徴をノートにまとめる。					
3	山本 元隆	【第 3 回】 予習：『日本霊異記』について調べておく。 授業：『日本霊異記』を読む（1） 復習：『日本霊異記』と仏教の関連についてノートにまとめる。					
4	山本 元隆	【第 4 回】 予習：『日本霊異記』に出てくる仏教用語を調べておく。 授業：『日本霊異記』を読む（2） 復習：『日本霊異記』に見る仏教思想の特徴をノートにまとめる。					
5	山本 元隆	【第 5 回】 予習：『今昔物語集』について調べておく。 授業：『今昔物語集』を読む（1） 復習：『今昔物語集』と仏教の関連についてノートにまとめる					
6	山本 元隆	【第 6 回】 予習：『今昔物語集』に出てくる仏教用語を調べておく。 授業：『今昔物語集』を読む（2） 復習：『今昔物語集』に見る仏教思想の特徴をノートにまとめる。					
7	山本 元隆	【第 7 回】 予習：『今昔物語集』に出てくる仏教用語を調べておく。 授業：『今昔物語集』を読む（3） 復習：『今昔物語集』に見る極楽往生の諸相をノートにまとめる。					
8	山本 元隆	【第 8 回】 予習：鎌倉・室町時代の仏教文学について調べておく。 授業：鎌倉・室町時代の仏教文学概説『平家物語』を読む 復習：鎌倉・室町時代の仏教と文学の特徴をノートにまとめる。					
9	山本 元隆	【第 9 回】 予習：『沙石集』について調べておく。 授業：『沙石集』を読む（1） 復習：『沙石集』と仏教の関連についてノートにまとめる。					
10	山本 元隆	【第 10 回】 予習：『沙石集』に出てくる仏教用語を調べておく。 授業：『沙石集』を読む（2） 復習：『沙石集』に見る仏教思想の特徴をノートにまとめる。					
11	山本 元隆	【第 11 回】 予習：「和歌陀羅尼説」について調べておく。 授業：『沙石集』を読む（3）					

		復習：和歌と仏教の関連性についてノートにまとめる。						
12	山本 元隆	【第12回】 予習：『発心集』について調べておく。 授業：『発心集』を読む 復習：『発心集』と仏教の関連についてノートにまとめる。						
13	山本 元隆	【第13回】 予習：近世の仏教文学について調べておく。 授業：近世の仏教文学概説『夫婦宗論物語』を読む。 復習：『夫婦宗論物語』と仏教の関連についてノートにまとめる。						
14	山本 元隆	【第14回】 予習：近現代の仏教文学について調べておく。 授業：近現代の仏教文学概説 芥川龍之介『鼻』を読む。 復習：芥川作品と仏教説話の関係をノートにまとめる。						
15	山本 元隆	【第15回】 予習：授業のノートから14回の授業内容を振り返る。 授業：総括 日本の文学と仏教について考える（ディスカッション） 復習：仏教を受容した日本がどのような文学を築き上げたか、レポートにまとめる。						
授業開始前学習		授業に関連する作品にふれておくこと。（現代語訳のものでもかまわない）						
授業内課題のフィードバックの方法		授業で課題もしくは感想を提出した場合、次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。						
テキスト・教材		特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。						
参考書		武石彰夫編著『仏教文学を読む事典』（佼成出版社） その他、適宜授業で紹介する。						
評価の基準と方法		授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		GJ-M-111		科目分類（～2024 年 入学者）		111-331-12		授業コード		FA0220			
科目名称		☆近現代文学入門						単位数		2.0 単位			
英文名称		Introduction to Modern and Contemporary Literature						授業区分		講義			
科目責任者		木内 英実						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		木内 英実						開講時期		2 年			
オフィスアワー		前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 16:20～17:50 水曜日 16:20～17:50						研究室		10-620			
授業概要		日本の近現代文学に関する基礎的な知識を学び、文学を研究するための基礎的な概念を理解することを目的とする。近現代の文学史について概説したうえで、具体的には中学校や高等学校の国語教材としてもよく知られている作品群を取り上げる。典拠との比較や語りの分析など、文学研究としてのアプローチの方法を説明する。先行研究における問題点等を理解することにより、中学・高校の授業とは異なる観点から近現代の文学作品をとらえる力を修得する。											
到達目標		明治期において小説及び近代詩歌というジャンルがどのように形成され、現代の小説や詩歌の形式につながるのか、その概要を説明できるようになる。小説を中心とした「文学」が、近代から現代へと至る文化の変遷の中でどのような役割を果たしたのかを理解し、それをもとに具体的な作品を論じるための能力を身につける。											
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容										
1	木内 英実		【第 1 回】 予習：日本近代文学についての自分の知識を確認しておく 授業：授業の進め方について・日本近代文学という枠組みについて（キーワード：近代、欧米の文学、小説、出版メディア、ビルドゥングスロマン） 復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる										
2	木内 英実		【第 2 回】 予習：教科書「明治文学」pp.6-46、配付資料「硝子戸の中」を読んでおく 授業：文明開化と「文学」の変容（教科書「明治文学」前半 pp.6-46）（キーワード：文明開化、江戸から東京へ、翻訳小説）（課題解決型学習） 復習：文明開化と文学について学んだことをまとめる										
3	木内 英実		【第 3 回】 予習：教科書「明治文学」pp.6-46、配付資料「硝子戸の中」を読み直す 授業：「小説」とノベル（教科書「明治文学」後半 pp.6-46）（キーワード：ロマンスとノベル、夏目漱石「硝子戸の中」） 復習：夏目漱石について学んだことをまとめる										
4	木内 英実		【第 4 回】 予習：教科書「明治文学」pp.6-46、配付資料「銀の匙」を読んでおく 授業：明治後期の小説文体（教科書教科書「明治文学」pp.6-46 まとめ）（キーワード：言文一致、文体、自然観察、子ども歳時記） 復習：中勘助について学んだことをまとめる										
5	木内 英実		【第 5 回】 予習：教科書「明治文学」pp.6-46、配付資料「銀の匙」を読み直す 授業：自然主義文学と漱石（教科書「明治文学」pp.6-46 発展）（キーワード：自然主義、夏目漱石、木曜会、）（課題解決型学習） 復習：自然主義文学と夏目漱石・中勘助について学んだことをまとめる										
6	木内 英実		【第 6 回】 予習：配付資料「天龍」を読んでおく 授業：「大正文壇の成立」と鴎外（DVD『1910 年の文学』視聴）（キーワード：森鴎外、「明星」「スバル」、耽美派、谷崎潤一郎、白樺派、志賀直哉） 復習：「大正文壇」と森鴎外について学んだことをまとめる										
7	木内 英実		【第 7 回】 予習：教科書「大正文学」pp.47-70 を読んでおく 授業：「大正文壇の成立」（DVD『1910 年の文学』視聴）（キーワード：耽美派、谷崎潤一郎、白樺派、志賀直哉） 復習：「大正文壇」について学んだことをまとめる『新思潮』と大正期教養主義について学んだことをまとめる										
8	木内 英実		【第 8 回】 予習：教科書「児童文学における＜近代＞」pp.66-70 を読んでおく 授業：賢治童話・未明童話・南吉童話と「赤い鳥」、教科書 pp.66-70（キーワード：御伽噺・文部省唱歌から童謡童話へ）（課題解決型学習） 復習：童謡童話運動・「トロツコ」・「風の又三郎」・「久助君の話」について学んだことをまとめる										
9	木内 英実		【第 9 回】 予習：教科書「昭和文学」pp.70-127 を読んでおく 授業：教科書「昭和文学」前半（キーワード：戦争文学、「文芸時代」、「女人芸術」） 復習：「昭和文学」前半について学んだことをまとめる										

10	木内 英実	【第 10 回】 予習：教科書「昭和文学」pp.70-127 を読んでおく 授業：教科書「昭和文学」後半（キーワード：文芸復興、純粋小説、転向文学、太宰治） 復習：「昭和文学」後半について学んだことをまとめる						
11	木内 英実	【第 11 回】 予習：教科書「戦後文学」pp.127-156 を読んでおく 授業：教科書「戦後文学」pp.127-156（キーワード：女性作家の活躍、言論統制、第三の新人） 復習：「戦後文学」について学んだことをまとめる						
12	木内 英実	【第 12 回】 予習：教科書「Ⅱ 近代詩歌の流れ」pp.158-228 を読んでおく 授業：近現代の詩歌（教科書「Ⅱ 近代詩歌の流れ」前半）（キーワード：「新体詩抄」、「明星」「スバル」、童謡詩） 復習：近現代の詩歌について学んだことをまとめる						
13	木内 英実	【第 13 回】 予習：教科書「Ⅱ 近代詩歌の流れ」pp.158-228 を読んでおく 授業：近現代の詩歌（教科書「Ⅱ 近代詩歌の流れ」後半）（キーワード：第二芸術論、抒情から思想へ、戦後詩歌） 復習：近現代の詩歌について学んだことをまとめる						
14	木内 英実	【第 14 回】 予習：配付プリント「世界文学としての日本近現代文学-川端康成・大江健三郎・村上春樹-」を読んでおく 授業：カズオ・イシグロ、村上春樹の文学（DVD『カズオ・イシグロ文学白熱教室』視聴 課題提出）（キーワード：「日本」という概念、グローバリズム） 復習：世界文学としての日本文学について学んだことをまとめる						
15	木内 英実	【第 15 回】 予習：現代の文学について考える 授業：現代における「文学」の位置づけ（キーワード：映像文化、メディアミックス、文学概念の変容）/振り返りレポート作成 復習：これまでの学習内容をもとに日本の近現代文学史について考える						
授業開始前学習		授業に関連する日本の近現代文学作品を出来るだけ読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内容に関連した授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		三好行雄『日本の近代文学』（はなわ新書）						
参考書		安藤宏『日本近代小説史』（中公選書）、外村彰編『昭和の文学を読む』（ひつじ書房）						
評価の基準と方法		授業内課題（20%）、GW 等授業受講姿勢（20%）、学期末レポート（60%）で総合評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）		GJ-M-121 SD-L-121（J）		科目分類（～2024 年入学者）		111-331-11（2022 年～入学者）（J） 111-331-12（～2021 年入学者）（J）		授業コード		FA0410			
科目名称		☆地域文化概論						単位数		2.0 単位			
英文名称		Survey of Regional Culture						授業区分		講義			
科目責任者		下川 雅弘						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		下川 雅弘						開講時期		1・2 年			
オフィスアワー		前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30						研究室		10-706			
授業概要		この授業では、おもに稲城市を事例として、地域文化の調べ方や史料の読み方について概説し、その調査、読解を行うための基礎知識を修得する。また、各自の地元を事例として、隠れた地域文化を発見し、その魅力を発表する。授業では課題解決型学習・発表・フィールドワークを行う。											
到達目標		1. 地域文化の調べ方や史料の読み方を身に付けることができる。 2. 地域に伝わる民俗資料について、その調査・整理方法を理解できる。 3. 史料に基づいて各地の地域文化の魅力を発見し、そこから日本文化の特徴を考察できる。											
アクティブ・ラーニング型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容											
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：地域文化から考える日本文化（登戸浅間神社の富士塚から考える日本人の富士信仰）（教科書 6～8 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）											
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習：「地域文化レジュメによる発表について」の部分について教科書を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表について（教科書 9～10 頁）／『日本歴史地名大系』にみる稲城市の歴史と文化（原始・古代～近現代） 復習：図書館で『日本歴史地名大系』をコピーする											
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習：「地域文化レジュメの参考文献について」の部分について教科書を読んでおく 授業：地域文化レジュメの参考文献について（教科書 11～13 頁）／『日本歴史地名大系』にみる稲城市の歴史と文化（矢野口村）／『稲城市の歴史と文化財』にみる穴澤天神社 復習：図書館で『新編武蔵風土記稿』『新編相模国風土記稿』をコピーする											
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習：『新編武蔵風土記稿』『菅村』（小沢城址）の現代語訳（5 点） 授業：『新編武蔵風土記稿』『菅村』（小沢城址）の読解と考察（課題解決型学習）／小沢城をめぐる伝承と城の構造・特徴（教科書 14～21 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）											
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習：『新編武蔵風土記稿』『金程村』（旧跡小沢原古戦場）の現代語訳（5 点） 授業：『新編武蔵風土記稿』『金程村』（旧跡小沢原古戦場）の読解と考察（課題解決型学習）／小沢原合戦の伝承と古戦場の故地（教科書 22～29 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）											
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習：『新編武蔵風土記稿』『矢野口村』（妙覚寺）の現代語訳（5 点） 授業：『新編武蔵風土記稿』『矢野口村』（妙覚寺）の読解と考察（課題解決型学習）／妙覚寺の宝物と小沢蔵屋敷の伝承（教科書 30～34 頁）／訪問する史跡の解説（教科書 43～46 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）											
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習：「民俗資料の調査・整理方法」の部分について教科書を読んでおく 授業：民俗資料の調査・整理方法（教科書 35～39 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）											
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習：「有形民俗資料調査の実践（中世・近世の石造物）」の部分について教科書を読んでおく 授業：有形民俗資料調査の実践（中世・近世の石造物）（教科書 40～43 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）											

9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習：「有形民俗資料調査の実践（石造物調査の方法）」の部分について教科書を読んでおく 授業：有形民俗資料調査の実践（石造物調査の方法）（教科書 47～53 頁）／学内の六地藏による石造物調査の練習 復習：石造物調査の練習用の方眼紙を提出する						
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習：「ありがた山の石造物調査」の部分について教科書を読んでおく 授業：正課学外活動【地元発見プロジェクト】「ありがた山の石造物調査」（フィールドワーク） 復習：正課学外活動の感想をフォームで提出する（5 点）／調査報告書と方眼紙を提出する（5 点）						
11	下川 雅弘	【第 11 回】 予習：地域文化レジュメを提出する（30 点）／地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
12	下川 雅弘	【第 12 回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
13	下川 雅弘	【第 13 回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
14	下川 雅弘	【第 14 回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
15	下川 雅弘	【第 15 回】 予習：ミニレポートをフォームで提出する（10 点） 授業：地域文化から考える日本文化の学びの総括（課題解決型学習）（教科書 54 頁） 復習：ミニレポートの感想をフォームで提出する（5 点）						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。発表に対しては、授業内で補足解説・コメントを行う。						
テキスト・教材		駒沢女子大学講義ノートシリーズ『地域文化概論』 必要に応じてプリントを配付する。						
参考書		適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。 また、予習課題や発表の準備に際しては、以下の辞書を必ず参照すること。 『日本歴史地名大系』（平凡社）、『国史大辞典』（吉川弘文館）						
評価の基準と方法		予習課題 15%、復習課題 40%、発表（レジュメ）30%、調査報告書 5%、ミニレポート 10%により評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○		○	◎	◎		
関連科目								
その他		授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、11～12 月中の土曜日に正課学外活動（ありがた山の石造物調査）を行う予定である。若干の交通費の負担が必要な場合がある。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		自治体史編纂の実務経験あり。地域文化の調べ方や魅力などを講義する。						

科目分類（2025 年 ～入学者）		GJ-M-121		科目分類（～2024 年 入学者）		授業コード		FA1530							
科目名称		デジタル文化論				単位数		2.0 単位							
英文名称		Digital Culture Theory				授業区分		講義							
科目責任者		原島 大輔				必修・選択		履修ガイド参照							
担当教員		原島 大輔				開講時期		1・2 年							
オフィスアワー		-				研究室		-							
授業概要		本講義は、「人工知能」をテーマとして、デジタルテクノロジーと現代日本文化について解説する。授業ではまず、人工知能によるデジタル化にともなう社会問題の様々な論点について概観する。さらに、現代の人工知能（第三次ブーム）に至るまでの歴史について第一次ブームにまで遡って紹介することで、人工知能の現象論的な諸問題の背景をなす根本的な問題について概説する。これらの基礎を踏まえて最終的には、文化論としてさらに一歩踏み込み、現代テクノロジーの思想的背景としての西洋文化の理解をめぐる諸問題や、日本のような非西洋文化への現代テクノロジーの導入（近代化、グローバル化）にまつわる諸問題など、現代日本文化研究としてのテクノロジー論を国際的な視野から俯瞰する。													
到達目標		デジタルテクノロジーをめぐる文化論の基本的な考え方を身につける。 とくに人工知能を実例として、情報テクノロジーの原理的な問題を理解し、デジタル化にともなう社会問題についての基礎知識を習得する。													
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合 の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		原島 大輔		【第 1 回】 予習：シラバスの内容を理解する 授業：講義の概要と目標の説明 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む											
2		原島 大輔		【第 2 回】 予習：人工知能によるデジタル化にともなう社会問題について調べる 授業：人工知能と現代社会の諸問題（1）：デジタル化にともなう社会問題 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む											
3		原島 大輔		【第 3 回】 予習：人工知能によるデジタル化の背景をなす思想について調べる 授業：人工知能と現代社会の諸問題（2）：デジタル化の背景をなす思想 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む											
4		原島 大輔		【第 4 回】 予習：言語学的転回と情報学的転回について調べる 授業：人工知能と現代社会の諸問題（3）：言語から情報へ 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む											
5		原島 大輔		【第 5 回】 予習：人工知能の第 1 次ブームについて調べる 授業：人工知能の歴史（1）：第 1 次ブーム 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む											
6		原島 大輔		【第 6 回】 予習：人工知能の第 2 次ブームについて調べる 授業：人工知能の歴史（2）：第 2 次ブーム 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む											
7		原島 大輔		【第 7 回】 予習：人工知能の第 3 次ブームについて調べる 授業：人工知能の歴史（3）：第 3 次ブーム 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む											
8		原島 大輔		【第 8 回】 予習：フレーム問題について調べる 授業：人工知能は意味を理解できるか（1）：フレーム問題 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む											
9		原島 大輔		【第 9 回】 予習：記号接地問題について調べる 授業：人工知能は意味を理解できるか（2）：記号接地問題 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む											
10		原島 大輔		【第 10 回】 予習：基礎情報学の情報概念について調べる 授業：情報とは何か：生命情報、社会情報、機械情報 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む											

11	原島 大輔	【第 11 回】 予習：技術哲学におけるテクノロジーの定義について調べる 授業：テクノロジーとは何か 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む						
12	原島 大輔	【第 12 回】 予習：技術多様性について調べる 授業：テクノロジーは人類に普遍的か：技術多様性 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む						
13	原島 大輔	【第 13 回】 予習：日本は近代化および近代の超克の試みにおいてテクノロジーとどう向き合ったか調べる 授業：近代日本とテクノロジー 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む						
14	原島 大輔	【第 14 回】 予習：今日の惑星規模の複合危機とテクノロジーの関係について調べる 授業：惑星化とテクノロジー 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む						
15	原島 大輔	【第 15 回】 予習：デジタル文化の未来に向けていかなる学術的取り組みが可能か考察する 授業：デジタル文化の未来 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組む						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		原則的に、毎回の授業で、前回の授業内課題の講評を行う。						
テキスト・教材		適宜紹介する。						
参考書		適宜紹介する。						
評価の基準と方法		授業内課題（100%） 毎回の授業で実施する小テスト（授業内課題、全 15 回）に基づいて授業内容の理解を評価する。 受講生は、毎回の授業に出席した上で、各回の授業内容に即した小テストの答案を毎回の授業後に提出することが求められる。 授業内課題を全授業回数の 2/3 以上提出していることを、単位認定の原則的条件とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎	◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	GJ-M-121	科目分類（～2024 年 入学者）		授業コード	FA1540		
科目名称	ポピュラーカルチャー論			単位数	2.0 単位		
英文名称	Popular Culture Theory			授業区分	講義		
科目責任者	西原 麻里			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	西原 麻里			開講時期	1・2 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	この授業では、戦前・戦後から現代にいたるまでの「マンガ文化」を主なテーマとし、さまざまなジャンルの作品や作家、主要なメディア、読者（ファン）、時代的背景などの特徴について考察する。国内外のマンガ文化、あるいは隣接領域であるアニメーション文化といったマンガを起点とするメディア文化がどのように成立しているのか、またどのような問題が含まれているのかを批判的に検討することにより、現代文化（ポピュラー文化）を通じて社会を見る目を養う。また海外のコミック文化や近年のウェブトゥーンなども視野に入れ、グローバルな展開の状況を理解する。 授業は講義形式だが、受講生（挙手制）による「わたしがオススメするマンガ作品」プレゼンテーションを実施する。						
到達目標	① 「マンガ（MANGA／おもに日本のマンガ文化）」をはじめとするメディア文化を学問として批判的に捉えることができる。 ② ポピュラー文化の特徴やメディア史を把握することにより、現代社会の課題を考察することができる。 ③ 幅広い視野で各時代・各地域の作品に触れ、実践的に理解することができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	西原 麻里	【第 1 回】 予習：授業のスケジュールや授業内容、授業の取り組み方を確認する。 授業：イントロダクション・・・マンガ表現の読み解き方 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。					
2	西原 麻里	【第 2 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：現代の「マンガ」の始まり・・・ジャーナリズムと諷刺画／コママンガの登場 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。					
3	西原 麻里	【第 3 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：戦前から戦後の子ども向けマンガ・・・赤本マンガ・貸本マンガ 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。					
4	西原 麻里	【第 4 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：「劇画」と「スポ根」ブーム／自己表現のためのマンガ 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。					
5	西原 麻里	【第 5 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：戦前から戦後の「少女文化」の形成・・・華やかな世界への憧れとジェンダー化 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。					
6	西原 麻里	【第 6 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：少女マンガの週刊誌時代・・・恋愛／友愛の関係性 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。					
7	西原 麻里	【第 7 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：少女マンガの多様性・・・「少年愛」『JUNE』とオトメチック 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。					
8	西原 麻里	【第 8 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：「マンガファン」の可視化・・・ファンコミュニティと同人誌文化・同人誌即売会の誕生と発展 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。					
9	西原 麻里	【第 9 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：少年マンガの躍進とメディアミックス 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。					
10	西原 麻里	【第 10 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：青年マンガとレディースコミック／マンガ文化のポピュラーカルチャー化 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。					

11	西原 麻里	【第 11 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：情報ツールとしてのマンガ・・・マンガ家マンガ・エッセイマンガ 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。							
12	西原 麻里	【第 12 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：情報ツールとしてのマンガ・・・学習マンガ・実用マンガ 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。							
13	西原 麻里	【第 13 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：ジャンルの横断と複合・・・ボーイズラブ／BL 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。							
14	西原 麻里	【第 14 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：海外マンガと日本／日本マンガと海外・・・アメリカン・コミックス、バンド・デシネ、ウェブトゥーン 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。							
15	西原 麻里	【第 15 回】 予習：授業のテーマ、時代、作品などを調べる。 授業：コンクルージョン・・・グローバル社会とマンガ 復習：授業の内容をノートにまとめる。リアクションペーパー（復習課題）に取り組む。							
授業開始前学習		マンガ研究の学術書や文庫・新書、また実際にマンガ作品を読み、マンガを通じた考察の視点などを把握することが望ましい。 授業が始まる前までに、掲示された教材を各自でダウンロードしたり印刷したりして、内容を理解すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		リアクションペーパーの内容に対して個別にフィードバックをおこなうほか、コメントや質問を次回授業で紹介する。							
テキスト・教材		授業の教材（PDF、Word ファイル）を電子配布する。							
参考書		竹内オサム・西原麻里編著『マンガ文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房、2016 年 その他は授業内にて紹介する。							
評価の基準と方法		講義後に課すリアクションペーパー（復習課題、15 回／70%）と、授業態度・授業への貢献（30%）をもとに、総合的に評価を決定する。							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎			
関連科目									
その他		PC やタブレットでのノート作成も可能であるため、授業に参加するためのデバイスやツールを各自で用意すること。紙での配布は基本的におこなわない。 マンガに詳しい（ふだんからマンガに親しんでいる）人は、その「おもしろさ」や「楽しさ」がどのような社会的・文化的条件によって成り立つのかを考えてほしい。 また、マンガについて詳しくなくても受講に差し支えない。ただし、自分から積極的にマンガに触れてほしい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

現代日本の音楽と映像文化

科目分類 (2025 年 ～入学者)	GJ-M-121	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	FA1550	
科目名称	現代日本の音楽と映像文化			単位数	2.0 単位	
英文名称	Contemporary Japanese Music and Visual Culture			授業区分	講義	
科目責任者	栗谷 佳司			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	栗谷 佳司			開講時期	1・2 年	
オフィスアワー	-			研究室	-	
授業概要	本授業は、現代の音楽と映像に関する文化の状況について理解を深めることを目的とする。具体的には、戦後から現代にかけての音楽と映像文化を取り上げて、現代における可能性や問題点を考察する。近代以降の日本は西洋音楽を取り入れて、学校教育でも「音楽」を設置し、民間においても流行歌が文化の中で大きな役割を果たしてきたが、インターネット社会の成立とともに音楽文化も大きく変化した。また戦後テレビを中心とした映像文化は、現代では YouTube や TikTok のようなインターネット時代の文化とともに考察することが求められる。講義では、ポピュラー音楽を中心とした音楽文化、そして映像文化の諸相による現代文化論として社会学、文化研究などの方法論とともに音楽と映像について考察する。					
到達目標	1, 音楽文化と映像文化を通して現代文化研究の方法論が理解できるようになる。 2, 現代社会・文化の諸問題について, 社会学、文化研究の方法により説明することができるようになる。					
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	○	複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	栗谷 佳司	【第 1 回】 予習：日本の音楽と映像文化について図書館やインターネットで調べる 授業：音楽・映像文化を研究するためのイントロダクション 復習：授業内容の復習				
2	栗谷 佳司	【第 2 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：音楽・映像文化を学ぶための文化研究入門 1 復習：授業内容の復習				
3	栗谷 佳司	【第 3 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：音楽・映像文化を学ぶための文化研究入門 2 復習：授業内容の復習				
4	栗谷 佳司	【第 4 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：大衆文化論と音楽文化論 1 復習：授業内容の復習				
5	栗谷 佳司	【第 5 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：大衆文化論と音楽文化論 2 復習：授業内容の復習				
6	栗谷 佳司	【第 6 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：大衆文化、複製技術と音楽・映像文化 復習：授業内容の復習				
7	栗谷 佳司	【第 7 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：メディア論とメディア空間 復習：授業内容の復習				
8	栗谷 佳司	【第 8 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：現代文化研究 消費社会とポストモダン 復習：授業内容の復習				
9	栗谷 佳司	【第 9 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：グローバル化の諸問題と日本の音楽・映像文化 復習：授業内容の復習				
10	栗谷 佳司	【第 10 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：都市空間と音楽・映像文化 復習：授業内容の復習				

11	栗谷 佳司	【第 11 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：現代日本文化とポップカルチャーの諸問題 復習：授業内容の復習						
12	栗谷 佳司	【第 12 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：文化社会学における戦後文化と歌の問題 1 限界芸術論 復習：授業内容の復習						
13	栗谷 佳司	【第 13 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：文化社会学における戦後文化と歌の問題 2 戦後日本文化論 復習：授業内容の復習						
14	栗谷 佳司	【第 14 回】 予習：前回の授業内容の確認 授業：サブカルチャーと現代の音楽・映像文化 復習：授業内容の復習						
15	栗谷 佳司	【第 15 回】 予習：これまでの授業内容の確認 授業：日本の音楽・映像文化の展望と課題 復習：授業内容の復習						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		各回のコメントに対してフィードバックを行う。フィードバックの方法については授業開始後に指示する。Classroom 等で行う予定である。						
テキスト・教材		参考書の内容を中心に講義を行う。						
参考書		栗谷佳司・太田健二編著『表現文化の社会学入門』ミネルヴァ書房、2019 年						
評価の基準と方法		最終レポート（65%）、授業内課題と授業への参加（35%）をもとに総合的に評価を行う。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			◎	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	GJ-M-111	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	FA1560
科目名称	多文化共生論			単位数	2.0 単位
英文名称	Multicultural Coexistence			授業区分	講義
科目責任者	安井 裕司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	安井 裕司			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	16-306
授業概要	まず、最初に「多文化共生」を様々な共生論の観点から学術的に観ていく。その上で、国内の社会的包摂＝ソーシャル・インクルージョン（移民、難民、貧困、障がい者、LGBT）、国際的な民族問題、自然との共生、AI・ロボットとの共生等に焦点を当て、最終的に欧米アジアにおける「多文化共生」のケース・スタディを考えていく。全体として、それぞれのテーマにおいて学術書、学術論文を読みアカデミックフレームワークを学び、その後、講義に関連する映画、アニメ、ドラマ、文学作品などを観る、読むことでその理解を深める。				
到達目標	「多文化共生」が、今、なぜ、世界各国で求められているかを理解し、「社会的包摂＝ソーシャル・インクルージョン」や民族紛争を越えた共生論等を把握し、各自、「多文化共生」の意義と「社会的包摂」の意味を説明できるようにする。その上で、映像や文学作品を通じてより身近に「多文化共生」を捉え、それぞれが日々の生活で異質な存在とどのように共生していくかを考えられるようになることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	安井 裕司	【第 1 回】 予習：共生論、多文化共生論について文献を図書館やネットで探し、読んでおく。 授業：多文化共生論の理論的考察：「ともいき」「シンバイオシス」、「共生社会論」「自然共生社会論」「社会的包摂論」 復習：予習で読んだ文献を、講義内容から再読する。			
2	安井 裕司	【第 2 回】 予習：移民・難民問題について図書館やネットで文献を調べ、社会的包摂の観点からケーススタディを見つけ、考える。 授業：社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）（1）：移民・難民 復習：映画『マイスマールランド』（2022 年）、映画『はじめてのおもてなし』（2016 年）、映画『ル・アヴェールの靴みがき』（2011 年）等の移民や難民がテーマとなっている映画、ドラマを観る。小説、漫画を読む。			
3	安井 裕司	【第 3 回】 予習：障がい者について図書館やネットで文献を調べ、社会的包摂の観点からケーススタディを見つけ、考える。 授業：社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）（2）：障がい者 復習：映画『聲の形』（2016 年）等のマイノリティとしての障がい者との共生がテーマとなっている映画、アニメ、ドラマ、テレビ番組、小説、漫画作品を社会的包摂の観点から分析する。			
4	安井 裕司	【第 4 回】 予習：阿部彩『弱者の居場所がない社会 貧困・格差と社会的包摂』（2011 年）、テス・リッジ『子どもの貧困と社会的排除』（2010 年）等、貧困について図書館やネットで文献を調べ、社会的包摂の観点からケーススタディを見つけ、考える。 授業：社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）（3）：貧困 復習：映画『こどもしよくどう』（2019 年）等の貧困がテーマとなっている映画、アニメ、ドラマ、小説、漫画作品を社会的包摂の観点から分析する。			
5	安井 裕司	【第 5 回】 予習：LGBT について図書館やネットで文献を調べ、社会的包摂の観点からケーススタディを見つけ、考える。 授業：社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）（4）：LGBT 復習：映画『パレードによろこび』（2019 年）、映画『カラコエの花』（2018 年）等の LGBT がテーマとなっている映画、アニメ、ドラマ、小説、漫画作品を社会的包摂の観点から分析する。			
6	安井 裕司	【第 6 回】 予習：イスラエルとパレスチナ問題についてネットや図書館で文献を調べる。 授業：民族対立と多文化共生（1）：イスラエル・パレスチナ 復習：『クレッシェンド 音楽の架け橋』（2019 年）、映画『テルアビブ・オン・ファイア』（2018 年）、映画『もうひとりの息子』（2013 年）等のパレスチナ問題がテーマとなっている映画、ドラマ、文学作品を多文化共生の観点から分析する。			
7	安井 裕司	【第 7 回】 予習：北アイルランド問題についてネットや図書館で文献を調べる。 授業：民族対立と多文化共生（2）：北アイルランド 復習：映画『ベルファスト』（2021 年）、映画『ぼくたちの哲学教室』（2021 年）、『ボクサー』（1997 年）等の北アイルランド問題がテーマとなっている映画、ドラマ、文学作品を多文化共生の観点から分析する。			

8	安井 裕司	【第8回】 予習：旧ユーゴスラビア戦争についてネットや図書館で文献を調べる。 授業：民族対立と多文化共生（3）：旧ユーゴスラビア 復習：映画『灼熱』(2016年)、映画『ノーマンズ・ランド』(2002年)等の旧ユーゴスラビアの民族紛争がテーマとなっている映画、ドラマ、文学作品を多文化共生の観点から分析する。						
9	安井 裕司	【第9回】 予習：アブハジア紛争についてネットや図書館で文献を調べる。 授業：民族対立と多文化共生（4）：アブハジア紛争 復習：映画『みかんの丘』（2013年）、映画『とうもろこしの島』（2014年）等、アブハジア紛争がテーマとなっている映画、ドラマ、文学作品を多文化共生の観点から分析する。						
10	安井 裕司	【第10回】 予習：食文化の多様性と多文化共生についてネットや図書館で文献を調べる。 授業：食文化の多様性と多文化共生 復習：映画『エイブのキッチンストーリー』(2020年)、映画『マダム・マロリーと魔法のスパイス』（2014年）、ドラマ『深夜食堂』（2009年）等、食文化と多様性がテーマとなっている映画、ドラマ、文学作品を多文化共生の観点から分析する。						
11	安井 裕司	予習：AI、ロボットと人間の共生についてネットや図書館で文献を調べる。 授業：AI、ロボットとの共生 復習：映画『アイの歌声を聴かせて』（2001年）、映画『A.I.』（2001年）、映画『2001年宇宙の旅』（1968年）、アニメ『鉄腕アトム』（1963年）等、ロボットやAIと人間の共生がテーマとなっている映画、ドラマ、文学作品を観て（読んで）分析する。						
12	安井 裕司	予習：自然との共生について、ネットや図書館で学術書、学術文献を探して、読む。 授業：自然との共生 復習：映画『風の谷のナウシカ』（1984年）、映画『もののけ姫』（1997年）等、自然と人間の共生がテーマとなっている映画、ドラマ、文学作品を観て（読んで）分析する。						
13	安井 裕司	予習：米国社会のエスニックグループの対立と共存をテーマにネットや図書館で学術書、学術文献を探して、読む。 授業：多文化共生のケーススタディ：米国 復習：映画『ベスト・オブ・エネミーズ〜価値ある闘い〜』（2019年）、映画『グリーンブック』（2018年）、映画『ドゥ・ザ・ライト・シング』（1989年）等の民族問題、人種問題がテーマの映画、ドラマ、文学作品を観て（読んで）、多文化共生の観点から分析する						
14	安井 裕司	予習：フランス社会における多文化性、多民族性、階層性に関する学術書、学術文献、記事をネットや図書館で探して、読む。 授業：多文化共生のケーススタディ：フランス 復習：映画『12か月の未来図』（2017年）、映画『奇跡の教室 受け継ぐ者たちへ』（2016年）、映画『パベルの学校』（2013年）等、フランス社会における多文化共生がテーマとなっている映画、ドラマ、文学作品を観て（読んで）分析する。						
15	安井 裕司	予習：マレーシアにおける多民族共存の観点からネットや図書館で学術書、学術文献を探して、読む。 授業：多文化共生のケーススタディ：マレーシア 復習：映画『タレントタイム〜優しい歌』（2009年）等、アジアにおける多文化共生がテーマとなっている映画、ドラマ、文学作品を観て（読んで）分析する。						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		講義内に課題を出す場合は、翌週の講義においてその内容を取り上げる。						
テキスト・教材								
参考書		講義前にリーディングリスト、ウォッチングリストを Google Classroom にて提示する。						
評価の基準と方法		授業参加態度 30% プレゼンテーション、レポート 70%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		○				
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	GJ-M-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F00021		
	HR-M-112						
	PS-M-112						
	CT-L-112						
科目名称	基礎ゼミ I			単位数	1.0 単位		
英文名称	Freshmen Seminar I			授業区分	演習		
科目責任者	榎本 環			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	榎本 環			開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10			研究室	10-716		
授業概要	初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。						
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・人間関係学科について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	榎本 環	【第 1 回】 予習 : シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : 前期ガイダンス (教科書 第 1 章 pp.2-3) (発表) 復習 : 教科書第 1 章を再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					
2	榎本 環	【第 2 回】 予習 : 教科書第 2 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 : 学内ツアー (教科書 第 2 章 pp.4-5) (フィールドワーク) 復習 : 各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題 (感想・質問) を提出してください。					
3	榎本 環	【第 3 回】 予習 : 教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : 大学での学び (教科書 第 3 章 p.6) 復習 : 教科書第 3 章を再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					
4	榎本 環	【第 4 回】 予習 : 教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : 人間関係学科の学び (全体授業) (教科書 第 3 章 pp.10-15) 復習 : 教科書第 4 章を再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。また Web メールの「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください					
5	榎本 環	【第 5 回】 予習 : 教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : 図書館の使い方、文献・資料の探し方 (教科書 第 5 章 pp.16-20) (フィールドワーク) 復習 : 教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					
6	榎本 環	【第 6 回】 予習 : 教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 1 : 講義の聞き方、メモ・ノートの取り方 (教科書 第 6 章 pp.21-22) (実習) 復習 : 教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					
7	榎本 環	【第 7 回】 予習 : 教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 2 : 論理的に考える、問いを立てる (教科書 第 7 章 pp.23-26) (ディスカッション) 復習 : 教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					
8	榎本 環	【第 8 回】 予習 : 教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 3 : レポートとは (教科書 第 8 章 pp.27-32) 復習 : 教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					
9	榎本 環	【第 9 回】 予習 : 教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 4 : アウトライン (教科書 第 9 章 pp.33-38)					

		復習：教科書第9章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
10	榎本 環	【第10回】 予習：教科書第10章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：レポートの書き方 5：書式・引用（教科書 第10章 pp.39-45） 復習：教科書第10章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
11	榎本 環	【第11回】 予習：教科書第11章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：レポートの書き方 6：レポートの意義（教科書 第11章 pp.46-47） 復習：教科書第11章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。						
12	榎本 環	【第12回】 予習：教科書第12章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ミニレポートのふりかえり（教科書 第12章 p.48） 復習：教科書第12章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
13	榎本 環	【第13回】 予習：教科書第13章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：学術的文章に親しむ 1：本との出会い（教科書 第13章 pp.49-52）（ディスカッション） 復習：教科書第13章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
14	榎本 環	【第14回】 予習：教科書第14章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：学術的文章に親しむ 2：読書の意義（教科書 第14章 p.53）（ディスカッション） 復習：教科書第14章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
15	榎本 環	【第15回】 予習：前期中の自分の“成長”を書き出してみてください。 授業：前期ふりかえり（教科書 第15章 p.54） 復習：前期の成果をふりかえりましょう。						
授業開始前学習		教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。						
授業内課題のフィードバックの方法		提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。						
テキスト・教材		人間関係学科編『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）						
参考書		授業を通じて適時紹介します。						
評価の基準と方法		各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目								
その他		臨時に合同授業を実施する場合があります。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F00022
科目名称	基礎ゼミⅠ	単位数	1.0 単位		
英文名称	Freshmen Seminar I	授業区分	演習		
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	倉住 友恵	開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50	研究室	10-618		
授業概要	初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・人間関係学科について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぶとすることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	倉住 友恵	【第 1 回】 予習 : シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : 前期ガイダンス (教科書 第 1 章 pp.2-3) (発表) 復習 : 教科書第 1 章を再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。			
2	倉住 友恵	【第 2 回】 予習 : 教科書第 2 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 : 学内ツアー (教科書 第 2 章 pp.4-5) (フィールドワーク) 復習 : 各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題 (感想・質問) を提出してください。			
3	倉住 友恵	【第 3 回】 予習 : 教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : 大学での学び (教科書 第 3 章 p.6) 復習 : 教科書第 3 章を再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。			
4	倉住 友恵	【第 4 回】 予習 : 教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : 人間関係学科の学び (全体授業) (教科書 第 3 章 pp.10-15) 復習 : 教科書第 4 章を再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。また Web メール「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください			
5	倉住 友恵	【第 5 回】 予習 : 教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : 図書館の使い方、文献・資料の探し方 (教科書 第 5 章 pp.16-20) (フィールドワーク) 復習 : 教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。			
6	倉住 友恵	【第 6 回】 予習 : 教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 1 : 講義の聞き方、メモ・ノートの取り方 (教科書 第 6 章 pp.21-22) (実習) 復習 : 教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。			
7	倉住 友恵	【第 7 回】 予習 : 教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 2 : 論理的に考える、問いを立てる (教科書 第 7 章 pp.23-26) (ディスカッション) 復習 : 教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。			
8	倉住 友恵	【第 8 回】 予習 : 教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 3 : レポートとは (教科書 第 8 章 pp.27-32) 復習 : 教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。			
9	倉住 友恵	【第 9 回】 予習 : 教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 4 : アウトライン (教科書 第 9 章 pp.33-38) 復習 : 教科書第 9 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。			

10	倉住 友恵	【第10回】 予習：教科書第10章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：レポートの書き方5：書式・引用（教科書 第10章 pp.39-45） 復習：教科書第10章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
11	倉住 友恵	【第11回】 予習：教科書第11章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：レポートの書き方6：レポートの意義（教科書 第11章 pp.46-47） 復習：教科書第11章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。						
12	倉住 友恵	【第12回】 予習：教科書第12章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ミニレポートのふりかえり（教科書 第12章 p.48） 復習：教科書第12章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
13	倉住 友恵	【第13回】 予習：教科書第13章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：学術的文章に親しむ1：本との出会い（教科書 第13章 pp.49-52）（ディスカッション） 復習：教科書第13章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
14	倉住 友恵	【第14回】 予習：教科書第14章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：学術的文章に親しむ2：読書の意義（教科書 第14章 p.53）（ディスカッション） 復習：教科書第14章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
15	倉住 友恵	【第15回】 予習：前期中の自分の“成長”を書き出してみてください。 授業：前期ふりかえり（教科書 第15章 p.54） 復習：前期の成果をふりかえりましょう。						
授業開始前学習		教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。						
授業内課題のフィードバックの方法		提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。						
テキスト・教材		人間関係学科編『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）						
参考書		授業を通じて適時紹介します。						
評価の基準と方法		各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目								
その他		臨時に合同授業を実施する場合があります。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)		GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112		科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F00023
科目名称		基礎ゼミ I				単位数	1.0 単位
英文名称		Freshmen Seminar I				授業区分	演習
科目責任者		小菅 清香				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		小菅 清香				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～17:50				研究室	10-503
授業概要		初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。					
到達目標		・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・人間関係学学科について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぶとすることができる。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	小菅 清香	【第 1 回】 予習 : シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : 前期ガイダンス (教科書 第 1 章 pp.2-3) (発表) 復習 : 教科書第 1 章を再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					
2	小菅 清香	【第 2 回】 予習 : 教科書第 2 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 : 学内ツアー (教科書 第 2 章 pp.4-5) (フィールドワーク) 復習 : 各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題 (感想・質問) を提出してください。					
3	小菅 清香	【第 3 回】 予習 : 教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : 大学での学び (教科書 第 3 章 p.6) 復習 : 教科書第 3 章を再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					
4	小菅 清香	【第 4 回】 予習 : 教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : 人間関係学学科の学び (全体授業) (教科書 第 3 章 pp.10-15) 復習 : 教科書第 4 章を再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。また Web メール「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください					
5	小菅 清香	【第 5 回】 予習 : 教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : 図書館の使い方、文献・資料の探し方 (教科書 第 5 章 pp.16-20) (フィールドワーク) 復習 : 教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					
6	小菅 清香	【第 6 回】 予習 : 教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 1 : 講義の聞き方、メモ・ノートの取り方 (教科書 第 6 章 pp.21-22) (実習) 復習 : 教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					
7	小菅 清香	【第 7 回】 予習 : 教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 2 : 論理的に考える、問いを立てる (教科書 第 7 章 pp.23-26) (ディスカッション) 復習 : 教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					
8	小菅 清香	【第 8 回】 予習 : 教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 3 : レポートとは (教科書 第 8 章 pp.27-32) 復習 : 教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					
9	小菅 清香	【第 9 回】 予習 : 教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 : レポートの書き方 4 : アウトライン (教科書 第 9 章 pp.33-38) 復習 : 教科書第 9 章と授業ノートを再読し、課題 (感想・質問) を提出してください。					

10	小菅 清香	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：レポートの書き方 5：書式・引用（教科書 第 10 章 pp.39-45） 復習：教科書第 10 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
11	小菅 清香	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：レポートの書き方 6：レポートの意義（教科書 第 11 章 pp.46-47） 復習：教科書第 11 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。						
12	小菅 清香	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ミニレポートのふりかえり（教科書 第 12 章 p.48） 復習：教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
13	小菅 清香	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：学術的文章に親しむ 1：本との出会い（教科書 第 13 章 pp.49-52）（ディスカッション） 復習：教科書第 13 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
14	小菅 清香	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：学術的文章に親しむ 2：読書の意義（教科書 第 14 章 p.53）（ディスカッション） 復習：教科書第 14 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
15	小菅 清香	【第 15 回】 予習：前期中の自分の“成長”を書き出してみてください。 授業：前期ふりかえり（教科書 第 15 章 p.54） 復習：前期の成果をふりかえりましょう。						
授業開始前学習		教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。						
授業内課題のフィードバックの方法		提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。						
テキスト・教材		人間関係学科編『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）						
参考書		授業を通じて適時紹介します。						
評価の基準と方法		各回の課題（70％：授業の感想・質問等）および課題提出物（30％：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目								
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）	100-110-21	授業コード	F00071
科目名称		基礎ゼミⅡ				単位数	1.0 単位
英文名称		Freshmen Seminar Ⅱ				授業区分	演習
科目責任者		榎本 環				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		榎本 環				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10				研究室	10-716
授業概要		「基礎ゼミⅠ」に続き、初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでもらいます。					
到達目標		・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・人間関係学科での学びについて理解し、その研究分野について自ら進んで学ぶとすることができる。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	榎本 環	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：後期ガイダンスと夏休みふりかえり（教科書 第 1 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
2	榎本 環	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ICT メディアの活用（教科書 第 2 章） 復習：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
3	榎本 環	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 1：準備（教科書 第 3 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
4	榎本 環	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 2：実施 1（教科書 第 4 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
5	榎本 環	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 3：実施 2（教科書 第 5 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 5 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
6	榎本 環	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方（全体授業）（教科書 第 6 章） 復習：教科書第 6 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
7	榎本 環	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 1（教科書 第 7 章） 復習：教科書第 7 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
8	榎本 環	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 2（教科書 第 8 章） 復習：教科書第 8 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
9	榎本 環	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 3（教科書 第 9 章） 復習：教科書第 9 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
10	榎本 環	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 1：グループ・テーマの設定（教科書 第 10 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 10 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					

		い。						
11	榎本 環	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 2：資料収集（教科書 第 11 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 11 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
12	榎本 環	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 3：スライド等の作成（教科書 第 12 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
13	榎本 環	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 4：発表原稿の準備（教科書 第 13 章）（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 13 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
14	榎本 環	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション発表（教科書 第 14 章）（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションを振り返り、課題（感想・質問）を提出してください。						
15	榎本 環	【第 15 回】 予習：1 年間の自分の“進化”“成長”を書き出してみてください。 授業：後期ふりかえり（教科書 第 15 章） 復習：教科書全体と授業ノートを再読してください。						
授業開始前学習		教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。						
授業内課題のフィードバックの方法		提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。						
テキスト・教材		共創文化学部 人間関係学科編『基礎ゼミ II』（駒沢女子大学教科書シリーズ）						
参考書		授業を通じて随時紹介します。						
評価の基準と方法		各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：プレゼンテーション資料・作文等）により総合的に評価します。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目								
その他		臨時に合同授業を実施する場合があります。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F00072
科目名称	基礎ゼミⅡ	単位数	1.0 単位		
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ	授業区分	演習		
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	倉住 友恵	開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50	研究室	10-618		
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に続き、初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでもらいます。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・人間関係学科での学びについて理解し、その研究分野について自ら進んで学ぶとすることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	倉住 友恵	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：後期ガイダンスと夏休みふりかえり（教科書 第 1 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。			
2	倉住 友恵	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ICT メディアの活用（教科書 第 2 章） 復習：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。			
3	倉住 友恵	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 1：準備（教科書 第 3 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。			
4	倉住 友恵	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 2：実施 1（教科書 第 4 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。			
5	倉住 友恵	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 3：実施 2（教科書 第 5 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 5 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。			
6	倉住 友恵	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方（全体授業）（教科書 第 6 章） 復習：教科書第 6 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。			
7	倉住 友恵	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 1（教科書 第 7 章） 復習：教科書第 7 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。			
8	倉住 友恵	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 2（教科書 第 8 章） 復習：教科書第 8 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。			
9	倉住 友恵	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 3（教科書 第 9 章） 復習：教科書第 9 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。			
10	倉住 友恵	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 1：グループ・テーマの設定（教科書 第 10 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 10 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してくだ			

		い。						
11	倉住 友恵	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 2：資料収集（教科書 第 11 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 11 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
12	倉住 友恵	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 3：スライド等の作成（教科書 第 12 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
13	倉住 友恵	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 4：発表原稿の準備（教科書 第 13 章）（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 13 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
14	倉住 友恵	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション発表（教科書 第 14 章）（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションを振り返り、課題（感想・質問）を提出してください。						
15	倉住 友恵	【第 15 回】 予習：1 年間の自分の“進化”“成長”を書き出してみてください。 授業：後期ふりかえり（教科書 第 15 章） 復習：教科書全体と授業ノートを再読してください。						
授業開始前学習		教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。						
授業内課題のフィードバックの方法		提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。						
テキスト・教材		共創文化学部 人間関係学科編『基礎ゼミ II』（駒沢女子大学教科書シリーズ）						
参考書		授業を通じて随時紹介します。						
評価の基準と方法		各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：プレゼンテーション資料・作文等）により総合的に評価します。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目								
その他		臨時に合同授業を実施する場合があります。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		GJ-M-112		科目分類（～2024 年 入学者）	100-110-21	授業コード	F00073
		HR-M-112					
		PS-M-112					
		CT-L-112					
科目名称		基礎ゼミⅡ				単位数	1.0 単位
英文名称		Freshmen Seminar Ⅱ				授業区分	演習
科目責任者		小菅 清香				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		小菅 清香				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～17:50				研究室	10-503
授業概要		「基礎ゼミⅠ」に続き、初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでもらいます。					
到達目標		・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・人間関係学科での学びについて理解し、その研究分野について自ら進んで学ぶとすることができる。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	小菅 清香	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：後期ガイダンスと夏休みふりかえり（教科書 第 1 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
2	小菅 清香	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ICT メディアの活用（教科書 第 2 章） 復習：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
3	小菅 清香	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 1：準備（教科書 第 3 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
4	小菅 清香	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 2：実施 1（教科書 第 4 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
5	小菅 清香	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 3：実施 2（教科書 第 5 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 5 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
6	小菅 清香	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方（全体授業）（教科書 第 6 章） 復習：教科書第 6 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
7	小菅 清香	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 1（教科書 第 7 章） 復習：教科書第 7 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
8	小菅 清香	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 2（教科書 第 8 章） 復習：教科書第 8 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
9	小菅 清香	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 3（教科書 第 9 章） 復習：教科書第 9 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					
10	小菅 清香	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 1：グループ・テーマの設定（教科書 第 10 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 10 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。					

		い。						
11	小菅 清香	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 2：資料収集（教科書 第 11 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 11 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
12	小菅 清香	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 3：スライド等の作成（教科書 第 12 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
13	小菅 清香	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 4：発表原稿の準備（教科書 第 13 章）（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 13 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。						
14	小菅 清香	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション発表（教科書 第 14 章）（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションを振り返り、課題（感想・質問）を提出してください。						
15	小菅 清香	【第 15 回】 予習：1 年間の自分の“進化”“成長”を書き出してみてください。 授業：後期ふりかえり（教科書 第 15 章） 復習：教科書全体と授業ノートを再読してください。						
授業開始前学習		教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。						
授業内課題のフィードバックの方法		提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。						
テキスト・教材		共創文化学部 人間関係学科編『基礎ゼミ II』（駒沢女子大学教科書シリーズ）						
参考書		授業を通じて随時紹介します。						
評価の基準と方法		各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：プレゼンテーション資料・作文等）により総合的に評価します。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目								
その他		臨時に合同授業を実施する場合があります。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		HR-M-131	科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11	授業コード	F00330	
科目名称		☆人間関係入門				単位数	2.0 単位	
英文名称		Introduction to Human Relations Studies				授業区分	講義	
科目責任者		小菅 清香				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		榎本・楠田・倉住・小菅・福王				開講時期	1 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		テーマ：人間関係研究への招待 共創文化学部人間関係学科の学問分野のうち「応用心理学」「メディア論」「現代社会学」「キャリア心理学」「法律学」について、それぞれの分野のエッセンスを紹介する。人間・文化・社会をめぐるさまざまな現象や諸課題を 5 分野ではどのように捉えることができるのか、どのような理解と発想が可能なのか、それぞれの学問的特徴を理解するとともに、学的魅力にふれてもらいたい。						
到達目標		「応用心理学」「メディア論」「現代社会学」「キャリア心理学」「法律学」の各分野について、研究の対象・方法・基本的な考え方を理解し、人間・文化・社会に対する各分野のアプローチの違いをイメージできるようになることを目標とする。						
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	オムニバス
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	倉住 友恵	【第 1 回】 予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば整理しておく 授業：応用心理学 1：人間関係学科の学び／コミュニケーションを考える 復習：コミュニケーションに関する気付きを実生活に活かしてみる						
2	倉住 友恵	【第 2 回】 予習：コロナ禍に自分はどのように行動したか振り返っておく 授業：応用心理学 2：コロナと心理学 復習：不安から引き起こされる日常的な行動を考えてみる						
3	倉住 友恵	【第 3 回】 予習：「ストレス」について辞書等を使用して調べる 授業：応用心理学 3：ストレスとうまく付き合う 復習：ストレス対処方略とポジティブリフレーミングを実践してみる						
4	楠田 恵美	【第 4 回】 予習：「近代化」、「メディア」とは何か調べる 授業：メディア論 1：近代化とメディア 復習：近代化にメディアが果たした役割について考える						
5	楠田 恵美	【第 5 回】 予習：「グローバル化」とは何か調べる 授業：メディア論 2：グローバル化とメディア 復習：グローバル化にメディアが果たした役割について考える						
6	楠田 恵美	【第 6 回】 予習：身の回りの空間に広がるメディアをリストアップする 授業：メディア論 3：都市とメディア 復習：予習で作成したリストをバージョンアップさせる						
7	榎本 環	【第 7 回】 予習：社会学とはどのような学問か、入門書・Web 等でリサーチしてみる 授業：現代社会学 1：「社会学」という学問 復習：質問・コメント・感想等を Classroom コメント欄に投稿する						
8	榎本 環	【第 8 回】 予習：「ロードサイドビジネス」「ショッピングモール」について調べておく 授業：現代社会学 2：郊外社会と消費文化 復習：質問・コメント・感想等を Classroom コメント欄に投稿する						
9	榎本 環	【第 9 回】 予習：「自由」の概念について百科事典等で調べておく 授業：現代社会学 3：人間関係と「自由」（ディスカッション） 復習：コメント・感想・質問等を Classroom コメント欄に投稿する						
10	小菅 清香	【第 10 回】 予習：「キャリア」という言葉からイメージするものを自由に書き出す 授業：キャリア心理学 1：心理学からみる「キャリア」 復習：配付資料および参考文献 (https://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2017/04/pdf/073-074.pdf) をもとに自身の考えをまとめる						

11	小菅 清香	【第 11 回】 予習：「キャリア」に関するニュースや事例を調べる 授業：キャリア心理学 2：研究からみる「キャリア」 復習：配布資料をもとに、興味のある「キャリア」関連トピックでの研究例を挙げる						
12	小菅 清香	【第 12 回】 予習：中学校や高校等での進路選択に関わる活動を、他者に説明できるようにまとめる 授業：キャリア心理学 3：実践からみる「キャリア」 復習：配布資料をもとに、「キャリア」関連トピックでの研究案を考え、実践にどう役立つか説明する						
13	福王 守	【第 13 回】 予習：授業レジュメ・資料の購読およびキーワードの確認 授業：法律学の基礎 1：私たちの市民社会と「人間の尊厳」 復習：授業レジュメ・資料の再読と内容整理						
14	福王 守	【第 14 回】 予習：授業レジュメ・資料の購読およびキーワードの確認 授業：法律学の基礎 2：憲法に基づく国内社会と「個人の尊厳」 復習：授業レジュメ・資料の再読と内容整理						
15	福王 守	【第 15 回】 予習：授業レジュメ・資料の購読およびキーワードの確認 授業：法律学の基礎 3：国際法に基づく国際社会と「人権」 復習：授業レジュメ・資料の再読と内容整理						
授業開始前学習		各領域についての入門書を読んでおく授業が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出を求める場合は、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		とくに指定しない。必要に応じて適宜、資料を配布する。						
参考書		授業内で適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（50 %）、各担当者（5 名）による課題（50 %）をもとに総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	○	○	◎			
関連科目	教養教育科目の「心理学ⅠⅡ」「社会学ⅠⅡ」「法学」と関連し、「現代社会の論点」「メディアと社会」「人間関係入門」／「人間関係の基礎」（2 年前期、学科必修科目）をはじめ、人間関係学科の各専門教育科目への橋渡しとなる科目である。							
その他	「コミュニケーション」を共通の具体的研究事例に含めながら、5 名の教員によるオムニバス形式で進める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	HR-M-131	科目分類 (～2024 年 入学者)	112-330-12	授業コード	FB0240
科目名称	☆ファッションと文化			単位数	2.0 単位
英文名称	Fashion and Culture			授業区分	講義
科目責任者	三宅 真未			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 真未			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人々が何を「美しい」と捉えるのかは時代・文化・風習によって様々である。本授業では、主に西洋における古代から 19 世紀までの服飾の変遷を辿りながら、服飾が持つ社会的・文化的な意味を学び、衣服と美意識との関係性を探る。				
到達目標	多角的な視野から服飾の歴史を学び、服飾を学問として深めるための様々な切り口を知ることができる。また古代から 19 世紀までの西洋の服飾の歴史について、各時代の社会構造や文化を踏まえながら時系列的に説明することができるとともに、今日の身近な服飾に関わる事象についても分析する姿勢を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	三宅 真未	【第 1 回】 予習：「ファッション」とは何か考える 授業：オリエンテーション 復習：服飾にまつわる展覧会を調べる			
2	三宅 真未	【第 2 回】 予習：衣服の起源について考える 授業：衣服の起源 復習：授業内で扱った民族衣装をファッション辞典で引く			
3	三宅 真未	【第 3 回】 予習：「オートクチュール」の言葉の意味を調べておく 授業：オートクチュールとは 復習：オートクチュールのコレクションショーを調べる			
4	三宅 真未	【第 4 回】 予習：古代オリエント、ギリシャ、ローマの歴史や文化を把握しておく 授業：古代の服飾 復習：各地域の服装の形態・装飾を振り返り、整理する			
5	三宅 真未	【第 5 回】 予習：中世ヨーロッパの歴史を把握しておく 授業：中世の服飾 復習：中世ヨーロッパの衣服の形の変遷を振り返る			
6	三宅 真未	【第 6 回】 予習：身の回りにあるレースについて注意深く観察する 授業：ヨーロッパの手工レース 復習：授業内容を踏まえた上でレース装飾について再考する			
7	三宅 真未	【第 7 回】 予習：16 世紀のヨーロッパ史（主にスペイン・イギリス・フランス）を概観しておく 授業：近世ルネサンスの服飾① 復習：文化・思想とファッションの関わりについて再考する			
8	三宅 真未	【第 8 回】 予習：エリザベス 1 世の肖像画を調べる、エリザベス 1 世が統治していた時代のイギリス史を把握しておく 授業：近世ルネサンスの服飾② 復習：ルネサンス期に見られる特有の装飾をまとめる			
9	三宅 真未	【第 9 回】 予習：17 世紀のヨーロッパ史（主にオランダ・フランス）を概観しておく 授業：17 世紀バロックの服飾 復習：バロック期に見られる特有の服飾や美意識をまとめ、整理する			
10	三宅 真未	【第 10 回】 予習：18 世紀のヨーロッパ史（主にフランス）を概観しておく 授業：18 世紀ロココの服飾① 復習：ロココ様式の特徴を振り返り、服飾との関わりについて整理する			
11	三宅 真未	【第 11 回】 予習：マリー・アントワネットの肖像画を調べる、マリー・アントワネットにまつわる歴史上の出来事を把握しておく 授業：18 世紀ロココの服飾② 復習：18 世紀フランスの美意識とファッションを整理する			

12	三宅 真未	【第 12 回】 予習：世界各地でどのようなファッション誌があるかを調べておく、またそれらの特徴を把握しておく 授業：ファッション誌の起源から現代 復習：ファッション誌の変遷を振り返る、これからの雑誌のあり方について考察する						
13	三宅 真未	【第 13 回】 予習：19 世紀前期～中期のヨーロッパ史（主にフランス・イギリス）について概観する 授業：19 世紀前期～中期の服飾 復習：ロマンティック・スタイル、ダンディズムについて整理する						
14	三宅 真未	【第 14 回】 予習：19 世紀中期～後期のヨーロッパ史（主にフランス・イギリス）について概観する 授業：19 世紀中期～後期の服飾 復習：19 世紀中期～後期の女性服のシルエットの変遷、補正下着の意味について確認する						
15	三宅 真未	【第 15 回】 予習：これまでに配布した資料および授業内容を振り返っておく 授業：前期授業のまとめ 復習：「ファッション」とは何かを再考する						
授業開始前学習		授業内容をより理解するため、図書館所蔵の「西洋服飾史」関連図書を読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		最終レポートまでに全体で 2～3 回程度課題の提出を求める。課題の実施後には講評を行う。						
テキスト・教材		資料・プリントなどは、授業の中で適宜配布する。 また授業前にクラスルームであらかじめ資料をアップロードしておく場合もあるため、クラスルームへの登録が必須となる。						
参考書		深井晃子監修『カラー版 世界服飾史』（美術出版社） 深井晃子監修『ファッション辞典』（文化出版局）						
評価の基準と方法		提出物、授業態度などにより評価する。 最終レポート 60%、平常点（授業態度・課題提出）40%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	
関連科目								
その他		教科書を使用しないため、各回の配布物やパワーポイントが授業の資料となる。そのため毎回、パワーポイントの内容を各自で工夫してノートにまとめることが必要となる。そして課題や最終レポートの作成に役立てるようにすること。 また適宜、発言や簡単なディスカッションの機会を設ける。主体的かつ積極的に服飾事象について考えて欲しい。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	HR-M-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	112-330-12	授業コード	FB0280
科目名称	☆流行論			単位数	2.0 単位
英文名称	Trend theory			授業区分	講義
科目責任者	榎本 環			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10			研究室	10-716
授業概要	流行は、たんに服飾品・グッズなどのモノや、ブーム、トレンドのみにとどまらず、人びとの行動様式や考え方、嗜好などをも含む幅広い社会現象です。流行はまた、私たちのライフスタイルやアイデンティティ、コミュニケーション行動とも密接なつながりをもっています。その流行現象を、社会的にはどのように解読できるでしょうか。本講では人びとの日常生活のなかにあふれる流行現象を社会的観点から考察するとともに、流行をトピックとして、社会のなりたちを理論的に捉え返す思考力を習得してもらうことを目標とします。(個別具体的な流行アイテム(何が流行っているか)についての紹介・研究ではありません。授業の詳細については以下の各項目を熟読してください。)				
到達目標	次の 2 点を目標とします。 1. 流行現象のメカニズムについて理解する 2. 社会現象を理論的に解釈する思考力を身につける				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	榎本 環	【第 1 回】 予習 : シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : ガイダンスとイントロダクション、流行への関心とイメージ 復習 : Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認してください。			
2	榎本 環	【第 2 回】 予習 : 第 1 回の配布資料を再読し、授業運営についての質問があればまとめてください。 授業 : ファッションをめぐる神話 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。			
3	榎本 環	【第 3 回】 予習 : 「ファッション」の語義を調べてください。 授業 : ファッション、トレンド、消費行動 —— ファッションの社会的機能 (ディスカッション) 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。			
4	榎本 環	【第 4 回】 予習 : 「快樂消費」について調べてください。 授業 : <快樂消費> する社会 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。			
5	榎本 環	【第 5 回】 予習 : 「準拠集団」(社会学用語) について調べてください。 授業 : 流行品の意味と機能 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。			
6	榎本 環	【第 6 回】 予習 : 前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業 : 流行の成立とその特質 1 —— 発生と消滅 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。			
7	榎本 環	【第 7 回】 予習 : 「ファッド」(社会学用語) について調べてください。 授業 : 流行の成立とその特質 2 —— ファッド・サイクル 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。			
8	榎本 環	【第 8 回】 予習 : 「集合行動」(社会学用語) について調べてください。 授業 : 流行現象と集合行動 (グループワーク) 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。			
9	榎本 環	【第 9 回】 予習 : 「社会的資源」(社会学用語) について調べてください。 授業 : 流行現象とモード —— パターン・機能・意味 (課題解決型学習) 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。			
10	榎本 環	【第 10 回】 予習 : H.ブルーマーの「シンボリック相互作用論」(社会学用語) について調べてください。 授業 : モードの集成的操作 1 —— シンボリック相互作用 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。			

11	榎本 環	【第 11 回】 予習 : 前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業 : モードの集合的操作 2 —— 文化的コード 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
12	榎本 環	【第 12 回】 予習 : 「構築主義」(社会学用語) について調べてください。 授業 : モード操作とアイデンティティ —— 衣服と身体 (グループワーク) 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
13	榎本 環	【第 13 回】 予習 : 「業界団体」についてリサーチしてください。 授業 : 流行現象と社会変動 —— モードの社会的構築 (課題解決型学習) 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
14	榎本 環	【第 14 回】 予習 : 「マーケティング」についてリサーチしてください。 授業 : 広告とマーケティング 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
15	榎本 環	【第 15 回】 予習 : イタリアを代表するファッション・ブランドについてリサーチしてください。 授業 : 流行現象と産業システム (ディスカッション) 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
授業開始前学習		とくに事前学習の必要はありません。「社会学 I II」と併せて受講すると、授業内容がより理解しやすくなると思います。						
授業内課題のフィードバックの方法		Classroom へのコメント・質問等の投稿内容に対しては、次回の授業冒頭でリプライと補足説明を行います。課題提出を求める場合は次回に全体の講評を行い、個別の質問に回答します。						
テキスト・教材		とくに指定しません。毎回、レジュメを配布する予定です。						
参考書		土屋淳二、2009、『モードの社会学 上・下』(学文社) その他、授業内で随時、指示します。						
評価の基準と方法		平常点 (受講取組みの積極性) (60 %)、期末筆記試験 (40 %) により評価します。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	本講は、「ファッションと文化／服装と文化 I II」「セルフプロデュース」などで取り上げられる内容に対して、それらを流行現象のメカニズムという理論的視点から補足する位置づけとしても受講可能です。							
その他	双方向型の授業運営を基本形式とします。社会現象を理論的に考えることの知的面白さを伝えたいと思っています。できる限り、身の回りの具体例を示しながら、わかりやすい説明を心がけるつもりです。授業内容への質問やコメントなど積極的な参加取組みを期待します。他学科／他学類・他専攻の学生の履修も歓迎します。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	HR-M-131	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	FB0970
科目名称	メディアと心理			単位数	2.0 単位
英文名称	Media and Psychology			授業区分	講義
科目責任者	佐藤 広英			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 広英			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	マスメディアやソーシャルメディアは、我々の生活に浸透し、なくてはならないものとなっている。本授業では、心理学における各メディアに関する知見について学修する。特に、各メディアの使用が精神面におよぼす影響や、メディアの普及による対人関係の変容について学ぶことで、今後メディアをどのように活用していくのか考える機会をもつ。				
到達目標	心理学における各メディアに関する知見を説明できるようになる。学習した知見と、現代社会にみられる問題・現象との関連を指摘できるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	○
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	佐藤 広英	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：ガイダンス、メディアとは 復習：授業内容を振り返り、まとめる			
2	佐藤 広英	【第 2 回】 予習：メディアがどのように進化したかを考える 授業：メディアの変遷 復習：授業内容を振り返り、まとめる			
3	佐藤 広英	【第 3 回】 予習：我々がマスメディアから受ける影響について考える 授業：マスメディアの影響 復習：授業内容を振り返り、まとめる			
4	佐藤 広英	【第 4 回】 予習：我々が SNS から受ける影響について考える 授業：マスメディアから SNS へ 復習：授業内容を振り返り、まとめる			
5	佐藤 広英	【第 5 回】 予習：匿名性に関する社会問題にどのようなものがあるか考える 授業：インターネットと匿名性 復習：授業内容を振り返り、まとめる			
6	佐藤 広英	【第 6 回】 予習：プライバシーに関する社会問題にどのようなものがあるか考える 授業：インターネットとプライバシー 復習：授業内容を振り返り、まとめる			
7	佐藤 広英	【第 7 回】 予習：インターネット上に現れる自己がどのようなものか考える 授業：インターネットと自己 復習：授業内容を振り返り、まとめる			
8	佐藤 広英	【第 8 回】 予習：インターネットが我々の健康に与える影響を考える 授業：インターネットと健康 復習：授業内容を振り返り、まとめる			
9	佐藤 広英	【第 9 回】 予習：インターネットで攻撃的になる理由を考える 授業：インターネットと攻撃行動：手がかり濾過アプローチ 復習：授業内容を振り返り、まとめる			
10	佐藤 広英	【第 10 回】 予習：インターネットで攻撃的になる理由を再度考える 授業：インターネットと攻撃行動：自己注目アプローチ 復習：授業内容を振り返り、まとめる			
11	佐藤 広英	【第 11 回】 予習：インターネットでいじめや炎上が起こる理由を考える 授業：インターネットといじめ、炎上 復習：授業内容を振り返り、まとめる			

12	佐藤 広英	【第 12 回】 予習：超高齢社会におけるインターネットの役割について考える 授業：インターネットと超高齢社会 復習：授業内容を振り返り，まとめる						
13	佐藤 広英	【第 13 回】 予習：テレビ・ゲームが子供に与える影響について考える 授業：テレビ・ゲームの心理的影響：乳幼児への影響，学力への影響 復習：授業内容を振り返り，まとめる						
14	佐藤 広英	【第 14 回】 予習：テレビ・ゲームが子供に与える影響について再度考える 授業：テレビ・ゲームの心理的影響：社会性への影響，親の役割 復習：授業内容を振り返り，まとめる						
15	佐藤 広英	【第 15 回】 予習：ここまでの授業を振り返り，疑問点を整理する 授業：まとめ 復習：ここまでの授業を基に，自分のメディア利用を見直してみる						
授業開始前学習		ニュースや新聞を通じてメディアに関するさまざまな社会問題に触れておいてほしい。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業では毎回リアクションペーパーの提出を求める。次の授業冒頭で，質問・コメントへのフィードバックを行う。						
テキスト・教材		指定しない。						
参考書		適宜紹介する。						
評価の基準と方法		授業への取り組み 60%，期末レポート 40%とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		△	△	◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	HR-M-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	112-330-12	授業コード	FB0440
科目名称	☆ジェンダー論			単位数	2.0 単位
英文名称	Gender Studies			授業区分	講義
科目責任者	長野 慎一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長野 慎一			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義は、近代以降の日本社会を対象地域として、ジェンダーに関わる現象を実証的、かつ、理論的に解説する。講義全体は主に 3 つの議論からなる。(1) 性別分業社会が女性に対して強いる不平等・不自由の実態、(2) そのような状況をただす社会運動や公共政策の実態、(3) これらの実態を批判的に分析するための理論である。 聞きなれない用語などがあるかもしれませんが、かみ砕いて解説します。皆さんは、「女性だから〇〇するのは『当たり前』だ」という物言いに対して、「本当かな?」と感じて生きることができている世代だと思います。ジェンダー研究は、その「当たり前」が、個々の女性の意思を二の次にして、「社会の都合」によって生み出されてきたことを批判的に考える分野です。この講義では、どのように「当たり前」がつけられてきたか、そして、今、「当たり前」がどう修正されつつあるかを学んでいきます。そのことによって皆さんが感じているであろうことについて学問的な裏付けをしていきます。 皆さんは、ジェンダーに関連して、自らが解明したい現象や取り組みたい実践を常に意識してください。それが講義が受講者にとって有意義になるために必要です。授業では、Google Classroom で予めレジュメを配布するので、それを読んで予習して授業に臨んでください。授業後には、小レポートを作成し、Google Classroom で提出をしていただきたいと思います。				
到達目標	・ジェンダー・セクシュアリティに関する具体的現象を事実に基づいて理解し、その理解を表現できる。 ・ジェンダー・セクシュアリティに関する社会学的視点（理論や方法論）を活用して、具体的現象について理解し、その理解を表現できる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	長野 慎一	【第 1 回】 予習：シラバスを読む 授業：授業全体の流れを説明する。ジェンダー・セクシュアリティに関連して、学問において自らが解明したい現象、学問を生かしたい実践を考える。 復習：授業で何を学びたいか文章化してみる。			
2	長野 慎一	【第 2 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ジェンダーとしてのセックス：バトラーの理論をもとに、生物学的必然と思われるものが文化・社会的に作られている側面があるということを理解する 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。			
3	長野 慎一	【第 3 回】 予習：家族・親族に焦点を当て、「〇〇らしさ（男らしさ／女らしさ）」にまつわるエピソードをまとめる。 授業：「らしさ」がいかにつけられているかに関して意見交換を行い、家族・親族のあり方にどのような社会規範や社会制度のあり方が反映されているか皆で議論する 復習：授業の討論を踏まえ、自らがまとめたエピソードについて、客観的に分析する。小レポートとして提出する。			
4	長野 慎一	【第 4 回】 予習：労働（職場）に焦点を当て、「〇〇らしさ（男らしさ／女らしさ）」にまつわるエピソードをまとめる。 授業：「らしさ」がいかにつけられているかに関して意見交換を行い、労働（職場）のあり方にどのような社会規範や社会制度のあり方が反映されているか皆で議論する 復習：授業の討論を踏まえ、自らがまとめたエピソードについて、客観的に分析する。小レポートとして提出する。			
5	長野 慎一	【第 5 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：家族と職域（1）：高度経済成長期にいかん昭和型の性別分業が職場と家族に成立したかを理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する			
6	長野 慎一	【第 6 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：性別分業に抗った女性たち：住友電工訴訟を例に、性別分業が当り前の時代に職業生活を始めた女性がいかに職域での平等を求めて闘ったかを、理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する			
7	長野 慎一	【第 7 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：家族と職域（2）：「男女雇用機会均等法」「育児介護休業法」「男女共同参画基本法」などの成立に並行して、家族、教育、職場などにおいて、いかに「ポスト性別分業型の社会」が出現しつつあるかを理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。			

8	長野 慎一	【第 8 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ケア・ワーク（１）：現代社会においてもなおケア・ワーク（家族によるもの、社会によるものを問わず）の分担がいかに女性に偏っているかを確認する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する						
9	長野 慎一	【第 9 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ケア・ワーク（２）：ケア・ワークに対する公的支援体制（国・自治体による）を理解し、それが無い社会を想像し、そのような社会について自ら考える 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する						
10	長野 慎一	【第 10 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：理論（１）、マルクス主義フェミニズムの視点：家族内のケア・ワークを、「無償」で「女性」に行わせる社会のあり様を「搾取」として批判する視点を理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する						
11	長野 慎一	【第 11 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：理論（２）、ケア・フェミニズム：子ども、障がい者、高齢者などの必然的に誰かに依存させざるえない人のケアをする人に対して、社会的支援をおこなうべきことを、主張する政治・法哲学の議論を理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する						
12	長野 慎一	【第 12 回】 予習：パトラーのいう「ジェンダーとしてのセックス」と「ケア・フェミニズム」のレジュメを再度読んでおく。「ケア」という行為をもっぱら「女性」が行うべき必然性があるのか否かを自分なりに考え、文章化しておく。 授業：皆で意見を交換し、ケアの女性への社会により割り振りの妥当性について議論を行う 復習：授業での討論を振り返り、自分の考えを再吟味する。それを小レポートにする。						
13	長野 慎一	【第 13 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：女性とセクシュアリティ（１）、リプロダクティブ・ヘルス：妊娠という現象に潜む、女性の身体に対する社会的管理のあり様を学ぶ。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する						
14	長野 慎一	【第 14 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：女性とセクシュアリティ（２）、DV：親密な関係が形成される場で生じる暴力とジェンダーとの関係を理解する 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する						
15	長野 慎一	【第 15 回】 予習：これまでに配布したレジュメを読んでおく 授業：期末テストとテストの解説 復習：テストの解答内容について自ら振り返る（提出物はなし）						
授業開始前学習		レジュメを読む。必要に応じて文献を配るのでそれを読む。						
授業内課題のフィードバックの方法		①授業内でリアクションペーパーを書いてもらう。それに対してその場でコメントを行う。 ②授業後に、小レポートを Google Classroom で提出してもらう。それについて次回の授業でコメントを行う。						
テキスト・教材		なし。						
参考書		配布するレジュメで指示。						
評価の基準と方法		①期末テスト（100 点） ②小レポは期末テストに最大 20 点まで加点する。期末テストと小レポの素点の合計が 101 点を超えた段階で 100 点扱い。 ③単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		○	◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	HR-M-131 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	112-330-12 (J)	授業コード	FB0470
科目名称	☆サステナビリティ論			単位数	2.0 単位
英文名称	Sustainability Theory			授業区分	講義
科目責任者	浅岡 みどり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅岡 みどり			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	私たちの豊かな暮らしは、自然生態系の破壊と表裏一体です。近年の気候変動の加速は自然災害を多発、激甚化させ、私たちの生活を脅かしています。この先、自然と人間は共生していけるのでしょうか？本講義では、この問いを念頭に置きながら、身近な日常生活に見え隠れする環境問題を深掘りし、持続可能な社会を築いていくための想像力を養います。まず、環境とは何か、身近な環境問題には何があるかを考えます。次に地球環境問題や公害問題、自然災害、グローバルな食や農が抱える問題について知り、その対策として自然保護運動、環境教育、公害問題に関わる住民運動、食農教育などの市民活動・地域活動の事例とその課題を見ていきます。それらの社会の動きを参考に、消費者の立場から衣・食・住に潜む環境問題と持続可能性の課題を再発見し、身近な農業・地域・自然の課題として捉え直します。これら全講義を通して、環境問題やサステナビリティの課題について考え、その解決法を受講者とともに模索していきます。				
到達目標	環境問題をグローバルな視野を持ちつつローカルの視点で、一市民として、また自分事として捉える洞察力を鍛え身につけることが、本講義の到達目標となります。 ・環境問題を多角的に捉えられるようになる ・自らの持続可能性の課題に気づく ・消費者の立場から、生産者やそれを取り巻く自然環境への想像力を養う ・様々な市民活動から学び、自らの日常実践のヒントにする				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	浅岡 みどり	【第 1 回】 予習：身近な環境問題とは何か、自分の課題として何があげられるか考えてくる 授業：イントロダクションー本講義の方向性とねらいー 復習：本講義の環境問題へのアプローチの方法について復習しておく			
2	浅岡 みどり	【第 2 回】 予習：身近な環境問題の解決方法にどのようなものがあるか調べておく 授業：環境とは何か？環境問題とは何か？その解決法について 復習：自分の課題として捉える環境問題の解決方法の可能性を考える			
3	浅岡 みどり	【第 3 回】 予習：地球環境問題とは何か調べてくる 授業：地球環境問題と持続可能性（サステナビリティ） 復習：自分にとって持続可能性とは何か考え、地球環境問題とのかかわりを考える			
4	浅岡 みどり	【第 4 回】 予習：公害が人々や地域に与えた影響について調べておく 授業：公害問題と住民運動・農家の試み 復習：公害について知り、公害問題に対する住民運動とその地域の人々の農業を通じた試みについて理解を深めておく			
5	浅岡 みどり	【第 5 回】 予習：自然保護運動・環境教育・自然を生かしたビジネスにはそれぞれどのようなものがあるか調べておく 授業：自然保護運動・環境教育・自然を生かしたビジネス 復習：授業で扱った自然保護運動・環境教育の歴史的な流れ、自然を利用したビジネスの可能性について理解を深めておく			
6	浅岡 みどり	【第 6 回】 予習：消費と環境問題の関係について調べておく 授業：消費と環境問題 復習：授業で扱った環境教育・市民教育について理解を深めておく			
7	浅岡 みどり	【第 7 回】 予習：環境問題として考えられる食について調べておく 授業：食から考える環境問題 復習：食からみる環境問題を社会的に捉えてみる			

8	浅岡 みどり	【第 8 回】 予習：環境問題として考えられるファッションについて調べておく 授業：ファッションから考える環境問題 復習：ファッションからみる環境問題を社会的に捉えてみる						
9	浅岡 みどり	【第 9 回】 予習：環境問題として考えられる住環境について調べておく 授業：住環境から考える環境問題 復習：住環境からみる環境問題を社会的に捉えてみる						
10	浅岡 みどり	【第 10 回】 予習：伝統野菜、遺伝子組み換え種子、ゲノム編集の違いを調べておく 授業：伝統野菜の種と遺伝子組み換え種子・ゲノム編集 復習：農業の歴史と伝統野菜の種、遺伝子組み換え種子・ゲノム編集の現代的課題について復習しておく						
11	浅岡 みどり	【第 11 回】 予習：グローバルフードシステムとは何か、またその課題を調べておく 授業：グローバルフードシステムと格差ーファーストフードからオーガニック・フェアトレードまでー 復習：食をめぐる国際格差、経済格差、人種差について理解を深めておく						
12	浅岡 みどり	【第 12 回】 予習：農業が及ぼす環境問題と持続可能性について調べておく 授業：オルタナティブな農業とアグロエコロジー 復習：アグロエコロジーとはどういう試みが整理しておく						
13	浅岡 みどり	【第 13 回】 予習：地域の食と農の試みについて調べておく 授業：学校給食と食農菜園教育という試み 復習：食農教育の可能性について理解を深めておく						
14	浅岡 みどり	【第 14 回】 予習：身近な食・農に関係するマーケットと、食の公平性について調べておく 授業：都市における食・農・自然の関係と社会的弱者の課題について考え、公平性とマーケットの機能を考える。 復習：食・農・社会的弱者の課題とマーケットの可能性を確認する。						
15	浅岡 みどり	【第 15 回】 予習：これまで学んだ講義について復習しておく 授業：環境問題・サステナビリティの課題の解決と実践にむけて 復習：各講義を踏まえて、身近な環境問題の解決とその実践について考えをまとめる						
授業開始前学習		身近な環境問題・サステナビリティの課題について考え、その解決法としてどのようなものがあるか調べておいてください。						
授業内課題のフィードバックの方法		講義の前と後にリアクションペーパーにコメントを記入してもらいます。適宜、講義内で受講生にコメントの発表を求め、それに応答することで双方向性を確保します。						
テキスト・教材		適宜、レジュメ及び資料を配布します。						
参考書		『講座 環境社会学－自然環境と自然文化』第 3 巻（鳥越皓之編・有斐閣・2001） 『講座 環境社会学－環境運動と政策のダイナミズム』第 4 巻（長谷川公一編・有斐閣・2001） 『環境の社会学』（関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求著・有斐閣・2009） 『環境教育』（日本環境教育学会編・2012） 『食と農の社会学－生命と地域の視点から』（立川雅司・谷口吉光・梶形俊子著・ミネルヴァ書房・2014） 『食農で教育再生－保育園・学校から社会教育まで－』（鈴木善次（監修）朝岡幸彦・菊池陽子・野村卓（編著						
評価の基準と方法		最終レポート（50%）、リアクションペーパー（50%）						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目								
その他	講義でとりあげる課題や事例は、受講者の関心や社会状況等に合わせて、変更する場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	小・中・高校生に園芸・菜園教育指導の経験があり、実践的な内容を交えた講義をする。過去十年間、米国カリフォルニア州におけるオルタナティブな農業や食の国際的・地域的な実践の参与観察を行い、大学生研修の引率と通訳を行ってきた実務経験から先進的な事例を踏まえて講義を行う。							

科目分類（2025 年 ～入学者）		HR-M-131 （J）		科目分類（～2024 年 入学者）	112-330-12 （J）		授業コード	FB0430			
科目名称		☆文化人類学				単位数	2.0 単位				
英文名称		Anthropology				授業区分	講義				
科目責任者		春日 聡				必修・選択	履修ガイド参照				
担当教員		春日 聡				開講時期	2・3 年				
オフィスアワー		-				研究室	-				
授業概要		文化人類学は、私たちが現在暮らしている社会、人々、共同体、家族、社会構造などの比較を通して、自文化を再考することで固定的な考え方を相対化し、人間の本質を考えていく学問である。 本講義では、文献資料や静止画像（写真）からでは捉えることのできない「連続した時間の体験としての映像」によって、文化人類学の研究対象である「見えないもの」「聞こえないもの」について考える。一例を挙げると、映像は、時間も空間もいま・ここから隔たったものを映し出す。昔撮影された映像は、過去に見えていたものを現在ふたたび見えるようにする。現在見えているものは、やがて見えなくなる可能性がある。映像は、現在を残し、未来にふたたび見ることができるとの。もう一例を挙げると、文化人類学の研究対象としている宗教儀礼は、神仏霊の存在を中心に置いて行われる。あなたは、カミを見たことがあるだろうか？同じく研究対象にしている年中行事では、容易には目で捉えることのできない自然の変化の中にかと人間との接点を見出し、いく。本講義では、おもに「文化人類学における儀礼」に焦点を絞り映像を通して多角的に考察する。									
到達目標		「文化」を、その文化の枠組みで考えること、文化の諸要素の相互関係を重視し全体的にとらえる態度を養うこと、文化の違いをととして自らの立ち位置を検証できることを、到達目標とする。 すなわち、①イーミット（人々が現象をどう意識・識別しているかを内側から分析すること）な思考能力、②全体論的な思考能力、③文化の相対的な思考能力、以上の 3 点を身につける。 具体的には、おもに儀礼を対象とした映像によって映し出された「自文化」と「異文化」の比較、あるいは、事象の異質性と、背景に潜む普遍性を理解し、語るができる能力									
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数	15 回		メディア科目	－		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容								
1	春日 聡		【第 1 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「文化人類学」 授業：イントロダクション「人間と文化」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出								
2	春日 聡		【第 2 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「ジョン・マーシャル、チャールズ&レイ・イームズ」 授業：ここではないどこか「映像とは何か、民俗誌とは何か」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出								
3	春日 聡		【第 3 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「サイレント、トーキー」 授業：映像史を映像で学ぶ「動く画、シンクロする音」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出								
4	春日 聡		【第 4 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「日本の神々、一神教、多神教」 授業：日本列島における信仰「神仏習合」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出								
5	春日 聡		【第 5 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「遠藤周作／マーティン・スコセッシ『沈黙』」 授業：日本列島における信仰「キリスト教の受容」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出								
6	春日 聡		【第 6 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「年中行事」 授業：暦・記念的儀礼「農耕儀礼」～日本列島の民俗文化を中心に～・前 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出								
7	春日 聡		【第 7 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「年中行事」 授業：暦・記念的儀礼「農耕儀礼」～日本列島の民俗文化を中心に～・後 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出								
8	春日 聡		【第 8 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「人生儀礼」 授業：人生における段階「通過儀礼」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出								
9	春日 聡		【第 9 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「婚姻儀礼」 授業：人生における段階「婚姻儀礼」～日本列島の民俗文化を中心に～								

		復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出						
10	春日 聡	【第 10 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「死者儀礼」 授業：人生における段階「葬送儀礼」「送魂儀礼」・前 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出						
11	春日 聡	【第 11 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「死者儀礼」 授業：人生における段階「葬送儀礼」「送魂儀礼」・後 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出						
12	春日 聡	【第 12 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「シャーマニズム」 授業：治癒と公益の儀礼「シャーマニズム」・前 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出						
13	春日 聡	【第 13 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「無意識と創造性」 授業：治癒と公益の儀礼「シャーマニズム」・後 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出						
14	春日 聡	【第 14 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「宗教と世界観」 授業：宗教と世界観・前 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出						
15	春日 聡	【第 15 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「トランスナショナル時代における宗教と世界観」 授業：宗教と世界観・後 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、期末レポートの提出						
授業開始前学習		日常生活で現実的に出会う「異文化」や、テレビやインターネットなどのメディアを通して、自分とは異なる文化、習慣などに気づいたら、メモを取り、そのことについて考えておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		本講義では、Google Classroom を利用し、(1) 講義レジュメの各自への配付、(2) 講義を受講した後、次回授業前日までに提出するリアクションペーパーの配付と提出、(3) 講義で視聴する視聴覚資料の共有、以上をおこなう。提出されたリアクションペーパーの内容による適宜見直しをおこなう。また、必要に応じ記述内容を適宜、講義内で紹介してコメントする。						
テキスト・教材		毎回、講義レジュメ（掲示スライドのプリントアウト）を配付する。市販の書籍を教科書としては使用しない。参考資料（文献・Web サイト等）は、適宜配付レジュメに明記する。						
参考書		綾部恒雄・桑山敬己『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房 2006 同『詳論 文化人類学 基本と最新のトピックを深く学ぶ』ミネルヴァ書房 2018 祖父江孝男『文化人類学入門 <増補改訂版>』中央公論新社（中公新書）1990 波平恵美子『文化人類学 <カレッジ版>』第 2 版医学書院 2002						
評価の基準と方法		期末レポート(50%)、講義ごとに提出するリアクションペーパー(30%)、受講態度(20%)。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○		○			
関連科目								
その他		・講義資料として映像・音声資料を豊富に提示する。批判的に読み解いて欲しい。 ・受講者数や理解度により授業の予定を変更することもある。 ・授業開始時にカードリーダーによる出席登録だけで退室することは厳禁。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		担当教員は、フィールドワークに基づく民族誌映画の制作者である。映像と人間の関係および、映像と文化人類学の理論と実践における課題、可能性について講義する。						

科目分類 (2025 年 ～入学者)	HR-M-121 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	FB1010
科目名称	職業選択論			単位数	2.0 単位
英文名称	Career Choice Theory			授業区分	講義
科目責任者	小菅 清香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小菅 清香			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～17:50			研究室	10-503
授業概要	職業・進路選択は生涯のうちに複数回なされ、大学生という青年期もまた、自身の内面と自らを取り巻く社会へと目を向けながら、次なる段階へ進むための職業・進路選択場面といえる。本授業では大学生にとっての過去（中学校や高校での選択等）、現在（就職活動等）、未来（離転職や失業等）の職業・進路選択について心理学の観点から検討する。大学生の就職とキャリアに関する論点を適切に理解することで、自らや他者の職業・進路選択上の支援に役立てることを目指す。 授業内では実際に心理尺度を用いたワークの実施と受講生同士の意見交換を行うことで、多様なキャリアの在り方について主体的に理解できるように工夫する。				
到達目標	①青年期の位置づけを理解する ②生涯で起こる職業・進路選択とその課題について理解する ③生涯で起こる職業・進路選択上の課題に対する方策を立案する				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小菅 清香	予習：シラバスを読み、自身の進路選択を振り返る 授業：イントロダクション、関連科目と本科目の位置づけ 復習：授業を振り返り、課題に取り組む			
2	小菅 清香	予習：シラバスを読み、自身の大学進学にあたる選択を振り返る 授業：青年期のキャリア発達の特徴と理解の枠組み 復習：授業を振り返り、課題に取り組む			
3	小菅 清香	予習：キャリア発達上の自身の位置づけを考える 授業：職業とアイデンティティ 復習：授業を振り返り、課題に取り組む			
4	小菅 清香	予習：自身の高校での進路指導を振り返る 授業：職業・進路指導とキャリア教育 復習：授業を振り返り、課題に取り組む			
5	小菅 清香	予習：日常での選択パターンを振り返る 授業：意思決定 復習：授業を振り返り、課題に取り組む			
6	小菅 清香	予習：これまでとこれからの進路選択を考える 授業：進路未決定 復習：授業を振り返り、課題に取り組む			
7	小菅 清香	予習：フリーター・ニートに抱くイメージを言語化する 授業：フリーター・ニート 復習：授業を振り返り、課題に取り組む			
8	小菅 清香	予習：何のために働くのかについて言語化する 授業：職業観と労働観 復習：授業を振り返り、課題に取り組む			
9	小菅 清香	予習：高校生時にもっていた大学生生活の期待を振り返る 授業：リアリティ・ショック 復習：授業を振り返り、課題に取り組む			
10	小菅 清香	予習：高校生、大学生での働く経験を振り返る 授業：アルバイトとインターンシップ 復習：授業を振り返り、課題に取り組む			
11	小菅 清香	予習：就職活動に抱くイメージを言語化する 授業：就職活動（１） 復習：授業を振り返り、課題に取り組む			
12	小菅 清香	予習：就職活動で設定すべき目標と行動を考える 授業：就職活動（２） 復習：授業を振り返り、課題に取り組む			

13	小菅 清香	予習 : 仕事を辞めたときにどのような心理状態に陥るか想像する 授業 : 転職、離職、失業 復習 : 授業を振り返り、課題に取り組む						
14	小菅 清香	予習 : 職業における性差について自身がもつ考えを言語化する 授業 : 職業とジェンダー① 復習 : 授業を振り返り、課題に取り組む						
15	小菅 清香	予習 : 男女共同参画についてニュース等で調べる 授業 : 職業とジェンダー②、理解度の確認 復習 : 授業を振り返り、課題に取り組む						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		授業毎に課題やコメント（質問・感想）の提出機会を設ける。提出された内容は、翌週の授業冒頭で匿名にて受講者全体にフィードバックする。						
テキスト・教材		白井 利明編著『よくわかる青年心理学[第2版] やわらかアカデミズム・わかるシリーズ』（ミネルヴァ書房） 武田 明典編著『自己理解の心理学』（北樹出版）						
参考書		参考文献は、随時紹介する。						
評価の基準と方法		受講毎の課題提出（70%）、試験（30%）により総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○		
関連科目		キャリアデザイン1、ライフコースの心理学						
その他		授業内に実施するワーク（個人・ペア・グループ）への積極的な参加を求める。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		EAP 関連会社や独立行政法人 労働政策研究・研修機構（当時：キャリア支援部門）での実務経験、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター（当時：災害時こころの情報支援センター）および厚生労働省委託事業 DPAT 事務局での多職種連携、国家資格キャリアコンサルタント試験の合格実績がある。これらの経験をふまえて、適宜事例などを紹介しながら講義を行う。						

科目分類（2025 年 ～入学者）	HR-M-131	科目分類（～2024 年 入学者）			授業コード	FB1020
科目名称	モチベーションの心理学				単位数	2.0 単位
英文名称	The Psychology of Motivation				授業区分	講義
科目責任者	倉住 友恵				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵				開講時期	1・2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50				研究室	10-618
授業概要	本授業は、人間の行動を引き起こし、方向づけ、持続させる力としての「モチベーション（動機づけ）」について多様な観点から理解することを目的とします。モチベーションに関する主要な理論（報酬と罰、自己決定理論、期待価値理論、目標理論など）や概念を学び、どのようなモチベーションで臨むことがより良い結果と結びつくのか検討します。また、各理論や概念が実生活や仕事、教育、健康、スポーツなどの場面でどのように活かされているかを紹介します。講義だけでなくグループワークやホームワークを行うことで、知識を実践的に応用する力を養います。					
到達目標	以下の 5 点を到達目標とする。 1．主要なモチベーションに関する心理学理論とその特徴を説明できる 2．異なる理論を比較し、それぞれの長所や限界を批判的に評価できる 3．モチベーションに関する理論を教育、職場、健康、スポーツなどの現実の課題に適用し、問題解決のための戦略を提案できる 4．自身のモチベーションの特徴について理解を深める 5．他者の行動や学習を促進するために、適切な動機づけ方略や働きかけを立案し、実行できる					
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	倉住 友恵	予習：やる気に関する素朴な疑問を考える 授業：オリエンテーション、モチベーション（動機づけ）とは 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる				
2	倉住 友恵	予習：ごほうびはどのような効果をもたらすか複数の視点から考えてみる 授業：報酬と罰がもたらす影響（行動理論） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる				
3	倉住 友恵	予習：楽しくて思わずしてしまう行動を思い出す 授業：楽しいと思うことの重要性（子どもの動機づけ、内発的動機づけ・外発的動機づけ） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる				
4	倉住 友恵	予習：あなたが行動する理由を考えて、理由を 10 個挙げる 授業：楽しい以外のやる気の引き起こし方（自己決定理論） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる				
5	倉住 友恵	予習：「きっとやればできる」と思える行為を複数考えてみる 授業：自分にもできる気がするって大事（自己効力感、期待－価値理論） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる				
6	倉住 友恵	予習：1 週間で達成できそうな目標を立ててみる 授業：どのような目標を設定すれば良いのか（目標達成理論） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる				
7	倉住 友恵	予習：思わず没頭してしまっ時の身体や心の感覚を思い返す 授業：没頭するってどういうこと？（感情・欲求と動機づけ、フロー体験、欲求階層説） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる				
8	倉住 友恵	予習：普段意識せずにしている行動を 5 つ挙げる 授業：無意識のうちに行動が決まる？（自動化、脳と動機づけ） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる				
9	倉住 友恵	予習：普段どのようにしてモチベーションを上げているか考える 授業：どうしたら勉強を頑張れるのか？（自己調整学習、自己動機づけ方略） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる				
10	倉住 友恵	予習：どのような先生のもとで学ぶとやる気が高まったか思い返す 授業：モチベーションを引き出す環境とは？（目標構造、社会的伝播理論、発達の最近接領域） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる				
11	倉住 友恵	予習：他者と比べた結果やる気が出た時、反対にやる気がなくなった時を思い返す 授業：他者と比較してしまう私…（評価とやる気、社会的比較、承認欲求、理想自己） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる				

12	倉住 友恵	予習：自分はどうな性格なのか、その性格を踏まえると何に向いているのか考える 授業：私の性格に合ったモチベーションとは？（性格と動機づけ、適正処遇交互作用） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる						
13	倉住 友恵	予習：将来どのようになりたいか、それと自分の過去や現在はどうに結びつくのか考えてみる 授業：将来をどのように考えるのか（時間的展望、展望地図法） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる						
14	倉住 友恵	予習：どのような時にやる気がなくなってしまうか考える 授業：やる気がなくなるのはなぜ？（学習性無力感、原因帰属） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる						
15	倉住 友恵	予習：学習性無力感を克服するにはどうすれば良いか考える 授業：モチベーションを取り戻す方法（再帰属訓練、セルフコンパッション）、総括 復習：すべての授業を振り返り、動機づけについて理解を深める						
授業開始前学習		意欲ややる気に関する一般書を読んでもらうこと、自分自身がどのような時にやる気が出て、どのような時にやる気を失いやすいか振り返ってみることが有効である。						
授業内課題のフィードバックの方法		リアクションペーパーや課題を課した際には、翌週にフィードバックや講評をする。						
テキスト・教材		特に指定しない。						
参考書		授業内に適宜紹介する。						
評価の基準と方法		授業態度および授業内課題（60%）、学期末試験（40%）で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	△	○	○
関連科目	教育心理学、心理学諸科目							
その他	理解を深めるために他者との意交換を行う場合があるが、その際には積極的、主体的に参加することを望む。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		HR-M-121	科目分類（～2024 年 入学者）		112-330-12	授業コード	FB0400
科目名称		☆広告と消費社会				単位数	2.0 単位
英文名称		Advertising and Consumer Society				授業区分	講義
科目責任者		楠田 恵美				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		楠田 恵美				開講時期	2・3 年
オフィスアワー		前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 14:40～16:10 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 14:40～16:10				研究室	10-612
授業概要		消費社会を生きる私たちにとって広告とは何だろうか？授業の前半では、広告をつくり公開する目的、広告の種類、広告のもつ影響力など、広告についての基礎知識を身に付ける。授業の後半では、具体例として新聞広告、雑誌広告、フリーペーパー、インターネット広告等様々な種類の広告を取り上げ、それらを読み解いていくとともに、社会のなかで広告がどのように発信され、受容されているかを明らかにする。					
到達目標		広告を受け身で捉えるのではなく、その背景となる製作プロセス、産業構造、送り手と受け手との関係性などを意識しながら多面的に捉える視点を学び、さらには広告から文化や社会を捉える力を養う。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	○	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	楠田 恵美	【第 1 回】 予習：広告について批判的／親和的な意見をそれぞれ書き出す 授業：イントロダクション／広告とは何か（ディスカッション） 復習：広告とは何かを自分なりに説明できるようにする					
2	楠田 恵美	【第 2 回】 予習：広告が社会に及ぼす影響について具体例を書き出す 授業：広告の機能（ディスカッション） 復習：広告がもつ 4 つの機能を確認する					
3	楠田 恵美	【第 3 回】 予習：広告にはどのような種類があるかできるだけ多くリストアップする 授業：広告の種類・分類（ディスカッション） 復習：広告の種類や分類を確認する					
4	楠田 恵美	【第 4 回】 予習：広告戦略の優れている企業を挙げ、その理由を説明する 授業：広告を用いたビジネスモデル（ディスカッション） 復習：広告戦略の優れている企業の経費全体のうちに占める広告費の割合を調べる					
5	楠田 恵美	【第 5 回】 予習：広告会社にはどのような会社があるか調べる 授業：広告の製作（ディスカッション） 復習：広告主と広告会社の関係性・分担を理解する					
6	楠田 恵美	【第 6 回】 予習：これからの広告業界に求めるものは何か書き出す 授業：広告産業・業界（ディスカッション） 復習：これからの広告業界の課題について整理する					
7	楠田 恵美	【第 7 回】 予習：特になし 授業：映画鑑賞（１）『トゥルーマン・ショー』【課題シートあり】 復習：課題シートを記入するほか、気づいた点、印象深かった点をメモする					
8	楠田 恵美	【第 8 回】 予習：前回までのストーリーでわかりづかった点や疑問点があれば質問の準備をする 授業：映画鑑賞（２）『トゥルーマン・ショー』【課題シートあり】 復習：広告という切り口から本映画について論じる					
9	楠田 恵美	【第 9 回】 予習：新聞広告の特異性について考える 授業：新聞広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する					
10	楠田 恵美	【第 10 回】 予習：雑誌広告の特異性について考える 授業：雑誌広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する					
11	楠田 恵美	【第 11 回】 予習：フリーペーパーの特異性について考える 授業：フリーペーパーの分析を行う（グループワーク）					

		復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する						
12	楠田 恵美	【第 12 回】 予習：交通・屋外広告の特異性について考える 授業：交通・屋外広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する						
13	楠田 恵美	【第 13 回】 予習：インターネット広告の特異性について考える 授業：インターネット広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する						
14	楠田 恵美	【第 14 回】 予習：SNS を用いた広告の特異性について考える 授業：SNS 広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する						
15	楠田 恵美	【第 15 回】 予習：特定の企業・組織の広告戦略について考える 授業：企業・組織の広告戦略 復習：これまでの授業を振り返り、総合的に広告についての理解を深める						
授業開始前学習		意識的に身の回りの広告を見つけ、分析する習慣をつけておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		回収した課題に対しては、授業中または次回授業開始前に採点結果を返却するとともに必要に応じて追加指導を行う。						
テキスト・教材		前半は、波田浩之『新版 広告の基礎』（日本実業出版社）2018 年を適宜参考にしながら授業を進める。 後半は、映画『トゥルーマン・ショー』を鑑賞するとともに個別具体的な広告をパワーポイントで映写・上映、分析する。						
参考書		必要に応じて授業中に紹介する。						
評価の基準と方法		授業態度 20%、授業内課題 40%、授業評価課題 40%により評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	メディアと社会／情報社会と人間関係							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	HR-M-133 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	110-330-22 (J)	授業コード	FD0040
科目名称	☆身体文化実習Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Physical Culture Training I			授業区分	実験・実習
科目責任者	別所 るみ子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	別所 るみ子			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	しなやかな身体で美しく舞うバレエ、その基本的な練習を通して、美しい姿勢、身のこなしを学びます。 日常生活のなかで役立つバレエの美しい要素～立ち方、首・背中への伸ばし方など～を習得します。 実技を中心とした授業。毎回、基礎的な内容を練習し、課題曲では作品を踊る楽しさを大切にします。 バレエの歴史や著名な作品、鑑賞する際に役立つ事柄を学び、バレエの芸術的な要素への理解を深めます。 バレエ未経験者を対象とした授業内容ですが、バレエ経験者の履修も歓迎します。				
到達目標	自分の身体に対する意識を高め、美しい姿勢を日常的に心がけること。 バレエの基本練習と課題曲を踊る経験を通して、また、バレエの歴史や著名な作品を学ぶことで、バレエの芸術的な要素を理解すること。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	別所 るみ子	【第 1 回】 予習：「バレエ」という言葉からイメージするもの・ことを考える 授業：授業内容の説明と履修上の諸注意。ストレッチ、バレエの基本姿勢、脚・腕の基本ポジション（実習） 復習：ストレッチ、バレエの基本姿勢、脚・腕の基本ポジション			
2	別所 るみ子	【第 2 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本ポジション 授業：バレエの歴史概要。バーレッスン～脚の使い方を重点的に。日常生活での美しい姿勢・歩き方（実習） 復習：バレエの歴史概要確認。授業内容をエクササイズ名を確認して復習			
3	別所 るみ子	【第 3 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本ポジション 授業：バレエ作品概要。バーレッスン～腕の使い方を重点的に。センターレッスン～空間・方向（実習） 復習：バレエ作品の動画を観る。授業内容をエクササイズ名を確認して復習			
4	別所 るみ子	【第 4 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：3 大バレエ作品概要。バーレッスン～上体・首の使い方を重点的に。センターレッスン～バランス・方向（実習） 復習：3 大バレエ作品動画を観る。授業内容をエクササイズ名を確認して復習			
5	別所 るみ子	【第 5 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：世界のバレエ団概要。バー & センターレッスン～ワルツをテーマに（実習） 復習：有名なバレエ団の劇場、バレエ作品動画を観る。授業内容をエクササイズ名を確認して復習。			
6	別所 るみ子	【第 6 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：バー & センターレッスン～回転を重点的に。日常生活での美しい姿勢・歩き方（実習） 復習：授業内容を確認して復習、回転の首のつけ方			
7	別所 るみ子	【第 7 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：課題曲の説明。バー & センターレッスン～課題曲の前半パート練習（実習） 復習：課題曲の振付、授業内容を確認して復習			
8	別所 るみ子	【第 8 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：バー & センターレッスン～課題曲の前半・後半パート練習（実習） 復習：課題曲の振付を覚えるよう練習、授業内容を確認して復習			
9	別所 るみ子	【第 9 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：バー & センターレッスン～課題曲の後半パート練習（実習） 復習：課題曲の振付を覚えるよう練習、授業内容を確認して復習			
10	別所 るみ子	【第 10 回】 予習：ストレッチ、課題曲の振付を練習 授業：バー & センターレッスン～課題曲の細部を丁寧に練習、日常生活での美しい姿勢・歩き方（実習）			

		復習：課題曲を音楽によって踊れるよう振付を覚えて練習、授業内容を確認して復習							
11	別所 るみ子	【第 11 回】 予習：ストレッチ、課題曲：動く方向、身体の向き、顔の向き、腕の使い方を工夫して練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲の細部を丁寧に練習した後、通して練習（実習） 復習：課題曲を音楽によって踊れるよう振付を覚えて練習、授業内容を確認して復習							
12	別所 るみ子	【第 12 回】 予習：ストレッチ、課題曲：動く方向、身体の向き、顔の向き、腕の使い方を工夫して練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲を通して練習。各自のスマホで動画撮影（実習） 復習：自分の動画を確認、課題曲を音楽とともに表現を深めて踊れるよう練習							
13	別所 るみ子	【第 13 回】 予習：ストレッチ、課題曲～動く方向、身体の向き、顔の向き、腕の使い方を確認し練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲を通して練習。発表 1 回目。各自のスマホで動画撮影（実習・発表） 復習：自分の動画を確認、課題曲を音楽とともに表現を深めて踊れるよう練習							
14	別所 るみ子	【第 14 回】 予習：発表 1 回目よりも良くなるように、細かい部分～動く方向、身体・顔の向き、腕の使い方を再確認し練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲を通して練習。発表 2 回目。各自のスマホで動画撮影（実習・発表） 復習：自分の動画を観て確認							
15	別所 るみ子	【第 15 回】 予習：ストレッチ、授業 1 回～14 回に学んだことをふり返る。 授業：バー＆センターレッスン、日常生活での美しい姿勢・歩き方、授業のまとめ（実習） 復習：バレエから学んだことを日常生活に取り入れ自分のものにする。美しい姿勢を常に心がける							
授業開始前学習		Wikipedia「バレエ」を読むと授業の理解が深まる。バレエ作品の動画を YouTube などで観る。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題は個別にフィードバックし、返却時に全体の講評を行う。							
テキスト・教材		授業内容に関連したドキュメントを、GWE クラスルームに掲示、およびプリントして配布する。							
参考書		授業期間中に数冊紹介する。							
評価の基準と方法		平常点（授業に対する積極性・授業態度）40 点、提出課題 40 点、課題曲 20 点							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○			◎	◎
関連科目									
その他		◆バレエシューズが必要。購入希望者は授業 1 回目にサンプルを試したうえで購入を申込み、授業 2 回目に受取る。 ◆バレエ用練習着または体操服など、動きやすい服装、髪型で出席すること。 ◆バレエの上手下手ではなく、真剣に学ぶ姿勢、個人の努力を重視する。 ◆バレエ用語は、日本のバレエクラスで一般的に使われている言葉を使用する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		豪徳寺ダンススクール、毎日新聞カルチャーセンター、企業研修プログラムなどで指導した経験を活かして、初心者から経験者まで楽しく取り組めるよう構成している。舞踊家として国内外で舞台、映画に多数出演、表現に関わる現場の視点も交えて指導にあたる。							

基礎ゼミ I

科目分類 (2025 年 ～入学者)	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F00031
科目名称	基礎ゼミ I			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar I			授業区分	演習
科目責任者	明田川 紀彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	明田川 紀彦			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-707
授業概要	基礎ゼミは、1 年次に開講されるゼミです。ゼミは、主に 3 年次や 4 年次に開講される専門性の高い授業であり、大学で開講されるさまざまな授業の中でも、その大学の特徴が最も表れる重要な授業です。現在では多くの大学で 1 年次にゼミが開講されていますが、本学では 1993 年の開学以来開講している大切な授業です。 基礎ゼミでは、大学での学びを充実させるための基礎的な学習方法や技術、姿勢を養い、個々のテーマをめぐって発表や議論を行うことを通じて、大学で学ぶ意義についての理解を深めます。また、自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に主体的に取り組む姿勢を養います。さらに、自己理解と認識を深めるとともに、少人数クラスでの対話を通じて、調査・整理・他者への的確な伝達技術を習得することも目指します。				
到達目標	大学生として、大学の学びについて理解し、学んだ学修スキルをさまざまな科目や今後の大学生活に活かすことができるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	明田川 紀彦	【第 1 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料確認しておく 授業：ガイダンス（自己紹介・大学の学び・ノートの取り方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
2	明田川 紀彦	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（学生生活とトラブルについて） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
3	明田川 紀彦	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（学内紹介） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
4	明田川 紀彦	【第 4 回】（合同授業） 予習：予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び①（～学生生活と学生相談について～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
5	明田川 紀彦	【第 5 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（論理的に考える・問いを立てる）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
6	明田川 紀彦	【第 6 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：図書館の使い方（資料文献の探し方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
7	明田川 紀彦	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（文献・資料の探し方）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
8	明田川 紀彦	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（AI の活用）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
9	明田川 紀彦	【第 9 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び②（～子供から大人へ～）			

		復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
10	明田川 紀彦	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方①）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
11	明田川 紀彦	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
12	明田川 紀彦	【第 12 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方③・発表の仕方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
13	明田川 紀彦	【第 13 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる						
14	明田川 紀彦	【第 14 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる						
15	明田川 紀彦	【第 15 回】 予習：この半期の授業内容を振り返っておく 授業：前期の振り返り（期末レポートの説明） 復習：期末レポート作成に向け、発表内容を含めまとめる						
授業開始前学習		シラバスや学生生活ガイドを熟読しておく						
授業内課題のフィードバックの方法		授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する						
テキスト・教材		GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する						
参考書		適時紹介する						
評価の基準と方法		課題点 6 0 %（レポートおよび提出物）および平常点 4 0 %（発表を含む）により総合的に評価する						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目		基礎ゼミⅡ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ						
その他		ガイダンスや心理学の学びにおいて合同授業を実施する						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	GJ-M-112	科目分類（～2024 年 入学者）	100-110-21	授業コード	F00032		
	HR-M-112						
	PS-M-112						
	CT-L-112						
科目名称	基礎ゼミ I			単位数	1.0 単位		
英文名称	Freshmen Seminar I			授業区分	演習		
科目責任者	奥野 真之			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	奥野 真之			開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-713		
授業概要	基礎ゼミは、1 年次に開講されるゼミです。ゼミは、主に 3 年次や 4 年次に開講される専門性の高い授業であり、大学で開講されるさまざまな授業の中でも、その大学の特徴が最も表れる重要な授業です。現在では多くの大学で 1 年次にゼミが開講されていますが、本学では 1993 年の開学以来開講している大切な授業です。 基礎ゼミでは、大学での学びを充実させるための基礎的な学習方法や技術、姿勢を養い、個々のテーマをめぐって発表や議論を行うことを通じて、大学で学ぶ意義についての理解を深めます。また、自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に主体的に取り組む姿勢を養います。さらに、自己理解と認識を深めるとともに、少人数クラスでの対話を通じて、調査・整理・他者への的確な伝達技術を習得することも目指します。						
到達目標	大学生として、大学の学びについて理解し、学んだ学修スキルをさまざまな科目や今後の大学生活に活かすことができるようになる						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	奥野 真之	【第 1 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料確認しておく 授業：ガイダンス（自己紹介・大学の学び・ノートの取り方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
2	奥野 真之	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（学生生活とトラブルについて） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
3	奥野 真之	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（学内紹介） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
4	奥野 真之	【第 4 回】（合同授業） 予習：予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び①（～学生生活と学生相談について～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
5	奥野 真之	【第 5 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（論理的に考える・問いを立てる）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
6	奥野 真之	【第 6 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：図書館の使い方（資料文献の探し方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
7	奥野 真之	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（文献・資料の探し方）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
8	奥野 真之	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（AI の活用）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
9	奥野 真之	【第 9 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び②（～子供から大人へ～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					

10	奥野 真之	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方①）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
11	奥野 真之	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
12	奥野 真之	【第 12 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方③・発表の仕方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
13	奥野 真之	【第 13 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる						
14	奥野 真之	【第 14 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる						
15	奥野 真之	【第 15 回】 予習：この半期の授業内容を振り返っておく 授業：前期の振り返り（期末レポートの説明） 復習：期末レポート作成に向け、発表内容を含めまとめる						
授業開始前学習		シラバスや学生生活ガイドを熟読しておく						
授業内課題のフィードバックの方法		授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する						
テキスト・教材		GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する						
参考書		適時紹介する						
評価の基準と方法		課題点 6 0 %（レポートおよび提出物）および平常点 4 0 %（発表を含む）により総合的に評価する						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目	基礎ゼミⅡ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ							
その他	ガイダンスや心理学の学びにおいて合同授業を実施する							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	GJ-M-112	科目分類（～2024 年 入学者）	100-110-21	授業コード	F00033		
	HR-M-112						
	PS-M-112						
	CT-L-112						
科目名称	基礎ゼミ I			単位数	1.0 単位		
英文名称	Freshmen Seminar I			授業区分	演習		
科目責任者	米金 孝雄			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	米金 孝雄			開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40～12:10～13:00 木曜日 10:00～ 10:40～12:10～13:00			研究室	10-711		
授業概要	基礎ゼミは、1 年次に開講されるゼミです。ゼミは、主に 3 年次や 4 年次に開講される専門性の高い授業であり、大学で開講されるさまざまな授業の中でも、その大学の特徴が最も表れる重要な授業です。現在では多くの大学で 1 年次にゼミが開講されていますが、本学では 1993 年の開学以来開講している大切な授業です。 基礎ゼミでは、大学での学びを充実させるための基礎的な学習方法や技術、姿勢を養い、個々のテーマをめぐって発表や議論を行うことを通じて、大学で学ぶ意義についての理解を深めます。また、自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に主体的に取り組む姿勢を養います。さらに、自己理解と認識を深めるとともに、少人数クラスでの対話を通じて、調査・整理・他者への的確な伝達技術を習得することも目指します。						
到達目標	大学生として、大学の学びについて理解し、学んだ学修スキルをさまざまな科目や今後の大学生活に活かすことができるようになる						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	米金 孝雄	【第 1 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料確認しておく 授業：ガイダンス（自己紹介・大学の学び・ノートの取り方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
2	米金 孝雄	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（学生生活とトラブルについて） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
3	米金 孝雄	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（学内紹介） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
4	米金 孝雄	【第 4 回】（合同授業） 予習：予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び①（～学生生活と学生相談について～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（論理的に考える・問いを立てる）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
6	米金 孝雄	【第 6 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：図書館の使い方（資料文献の探し方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（文献・資料の探し方）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（AI の活用）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					
9	米金 孝雄	【第 9 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び②（～子供から大人へ～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる					

10	米金 孝雄	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方①）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
11	米金 孝雄	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
12	米金 孝雄	【第 12 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方③・発表の仕方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
13	米金 孝雄	【第 13 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる						
14	米金 孝雄	【第 14 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる						
15	米金 孝雄	【第 15 回】 予習：この半期の授業内容を振り返っておく 授業：前期の振り返り（期末レポートの説明） 復習：期末レポート作成に向け、発表内容を含めまとめる						
授業開始前学習		シラバスや学生生活ガイドを熟読しておく						
授業内課題のフィードバックの方法		授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する						
テキスト・教材		GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する						
参考書		適時紹介する						
評価の基準と方法		課題点 6 0 %（レポートおよび提出物）および平常点 4 0 %（発表を含む）により総合的に評価する						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目	基礎ゼミⅡ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ							
その他	ガイダンスや心理学の学びにおいて合同授業を実施する							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)		GJ-M-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F00081		
		HR-M-112						
		PS-M-112						
		CT-L-112						
科目名称		基礎ゼミⅡ			単位数	1.0 単位		
英文名称		Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習		
科目責任者		明田川 紀彦			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員		明田川 紀彦			開講時期	1 年		
オフィスアワー		前期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-707		
授業概要		「基礎ゼミⅠ」に引き続き、少人数の対話型議論を通じて、大学での主体的・協働的な学びに関わる方法・技術・姿勢を培うことを目指します。さらに、特にキャリア形成能力の育成を目指し、キャリア形成に関する基本的な知識の習得や、さまざまな先達の歩みに関する学びを通じて、自身のキャリアについて自律的に設計することを促します。						
到達目標		大学生として、大学の学びについて理解し、学んだ学修スキルをさまざまな科目や今後の大学生活に活かすことができるようになる						
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	明田川 紀彦	【第 1 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料確認しておく 授業：ガイダンス (成績について・専門の授業の履修について) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
2	明田川 紀彦	【第 2 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス (ICT と大学の学び・映像表現と心理) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
3	明田川 紀彦	【第 3 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び③ (～学生生活と学校～) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
4	明田川 紀彦	【第 4 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス (大学生メイクのこころえ) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
5	明田川 紀彦	【第 5 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め (テレビ番組と心理表現) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
6	明田川 紀彦	【第 6 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め (文献の読み方①) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
7	明田川 紀彦	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：研究活動 (文献の読み方②) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
8	明田川 紀彦	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：研究活動 (文献の読み方③) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
9	明田川 紀彦	【第 9 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び④ (～組織とハラスメント～) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
10	明田川 紀彦	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備 (プレゼンテーションの方法①) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						

11	明田川 紀彦	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
12	明田川 紀彦	【第 12 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法③）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
13	明田川 紀彦	【第 13 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる						
14	明田川 紀彦	【第 14 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる						
15	明田川 紀彦	【第 15 回】 予習：この半期の授業内容を振り返っておく 授業：1 年間のふりかえり（期末レポートの説明） 復習：期末レポート作成に向け、発表内容を含めまとめる						
授業開始前学習		「基礎ゼミⅠ」を振り返っておく						
授業内課題のフィードバックの方法		授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する						
テキスト・教材		GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する						
参考書		適時紹介する						
評価の基準と方法		課題点 60%（レポートおよび提出物）および平常点 40%（発表を含む）により総合的に評価する						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目		基礎ゼミⅠ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ						
その他		ガイダンスや心理学の学びにおいて合同授業を実施する						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F00082
科目名称	基礎ゼミⅡ	単位数	1.0 単位		
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ	授業区分	演習		
科目責任者	奥野 真之	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	奥野 真之	開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-713		
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に引き続き、少人数の対話型議論を通じて、大学での主体的・協働的な学びに関わる方法・技術・姿勢を培うことを目指します。さらに、特にキャリア形成能力の育成を目指し、キャリア形成に関する基本的な知識の習得や、さまざまな先輩の歩みに関する学びを通じて、自身のキャリアについて自律的に設計することを促します。				
到達目標	大学生として、大学の学びについて理解し、学んだ学修スキルをさまざまな科目や今後の大学生活に活かすことができるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	奥野 真之	【第 1 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料確認しておく 授業：ガイダンス (成績について・専門の授業の履修について) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
2	奥野 真之	【第 2 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス (ICT と大学の学び・映像表現と心理) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
3	奥野 真之	【第 3 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び③ (～学生生活と学校～) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
4	奥野 真之	【第 4 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス (大学生メイクのこころえ) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
5	奥野 真之	【第 5 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め (テレビ番組と心理表現) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
6	奥野 真之	【第 6 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め (文献の読み方①) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
7	奥野 真之	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：研究活動 (文献の読み方②) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
8	奥野 真之	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：研究活動 (文献の読み方③) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
9	奥野 真之	【第 9 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び④ (～組織とハラスメント～) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
10	奥野 真之	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備 (プレゼンテーションの方法①) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			

11	奥野 真之	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
12	奥野 真之	【第 12 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法③）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
13	奥野 真之	【第 13 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる						
14	奥野 真之	【第 14 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる						
15	奥野 真之	【第 15 回】 予習：この半期の授業内容を振り返っておく 授業：1 年間のふりかえり（期末レポートの説明） 復習：期末レポート作成に向け、発表内容を含めまとめる						
授業開始前学習		「基礎ゼミⅠ」を振り返っておく						
授業内課題のフィードバックの方法		授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する						
テキスト・教材		GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する						
参考書		適時紹介する						
評価の基準と方法		課題点 60%（レポートおよび提出物）および平常点 40%（発表を含む）により総合的に評価する						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目		基礎ゼミⅠ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ						
その他		ガイダンスや心理学の学びにおいて合同授業を実施する						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-21	授業コード	F00083
科目名称	基礎ゼミⅡ	単位数	1.0 単位		
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ	授業区分	演習		
科目責任者	米金 孝雄	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	米金 孝雄	開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40～12:10～13:00 木曜日 10:00～10:40～12:10～13:00	研究室	10-711		
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に引き続き、少人数の対話型議論を通じて、大学での主体的・協働的な学びに関わる方法・技術・姿勢を培うことを目指します。さらに、特にキャリア形成能力の育成を目指し、キャリア形成に関する基本的な知識の習得や、さまざまな先達の歩みに関する学びを通じて、自身のキャリアについて自律的に設計することを促します。				
到達目標	大学生として、大学の学びについて理解し、学んだ学修スキルをさまざまな科目や今後の大学生活に活かすことができるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	米金 孝雄	【第 1 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料確認しておく 授業：ガイダンス (成績について・専門の授業の履修について) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
2	米金 孝雄	【第 2 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス (ICT と大学の学び・映像表現と心理) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
3	米金 孝雄	【第 3 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び③ (～学生生活と学校～) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
4	米金 孝雄	【第 4 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス (大学生メイクのこころえ) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め (テレビ番組と心理表現) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
6	米金 孝雄	【第 6 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め (文献の読み方①) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：研究活動 (文献の読み方②) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：研究活動 (文献の読み方③) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
9	米金 孝雄	【第 9 回】(合同授業) 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び④ (～組織とハラスメント～) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			
10	米金 孝雄	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備 (プレゼンテーションの方法①) (グループディスカッション) 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる			

11	米金 孝雄	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
12	米金 孝雄	【第 12 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法③）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる						
13	米金 孝雄	【第 13 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる						
14	米金 孝雄	【第 14 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる						
15	米金 孝雄	【第 15 回】 予習：この半期の授業内容を振り返っておく 授業：1 年間のふりかえり（期末レポートの説明） 復習：期末レポート作成に向け、発表内容を含めまとめる						
授業開始前学習		「基礎ゼミⅠ」を振り返っておく						
授業内課題のフィードバックの方法		授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する						
テキスト・教材		GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する						
参考書		適時紹介する						
評価の基準と方法		課題点 60%（レポートおよび提出物）および平常点 40%（発表を含む）により総合的に評価する						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				
関連科目		基礎ゼミⅠ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ						
その他		ガイダンスや心理学の学びにおいて合同授業を実施する						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	PS-M-111	科目分類（～2024 年 入学者）	100-121-11 （2022 年～入学者） 100-120-11（～ 2021 年入学者）	授業コード	F00390		
科目名称	☆心理学概論 I			単位数	2.0 単位		
英文名称	Introduction to Psychology I			授業区分	講義		
科目責任者	奥野 真之			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	奥野 真之			開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-713		
授業概要	私たちの認知や行動のメカニズムを明らかにするために、心理学はどのような貢献ができるのだろうか。本授業の目標は、「こころ」について科学的に探究してきた心理学という学問の歴史、およびその基本的な知識や概念について学ぶことである。そのために、感覚、知覚、学習、記憶、発達といった心理学の領域の、基礎的なトピックを取り上げる。						
到達目標	心理学の歴史や研究方法について、基礎的な知識を身につける。 日常的に経験している「こころ」の性質や能力について、心理学との関係を理解し専門用語を用いて説明できるようになる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	奥野 真之	【第 1 回】 予習：心理学について書籍やネットを利用して調べる 授業：心理学が扱う「こころ」とは何か（初回のイントロダクションとして講義の概要・評価方法などの説明も行う） 復習：配布資料を読み返し自身が心理学を学ぶ目的や意義について振り返る					
2	奥野 真之	【第 2 回】 予習：教科書 p.3-18 までを読んでくること 授業：「こころ」を科学する方法 復習：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、心理学の研究方法について整理する					
3	奥野 真之	【第 3 回】 予習：教科書 p.19-27 までを読んでくること 授業：さまざまな行動の分類 復習：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、各行動の特徴について整理する					
4	奥野 真之	【第 4 回】 予習：教科書 p.27-37 までを読んでくること 授業：シンボル機能と行動 復習：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、シンボルやその働きについて整理する					
5	奥野 真之	【第 5 回】 予習：教科書 p.37-45 までを読んでくること 授業：意識の成立と心の理論 復習：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、意識や心の理論の発達について整理する					
6	奥野 真之	【第 6 回】 予習：第 1～5 回の内容について復習する（教科書 p.3-45） 授業：小テスト 1（第 1～5 回の範囲）の実施と解説 復習：小テストの問題を見直し、復習する					
7	奥野 真之	【第 7 回】 予習：教科書 p.47-61 までを読んでくること 授業：発達——遺伝と環境 復習：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、行動や心の発達の要因について整理する					
8	奥野 真之	【第 8 回】 予習：教科書 p.65-80 までを読んでくること 授業：学習 復習：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、学習の種類と特徴について整理する					
9	奥野 真之	【第 9 回】 予習：教科書 p.80-100 までを読んでくること 授業：記憶 復習：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、記憶の種類や性質について整理する					
10	奥野 真之	【第 10 回】 予習：第 7～9 回の内容について復習する（教科書 p.47-100） 授業：小テスト 2（第 7～9 回の範囲）の実施と解説 復習：小テストの問題を見直し、復習する					

11	奥野 真之	【第 11 回】 予習 : 教科書 p.101-117 を読んでくること 授業 : 感覚・知覚 (1) 感覚の種類と視知覚 復習 : 教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、精神物理学や視知覚について整理する						
12	奥野 真之	【第 12 回】 予習 : 教科書 p.117-132 を読んでくること 授業 : 感覚・知覚 (2) 形・奥行・運動の知覚 復習 : 教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、形・奥行・運動の知覚について整理する						
13	奥野 真之	【第 13 回】 予習 : 教科書 p.132-150 を読んでくること 授業 : 感覚・知覚 (3) 視知覚と脳損傷 復習 : 教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、視知覚と脳損傷の関わりについて整理する						
14	奥野 真之	【第 14 回】 予習 : 教科書 p.150-164 を読んでくること 授業 : 感覚・知覚 (4) 聴知覚と触覚 復習 : 教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、聴知覚と触覚について整理する						
15	奥野 真之	【第 15 回】 予習 : 教科書と配布資料を使って、第 11～14 回の内容について復習する (教科書 p.101-164) 授業 : 小テスト 3 (第 11～14 回の範囲) の実施と解説 復習 : 小テストの問題を見直し、復習する						
授業開始前学習		新書や文庫サイズで良いので、心理学に関する入門書を読んでおく授業をより理解しやすくなる。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題に対する補足や解説といったフィードバックは授業時間内に行う。						
テキスト・教材		鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎 (編)『心理学 第 5 版補訂版』(東京大学出版会)						
参考書		授業内で適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		小テスト (15%) × 3 回と、各回の授業中および授業後に出题される課題の提出物 (55%) の配分で評価する。 単位取得には、全体の 3 分の 2 以上の出席が必要となる。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△	○		○	△		
関連科目		心理学に関連する科目はすべて。						
その他		本授業は、「心理学概論Ⅱ (後期科目)」に続いていくように構成されている。 教科書を用いた予習や復習が重要となるため、授業の開始時期にあわせて忘れずに購入してほしい。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)		PS-M-111	科目分類 (～2024 年 入学者)		100-121-11 (2022 年～入学者) 100-120-11 (～ 2021 年入学者)	授業コード	F00400	
科目名称		☆心理学概論Ⅱ				単位数	2.0 単位	
英文名称		Introduction to Psychology Ⅱ				授業区分	講義	
科目責任者		飯田 敏晴				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		飯田・富士原				開講時期	1 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		心理学概論Ⅰで学んだ基礎的知識を踏まえて、心理学が社会生活の中でどのように生かされているのか、教育・医療・福祉・司法・産業などの領域に焦点を当てる。出来る限り具体例を交えながら解説するとともに適宜レポートを課していく。また、心理学の研究領域は学際的であり、隣接する他の学問との相互連携が不可欠であるため、必要な知識や心構えなどについても言及していく						
到達目標		1) 心理学が社会生活の中でどのように生かされているのか、教育・医療・福祉・司法・産業などの領域において、どのように生かされているのかを述べることができる。 2) 心理学に隣接する他の学問との連携に必要な知識や心構えを知ることができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業		無	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態	オムニバス
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	富士原 光洋	【第 1 回】 予習：心理学概論Ⅰの学習を整理しておく。 授業：学習のガイダンス 復習：思考と言語に関する心理学研究史を調べる。						
2	富士原 光洋	【第 2 回】 予習：第 1 回で指示したテキストの精読と下調べ 授業：問題解決、問題解決と認知的発達 (テキスト pp 1 6 5 - 1 7 3) 復習：認知の発達に関する理論を調べる。						
3	富士原 光洋	【第 3 回】 予習：第 2 回で指示したテキストの精読と下調べ 授業：知識、推論と発見 (テキスト pp 1 7 4 - 1 8 6) 復習：論理的推論を妨害する要因についてまとめる。						
4	富士原 光洋	【第 4 回】 予習：第 3 回で指示したテキストの精読と下調べ 授業：非言語的・言語的コミュニケーション、言語の特性 (テキスト pp 1 8 7 - 2 0 0) 復習：人のコミュニケーションの特徴をまとめる。						
5	富士原 光洋	【第 5 回】 予習：第 4 回で指示したテキストの精読と下調べ 授業：脳損傷と高次機能の障害 (テキスト pp 2 0 0 - 2 0 8) 復習：大脳半球機能差について調べる。						
6	富士原 光洋	【第 6 回】 予習：第 5 回で指示したテキストの精読と下調べ 授業：食と性の動機づけ、基本的情動 (テキスト pp 2 0 9 - 2 2 2) 復習：情動に関する理論を調べる。						
7	富士原 光洋	【第 7 回】 予習：第 6 回で指示したテキストの精読と下調べ 授業：親和動機づけなど (テキスト pp 2 2 2 - 2 3 4) 単元テスト(1 回から 7 回) 復習：第 1 回～第 7 回授業内容に関する感想レポートを作成する。						
8	飯田 敏晴	【第 8 回】 予習：テキスト (pp244-251) の精読と下調べ 授業：『個人差』①パーソナリティの分類 (類型論と特性論) と検査法 (テキスト pp244-251) 復習：類型論と特性論の違いについてまとめる。						
9	飯田 敏晴	【第 9 回】 予習：テキスト (pp251-263) の精読と下調べ 授業：『個人差』②パーソナリティの発達と不適応・障害 (テキスト pp251-263) 復習：パーソナリティの不適応・障害について、理論による違いについてまとめる。						
10	飯田 敏晴	【第 10 回】 予習：テキスト (pp235-244) の精読と下調べ 授業：『個人差』③知能の測定、知能の因子 (テキスト pp235-244)						

		復習：ビネー式知能検査とウェクスラー式の知能検査の違いについてまとめる。						
11	飯田 敏晴	【第 11 回】 予習：第 8～10 回の重要ポイントの復習（テキスト pp235-263） 授業：『個人差』まとめと確認（小テスト）（テキスト pp235-263） 復習：小テストの復習						
12	飯田 敏晴	【第 12 回】 予習：テキスト（pp265-275）の精読と下調べ 授業：『社会行動』①社会行動の発達と社会的認知（テキスト pp265-275） 復習：自我と自己の違いについてまとめる。						
13	飯田 敏晴	【第 13 回】 予習：テキスト（pp275-279）の精読と下調べ 授業：『社会行動』②態度と説得、社会的影響（テキスト pp275-279） 復習：認知的不協和の例を考える。						
14	飯田 敏晴	【第 14 回】 予習：テキスト（pp279-294）の精読と下調べ 授業：『社会行動』③対人魅力と対人関係（テキスト pp279-294） 復習：集団になることによってどのような問題があるかまとめる。						
15	飯田 敏晴	【第 15 回】 予習：第 12～14 回の重要ポイントの復習（テキスト pp265-294） 授業：『社会行動』まとめと確認（小テスト）（テキスト pp265-294） 復習：小テストの復習						
授業開始前学習		心理学概論Ⅰの授業で学んだ知識を整理しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		レポートや小テストを課した場合には、適宜、当該テーマのポイントを解説していく。						
テキスト・教材		鹿取廣人、杉本敏夫、鳥居修晃 編『心理学』（東京大学出版会）						
参考書								
評価の基準と方法		前半（富士原）が 50%（授業内課題・復習課題 25%・単元テスト 25%）、後半（飯田）が 50%（小テスト 20%、レポート 20%、コメント点 10%）の配分で総合評価する。出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件である。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△	○		○			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)		PS-M-121	科目分類 (～2024 年 入学者)		130-331-12	授業コード	FF0081	
科目名称		☆心理学統計法				単位数	2.0 単位	
英文名称		Psychological Statistics				授業区分	講義	
科目責任者		杉原 光雄				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		杉原 光雄				開講時期	1・2 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		心理学を学ぶ上で必要な統計学の基礎を学ぶ。 統計学の知識に基づきデータを分析するスキルを身につける。						
到達目標		記述統計学・推測統計学の基本的な考え方を理解する。 Google スプレッドシートを用いてグラフの作成やデータの分析ができるようになる。						
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容					
1	杉原 光雄		【第 1 回】 予習 : 統計 WEB 統計学の時間「1. データの集計」「 2. 度数分布とヒストグラム」を閲覧する。 授業 : 統計データの基本・度数分布 復習 : 復習テスト (統計データの基本・度数分布)					
2	杉原 光雄		【第 2 回】 予習 : 統計学の時間 「4. 代表値と箱ひげ図」を閲覧する 授業 : 代表値と箱ひげ図 復習 : 復習テスト (代表値と箱ひげ図)					
3	杉原 光雄		【第 3 回】 予習 : 統計学の時間「5. データのばらつき」「6. データの標準化」を閲覧する 授業 : 分散と標準偏差・標準化 復習 : 復習テスト (分散と標準偏差・標準化)					
4	杉原 光雄		【第 4 回】 予習 : 統計学の時間 「26. 相関分析」を閲覧する 授業 : 散布図と相関係数 復習 : 復習テスト (散布図と相関係数)					
5	杉原 光雄		【第 5 回】 予習 : 配付資料 (第 1～4 回) の購読 授業 : グループ実習 (1) Web アンケートの作成 復習 : レポートの作成					
6	杉原 光雄		【第 6 回】 予習 : 配付資料 (第 1～5 回) の購読 授業 : グループ実習 (2) アンケートデータの分析 復習 : レポートの作成					
7	杉原 光雄		【第 7 回】 予習 : 統計学の時間 「5. データの集計と表現」を閲覧する 授業 : ピボットテーブル 復習 : 復習テスト (ピボットテーブル)					
8	杉原 光雄		【第 8 回】 予習 : 統計学の時間 「5. データの集計と表現」を閲覧する 授業 : クロス表と連関 復習 : 復習テスト (クロス表と連関)					
9	杉原 光雄		【第 9 回】 予習 : 統計学の時間 「9. 確率と期待値」「11. 確率変数と確率分布」を閲覧する 授業 : 確率と確率分布 (1) 確率の基礎 復習 : 復習テスト (確率と確率分布)					
10	杉原 光雄		【第 10 回】 予習 : 「13. いろいろな確率分布 1」「14. いろいろな確率分布 2」「15. いろいろな確率分布 3」を閲覧する 授業 : 確率と確率分布 (2) 二項分布と正規分布 復習 : 復習テスト (二項分布と正規分布)					
11	杉原 光雄		【第 11 回】 予習 : 統計学の時間「23-1. 検定とは」「23-2. 検定で使う用語」を閲覧する 授業 : 統計的仮説検定の考え方 (1) 二項検定 復習 : 復習テスト (統計的仮説検定の考え方)					

12	杉原 光雄	【第 12 回】 予習 : 統計学の時間「23. 検定の前に」 「24-1. 母平均の検定 (両側 t 検定)」を閲覧する 授業 : 統計的仮説検定の考え方 (2) 母平均の検定 復習 : 復習テスト (母平均の検定)						
13	杉原 光雄	【第 13 回】 予習 : 統計学の時間「24-3. 2 標本 t 検定とは」 「24-5. 対応のある 2 標本 t 検定」を閲覧する 授業 : 統計的仮説検定の考え方 (3) 対応のある平均値の差の検定 復習 : 復習テスト (対応のある平均値の差の検定)						
14	杉原 光雄	【第 14 回】 予習 : 統計学の時間「24-3. 2 標本 t 検定とは」 「24-4. 対応のない 2 標本 t 検定」を閲覧する 授業 : 統計的仮説検定の考え方 (4) 対応のない平均値の差の検定 復習 : 復習テスト (対応のない平均値の差の検定)						
15	杉原 光雄	【第 15 回】 予習 : 配付プリント (第 15 回) の購読 授業 : 「パーソナリティ」データの分析・レポート作成 復習 : 期末レポートの作成						
授業開始前学習		パソコンの基本操作、表計算アプリの使い方 (グラフの作成など) を学んでおくとい。なお受講にあたって、数学的な知識は一切不要である。						
授業内課題のフィードバックの方法		web で復習テストを行い、結果をフィードバックする。						
テキスト・教材		web サイト「統計 WEB-統計学の時間」 { https://bellcurve.jp/statistics/course/ } web サイト「エレベータのプザーは鳴るか-大学生のための統計学入門」 { https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/809/ } web サイト「jamovi で学ぶ心理統計」 { https://bookdown.org/sbtseiji/lswjamovi/ }						
参考書		本丸諒 (著) 『文系でも仕事に使える統計学はじめての一步』かんき出版 (2018) 倉田博史 (監修) 『文系のためのめっちゃやさしい統計』NEWTON PRESS (2021)						
評価の基準と方法		授業への取り組み (出席状況・課題・復習テスト含む) (55%)、レポート課題 (20%)、期末テスト (25%)によって評価を行う。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	
関連科目		心理学実験Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法、心理データ解析法						
その他		復習テストは Google のアンケートツールで行います (内容は、統計学の用語や統計量の計算など。ほぼ毎回の授業内課題及び宿題の提出が課されます。 グループ実習では簡単な web アンケートを作成し、データを収集・分析、その結果をレポートにまとめる課題を行う予定です。 期末試験は、復習テストをもとに作成した対策問題を公開し、その中から出題します。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	PS-M-121 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	130-331-12 (J)	授業コード	FF0070		
科目名称	☆臨床心理学概論			単位数	2.0 単位		
英文名称	Introduction to Clinical Psychology			授業区分	講義		
科目責任者	藤城 有美子			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	藤城 有美子			開講時期	1・2 年		
オフィスアワー	前期 金曜日 14:30～17:30 後期 金曜日 14:30～17:30			研究室	10-710		
授業概要	臨床心理学は、心理臨床を実践する際の基礎となる心理学であると同時に、より広い意味での自己理解・他者理解を促進するツールでもある。本講では、臨床心理学の基本的な概念について概説する。まず、乳幼児期から老年期に至るライフサイクルの各段階でみられることの多い心理不適応や障害などを扱っていく。さらに、こうした問題を援助技法するための各種アプローチと、臨床心理学的実践の各領域についても理解を深める。						
到達目標	1. 臨床心理学の基本的な概念・用語について、説明できる。 2. 心理的課題・問題について、ライフサイクルの観点から説明できる。 3. 代表的な心理療法の技法の特徴について、基礎的事項を説明できる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	○	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	藤城 有美子	【第 1 回】 予習 : テキスト pp.2-17 の購読 授業 : 1. 臨床心理学入門 (ミニ・レポート課題①) 復習 : 臨床心理学の歴史的背景と定義、意義					
2	藤城 有美子	【第 2 回】 予習 : テキスト pp.20-26 の購読 授業 : 2. 臨床心理学の対象 1 正常と異常 (ミニ・レポート課題②) 復習 : 正常・異常の判断基準、心理臨床家の視点 (課題解説)					
3	藤城 有美子	【第 3 回】 予習 : テキスト pp.27-32 の購読 授業 : 3. 臨床心理学の対象 2 乳幼児期 (ミニ・レポート課題③) 復習 : 乳児期・幼児期の特徴と発達課題 (課題解説)					
4	藤城 有美子	【第 4 回】 予習 : テキスト pp.32-45 の購読 授業 : 4. 臨床心理学の対象 3 児童期・青年期 (ミニ・レポート課題④) 復習 : 児童期・青年期の特徴と発達課題 (課題解説)					
5	藤城 有美子	【第 5 回】 予習 : テキスト pp.45-49 の購読 授業 : 5. 臨床心理学の対象 4 成人期 (ミニ・レポート課題⑤) 復習 : 成人期の特徴と発達課題 (課題解説)					
6	藤城 有美子	【第 6 回】 予習 : テキスト pp.49-54 の購読 授業 : 6. 臨床心理学の対象 5 老年期 (ミニ・レポート課題⑥) 復習 : 老年期の特徴と発達課題 (課題解説)					
7	藤城 有美子	【第 7 回】 予習 : テキスト pp.56-88 の購読 授業 : 7. 臨床心理学的人間理解 (ミニ・レポート課題⑦) 復習 : 心理アセスメント、心理面接、心理テスト、行動観察 (課題解説)					
8	藤城 有美子	【第 8 回】 予習 : テキスト pp.90-100 の購読 授業 : 8. 臨床心理学的援助の方法 1 環境調整・ガイダンス／精神力動的アプローチ (ミニ・レポート課題⑧) 復習 : 環境調整とガイダンス、精神分析療法の特徴 (課題解説)					
9	藤城 有美子	【第 9 回】 予習 : テキスト pp.100-107 の購読 授業 : 9. 臨床心理学的援助の方法 2 行動療法・認知行動療法 (ミニ・レポート課題⑨) 復習 : 行動療法・認知行動療法の特徴 (課題解説)					
10	藤城 有美子	【第 10 回】 予習 : テキスト pp.107-112 の購読 授業 : 10. 臨床心理学的援助の方法 3 クライアント中心療法 (ミニ・レポート課題⑩) 復習 : クライアント中心療法の特徴 (課題解説)					

11	藤城 有美子	【第 11 回】 予習 : テキスト pp.113-126 の購読 授業 : 11. 臨床心理学的援助の方法 4 遊戯療法・芸術療法 (ミニ・レポート課題⑪) 復習 : 遊戯療法・芸術療法 (表現療法) の特徴 (課題解説)						
12	藤城 有美子	【第 12 回】 予習 : テキスト pp.170-178 の購読 授業 : 12. 臨床心理学的援助の方法 5 家族療法・グループアプローチ (ミニ・レポート課題⑫) 復習 : 家族療法・グループアプローチの特徴 (課題解説)						
13	藤城 有美子	【第 13 回】 予習 : テキスト pp.178-182 の購読 授業 : 13. 臨床心理学的援助の方法 6 コミュニティアプローチ (ミニ・レポート課題⑬) 復習 : コミュニティアプローチの特徴 (課題解説)						
14	藤城 有美子	【第 14 回】 予習 : テキスト pp.184-219 の購読 授業 : 14. 臨床心理学的実践の領域 (ミニ・レポート課題⑭) 復習 : 教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、医療領域、産業領域、大学・研究所領域、私設心理相談領域 (課題解説)						
15	藤城 有美子	【第 15 回】 予習 : テキスト pp.222-234 の購読 授業 : 15. 臨床心理学の学び方 (ミニ・レポート課題⑮) 復習 : 自己理解、スーパーヴィジョン (課題解説)						
授業開始前学習		指定されたテキストの目次に目を通し、この科目で必要とされる全体図を把握しておくが良い。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業時間内に課すミニレポートについては、毎回授業の最初に Classroom の課題提出から提出を求める (次の回の課題は毎回の講義の最後に提示するので、復習を兼ねて文章を用意しておくことが望まれる)。また、ミニレポートから把握された全体的傾向については、翌回の講義で解説を加える。						
テキスト・教材		野島一彦編著 2020 『臨床心理学への招待 第 2 版』ミネルヴァ書房 その他に、必要に応じて適宜資料を配付する。						
参考書								
評価の基準と方法		所定の出席数を満たした者について、授業時間内に毎回課すミニレポート (2 点×15 回 = 30 点) と、確認テスト (70 点) の合計 100 点で評価する。 授業時間内のミニレポートの提出を以て、「出席」とカウントする。なお、遅刻早退 3 回で欠席 1 回分として扱う。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		
関連科目	心理学概論Ⅰ・Ⅱ、心理療法論Ⅰ・Ⅱ							
その他	公認心理師の国家試験の受験資格を得るために必須の科目である。 授業中に口頭で重要性を指摘された点についても、ノートをとれるよう努力すること。 スマートフォン、iPhone、タブレット等の携帯端末あるいはノート PC 等、教場で本科目の Classroom にアクセスできるデバイスを毎回持参することが望ましい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。心理臨床の課題、実践、歴史について講義する。							

科目分類（2025 年 ～入学者）	PS-M-121	科目分類（～2024 年 入学者）	130-330-12	授業コード	FF0090		
科目名称	☆心理データ解析法			単位数	2.0 単位		
英文名称	Data Analysis in Psychology			授業区分	講義		
科目責任者	杉原 光雄			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	杉原 光雄			開講時期	1・2 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	心理学を学ぶ上で役立つデータ解析の基本を学ぶ。授業の前半では「心理学統計法」でも取り上げた統計的仮説検定についてより深く学ぶ。授業の後半ではゼミでの論文購読や卒業研究を想定し、質問紙調査の実施・分析方法について学ぶ。						
到達目標	統計的仮説検定のしくみを理解する。 質問紙調査の基本を身に着ける。 因子分析の考え方・使い方を理解する。 統計分析アプリ Jamovi の使い方を理解する。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	杉原 光雄	【第 1 回】 予習 : jamovi 完全攻略ガイド「第 1～4 章」を閲覧する 授業 : 記述統計学の復習、jamovi の使い方 復習 : 復習テスト（記述統計学）					
2	杉原 光雄	【第 2 回】 予習 : 統計学の時間「16. 標本と抽出法」「18. 母平均の点推定」, jamovi 完全攻略ガイド「第 8 章 標本 からの未知量の推定」の講読 授業 : 母集団からの標本抽出 復習 : 復習テスト（母集団からの標本抽出）					
3	杉原 光雄	【第 3 回】 予習 : 統計学の時間「24. 平均値の検定」、jamovi で学ぶ心理統計「第 9 章 仮説検定」の講読 授業 : 平均値の検定（1 標本の z 検定） 復習 : 復習テスト（平均値の検定）					
4	杉原 光雄	【第 4 回】 予習 : jamovi 完全攻略ガイド 第 5 章 t 検定」、統計学の時間「31-2. 効果量 1」「31-3. 効果量 2」の講 読 授業 : 平均値の差の検定（t 検定） 復習 : 復習テスト（平均値の差の検定）					
5	杉原 光雄	【第 5 回】 予習 : 統計学の時間「25-5. 独立性の検定」、jamovi で学ぶ心理統計「第 10 章 カテゴリーデータの分析」、 jamovi 完全攻略ガイド「第 8 章 度数分析」の講読 授業 : 独立性の検定（カイニ乗検定） 復習 : 復習テスト（独立性の検定）					
6	杉原 光雄	【第 6 回】 予習 : jamovi 完全攻略ガイド「第 1～4 章」を閲覧する 授業 : キャリア意識調査の分析・レポートの作成 復習 : レポートの作成					
7	杉原 光雄	【第 7 回】 予習 : jamovi で学ぶ心理統計「第 12 章 相関と線形回帰」jamovi 完全攻略ガイド「第 7 章 回帰分析」の 講読 授業 : 相関と回帰分析 復習 : 復習テスト（相関と回帰分析）					
8	杉原 光雄	【第 8 回】 予習 : jamovi 完全攻略ガイド「9.1 信頼性分析」の講読 授業 : 心理尺度の考え方 復習 : 確認テスト（心理尺度）					
9	杉原 光雄	【第 9 回】 予習 : jamovi 完全攻略ガイド「9.3 探索的因子分析」の講読 授業 : 因子分析の考え方 復習 : 復習テスト（因子分析）					

10	杉原 光雄	【第 10 回】 予習 : jamovi 完全攻略ガイド「9.3 探索的因子分析」の講読 授業 : 因子分析の実際 復習 : 小レポートの提出						
11	杉原 光雄	【第 11 回】 予習 : jamovi 完全攻略ガイド「9.3 探索的因子分析」の講読 授業 : グループ研究 (1) 質問紙 (web アンケート) の作成 復習 : 期末レポートの作成						
12	杉原 光雄	【第 12 回】 予習 : jamovi 完全攻略ガイド「9.3 探索的因子分析」の講読 授業 : グループ研究 (2) データの収集・データファイルの作成 復習 : 期末レポートの作成						
13	杉原 光雄	【第 13 回】 予習 : jamovi 完全攻略ガイド「9.3 探索的因子分析」の講読 授業 : グループ研究 (3) データの分析 復習 : 期末レポートの作成						
14	杉原 光雄	【第 14 回】 予習 : jamovi 完全攻略ガイド「9.3 探索的因子分析」の講読 授業 : グループ研究 (4) レポートの作成 復習 : 期末レポートの作成						
15	杉原 光雄	【第 15 回】 予習 : jamovi 完全攻略ガイド「9.3 探索的因子分析」の講読 授業 : グループ研究 (5) レポートの作成 (個人指導) 復習 : 期末レポートの作成						
授業開始前学習		「心理学統計法」の授業を受講しておくことが求められる。 なお受講にあたり数学的な知識は一切不要である。						
授業内課題のフィードバックの方法		Google Forms を用いて復習テストを実施し、結果をフォードバックする。						
テキスト・教材		web サイト『bellcurve 統計 WEB』 https://bellcurve.jp/statistics/ web サイト 芝田 征司 (著) 『jamovi 完全攻略ガイド』 { https://bookdown.org/sbtseiji/jamovi_complete_guide/ } Danielle J Navarro & David R Foxcroft (著) 芝田 征司 (訳) 『jamovi で学ぶ心理統計』 { https://bookdown.org/sbtseiji/lswjamovi/ }						
参考書		小塩真司・西口利文 (編) 『質問紙調査の手順』ナカニシヤ出版 2007 年 本丸諒 (著) 『文系でも仕事に使える統計学はじめての一步』かんき出版 2018 年 芝田 征司 (著) 『数学が苦手でもわかる心理統計法入門—基礎から多変量解析まで 単行本』サイエンス社 2017 年						
評価の基準と方法		授業への取り組み (70% 出席状況・宿題・復習テスト含む)、レポート課題 (30%) によって評価を行う。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	
関連科目	心理学統計法、心理学実験Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ							
その他	グループ実習では、web アンケートによる質問紙調査を作成しデータを分析する課題を行う予定である。 ほぼ毎回随時スプレッドシートや統計アプリを用いる課題が課せられる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

☆家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅰ)

科目分類 (2025 年 ～入学者)	PS-M-111 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	130-331-12 (J)	授業コード	FF0260
科目名称	☆家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅰ)			単位数	2.0 単位
英文名称	Family Psychology (Social, Group and Family Psychology Ⅰ)			授業区分	講義
科目責任者	田中 教仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁			開講時期	1・2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 11:00～12:10 火曜日 14:40～16:40			研究室	10-719
授業概要	昨今、家族を巡っては、晩婚化、少子高齢化、核家族化等が指摘されるが、ほかにも児童虐待や DV、離婚と父母の不和に伴う子どもの問題等、家族や家庭が抱える問題がある。また、非行の背景に、家庭の機能不全や家族間の葛藤が生じていることもある。 それぞれに存在する家族について、家族心理学を柱としながら法律学、社会学等の多様な視点からも光を当て、社会とのかかわりや個人にとっての意味を考察していく。特に個人の発達課題とともに、家族も成長と変化を遂げるという家族ライフサイクル論を中心とした上で、家族間のコミュニケーションにも触れながら、家族支援の理論と臨床的問題に関する授業を行う。				
到達目標	家族をシステムの及び力動的に理解する視点を学び、家族のライフサイクルとその中で生じる多様な問題について理解を深める。また、家族関係において生じる諸問題について、概要と支援方法を学ぶ。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田中 教仁	予習：最近 1 箇月にあった家族に関するニュースや報道について調べる。 授業：イントロダクション（家族と社会を知る意義、家族を取り巻く状況） 復習：参考図書や配布資料を閲読する。			
2	田中 教仁	予習：民法（家族法）を眺めてくる。 授業：家族の定義（家族の様々な定義、戸籍制度と民法から見た家族等） 復習：授業の内容を踏まえ、改めて民法や家事事件手続法等の法律を確認する。			
3	田中 教仁	予習：配布資料を閲読する。 授業：家族の特徴を理解するための鍵概念①（ジェノグラム） 復習：ジェノグラムに関する資料等を確認する。			
4	田中 教仁	予習：配布資料を閲読する。 授業：家族の特徴を理解するための鍵概念②（家族の構造を中心に） 復習：参考図書や配布資料を閲読する。			
5	田中 教仁	予習：配布資料を閲読する。 授業：家族の特徴を理解するための鍵概念③（家族の機能－コミュニケーションを中心に） 復習：参考図書や配布資料を閲読する。			
6	田中 教仁	予習：配布資料を閲読する。 授業：家族の特徴を理解するための鍵概念④（家族の発達の側面と家族ライフサイクル論） 復習：第 3 回から第 6 回までの内容（鍵概念）をまとめる。			
7	田中 教仁	予習：配布資料を閲読する。 授業：家族のライフサイクル(配偶者選択から結婚へ) 復習：アサーションについて振り返り学習を行う。			
8	田中 教仁	予習：男女共同参画白書等を閲読する。 授業：家族のライフサイクル(新婚期の夫婦) 復習：授業内に行ったワーク（ペアワーク等）を振り返り、まとめる。			
9	田中 教仁	予習：出産、育児をめぐる社会問題について調べる。 授業：家族のライフサイクル(子どもの出生と育児の段階) 復習：授業内に検討した課題について、さらに調べる。			
10	田中 教仁	予習：児童期・青年期の子どもがいる家族が抱える問題について調べる。 授業：家族のライフサイクル(児童期・青年期の子どもとその家族) 復習：参考図書や配布資料を閲読する。			
11	田中 教仁	予習：配布資料を閲読する。 授業：家族のライフサイクル（中年期の夫婦） 復習：授業内に行った事例研究の問題をまとめる。			
12	田中 教仁	予習：高齢者を取り巻く家族問題について調べる。 授業：家族のライフサイクル(老年期の家族) 復習：参考図書や配布資料を閲読する。			
13	田中 教仁	予習：最近の児童虐待に関するニュースや記事を調べる。 授業：家族が直面する問題①（児童虐待） 復習：参考図書や配布資料を閲読する。			

14	田中 教仁	予習 : 配布資料を閲読する。 授業 : 家族が直面する問題② (DVをはじめとする家庭内における暴力) 復習 : DVの加害と被害の概要についてまとめる。						
15	田中 教仁	予習 : 配布資料を閲読する。 授業 : 家族が直面する問題③ (親の離婚と子どもをめぐる問題) 復習 : 参考図書や配布資料を閲読する。						
授業開始前学習		家族が直面する問題や家族に関する法制度等に関するニュース、インターネット記事等に関心を持つこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		小レポート等やリアクションペーパーの内容は、次講の冒頭に解説等を行う。						
テキスト・教材		適宜、講義内にて資料を配布する。 テキストは特に指定しないが、中釜洋子ほか著『家族心理学』(有斐閣ブックス)を購入しておくのが望ましい。						
参考書								
評価の基準と方法		所定の出席回数を踏まえたうえで、レポート課題により 60%、授業で指示する課題 (小レポート等) による 40%の配分で総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	△	◎	○		
関連科目								
その他		授業内に実施するワーク (個人・ペア・グループ) に積極的に臨むことが求められる。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容		家庭裁判所調査官として家庭事件の実務経験がある。これらの経験を踏まえて、適宜、事例を紹介しながら講義を行う。						

科目分類（2025 年 ～入学者）		PS-M-111 （J）		科目分類（～2024 年 入学者）	130-330-12 （J）		授業コード	FF0770			
科目名称		☆コミュニティ心理学					単位数	2.0 単位			
英文名称		Community Psychology					授業区分	講義			
科目責任者		藤川 麗					必修・選択	履修ガイド参照			
担当教員		藤川 麗					開講時期	1・2・3・4 年			
オフィスアワー		前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 12:30～14:00					研究室	10-712			
授業概要		人の心の問題を、個人とその個人を取り巻くコミュニティ（集団）との関係という視点から理解する、コミュニティ心理学の授業である。心の問題を理解するための理論と、理論に基づく予防策や対応法について、事例を通して学ぶ。また、学校現場における支援、精神障害者に対する支援、虐待問題への支援、被災者への支援など、現実生じているさまざまな心理的問題への支援方法について学んでいく。									
到達目標		コミュニティ心理学の基本的理念である、「コミュニティ感覚」、「予防」、「エンパワメント」、「連携と協働」等の概念について理解し、説明できるようになる。コミュニティ心理学の実践方法である、「危機介入法」、「コンサルテーション」、「連携と組織作り」について、課題を通して理解を深め、自分なりに支援方法を考えることができるようになる。									
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数	15 回		メディア科目	○		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容								
1	藤川 麗		【第 1 回】 予習：「コミュニティ」という用語について国語辞典で調べておく 授業：ガイダンス、コミュニティ心理学の歴史（資料①） 復習：配布資料①の復習、課題①の提出								
2	藤川 麗		【第 2 回】 予習：「生態学的視座」という用語について調べておく 授業：コミュニティ心理学の基本的発想と方法 1（資料②） 復習：資料②の復習、課題②の提出								
3	藤川 麗		【第 3 回】 予習：「予防」という用語について調べておく 授業：コミュニティ心理学の基本的発想と方法 2（資料③） 復習：資料③の復習、課題③の提出								
4	藤川 麗		【第 4 回】 予習：「危機」という用語について国語辞典で調べておく 授業：危機理論と危機介入法 1（資料④） 復習：資料④の復習、課題④の提出								
5	藤川 麗		【第 5 回】 予習：危機理論を復習しておく 授業：危機理論と危機介入法 2（資料⑤） 復習：資料⑤の復習、課題⑤の提出、レポート課題 1 の作成								
6	藤川 麗		【第 6 回】 予習：「コンサルテーション」という用語について調べておく 授業：コンサルテーション 1（資料⑥） 復習：資料⑥の復習、課題⑥の提出								
7	藤川 麗		【第 7 回】 予習：レポート課題 2 の作成 授業：コンサルテーション 2（資料⑦） 復習：資料⑦の復習、課題⑦の提出、レポート課題 2 の作成								
8	藤川 麗		【第 8 回】 予習：「ソーシャルサポート」という用語について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 1（資料⑧） 復習：資料⑧の復習、課題⑧の提出								
9	藤川 麗		【第 9 回】 予習：「スクールカウンセラー」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 2 児童・生徒への支援（資料⑨） 復習：資料⑨の復習、課題⑨の提出								
10	藤川 麗		【第 10 回】 予習：「セルフヘルプ」という用語について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 3 精神障害者への支援（資料⑩） 復習：資料⑩の復習、課題⑩の提出								
11	藤川 麗		【第 11 回】 予習：「児童虐待」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 4 子育て支援（資料⑪）								

		復習：資料⑪の復習、課題⑪の提出						
12	藤川 麗	【第 12 回】 予習：「社会的ひきこもり」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 5 若者への支援（資料⑫） 復習：資料⑫の復習、課題⑫の提出						
13	藤川 麗	【第 13 回】 予習：「外国人労働者」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 6 異文化を背景とする住民への支援（資料⑬） 復習：資料⑬の復習、課題⑬の提出、レポート課題 3 の作成						
14	藤川 麗	【第 14 回】 予習：「PTSD」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 7 被災者・被害者の支援①（資料⑭） 復習：資料⑭の復習、課題⑭の提出、レポート課題 3 の作成						
15	藤川 麗	【第 15 回】 予習：「サイコロジカル・ファーストエイド」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 8 被災者・被害者の支援② 授業のまとめ（資料⑮） 復習：資料⑮の復習、課題⑮の提出						
授業開始前学習		ニュースや新聞を通じてさまざまな社会問題に触れ、自分がどのようなコミュニティに興味を感じるか考えておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業で課題（小テストもしくはミニット・ペーパー等）の提出を求め、その次の回で全体に対して質問やコメントへの返答を行う。						
テキスト・教材		特に指定しない（授業中に随時配布する）。						
参考書		特に指定しない。						
評価の基準と方法		毎回後の小テストもしくはミニット・ペーパーの提出（5 点×15 回＝75 点）、レポート課題 1（6 点）、レポート課題 2（7 点）、レポート課題 3（12 点）の総合点で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目		なし。						
その他		特になし。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		心理臨床の実務経験を活かしてコミュニティにおける心理支援の理念と実践について講義する。						

科目分類（2025 年 ～入学者）		PS-M-131	科目分類（～2024 年 入学者）		130-330-12	授業コード	FF0960	
科目名称		☆言葉と心理				単位数	2.0 単位	
英文名称		Language and Psychology				授業区分	講義	
科目責任者		保坂 律子				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		保坂・米金				開講時期	1・2・3・4 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		ある一つの文を発話するには、必ず心理が作用する。本授業では、「社会言語学」「ディスコース分析」「語用論」「相互作用の分析」「言語心理学」などを手がかりに、「言葉と心理」について考察する。特に、話し手(発話者)と聞き手（受信者）の間にある一定の儀礼的なディスコースや、発話者の使用する語彙（あなた、君、お前）・表現（謙譲語、尊敬語、俗語）、声の調子、抑揚や表情など、心的作用に多大な影響を及ぼす「言語運用」に焦点を絞り、「言葉と心理」のメカニズムについて考察する。また、私たちが意思疎通を行う上で、言葉は大切な手段であるが、言葉で思いを表現する際、自分の意図が上手く相手に伝わらない場合がある。なぜなら、同じ内容の発言であっても、言葉の受け止め方は聞き手の心理に左右されるからである。そこで感謝と謝罪の言葉に焦点を当て、様々な実例から「言葉と心理」についても考察する。						
到達目標		第 1 回～第 8 回：「言葉と心理」に関わる研究を通して、言葉のメカニズムを学び、「言語の運用」が、心理面・感情面にどのように影響するのかを理解できる（前半米金担当）。 第 9 回～15 回 「感謝と謝罪」を表す表現について、日本語にみられる特徴と他の言語における表現との違いを心理的側面から考察し、具体例をあげてそれぞれ説明できる(後半保坂担当)。						
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	オムニバス
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	米金 孝雄	【第 1 回】 予習：「言葉と心理」とが、自分自身にとってどのように関わってくるのかを考えておくこと。 授業：自己紹介、講義の進め方・授業内容・課題・レポート・評価等についての説明。 復習： 次回までに、与えられた内容について考察すること。						
2	米金 孝雄	【第 2 回】 予習：前回の授業の復習。 授業：主要な「言葉と心理」に関わる研究分野の紹介。 復習：紹介した研究や研究者について調べておくこと。						
3	米金 孝雄	【第 3 回】 予習：言語的（言葉による）コミュニケーションとは何かを考えておくこと。 授業：言語的コミュニケーションによる伝達手段の考察。 復習：どのような言語的自己表現をすれば、対話者との会話が成り立つのかを考えること。						
4	米金 孝雄	【第 4 回】 予習：非言語的コミュニケーションとは何かを考えておくこと。 授業：非言語的コミュニケーションによる伝達手段の考察。 復習：非言語的コミュニケーションの伝達手段の復習。						
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習：語用論・発話行為について調べておくこと。 授業：語用論・発話行為とは何か。 復習：語用論・発話行為と心理の関係を再考すること。						
6	米金 孝雄	【第 6 回】 予習：談話分析・インタラクション分析について調べておくこと。 授業：談話分析・インタラクション分析についての考察。 復習：談話分析・インタラクション分析を再考すること。						
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習：ポリフォニー理論、社会言語学、言語心理学について調べておくこと。 授業：ポリフォニー理論と社会言語学・言語心理学についての考察 復習：ポリフォニー理論、社会言語学、言語心理学を再考すること。						
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習：修辞学と文体論・記号学について調べておくこと。 授業：修辞学と文体論・記号学についての考察。 復習：修辞学と文体論・記号学を再考すること。						
9	保坂 律子	【第 9 回】 予習：これまで自分の気持ちをうまく伝えられなかった場面を思い出す。 授業：「言葉をつかむ」ことについて考える。 復習：授業の振り返りをまとめる。						

10	保坂 律子	【第 10 回】 予習：最近人にお礼を言ったこと、謝ったことの例を考えておく。 授業：感謝と謝罪の相違点 復習：授業の振り返りをまとめる。						
11	保坂 律子	【第 11 回】 予習：大事な約束に遅刻した場面を想定し、自分の言葉で遅れた理由を考えておく。 授業：謝罪の言葉と心理 1（グループディスカッション） 復習：授業の振り返りをまとめる。						
12	保坂 律子	【第 12 回】 予習：誘いを断る場面を想定し、自分の言葉で断る理由を考えておく。 授業：謝罪の言葉と心理 2（グループディスカッション） 復習：授業の振り返りをまとめる。						
13	保坂 律子	【第 13 回】 予習：「お腹空きませんか？」と聞かれた場面を想定し、その返答を考えておく。 授業：意図の伝え方と心理（グループディスカッション） 復習：授業の振り返りをまとめる。						
14	保坂 律子	【第 14 回】 予習：プレゼントを渡す場面を想定し、その時添える言葉を考えておく。 授業：感謝の伝え方と心理（グループディスカッション） 復習：授業の振り返りをまとめる。						
15	保坂 律子	【第 15 回】 予習：お世話になった人にお礼をする場面を想定し、気持ちを伝える言葉を考えておく。 授業：感謝の言葉と心理 復習：「感謝のエピソード」を書く。						
授業開始前学習		第 1 回～第 8 回：「心理と言葉」についての書物や研究など、事前に目を通しておくこと。（米金担当） 第 9 回～第 15 回：日本語と外国語に関するエッセイや評論等に触れるように心がけると理解が深まる。（保坂担当）						
授業内課題のフィードバックの方法		第 1 回～第 8 回：毎回授業内容を自分なりに検討し、次週の講義までに理解を深めておくこと。（米金担当） 第 9 回～第 14 回：毎回課す授業内課題（フォーム）は翌週の授業内で講評する。（保坂担当）						
テキスト・教材		講義内、Classroom 内にて担当教員より適宜資料を配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		教員より課された課題の発表、提出状況により各教員 50%（合計 100%）で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○			○		
関連科目	フランス語 中国語							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	PS-M-131	科目分類（～2024 年 入学者）			授業コード	FF1350
科目名称	マンガと心理学				単位数	2.0 単位
英文名称	Manga and Psychology				授業区分	講義
科目責任者	家島 明彦				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	家島 明彦				開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	-				研究室	-
授業概要	本授業では、国内外におけるマンガの現状を整理して報告し、心理学においてマンガを取り上げる意義について説明します。また、心理学におけるマンガに関する研究をレビューし、どのような先行研究があるか把握すると同時に体系的に示します。さらに、心理学におけるマンガに関する研究の方向性・可能性について展望します。受講生にはそれぞれの関心に基づいて与えられた課題について取り組んでもらいます。					
到達目標	1. マンガというメディアの特徴について説明できる。 2. マンガに関する心理学的研究の概観と展望について説明できる。 3. 心理学的視点でマンガを読むことができる。 4. マンガ心理学の研究について構想できる。					
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	○	複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	家島 明彦	【第 1 回】マンガと心理学 予習：なし 授業：オリエンテーション（授業の概要説明）、イントロダクション（導入：マンガと心理学のつながり） 復習：必要に応じて講義動画を見直す				
2	家島 明彦	【第 2 回】マンガと心理学の歴史 予習：必要に応じて講義動画を見直す 授業：マンガの歴史、心理学の歴史、マンガ心理学の歴史 復習：必要に応じて講義動画を見直す				
3	家島 明彦	【第 3 回】マンガ心理学の展開（1）：マンガと教育心理学 予習：必要に応じて講義動画を見直す 授業：マンガに関する教育心理学的研究について 復習：必要に応じて講義動画を見直す				
4	家島 明彦	【第 4 回】マンガ心理学の展開（2）：マンガと認知心理学 予習：必要に応じて講義動画を見直す 授業：マンガに関する認知心理学的研究について 復習：必要に応じて講義動画を見直す				
5	家島 明彦	【第 5 回】マンガ心理学の展開（3）：マンガと発達心理学 予習：必要に応じて講義動画を見直す 授業：マンガに関する発達心理学的研究について 復習：必要に応じて講義動画を見直す				
6	家島 明彦	【第 6 回】マンガ心理学の展開（4）：マンガと臨床心理学 予習：必要に応じて講義動画を見直す 授業：マンガに関する臨床心理学的研究について 復習：必要に応じて講義動画を見直す				
7	家島 明彦	【第 7 回】マンガ心理学の展開（5）：マンガと社会心理学 予習：必要に応じて講義動画を見直す 授業：マンガに関する社会心理学的研究について 復習：必要に応じて講義動画を見直す				
8	家島 明彦	【第 8 回】マンガに描かれる心理（1）：友情 予習：必要に応じて講義動画を見直す 授業：マンガに描かれる友人関係 復習：必要に応じて講義動画を見直す				
9	家島 明彦	【第 9 回】マンガに描かれる心理（2）：恋愛 予習：必要に応じて講義動画を見直す 授業：マンガに描かれる恋愛関係 復習：必要に応じて講義動画を見直す				
10	家島 明彦	【第 10 回】マンガに描かれる心理（3）：いじめ 予習：必要に応じて講義動画を見直す 授業：マンガに描かれる「いじめ」 復習：必要に応じて講義動画を見直す				

11	家島 明彦	【第 11 回】マンガに描かれる心理（４）：家族 予習：必要に応じて講義動画を見直す 授業：マンガに描かれる親子関係、兄弟姉妹関係、夫婦関係 復習：必要に応じて講義動画を見直す						
12	家島 明彦	【第 12 回】マンガに描かれる心理（５）：キャリア 予習：必要に応じて講義動画を見直す 授業：マンガに描かれる生き方・働き方 復習：必要に応じて講義動画を見直す						
13	家島 明彦	【第 13 回】マンガ心理学の構想（１）：研究計画 予習：マンガに関する心理学の研究について構想し、発表資料を事前提出する 授業：受講生が構想したマンガに関する心理学の研究・実験案に対してフィードバックを行う 復習：必要に応じて講義動画を見直す						
14	家島 明彦	【第 14 回】マンガ心理学の構想（２）：調査・実験・分析 予習：マンガに関する心理学の調査・実験・分析について構想し、発表資料を事前提出する 授業：前回に継続して受講生が構想したマンガに関する心理学の研究・実験案に対してフィードバックを行う 復習：必要に応じて講義動画を見直す						
15	家島 明彦	【第 15 回】マンガ心理学の未来 予習：必要に応じて講義動画を見直す 授業：マンガ心理学の方向性と可能性、まとめ 復習：必要に応じて講義動画を見直す						
授業開始前学習		とくになし						
授業内課題のフィードバックの方法		講義動画およびフィードバックシート（Excel ファイル）にてフィードバックします。						
テキスト・教材		適宜指示し、資料を配布します。						
参考書		日本心理学会 2022 『心理学ワールド』 96 号 [小特集] マンガを科学する https://psych.or.jp/publication/world096/ 家島明彦（編著）、菅谷充（すがやみつる）・やまだようこ・斉藤こずゑ（著）2015 『ビジュアル・ナラティブとしてのマンガ：マンガ／小説／映画の中の視点から』 ratik https://ratik.org/5495/907438142/						
評価の基準と方法		毎回のレポート 75 点（5 点×15 回）、課題 25 点						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	△			
関連科目								
その他		この授業はオンデマンド（非同期）のメディア科目ですが、定期的な視聴と毎週の課題提出が必要となります。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	PS-M-131 （J）	科目分類（～2024 年 入学者）	130-330-12 （J）	授業コード	FF0950		
科目名称	☆アートと心理療法			単位数	2.0 単位		
英文名称	Art and Psychotherapy			授業区分	講義		
科目責任者	倉石 聡子			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	倉石 聡子			開講時期	1・2・3・4 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	本授業では、臨床アートセラピーの基本的な理論に触れ、臨床場面においてアートを用いる際の援助者のあり方を学ぶ。一方的な分析や解釈ではなく、作品や創作プロセスから何を読み取り、それをどのように心理臨床場面に生かすかを考える。 演習では、素材に触れることで感情や無意識が動き、作品として可視化されるプロセスを体験する。また、完成した作品を見返し言語化することで、自己探索を深めるプロセスも重視する。講義で得た理論的知識について演習を通じて体験的に理解し、さらにグループ・ディスカッションで振り返ることで、言語と非言語、理論と体験の両側面から心理的ケアにおけるアートの役割を学ぶ。						
到達目標	①芸術とケアのつながりを理解する。 ②アートを心理支援に生かすための基本態度や理論を理解する。 ②アート演習を通して自己理解を深める。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	倉石 聡子	【第 1 回】 予習：シラバスを熟読し授業スケジュールを確認する 授業：アートセラピーの概要と歴史 講義 復習：授業内容の振り返り					
2	倉石 聡子	【第 2 回】 予習：対象者の心を開くための援助者のあり方について考える 授業：心を開くことをサポートするアート 講義と演習 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成					
3	倉石 聡子	【第 3 回】 予習：身の回りの画材をリサーチする 授業：画材の特徴と心理的影響 1 講義と演習 復習：授業内容の振り返り					
4	倉石 聡子	【第 4 回】 予習：各画材の特徴と心理的影響にもたらす影響について仮説を立てる 授業：画材の特徴と心理的影響 2 講義と演習 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成					
5	倉石 聡子	【第 5 回】 予習：ウォーミングアップの目的について考える 授業：ウォーミングアップのアート 講義と演習 復習：授業内容の振り返り					
6	倉石 聡子	【第 6 回】 予習：アートから何を見立てるのか考える 授業：アセスメントのアート 講義と演習 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成					
7	倉石 聡子	【第 7 回】 予習：描画発達について事前リサーチを行う 授業：子どものアート 1 講義と演習 復習：授業内容の振り返り					
8	倉石 聡子	【第 8 回】 予習：幼い頃に描いた絵（現物や写真）があれば持参する 授業：子どものアート 2 講義と演習 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成					
9	倉石 聡子	【第 9 回】 予習：アートが活用されている支援現場に関する事前リサーチ 授業：多様な現場におけるアートの事例 1 講義 復習：授業内容の振り返り					
10	倉石 聡子	【第 10 回】 予習：アートが活用されている支援現場に関する事前リサーチ 授業：多様な現場におけるアートの事例 2 講義 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成					

11	倉石 聡子	【第 11 回】 予習：グループセラピーに関する事前リサーチ 授業：グループアートのプランニング 1 講義と演習 復習：授業内容の振り返り						
12	倉石 聡子	【第 12 回】 予習：グループを実践してみたい対象者と現場を考える 授業：グループアートのプランニング 2 発表 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成						
13	倉石 聡子	【第 13 回】 予習：芸術療法について事前リサーチ 授業：さまざまな芸術療法と ABR（アートベース・リサーチ） 講義と演習 復習：授業内容の振り返り						
14	倉石 聡子	【第 14 回】 予習：ABR について事前リサーチ 授業：さまざまな芸術療法と ABR（アートベース・リサーチ） 2 講義と演習 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成						
15	倉石 聡子	【第 15 回】 予習：これまでの授業について配布資料などから確認する 授業：授業まとめ 復習：授業レポートの作成						
授業開始前学習		シラバスを熟読し、予習として書かれていることについて、書籍やウェブから事前リサーチを行う。また、そのテーマについて自分の考えを整理する。						
授業内課題のフィードバックの方法		講義資料と演習の振り返りとしてリフレクションペーパーを個別に作成し、これを基に全体でディスカッションを行ったのち、各テーマ毎に講評を行う。						
テキスト・教材		資料、プリント等は適宜配布する。						
参考書		参考資料は適宜紹介する。						
評価の基準と方法		授業内の発表（30％）、レポート（40％）、リフレクションペーパー（10％）、授業態度・授業への貢献（20％）						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○			○		
関連科目	心理学関連の授業、芸術に関わる授業など							
その他	・演習では、絵具等を使用するため、汚れても気にならない服装での参加を推奨する。 ・アート演習について、基本的には画材等の準備は不要であるが、場合によっては授業内でアナウンスすることもある。 ・演習で制作した作品は各自で持ち帰るため、必要に応じてビニール袋やエコバッグ等を持参すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	対象者に適したアート活動をいかに導入するのか、心理、教育、医療、福祉等の幅広い現場における心理臨床経験から、実践や事例を紹介する。							

☆博物館概論

科目分類 (2025 年 ～入学者)	ZM-9-111 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	110-411-11 (J)	授業コード	B23270
科目名称	☆博物館概論			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Museology			授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-706
授業概要	本講義では、博物館学とは何か、博物館の定義・種類・目的・機能についての概要を学習した後に、日本および諸外国の博物館の歴史、博物館を取り巻く現状と課題、学芸員の役割と実態について授業を行う。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	1、博物館に関する基礎的な知識を修得する。 2、博物館および学芸員に課せられた役割とは何かについて理解できる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習 : 博物館の定義と目的について教科書の空欄を穴埋めする 授業 : 博物館の定義と目的 (教科書 2 頁から 5 頁) (課題解決型学習) 復習 : 博物館の定義と目的について要点を整理する			
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習 : 博物館学とは何かについて教科書の空欄を穴埋めする 授業 : 博物館学とは何か (教科書 6 頁から 7 頁) 復習 : 博物館学とは何かについて要点を整理する			
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習 : 博物館の基本的機能と学芸員の役割について教科書の空欄を穴埋めする 授業 : 博物館の基本的機能と学芸員の役割 (教科書 8 頁から 14 頁) (課題解決型学習) 復習 : 博物館の基本的機能と学芸員の役割について要点を整理する			
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習 : 博物館の種類について教科書の空欄を穴埋めする 授業 : 博物館の種類 (教科書 15 頁から 17 頁) (課題解決型学習) 復習 : 博物館の種類について要点を整理する			
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習 : 博物館を支える仕組みについて教科書の空欄を穴埋めする 授業 : 博物館を支える仕組み (教科書 18 頁から 20 頁) 復習 : 博物館を支える仕組みについて要点を整理する			
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習 : 博物館組織と博物館を支える人々について教科書の空欄を穴埋めする 授業 : 博物館組織と博物館を支える人々 (教科書 21 頁から 22 頁) 復習 : 博物館組織と博物館を支える人々について要点を整理する			
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習 : 博物館の起源と欧米の博物館の歴史について教科書の空欄を穴埋めする 授業 : 博物館の起源と欧米の博物館の歴史 (教科書 23 頁から 25 頁) 復習 : 博物館の起源と欧米の博物館の歴史について要点を整理する			
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習 : 日本の博物館の歴史について教科書の空欄を穴埋めする 授業 : 日本の博物館の歴史 (教科書 26 頁から 30 頁) 復習 : 日本の博物館の歴史について要点を整理する			
9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習 : 文化財保護制度の歴史について教科書の空欄を穴埋めする 授業 : 文化財保護制度の歴史 (教科書 31 頁から 32 頁) 復習 : 文化財保護制度の歴史について要点を整理する			
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習 : 文化財保護の体系について教科書の空欄を穴埋めする 授業 : 文化財保護の体系 (教科書 33 頁から 39 頁) 復習 : 文化財保護の体系について要点を整理する			

11	下川 雅弘	【第 11 回】 予習：文化財保護と博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業：文化財保護と博物館（教科書 40 頁から 43 頁）（課題解決型学習） 復習：文化財保護と博物館について要点を整理する						
12	下川 雅弘	【第 12 回】 予習：学校教育と博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業：学校教育と博物館（教科書 44 頁から 45 頁）（課題解決型学習） 復習：学校教育と博物館について要点を整理する						
13	下川 雅弘	【第 13 回】 予習：生涯学習と博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業：生涯学習と博物館（教科書 46 頁から 48 頁）（課題解決型学習） 復習：生涯学習と博物館について要点を整理する						
14	下川 雅弘	【第 14 回】 予習：博物館の現状と行政改革について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館の現状と行政改革（教科書頁 49 から 51 頁）（課題解決型学習） 復習：博物館の現状と行政改革について要点を整理する						
15	下川 雅弘	【第 15 回】 予習：期待される博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業：期待される博物館（教科書 52 頁から 54 頁） 復習：期待される博物館について要点を整理する						
授業開始前学習		普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストをあらかじめ読んでおく。						
授業内課題のフィードバックの方法		提出課題に対しては、翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。						
テキスト・教材		全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版） 駒沢女子大学教科書シリーズ『博物館概論』 駒沢女子大学講義ノートシリーズ『博物館実習』						
参考書								
評価の基準と方法		提出課題 7 0 %、授業内テスト 3 0 %により評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△				◎	○	◎	
関連科目	「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。博物館の概要や学芸員の役割などを講義する。							